

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員						
キリスト教概論 (Introduction to Christianity)		金 永秀						
授業の到達目標及びテーマ キリスト教の成立と思想について理解を深める。								
授業の概要 本学の拠って建つキリスト教とは何か。キリスト教の聖書の成立と思想を概観(大まかに学ぶこと)し、イエスとは誰だったかを問いつつ、キリスト教的人間観、自然観、人権思想、そして戦争と平和についての考え方や結婚観などについて聖書にはどう記されているかを探る。それをとおして今日の状況に隠れている宗教的価値観すなわち宗教的ものの見方の理解を深める。 予習：次回の講義についての予習すべき内容をそのつど告知する。 復習：その日の講義内容をまとめる								
授 業 計 画								
第 1 回：キリスト教を学ぶにあたって：なぜ宗教を学ぶか	第 8 回：キリスト教の流れを変えた運動							
第 2 回：本学の成り立ちと願い	第 9 回：近代化の中のキリスト教							
第 3 回：キリスト教特別講演会（4月上旬）※レポートにして提出 沖縄に伝えられたキリスト教：歴史と現況	第 10 回：人間：この創られた者							
第 4 回：キリスト教の誕生： イエスとその時代	第 11 回：「正義」の戦争は可能か： 聖書の平和論							
第 5 回：キリスト教の誕生： 初代教会と社会	第 12 回：キリスト教と人権思想の流れ							
第 6 回：教会が生み、教会を育てた聖書	第 13 回：日本社会とキリスト教							
第 7 回：初代のキリスト教の思想	第 14 回：沖縄とキリスト教							
	第 15 回：授業総括（まとめ）							
	第 16 回：期末試験							
テキスト：テキストは設定しないが、聖書（旧・新約）を各自購入しておくこと。								
参 考 書：担当教員によって異なる								
評価方法・評価基準： 1. 前回の講義について小テストを行うことがあるので注意すること。 2. 評価は、小テスト、期末試験、レポート、授業態度を総合的に勘案して行う。 3. レポートは2種類：原稿用紙3枚程度 ワープロはA4 1枚 *キリスト教週間中の特別講演についての感想、論評。 *次の人物又は事柄から1件を選んで調査(リサーチ)、まとめ、論評を加える。 仲里朝章、阿波根章鴻、中村哲、杉原千畝、マーティン・ルーサー・キング、マザー・テレサ、マルチン・ルターの宗教改革、人権思想の起こりと現況、戦争と平和などその他の分野で書きたい人は前もって相談すること。 4. 月曜礼拝への参加：講義を補助する重要性をもつので5回以上の出席および礼拝内容の要約（400字、横書き、A4版ワープロ原稿）提出 提出期限：礼拝参加週の講義時間（要約は、3回の授業出席扱いとする） 5. 学期中に一度は最寄りの教会の礼拝に参加することを薦める。 6. 授業中の私語、教科以外の学習、その他授業の妨げとなる行為などは堅く禁止する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○						80
小テスト・ 授業内レポート		○						10
授業態度			○	○	○			10
受講者の発表								
演 習								
履修上の注意：特になし								

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員						
聖書における人間 (Man and Woman in the Bible)		金 永秀						
授業の到達目標及びテーマ 旧約・新約両聖書を通して、聖書における思想を理解する。								
授業の概要 旧約・新約両聖書の中に登場する、人々の生涯と人間像を描く中で、聖書がその人々を通して示そうとした思想と使信を明らかにする。特に「人間」に焦点を置くことによって、「罪」、「希望」、「信仰」、「愛」等に対する聖書の描写と使信を学ぶことを目的とする。旧約では、創造物語の中で描かれている人間のあるべき姿、アブラハム、モーセ、王国建国の英雄ダビデ、預言者といわれる人々の姿を中心に学ぶ。新約では、イエスと、初代キリスト教会の人物像と教えをその時代背景とともに学ぶ。 予習：次回講義についての予習すべき内容をそのつど告知する 復習：その日の講義内容をまとめる								
授 業 計 画								
【一部 序論】	【三部 新約聖書の人物】							
第 1 回： ガイダンス/聖書とは	第 8 回： 新約聖書の時代と社会の背景							
【二部 旧約聖書の人物】	第 9 回： イエスの生涯と思想（１）							
第 2 回： 旧約聖書の時代と社会の背景	第 10 回： イエスの生涯と思想（２）							
第 3 回： アブラハム、イサク、ヤコブ等の族長たち	第 11 回： パウロの生涯と思想							
第 4 回： モーセ等、出エジプトの人物像	第 12 回： 初代教会の人物像							
第 5 回： 師士：イスラエルの指導者	第 13 回： 聖書の中の女性達							
第 6 回： ダビデとソロモン	第 14 回： キリスト教特別講演会（12 月上旬） ※レポートにして提出							
第 7 回： 預言者の活動と思想	第 15 回： 授業総括（まとめ）							
	第 16 回： 期末試験							
テキスト及び参考文献： 日本聖書協会（編）『聖書』新共同訳、その他授業のガイダンスにおいて詳しく指定する。								
評価方法・評価基準： 期末試験評価を中心とするが、授業態度、月曜礼拝を含むレポートを参考にして、総合評価を下す。キリスト教週間中の特別講演会に出席し、講演内容をレポートにして提出すること。 月曜礼拝への参加：講義を補助する重要性をもつので 5 回以上の出席および礼拝内容の要約（４００字 3 枚、A４版ワープロ原稿）提出 提出期限：礼拝参加週の講義時間（要約は、３回の授業出席扱いとする）								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
試験 （中間・期末試験）		○						80
小テスト・ 授業内レポート		○						10
授業態度			○	○	○			10
受講者の発表								
演 習								
その他								
履修上の注意：								

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員					
英語聖書講読 (English Bible Reading)		仲里 和花					
授業の到達目標及びテーマ This class is designed to help you understand the central ideas of the Christian faith by reading some stories from the Bible.							
授業の概要 The focus of the class is put on understanding some stories from the Bible. However, it is hoped that by focusing on the content and meaning of some stories, you will be able to improve your English reading ability as well. 予習 : The students will be required to read previously the Bible Stories assigned in the next class. The group assigned to make a presentation in each class should prepare the presentation (power point) about the interpretation of the part of the Bible Stories in advance. 復習 : The students should review and cultivate better understanding of the Bible Stories while referring to the interpretation and the discussion given in every class.							
授 業 計 画							
Topic／Homework		Topic／Homework					
第 1 回 : Introduction (What is the Bible? Outline of Old & New Testament)	第 9 回 : Mid-Term Exam						
第 2 回 : The Creation of the World／Adam and Eve	第 10 回 : The Birth of Jesus/ The Boy Jesus at the Temple						
第 3 回 : Cain and Abel／Noah's Ark	第 11 回 : Turning Water into Wine/ The Good Samaritan						
第 4 回 : The Tower of Babel／God Tests Abraham	第 12 回 : The Lost Son/ Feeding Five Thousand						
第 5 回 : Joseph's Colorful Coat／Baby Moses	第 13 回 : Jesus Walk on Water / Lazarus						
第 6 回 : The Ten Plagues／Moses Parts the Sea	第 14 回 : The Last Supper/ Jesus Is Betrayed						
第 7 回 : The Ten Commandments／David and Goliath	第 15 回 : Jesus Dies and Comes Back to Life						
第 8 回 : Jonah and the Whale	第 16 回 : Final Exam						
テキスト : The textbook for this class is <u>Bible Stories</u> by Nina Wegner(IBC Publishing, Inc.2013). Some materials related to the topics are also provided for every class.							
参考書 : It would be wise to have a copy of the Bible in Japanese.							
評価方法・評価基準 :							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
毎回の感想文	○	○	○		○		2 0%
課題レポート							
授業態度	○	○	○	○	○		1 0%
受講者の発表	○		○	○	○		2 0%
演 習							
中間・期末テスト	○	○	○		○		5 0%
その他							
履修上の注意 : In the first class, the students will be divided into some groups (5～6 in one group). Then, each group will be required to make a presentation about the interpretation of the Bible Story assigned in every class. After the presentation, we will have a discussion about that part of the Bible Story. At the end of each class, the students will be required to write and submit the reaction paper about the discussion.							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員																																																								
キリスト教倫理 (Christian Ethics)			青野 和彦																																																								
授業の到達目標																																																											
本教科は聖書とそのキリスト論を根拠として、人間の生きる「道」を探求する学びである。キリスト教の死生観等の内面的テーマと共に、現代社会が直面する諸問題に対する聖書の観点を解き明かすことを目標とする。またその学習を通して、キリスト教学（概論）で学んだ聖書の知識をより深めることも目指す。																																																											
授業の概要																																																											
上記目標を達成すべく、キリスト教人間学（倫理）の主要な領域テーマについて、①それぞれのテーマに対する聖書の見解の把握、②その中で提起される過去から現代にわたる諸問題を解説する。																																																											
予習：教科書、資料（事前配布）を読み、学習のポイントを把握しておく。																																																											
復習：” レビュー・シート “(各 2 問) を提出する。																																																											
授 業 計 画																																																											
第 1 回： 授業オリエンテーション (キリスト教倫理の意味)		第 9 回： 結婚と家庭（キリスト教の結婚観、家庭観、子供を巡る環境など）																																																									
第 2 回： 生命（聖書における「生」の意味、聖書から見た「クローン人間」、「人工妊娠中絶」など）		第 10 回： 労働と余暇（キリスト教から見た労働問題、所得格差など）																																																									
第 3 回： 死（テーマ：安楽死と尊厳死、ホスピス・終末期ケア、エイズ、自殺から 1 つ）		第 11 回： 社会と福祉（キリスト教から見たボランティア、少子高齢化問題など）																																																									
第 4 回： 生命と死： 3. 11 について考える		第 12 回： 国家と政治（キリスト教と「愛国心」、「君が代」・「日の丸」など）																																																									
第 5 回： 愛（アガペーとエロース）		第 13 回： 戦争と平和①（聖書の説く戦争と平和）																																																									
第 6 回： 幸福		第 14 回： 戦争と平和②（キリスト教から見た核兵器の保有の問題）																																																									
第 7 回： 罪		第 15 回： イスラム教とキリスト教																																																									
第 8 回： 男性と女性（同性愛者、性同一性障がい者の人権等）																																																											
※テーマに関連した映画も上映予定。																																																											
テキスト： ・日本聖書協会編『新共同訳聖書』、日本聖書協会、1987 年。 ・原 栄作『現代に生きる人間像』（聖書と人間 3）、新教出版、1992 年。 ※テーマに関連する資料も毎回配布する。																																																											
参 考 書： ・小田島嘉久『キリスト教倫理入門』、ヨルダン社出版部、1988 年。 ・神田健次、関根清三、金子啓一、栗林輝夫編『講座 現代キリスト教倫理』（1-4 巻）日本キリスト教団出版局、1999 年。																																																											
評価方法・評価基準：																																																											
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合 (%)</td></tr><tr><td>成績評価 試験 (期末レポート)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>6 0</td></tr><tr><td>小課題</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>2 5</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>1 5</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	成績評価 試験 (期末レポート)	○	○	○		○		6 0	小課題	○	○	○		○		2 5	授業への参加度			○	○			1 5	受講者の発表								演 習								その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																																																				
成績評価 試験 (期末レポート)	○	○	○		○		6 0																																																				
小課題	○	○	○		○		2 5																																																				
授業への参加度			○	○			1 5																																																				
受講者の発表																																																											
演 習																																																											
その他																																																											
履修上の注意： ・毎回、『聖書』（新共同訳版）も必ず持参すること。 ・「月曜礼拝」出席を奨励する。 ・出席(毎回とる)、課題提出および学生として相応しいマナーを心がけること。 ・「キリスト教学Ⅰ」、「キリスト教概論」を履修しておくことが望ましい。																																																											

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員																																																								
プロテスタンティズムの歴史と思想 (History and Thought of Protestantism)		神山 繁實																																																								
授業の到達目標及びテーマ プロテスタンティズムの本質についての理解とそれが近代世界に及ぼした思想的影響と、今日、尚、その思想が有効であるのかを問うていく。																																																										
授業の概要 プロテスタンティズムは、近代社会・経済・政治・文化に多大な影響を及ぼし、民主主義社会の形成に大きく貢献した。しかし、保守キリスト教の抱える負の遺産も大きい。21 世紀を開いていこうとする時代に、再度プロテスタンティズムが社会・政治・文化の牽引力になり得るのか、以上の問題意識をもって、プロテスタンティズムの歴史と思想を読み直し、将来への展望を探る。宗教と政治、経済と文化の問題を今日の文脈の中で追及する。 予習：授業初めに提示されたスケジュールに合わせて準備をする。その他、必要教材（プリント等）必要に応じて、プリント・視聴覚教材を用いる。 復習：進展していく授業に合わせて、到達度を確認する。																																																										
授 業 計 画 1. ガイダンスと相互理解のための、話し合いを行うい、授業目的等について話し合う。 2. 第 1 章 プロテスタンティズムの自己表示 3. キリスト教の歴史と提起された課題 4. 第 2 章 プロテスタンティズムの根源—改革か革命か 5. 第 3 章 教会的一教義体系としてのプロテスタンティズム 6. 宗教改革の歴史的遺産と後世への遺産 7. 宗教改革についてビデオを鑑賞後、提起された質問に試験の形で応える。 8. 第 4 章 個人の態度としてのプロテスタンティズム 9. 第 5 章 プロテスタンティズム—キリスト教史に築かれた一時代 10. 第 6 章 古プロテスタンティズムと新プロテスタンティズム 11. 第 7 章 古プロテスタンティズムの模倣 12. 第 8 章 プロテスタンティズムの原理を問う 13. 第 9 章 プロテスタンティズムの未来 14. 第 10 章 現代プロテスタンティズムと教会、敬虔、神学 15. まとめと理解の深化のためディスカッション																																																										
テキスト： 『プロテスタンティズム：潮流と展望』H.-J. ビルクナー／水谷誠訳 その他、資料等は随時、紹介する。日本基督教団出版局 初版：1991																																																										
参 考 書：特になし																																																										
評価方法・評価基準：授業におけるディスカッション・プレゼンテーション等、基本的事項の筆記テスト、期末レポートによって評価する。																																																										
<table><tr><th>到達目標等</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>成績評価 試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>40</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>10</td></tr></table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 試験 (中間・期末試験)	○						40	小テスト・ 授業内レポート		○	○				20	授業態度				○			20	受講者の発表					○		10	演 習								その他						○	10
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																			
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○						40																																																			
小テスト・ 授業内レポート		○	○				20																																																			
授業態度				○			20																																																			
受講者の発表					○		10																																																			
演 習																																																										
その他						○	10																																																			
履修上の注意：予習を丁寧にする。テキスト朗読は、全員に指名する。																																																										

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員					
キリスト教芸術 (Christian Art)		金永秀・神谷智子・糸洲のぶ子					
授業の到達目標及びテーマ キリスト教音楽の作品を合唱をもって賛美し、学内のクリスマス礼拝に参加する。							
授業の概要 キリスト教芸術の中でも、キリスト教音楽を単なる知識ではなく、実践を通して理解し体得する。 近代西洋音楽において多大な影響を与えた G. F. ヘンデルのオラトリオ「メサイア」から No44 ” Hallelujah”、 クリスマスに歌われているドイツ語の賛美歌と日本語訳の賛美歌を基礎発声法と言葉の大切さを中心に合唱し、 クリスマス礼拝に参加する。 予習：定められた楽譜の音とりを各自でおこなう。 復習：全体練習を思い起こしながら自分のパートを正確に歌えるようにする。							
授 業 計 画							
第 1 回：キリスト教音楽とは クラスオリエンテーション	第 9 回：「メサイア」よりハレルヤ、 「in dulci jubilo」, 「よろこびいわえ」 総合演習①						
第 2 回：ヘンデルのオラトリオ「メサイア」より ハレルヤ 曲の説明と演習①	第 10 回：「メサイア」よりハレルヤ、 「in dulci jubilo」, 「よろこびいわえ」 総合演習②						
第 3 回：講義「メサイア概要」	第 11 回：「メサイア」よりハレルヤ、 「in dulci jubilo」, 「よろこびいわえ」 総合演習③						
第 4 回：ヘンデルのオラトリオ「メサイア」より ハレルヤ 曲の説明と演習②	第 12 回：「メサイア」よりハレルヤ、 「in dulci jubilo」, 「よろこびいわえ」 総合演習④						
第 5 回：ヘンデルのオラトリオ「メサイア」より ハレルヤ 曲の説明と演習③	第 13 回：「メサイア」よりハレルヤ、 「in dulci jubilo」, 「よろこびいわえ」 総合演習⑤						
第 6 回：「メサイア」よりハレルヤ 演習④、 「in dulci jubilo」	第 14 回：実演（クリスマス礼拝参加）						
第 7 回：「メサイア」よりハレルヤ 演習⑤、 「in dulci jubilo」, 「よろこびいわえ」	第 15 回：まとめ（レポート提出）						
第 8 回：実技試験（“No44 ” Hallelujah” のパート）	第 16 回：期末テスト						
テキスト：初回講義にて楽譜を配布する。							
参 考 書：讃美歌、聖書 家田足穂「メサイア」ーテキストと音楽の研究 音楽の友社							
評価方法・評価基準：クラスでの学習態度、授業への参加度、レポート、実技を総合して評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)	○		○		○		20
小テスト・ 授業内レポート	○	○					10
授業態度			○	○			10
受講者の発表						○	10
演 習							
授業への参加度			○	○			50
その他							
履修上の注意：毎回遅れずに出席して下さい。(出欠確認を行います) 教室、時間変更等、その都度掲示板で確認して下さい。 練習用 CD を配布するので、各自練習をして授業に参加して下さい。 初回到資料代を徴収します。							

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員						
基礎演習Ⅰ		糸洲 理子						
授業の到達目標及びテーマ								
到達目標：大学教育に必要な基礎的技術（「読む」「考える」「調査する」「書く」「発表する」）について理解し、論理的で明快な文章の作成方法を学ぶ。演習を通して、自分自身の考えを適切な文章で表現できるようになることをめざす。								
テーマ：身近な社会問題や教育問題を中心に扱う。								
授業の概要								
この授業では、大学教育に必要な基礎的技術（「読む」「考える」「調査する」「書く」「発表する」）を基に、論理的に文章を作成する方法を学ぶ。								
授業外学習として、毎回、次のとおり学習すること。								
予習：授業計画をよく読み、必要な資料や指示された資料を準備すること。								
復習：授業中に説明したことを再度復習して、文章作成などの課題に取り組むこと。								
授 業 計 画								
第 1 回：	オリエンテーション・図書館利用について	第 9 回：	要約文①					
第 2 回：	文体について（常体と敬体）	第 10 回：	要約分②					
第 3 回：	文章の構成	第 11 回：	論評文①					
第 4 回：	小論文の作成と発表	第 12 回：	論評文②					
第 5 回：	資料の収集方法	第 13 回：	ディスカッションの方法					
第 6 回：	文献リストの作成方法	第 14 回：	ディスカッション					
第 7 回：	資料の引用方法	第 15 回：	課題発表					
第 8 回：	文献読解と発表							
テキスト：初回の講義で指示する								
参 考 書：田中共子編『よくわかる学びの技法 第2版』ミネルヴァ書房 他、適宜紹介								
評価方法・評価基準：								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
	レポート	○	○	○		○		40
	小テスト・授業内レポート	○	○	○		○		30
	授業態度							
	受講者の発表	○	○	○	○	○		20
	演 習	○	○	○	○	○		10
	その他							
履修上の注意：日頃から新聞を読み、社会問題に関心を持つこと。								

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員																																																																					
基礎演習Ⅱ		仲里 和花																																																																					
授業の到達目標及びテーマ																																																																							
In this class, students are encouraged to take a fresh look at themselves and at their society. The fifteen-week course is divided into two seven-week cycles. There is a presentation (group) at the end of each cycle. Students will examine issues such as ‘self-identity’, ‘group identity’ and ‘community identity’ as well as various angles and perspectives of Okinawan identity and culture. Field research may very well be included.																																																																							
授業の概要																																																																							
Students will work in groups of 2-4 to create and present a manifestation of their combined knowledge, experience and research, based on the overarching theme of Okinawa. In-class work will involve the generation of in-depth discussions, the sharing of opinions, ideas.																																																																							
予習(preparation) : Students must ensure that all pre-class preparation is completed before the posted due date.																																																																							
復習(review) : Students must review each week’s lesson notes, worksheets or media.																																																																							
授 業 計 画																																																																							
<table><tr><td>第 1 週 :</td><td>オリエンテーション</td><td>第 9 週 :</td><td>Okinawan Identity I</td></tr><tr><td>第 2 週 :</td><td>Self-identity</td><td>第 10 週 :</td><td>Okinawan Identity II</td></tr><tr><td>第 3 週 :</td><td>Group Identity I</td><td>第 11 週 :</td><td>Research I</td></tr><tr><td>第 4 週 :</td><td>Research I</td><td>第 12 週 :</td><td>Research II</td></tr><tr><td>第 5 週 :</td><td>Research II</td><td>第 13 週 :</td><td>(Field) Research</td></tr><tr><td>第 6 週 :</td><td>Preperation</td><td>第 14 週 :</td><td>Preperation</td></tr><tr><td>第 7 週 :</td><td>Presentation</td><td>第 15 週 :</td><td>Final Presentation</td></tr><tr><td>第 8 週 :</td><td>Review / Extension</td><td></td><td></td></tr></table>			第 1 週 :	オリエンテーション	第 9 週 :	Okinawan Identity I	第 2 週 :	Self-identity	第 10 週 :	Okinawan Identity II	第 3 週 :	Group Identity I	第 11 週 :	Research I	第 4 週 :	Research I	第 12 週 :	Research II	第 5 週 :	Research II	第 13 週 :	(Field) Research	第 6 週 :	Preperation	第 14 週 :	Preperation	第 7 週 :	Presentation	第 15 週 :	Final Presentation	第 8 週 :	Review / Extension																																							
第 1 週 :	オリエンテーション	第 9 週 :	Okinawan Identity I																																																																				
第 2 週 :	Self-identity	第 10 週 :	Okinawan Identity II																																																																				
第 3 週 :	Group Identity I	第 11 週 :	Research I																																																																				
第 4 週 :	Research I	第 12 週 :	Research II																																																																				
第 5 週 :	Research II	第 13 週 :	(Field) Research																																																																				
第 6 週 :	Preperation	第 14 週 :	Preperation																																																																				
第 7 週 :	Presentation	第 15 週 :	Final Presentation																																																																				
第 8 週 :	Review / Extension																																																																						
テキスト： None																																																																							
参 考 書： 適宜、紹介する																																																																							
評価方法・評価基準：試験、レポート、課題、授業態度、授業への参加度などを総合的に評価する。																																																																							
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合 (%)</td></tr><tr><td>成績評価</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>授業態度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>40</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	成績評価								試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				30	授業態度	○	○	○	○			40	受講者の発表	○	○	○				30	演 習								その他														
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																																																																
成績評価																																																																							
試験 (中間・期末試験)																																																																							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				30																																																																
授業態度	○	○	○	○			40																																																																
受講者の発表	○	○	○				30																																																																
演 習																																																																							
その他																																																																							
履修上の注意：日頃から新聞を読み、社会問題に関心を持つこと。																																																																							

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員
コミュニケーション入門 (Introduction to Communication)		仲里 和花
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：人間独自のコミュニケーションの特質と現代のコミュニケーションの様相について理解できること。 テーマ：対人コミュニケーション、非言語コミュニケーション、電話・携帯コミュニケーション		
授業の概要 人は常に、自分自身も含めて誰かとコミュニケーションしている。本講義では、人間独自のコミュニケーションの特質と現代のコミュニケーションの様相について学ぶ。心の中の会話からパソコン通信までのそれまで、現代のコミュニケーションの姿を理論的に整理し、よりよきコミュニケーションのありかたを探るものである。 予習：テキストを事前に読んでくること 復習：授業で配付した資料をみながら、テキストを再度読み、内容を理解すること		
授 業 計 画		
第 1 回：なぜコミュニケーションを勉強するのか	第 8 回：人と人のコミュニケーション	
第 2 回：人間のコミュニケーション	第 9 回：外見のコミュニケーション	
第 3 回：動物のコミュニケーション	第 10 回：電話コミュニケーション	
第 4 回：自我とコミュニケーション	第 11 回：集団・組織のコミュニケーション	
第 5 回：人間と社会の形成におけるコミュニケーションの役割	第 12 回：マス・コミュニケーション	
第 6 回：歌によるコミュニケーション	第 13 回：高度情報社会のコミュニケーション・電子メール&ケータイ、SNS サイト、インターネット掲示板	
第 7 回：まとめ（中間テスト）	第 14 回：笑いコミュニケーション（非言語コミュニケーション）	
	第 15 回：まとめ	
	第 16 回：期末テスト	
テキスト：船津衛『コミュニケーション・入門』有斐閣		
参 考 書： ・松沢哲郎『進化の隣人ヒトとチンパンジー』岩波書店 ・松沢哲郎『チンパンジーはちんぱんじん』岩波書店 ・G.H. Mead『社会的自我』恒星社厚生閣 ・正高信男『考えないヒト ケータイ依存で退化した日本人』中央公論新社 ・竹内一郎『人は見た目が9割』新潮社 ・志水彰 他『人はなぜ笑うのか 一笑いの精神生理学』講談社		
評価方法・評価基準： 授業への参加度(10%)、課題レポート(20%)、テスト(70%) により総合的に評価する。		
履修上の注意：出席重視。最近は「コミュニケーション」という言葉がよく使われるが、本当の意味を理解している人は少ない。この授業では、「コミュニケーション」の意味について深く学び、次に、いろんな場でのコミュニケーションの特性を学んでほしい。		

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員	
異文化コミュニケーションⅠ (Intercultural CommunicationⅠ)		仲里 和花	
授業の到達目標及びテーマ			
到達目標：異文化コミュニケーションに影響を与える基礎要因と理論的背景を学び、自己（自文化）および他者（異文化）への気づきを深め、異文化理解に対する積極的な態度を養うこと。			
テーマ：コミュニケーションと文化、言語、非言語コミュニケーション、カルチャーショック、異文化適応、ステレオタイプと偏見、多文化共生			
授業の概要			
1）異なる文化背景を持つ人たちのコミュニケーションに影響を与える基礎概念と理論を学び、家庭・学校・職場・地域社会で日常的に起こりうる異文化間の誤解や摩擦を超えて、多文化社会に生きる上での必須となる実践的な対話力・人間関係力を養成する。			
2）自己（自文化）及び他者（異文化）への気づきを深め、異文化理解に対する積極的な態度を養う。			
予習：テキストを事前に読んでくること			
復習：授業で配付した資料をみながら、テキストを再度読み、内容を理解すること			
授 業 計 画			
第 1 回：	なぜ異文化コミュニケーションを勉強するのか	第 9 回：	比較する：異文化へのあこがれと不安、留学生が抱える問題
第 2 回：	異文化コミュニケーションとは	第 10 回：	言語コミュニケーション：日本語と英語の違い、会話理論
第 3 回：	コミュニケーションとは何か：コミュニケーションのメカニズム	第 11 回：	非言語コミュニケーション：身体行動（ジェスチャー）、空間・距離、時間、沈黙
第 4 回：	異文化コミュニケーションの基礎要因について	第 12 回：	異文化への認識（カテゴリー化、ステレオタイプ）と態度（偏見）、ヘイトスピーチ
第 5 回：	問題となる異文化コミュニケーション	第 13 回：	異文化摩擦や対立のビデオ『As Human Beings』視聴
第 6 回：	トラブル理論：カルチャーショック、異文化適応、不安・不確実性管理理論	第 14 回：	より効果的なコミュニケーション：多文化共生への道
第 7 回：	まとめ（中間テスト）	第 15 回：	まとめ（期末テスト）
第 8 回：	学生の異文化適応の問題（国際交流のビデオ視聴）	第 16 回：	期末テスト
テキスト： 小坂貴志『異文化コミュニケーションの A to Z 』（研究社）			
参 考 書： ・ 鍋倉健悦『異文化コミュニケーション入門』丸善			
・ 古田暁（監修）『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣			
・ 八代京子他『異文化トレーニング』三修社			
評価方法・評価基準：			
授業への参加度（10%）、課題レポート（10%）、クイズ（10%）、テスト（70%）により総合的に評価する。			
履修上の注意：出席重視。異文化コミュニケーションに影響を与える基礎要因を学んでほしい。			

授業科目名		2 単位 (2－0)	担当教員
異文化コミュニケーションⅡ (Intercultural CommunicationⅡ)			仲里 和花
授業の到達目標及びテーマ			
到達目標： ①異文化コミュニケーションの理論的枠組みを理解できる。 ②授業で学んだ概念や理論を日常生活にあてはめて分析できる力を身につけること。 ③今後直面するさまざまな場面における異文化コミュニケーションにおいて自分で考え、対応できる力を養うこと。			
授業の概要			
本講義では、コミュニケーションが行なわれている場を中心に、現在行なわれている異文化コミュニケーションの問題について考察する。通訳者や語学教師が直面する問題、ビジネスマンや留学生の海外での適応問題、マスメディアと異文化コミュニケーション、空間、時間と異文化コミュニケーションなどについて学ぶ。また、グローバル化社会における「異」文化コミュニケーションの状況を理解し、グローバル化とアイデンティティについて考える。また、沖縄における異文化コミュニケーションの問題も扱う。 予習：テキストを事前に読んでくること 復習：授業で配付した資料を読みながら、テキストを再度読み、内容を理解すること			
授 業 計 画			
第 1 回：	なぜ異文化コミュニケーションが行われている場面での問題を勉強するのか	第 9 回：	障がい者、高齢者とのコミュニケーション
第 2 回：	異文化コミュニケーションとしての通訳	第 10 回：	女性と異文化適応
第 3 回：	同時通訳、翻訳、字幕通訳の現場－「言語の壁を越えて」(ビデオ視聴)	第 11 回：	「地球都市」の出現とコミュニケーション－グローバル化の負の側面
第 4 回：	異文化コミュニケーションと誤解の接点	第 12 回：	異文化に対する偏見と異文化間の友情
第 5 回：	異文化コミュニケーションにおける言語選択－「英語の普及」をどう捉えるか－	第 13 回：	インターカルチャル教育としての日本語教育の映像メディアの役割 (CD 視聴)
第 6 回：	まとめ (中間テスト)	第 14 回：	沖縄における異文化コミュニケーション(アメラジアンの問題、国際結婚など)
第 7 回：	空間、時間、異文化コミュニケーション	第 15 回：	まとめ&課題レポート提出
第 8 回：	マスメディア (CM) と異文化コミュニケーション－日米の CM	第 16 回：	期末テスト
テキスト： 伊佐雅子監修『改訂新版 多文化社会と異文化コミュニケーション』三修社			
参 考 書： ・池田理知子・E.M.クレマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣 ・小坂貴志『異文化コミュニケーションの A to Z』研究社 ・石井敏他『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション－多文化共生と平和構築に向けて－』 ・青木保『異文化理解』岩波新書			
評価方法・評価基準：			
・ 授業への参加度(10%)、課題レポート(20%)、クイズ (10%)、テスト(60%)により総合的に評価する。 ・ 異文化コミュニケーションⅠを履修済みであることが好ましい。			
履修上の注意： 学生のみなさんには、「あたりまえ」のことを常識とせず、どのようにしてその「常識」が「あたりまえ」とされているのかを深く考え、マクロな視点から社会事象を捉えられる思考力を養ってほしい。			

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
メディア・リテラシー		崎原 千尋					
授業の到達目標及びテーマ：メディアの使い方・読み取り方について学ぶ 知識理解：メディア・リテラシーを理解する 関心意欲：メディアのあり方に対して疑う意欲をもつ 思考判断：メディアを批判的に捉える自己見解能力を持つ 態度：メディアを読み取り、活用する方法を身につける。							
授業の概要 情報の流通が多量・高速化する現在、その媒体（メディア）を読み解き使いこなす能力（メディア・リテラシー）が重要となっている。メディアの特性を理解し、その内容を批判的に捉え、単に情報を受け取るだけでなく、あらゆるソーシャルメディアを活用し、発信していく力を身につける。 予習：次回の内容予告を受け、専門用語や概念などを調べておくこと。 復習：回次の授業の連続性を考えながら、内容の再確認をおこなうこと。							
授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。							
第 1 回： インTRODクシヨン メディアと私たち	第 8 回： 戦争とメディア						
第 2 回： メディア・リテラシーとは	第 9 回： ジャーナリズムと報道						
第 3 回： コンピューター・リテラシーとデ ジタルデバイド（情報格差）	第 10 回： 「語られない情報」とは						
第 4 回： マスメディアの歴史	第 11 回： 情報・印象操作と表現その 1						
第 5 回： ソーシャルネットワークサービ スとリタラシー	第 12 回： 情報・印象操作と表現その 2						
第 6 回： CNN とアルジャジーラ	第 13 回： メディア・リテラシー教育の現在						
第 7 回： マクルーハンとメディア論	第 14 回： これからのメディアのあり方						
	第 15 回： SNS の社会心理学						
	第 16 回： 総括						
テキスト： 適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。							
参 考 書： 講義においてそのつど提示する。							
評価方法・評価基準： レポートやエッセイを課す。授業への参加のみならず、積極的なワークショップ等への参加も評価へ加味する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					50
授業態度			○	○			10
受講者の発表					○		20
演 習							
その他 調査			○	○			20
履修上の注意：文化人類学を履修していること							

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員																																																													
コンピュータ基礎演習 I (Basic Computing I)		糸洲 理子																																																													
授業の到達目標及びテーマ PC の基礎的操作方法を習得させるものであるが、具体的にはワープロによる文章の作成、表計算ソフトによる数値情報の分析方法、基礎的なデータベースソフトの活用方法などを実践的に修得すること																																																															
授業の概要 コンピューター操作の基本的な知識・技能を習得し、究極的には情報を自由に検索、享受、処理、加工、創造、発信が行えるような情報リテラシーを育て、コンピューターを日常使いこなせるための基礎を学ぶ。また、情報化社会へ参画する姿勢についても学ぶ。 予習：次回の内容予告を受け、基礎的な専門用語などを調べておくこと。 復習：授業でおこなった技法を自ら応用してみること																																																															
授 業 計 画 第 1 回： オリエンテーション：①パソコンの概念 ②使用登録・パスワードの設定 ③電子メールの設定 第 2 回： パソコンの概念：①Windows の基本操作 ②OS の基本操作 ③インターネット 第 3 回： Word2007：①Word の基本操作 ②文章の作成保存 第 4 回： Word2007：①文章のデザイン 第 5 回： Word2007：①書式の応用 第 6 回： Word2007：①表示能力を高める ②オブジェクトの挿入 第 7 回： Excel2007：①基本操作 ②一覧表の作成 第 8 回： Excel2007：①グラフの作成 ②グラフのデザインおよびレイアウト 第 9 回： Excel2007：①グラフのデザイン 第 10 回： Excel2007：①グラフのレイアウト 第 11 回： パワーポイント①プレゼンテーションとは 第 12 回： ①スライドの作成 第 13 回： ①アニメーションの操作 第 14 回： ①プレゼンテーションの発表 第 15 回： ①プレゼンテーション評価 第 16 回： SNS の応用																																																															
テキスト：教材は、そのたびに講義担当者が準備する																																																															
参 考 書：講義でそのつど提示する。																																																															
評価方法・評価基準：課題の提出 授業でのプレゼンテーションなどへの参加度及び授業に臨む姿勢																																																															
<table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>演 習</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>80</td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度	○	○	○	○	○		20	受講者の発表								演 習	○	○	○	○	○		80	その他														
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																								
試験 (中間・期末試験)																																																															
小テスト・ 授業内レポート																																																															
授業態度	○	○	○	○	○		20																																																								
受講者の発表																																																															
演 習	○	○	○	○	○		80																																																								
その他																																																															
履修上の注意：各自 USB メモリーを準備すること																																																															

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員																																																																
プレゼンテーション概論 (Introduction to Presentation)		上原 明子																																																																
授業の到達目標 相手に伝わるプレゼンテーションについてのスキル習得と実践																																																																		
授業の概要 自己認識と他者理解という、対話的思考を基軸としたプレゼンテーションについて学ぶ。徹底した実践を通して、スキルを習得し、プレゼンについての認識を深める。 予習：シラバスを確認し、講義内容についての知識を整えておくこと 復習：講義内で指示したタスクにとりくむこと																																																																		
授 業 計 画 第1回：オリエンテーション ～コトバと感性の贈り物～ 第2回：ショート・リポート 第3回：ノンバーバルコミュニケーション (1) 身ぶり (ボディランゲージ) 第4回：ノンバーバルコミュニケーション (2) 感情を込める (パラランゲージ) 第5回：ビブリオ・プレゼン (1) ルール説明 第6回：ビブリオ・プレゼン (2) チャレンジ 第7回：ビブリオ・プレゼン (3) リベンジ 第8回：ビブリオ・プレゼン (4) ※5 時間目 図書館主催「ビブリオ・バトル」参加 第9回：取材とプレゼン 第10回：「キリ学/キリ短らしさ」リポートとプレゼン 第11回：「Happy Campus Guide」プロジェクト (1) 担当分担 第12回：「Happy Campus Guide」プロジェクト (2) 取材計画 第13回：「Happy Campus Guide」プロジェクト (3) 構成 第14回：「Happy Campus Guide」プロジェクト (4) プレゼン 第15回：「Happy Campus Guide」プロジェクト (5) 個人報告・レポート提出																																																																		
テキスト：講義担当者が講義にて資料配付																																																																		
参 考 書 ：講義担当者が講義にて紹介																																																																		
評価方法・評価基準： プレゼンテーション課題・実践。授業態度																																																																		
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>成績評価</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>40</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価								試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート	○		○				30	授業態度		○	○	○			30	受講者の発表	○	○	○	○	○		40	演 習								その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																											
成績評価																																																																		
試験 (中間・期末試験)																																																																		
小テスト・ 授業内レポート	○		○				30																																																											
授業態度		○	○	○			30																																																											
受講者の発表	○	○	○	○	○		40																																																											
演 習																																																																		
その他																																																																		
履修上の注意：																																																																		

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員																																																								
情報機器利用プレゼンテーション演習 (IT Presentation)			湧川 華江																																																								
授業の到達目標及びテーマ 効果的なプレゼンテーションを支援するための情報機器活用技術を習得するだけでなく、聞き手に対し、情報を一定時間内に的確かつ効率的に表現する技法を習得する。																																																											
授業の概要 プレゼンテーションにおけるコンピュータやプロジェクタ等の情報機器の利用方法について、代表的なプレゼンテーションソフトウェアである Microsoft PowerPoint を利用した演習を通して学習する。データ、静止画、動画、アニメーション等視聴覚メディアを効果的に活用する技術や、聞き手に対し、情報を一定時間内に的確かつ効率的に表現する技法を学ぶ。 プレゼンテーションの実践は、1回目は2名のグループで行い、2回目は個人発表とする。 予習：授業で指示した箇所を予め読んでおくこと。 復習：授業で学んだ箇所を読み、講義の内容をより理解し、PowerPoint 演習においても復習すること。																																																											
授 業 計 画																																																											
<table><tr><td>第1回：</td><td>オリエンテーション、他己紹介</td></tr><tr><td>第2回：</td><td>プレゼンテーションの基礎知識、PowerPoint の操作方法</td></tr><tr><td>第3回：</td><td>PowerPoint の操作方法</td></tr><tr><td>第4回：</td><td>PowerPoint の操作方法</td></tr><tr><td>第5回：</td><td>PowerPoint の操作方法、グループ分け、プレゼンテーション資料の作成</td></tr><tr><td>第6回：</td><td>プレゼンテーション資料の作成（グループ）</td></tr><tr><td>第7回：</td><td>プレゼンテーション資料の作成（グループ）</td></tr><tr><td>第8回：</td><td>プレゼンテーション資料の作成（グループ）</td></tr></table>		第1回：	オリエンテーション、他己紹介	第2回：	プレゼンテーションの基礎知識、PowerPoint の操作方法	第3回：	PowerPoint の操作方法	第4回：	PowerPoint の操作方法	第5回：	PowerPoint の操作方法、グループ分け、プレゼンテーション資料の作成	第6回：	プレゼンテーション資料の作成（グループ）	第7回：	プレゼンテーション資料の作成（グループ）	第8回：	プレゼンテーション資料の作成（グループ）	<table><tr><td>第9回：</td><td>プレゼンテーションの実践（グループ）</td></tr><tr><td>第10回：</td><td>プレゼンテーションの実践（グループ）、プレゼンテーション資料の作成（個人）</td></tr><tr><td>第11回：</td><td>プレゼンテーション資料の作成（個人）</td></tr><tr><td>第12回：</td><td>プレゼンテーション資料の作成（個人）</td></tr><tr><td>第13回：</td><td>プレゼンテーション資料の作成（個人）</td></tr><tr><td>第14回：</td><td>プレゼンテーションの実践（個人）</td></tr><tr><td>第15回：</td><td>プレゼンテーションの実践（個人）</td></tr></table>		第9回：	プレゼンテーションの実践（グループ）	第10回：	プレゼンテーションの実践（グループ）、プレゼンテーション資料の作成（個人）	第11回：	プレゼンテーション資料の作成（個人）	第12回：	プレゼンテーション資料の作成（個人）	第13回：	プレゼンテーション資料の作成（個人）	第14回：	プレゼンテーションの実践（個人）	第15回：	プレゼンテーションの実践（個人）																										
第1回：	オリエンテーション、他己紹介																																																										
第2回：	プレゼンテーションの基礎知識、PowerPoint の操作方法																																																										
第3回：	PowerPoint の操作方法																																																										
第4回：	PowerPoint の操作方法																																																										
第5回：	PowerPoint の操作方法、グループ分け、プレゼンテーション資料の作成																																																										
第6回：	プレゼンテーション資料の作成（グループ）																																																										
第7回：	プレゼンテーション資料の作成（グループ）																																																										
第8回：	プレゼンテーション資料の作成（グループ）																																																										
第9回：	プレゼンテーションの実践（グループ）																																																										
第10回：	プレゼンテーションの実践（グループ）、プレゼンテーション資料の作成（個人）																																																										
第11回：	プレゼンテーション資料の作成（個人）																																																										
第12回：	プレゼンテーション資料の作成（個人）																																																										
第13回：	プレゼンテーション資料の作成（個人）																																																										
第14回：	プレゼンテーションの実践（個人）																																																										
第15回：	プレゼンテーションの実践（個人）																																																										
テキスト： クラスにて案内する。		参 考 書： 特になし																																																									
評価方法・評価基準：																																																											
<table><tr><th>到達目標等 成績評価</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>25</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>50</td></tr><tr><td>演 習</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>25</td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度			○	○			25	受講者の発表	○	○	○	○	○	○	50	演 習	○	○	○	○	○		25	その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																				
試験 (中間・期末試験)																																																											
小テスト・ 授業内レポート																																																											
授業態度			○	○			25																																																				
受講者の発表	○	○	○	○	○	○	50																																																				
演 習	○	○	○	○	○		25																																																				
その他																																																											
履修上の注意：各自USBメモリを準備すること。																																																											

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員					
日本語表現法 (Japanese Expression)		上原 明子					
授業の到達目標及びテーマ 知識理解：コミュニケーション・効果的なプレゼンについて深く認識する 思考判断：スピーチの論理的な構成を通じて、相手を尊重すること、自分を省みることを学ぶ 関心意欲：失敗から学ぶ姿勢で積極的にスピーチ・プレゼンに取り組む意欲を喚起する 態度：相互交流での学び合いによるセルフ・ラーニングの意識を培う							
授業の概要 日本語の音声表現についての講義と実践を通し、的確なコミュニケーションのための土台作りをする。以下の5つの観点からの学びを行う。 ① 自分の考えや意見を音声言語で表現する方法を訓練する。 ② 他人の話を聞く訓練をする。 ③ コミュニケーションのしくみを学ぶ。 ④ 1分スピーチ力を養成する。 ⑤ 効果的なプレゼンテーションの技法を学ぶ。 予習：シラバスを確認し、授業部分のテキストを読んでおくこと 復習：講義内で指示したタスクにとりくむこと							
授 業 計 画							
第 1 回： 「コミュニケーション」って何？ 課題：他己紹介、ヒーローインタビュー	第 8 回： 「パブリックスピーキング実践（2）」課題：フィードバック						
第 2 回： 「聞く・聴く・訊く」 課題：聴く力の点検、音を読む	第 9 回： 「聴衆分析」課題：即興スピーチ						
第 3 回： 「話す～声のパワー～」	第 10 回： 「朗読～相手に届ける表現～」						
第 4 回： 「敬語意識（1）」	第 11 回： 「教室プレゼンテーション・20の技法」						
第 5 回： 「敬語意識（2）」	第 12 回： 「プレゼン実践（1）」課題：写真リポート						
第 6 回： 「パブリックスピーキング～伝達・情報化～」	第 13 回： 「プレゼン実践（2）」課題：フィードバック						
第 7 回： 「パブリックスピーキング実践（1）」課題：自分の披露宴の友人代表スピーチ	第 14 回： まとめ、プレゼン、即興スピーチ						
	第 15 回： フィードバック・レポート提出						
テキスト： 講師作成資料を配布。	参考書： テーマ毎に指示する。						
評価方法・評価基準：① 授業への参加態度 ② 1分スピーチへの取り組み ③ プレゼンテーションへの取り組み ④ スピーチ原稿作成、プレゼン、即興スピーチ（1分、250-260 字程度） ⑤ 最終レポート提出							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)					○		
小テスト・授業内レポート	○						20
授業態度			○	○			50
受講者の発表	○	○	○	○	○		30
演 習							評価に加えず
その他							
履修上の注意：講師による配布資料をきちんとファイルしておくこと。							

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員					
朗読の科学 (Interpretative Presentation)		上原 明子					
授業の到達目標及びテーマ 知識理解：日本語の音声学、朗読の表現方法の理論を学ぶ 思考判断：作品のリズム構造の分析や群読表現を通して、作品への理解を深める 関心意欲：集団でのパフォーマンスを楽しみ、意連の喜びを感じる 態 度：グループ、クラス単位でのパフォーマンスにおける責任感を培う							
授業の概要 日本語の音声学的知識と、実践的な音声表現を学ぶことにより、新しい切り口からの文学体験を行うことを目的とする。15回のうち、前半は、音声学や群読の基礎力を養成し、後半は、表現のための実践トレーニングを行う。 毎回のクラスは、3つの部分から構成されている。 Ⅰ. 体操・呼吸法・発声 Ⅱ. 日本語の音声学・群読の技法 講義 Ⅲ. 課題への取り組み 予習：シラバスを確認し、講義内容への知識を整えておくこと 復習：講義内で指示したタスクにとりくむこと							
授 業 計 画							
第 1 回： 「深い呼吸に支えられた深い声（1） 身体と対話する」	第 9 回： 「群読の技法（2）」						
第 2 回： 「深い呼吸に支えられた深い声（2） 声を感じる」	第 10 回： 中間まとめ						
第 3 回： 「美しいリズムと声の響き（1）母音」	第 11 回： 「表現する（1） 作品の読み込み・読み譜つけ」						
第 4 回： 「美しいリズムと声の響き（2）子音」	第 12 回： 「表現する（2） 間の取り方」						
第 5 回： 「美しいリズムと声の響き（3）日本 語の母音と子音」	第 13 回： 「表現する（3） 意識を連ねる」						
第 6 回： 「美しいリズムと声の響き（4）内に 向かうリズムと外へ開くリズム」	第 14 回： 「表現する（4） ゲネプロ（衣装着用）」						
第 7 回： 「美しいリズムと声の響き（5）日本 語作品のリズム構造の分析」	第 15 回： 発表会「コトバの渚」・最終まとめ						
第 8 回： 「群読の技法（1）」							
テキスト： 講師配布資料を配布。							
参 考 書： テーマ毎に指示。							
評価方法・評価基準：							
① 授業態度 ② 日本語音声学についてレポート ③ 「コトバの渚」参加 ④ 最終レポート提出							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○						50
授業態度			○	○			20
受講者の発表			○	○	○		30
演 習							評価に含めず
その他							
履修上の注意：①体操のできる服装で参加すること②講師による配布資料をきちんとファイルしておくこと ③「ことばの渚」とゲネプロに参加できることが履修条件							

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員					
マルチメディア演習 (Multi-media Applications)		金城 豪					
授業の到達目標及びテーマ コンピュータ、及び付属するソフトウェアの一步上を行く使用法や知識を獲得する。 また、世界に向けて情報を発信するための技術を身に付ける。							
授業の概要 コンピュータの基本的操作法を習得したことを前提に、次の段階としてネットワーク社会におけるコンピュータを考えます。Web ページ作成を通して、マルチメディア ファイルの取り扱い方、種々のソフトウェア利用技術を学習します。また演習と並行して、実社会の事例を紹介しながら情報技術の発達と高度情報化社会の諸問題についても理解を深めます。 予習：毎回次の講義内容を指示するので、各自テキスト等を使用して事前に講義を受ける準備をしておくこと。 復習：講義内容を再確認し、与えられた課題を指示通りに実行し確実に提出できるように努めること。							
授 業 計 画							
第 1 回： 情報社会への歩み	第 9 回： マルチメディアファイルについて						
第 2 回： 生活環境におけるコンピュータの位置づけ	第 10 回： マルチメディアファイルを扱う (1)						
第 3 回： 高度情報通信網	第 11 回： マルチメディアファイルを扱う (2)						
第 4 回： インターネットの仕組み	第 12 回： Web ページ作成 (1)						
第 5 回： HTMLとは	第 13 回： Web ページ作成 (2)						
第 6 回： HTML 演習	第 14 回： Web ページ作成 (3) 提出						
第 7 回： ファイルの管理	第 15 回： 課題発表会						
第 8 回： メモリーの概念							
テキスト： 「情報の表現と管理」伏見正則著							
参 考 書： 特になし							
評価方法・評価基準： 授業への参加度、課題提出状況、受講態度などを総合的に判断して評価します。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							評価に加えず
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		40
授業態度			○	○			10
受講者の発表							評価に加えず
演 習	○	○			○		40
その他			○				10
履修上の注意： 各自USBメモリを準備すること。							

授業科目名	2 単位 (0－2)	担当教員
異文化交渉演習 (Intercultural Practicum)		仲里 和花
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：異文化交渉に役立つ、「協調的交渉術」のスキルを身につけること。 テーマ： 論理的思考、交渉の諸要素、コンフリクトと文化的諸要因、パワー（権力構造）、怒り		
授業の概要 私たちが国の内外で異文化の人々とさまざまな目的で接触するとき、そこには必ずといってよいほど交渉の要素が含まれている。この場合、交渉とはディベートのように勝ち負けを決めるのではなく、さまざまなかけひきを駆使しながら合意にいたる複雑なコミュニケーション・プロセスである。本講義では、英語圏の人たちとの交渉ばかりではなく、英語圏以外の人々と英語で交渉する場合に役立つ、ビジネス・コミュニケーションについて学ぶ。 予習：テキストを事前に読んでくること 復習：毎回クイズを出すので、間違ったところをテキストで確認すること		
授 業 計 画		
第 1 回： 今の時代なぜ異文化交渉能力が必要か	第 8 回： 交渉の諸要素—社会的、心理的背景、交渉の「段階的流れ」	
第 2 回： 交渉とは何か。交渉、議論（ディベート）、説得、プレゼンテーション	第 9 回： 「本音・欲求」を見極める、「怒り」への対処法	
第 3 回： 論理的思考	第 10 回： 文化の違いは交渉にどう影響するか —（応用編）	
第 4 回： 対立・衝突の背景を知る(理論編)—なぜ人は「対立」や「衝突」を避けられないのか	第 11 回： コンフリクトと文化的諸要因	
第 5 回： 従来型問題解決法ではダメな理由、対立の構図—交渉のケーススタディ	第 12 回： 「権力構造」という厄介なもの、大人になれない大人たち	
第 6 回： 協調的交渉術をどう進めるのか（実践編）（ケーススタディ） 国際支援危機乗切り切り力（ビデオ視聴）	第 13 回： 英語による交渉のスキル 2020 東京五輪プレゼン(TV 視聴)	
第 7 回： 競合的交渉はなぜ失敗するのか、協調的態度とは、コミュニケーション・スキルとは	第 14 回： 文化の壁を越えて —ブリッジパーソンを育成する	
	第 15 回： まとめ&レポートの提出	
	第 16 回： 期末テスト	
テキスト：野沢聡子『問題解決の交渉学』（PHP 研究所）と英字新聞を使う		
参 考 書： ・船川淳志『思考力と対人力』日本経済新聞社 ・足立行子他『ビジネスと異文化のアクティブ・コミュニケーション』同文館 ・トロンペナルス『異文化の波—グローバル社会：多様性の理解』白桃書房 ・八代京子他『異文化トレーニング』三修社 ・野沢聡子『協調的交渉術のすすめ』アルク		
評価方法・評価基準： 授業への参加度（10%）、授業での発表(10%)、課題レポート(20%)、クイズ&テスト（60%）。		
履修上の注意：交渉というとスキル（技能）という狭い意味に取られがちであるが、交渉とはコミュニケーション活動であるということを学んでほしい。		

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員	
比較文化 (Comparative Culture)		仲里 和花	
授業の到達目標及びテーマ			
到達目標：アメリカの広告を学ぶことで、アメリカ社会の価値観を知り、日本文化とアメリカ文化の共通点と相違点を理解できること。			
テーマ：コンピューター、化粧品、牛乳、タバコ、衣料、車、アルコールなど。			
授業の概要			
日本とアメリカの基本的な文化の違いを、両国の歴史的な背景を概観しながら考える。			
たとえば、風俗や習慣、衣食住、家庭、教育、社会問題、言語、スポーツなどの事柄を宗教、人種、民族、文化などに対する観点から比較し、文化の相対性の視点と、多角的な視点から文化を捉える方法論をさぐる。また、日米を中心にしながら、他の文化をみる視点の基本も養う。ディスカッションの機会を出来るだけ増やし、学生の批判的能力・口頭表現能力の育成にも留意する。今年は、広告を通じてアメリカ文化に触れ、日米社会の価値観を比較するとともに、自分自身の価値観をも自覚させることを目的とする。			
また、アメリカのCMも授業でとりあげる。			
予習：英語のテキストを読んでくること			
復習：教師作成の study guide の質問に答えること			
授 業 計 画			
第1回：	文化を比較することにはどのような意味があるのか	第9回：	sports wear
第2回：	なぜ、文化を比較するのか。ーグローバル時代を生き抜くための教養ー	第10回：	cosmetics
第3回：	アメリカの歴史、人種・宗教、広告の目的と機能	第11回：	gun control
第4回：	global communications	第12回：	jeans
第5回：	milk	第13回：	cigarettes
第6回：	men's underwear	第14回：	cereal treats
第7回：	cars	第15回：	まとめ
第8回：	まとめ（中間）	第16回：	期末テスト
テキスト：Kumi Inoue <i>In Touch with American Ads</i> （心に響くアメリカの広告）成美堂			
参 考 書：・有賀貞『概説アメリカ史』有斐閣			
・苅谷剛彦『比較社会・入門』有斐閣			
・エスターワニング『アメリカ人』河出書房			
・Kumi Inoue <i>Ads Speak American Culture</i> （広告からみたアメリカ文化）成美堂			
評価方法・評価基準：			
授業への参加度(10%)、授業での発表(10%)、課題レポート(10%)、テスト(70%)により総合的に評価する。			
履修上の注意：文化比較をおこなう場合、とかく違いが強調されやすい。しかし、文化の違いと同時に、文化の共通性も理解してほしい。			

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員																																
うちなーぐち講座		比嘉 光龍																																
授業の到達目標及びテーマ うちなーぐちを実際に社会で使えることを目標にする。また、うちなーんちゅとしてのアイデンティティを持ち、うちなーを基本に世界を見る人材を養う。																																		
授業の概要 うちなーぐちの挨拶、発音、語彙、表記を学ぶ。琉球・うちなーの歴史をきちんと知る事で、うちなーぐちを自らの言語だと認識できる講義を行う。 予習：配布資料は必ず毎回持参し、次の講座に前回の復習を行うので見直しておくこと。 復習：配布資料はきちんと保管し、発音や語彙、表記を復習すること。																																		
授 業 計 画：																																		
<table><tr><td>第 1 回：</td><td>講師紹介「かじゃでい風」生演奏解説</td><td rowspan="8"><table><tr><td>第 9 回：</td><td>うちなーぐちの挨拶その 2</td></tr><tr><td>第 10 回：</td><td>「めんそーれ」ではなく「めんそーれー」</td></tr><tr><td>第 11 回：</td><td>オ列長音と小文字書き「う」について</td></tr><tr><td>第 12 回：</td><td>うちなーぐちの表記法</td></tr><tr><td>第 13 回：</td><td>うちなーぐちの表記法 その 2</td></tr><tr><td>第 14 回：</td><td>琉球・うちなーの歴史</td></tr><tr><td>第 15 回：</td><td>琉球の芸能 DVD 鑑賞</td></tr></table></td></tr><tr><td>第 2 回：</td><td>琉球諸語とは（島言葉？離島？本島？） 「かじゃでい風」生演奏解説 2</td></tr><tr><td>第 3 回：</td><td>自分の姓のうちなー名を知る</td></tr><tr><td>第 4 回：</td><td>うちなーぐちの発音</td></tr><tr><td>第 5 回：</td><td>うちなーぐちの発音 その 2</td></tr><tr><td>第 6 回：</td><td>「うちなーやまとうぐち」とは</td></tr><tr><td>第 7 回：</td><td>「うちなーやまとうぐち」とは その 2</td></tr><tr><td>第 8 回：</td><td>うちなーぐちの挨拶（今日拝なびら）</td></tr></table>			第 1 回：	講師紹介「かじゃでい風」生演奏解説	<table><tr><td>第 9 回：</td><td>うちなーぐちの挨拶その 2</td></tr><tr><td>第 10 回：</td><td>「めんそーれ」ではなく「めんそーれー」</td></tr><tr><td>第 11 回：</td><td>オ列長音と小文字書き「う」について</td></tr><tr><td>第 12 回：</td><td>うちなーぐちの表記法</td></tr><tr><td>第 13 回：</td><td>うちなーぐちの表記法 その 2</td></tr><tr><td>第 14 回：</td><td>琉球・うちなーの歴史</td></tr><tr><td>第 15 回：</td><td>琉球の芸能 DVD 鑑賞</td></tr></table>	第 9 回：	うちなーぐちの挨拶その 2	第 10 回：	「めんそーれ」ではなく「めんそーれー」	第 11 回：	オ列長音と小文字書き「う」について	第 12 回：	うちなーぐちの表記法	第 13 回：	うちなーぐちの表記法 その 2	第 14 回：	琉球・うちなーの歴史	第 15 回：	琉球の芸能 DVD 鑑賞	第 2 回：	琉球諸語とは（島言葉？離島？本島？） 「かじゃでい風」生演奏解説 2	第 3 回：	自分の姓のうちなー名を知る	第 4 回：	うちなーぐちの発音	第 5 回：	うちなーぐちの発音 その 2	第 6 回：	「うちなーやまとうぐち」とは	第 7 回：	「うちなーやまとうぐち」とは その 2	第 8 回：	うちなーぐちの挨拶（今日拝なびら）	
第 1 回：	講師紹介「かじゃでい風」生演奏解説	<table><tr><td>第 9 回：</td><td>うちなーぐちの挨拶その 2</td></tr><tr><td>第 10 回：</td><td>「めんそーれ」ではなく「めんそーれー」</td></tr><tr><td>第 11 回：</td><td>オ列長音と小文字書き「う」について</td></tr><tr><td>第 12 回：</td><td>うちなーぐちの表記法</td></tr><tr><td>第 13 回：</td><td>うちなーぐちの表記法 その 2</td></tr><tr><td>第 14 回：</td><td>琉球・うちなーの歴史</td></tr><tr><td>第 15 回：</td><td>琉球の芸能 DVD 鑑賞</td></tr></table>	第 9 回：	うちなーぐちの挨拶その 2		第 10 回：	「めんそーれ」ではなく「めんそーれー」	第 11 回：	オ列長音と小文字書き「う」について	第 12 回：	うちなーぐちの表記法	第 13 回：	うちなーぐちの表記法 その 2	第 14 回：	琉球・うちなーの歴史	第 15 回：	琉球の芸能 DVD 鑑賞																	
第 9 回：	うちなーぐちの挨拶その 2																																	
第 10 回：	「めんそーれ」ではなく「めんそーれー」																																	
第 11 回：	オ列長音と小文字書き「う」について																																	
第 12 回：	うちなーぐちの表記法																																	
第 13 回：	うちなーぐちの表記法 その 2																																	
第 14 回：	琉球・うちなーの歴史																																	
第 15 回：	琉球の芸能 DVD 鑑賞																																	
第 2 回：	琉球諸語とは（島言葉？離島？本島？） 「かじゃでい風」生演奏解説 2																																	
第 3 回：	自分の姓のうちなー名を知る																																	
第 4 回：	うちなーぐちの発音																																	
第 5 回：	うちなーぐちの発音 その 2																																	
第 6 回：	「うちなーやまとうぐち」とは																																	
第 7 回：	「うちなーやまとうぐち」とは その 2																																	
第 8 回：	うちなーぐちの挨拶（今日拝なびら）																																	
テキスト： 授業内にプリント配布																																		
参 考 書： 『沖縄語辞典』（国立国語研究所編） 『琉球語辞典』 半田一郎著（大学書林） 『沖縄語リアルフレーズ BOOK』 比嘉光龍著（研究社） 『沖縄の自己決定権』 新垣毅 琉球新報社編著（高文研）																																		
評価方法・評価基準： レポート提出、授業態度などを総合して評価する。																																		
<table><tr><th>到達目標等 成績評価</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合（％）</th></tr><tr><td>レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>6 0</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2 0</td></tr><tr><td>授業態度 （皆の前であいさつをする。かじゃでい風を踊る。トイレに行かない。寝ない、など）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2 0</td></tr></table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）	レポート							6 0	授業への参加度							2 0	授業態度 （皆の前であいさつをする。かじゃでい風を踊る。トイレに行かない。寝ない、など）							2 0
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）																											
レポート							6 0																											
授業への参加度							2 0																											
授業態度 （皆の前であいさつをする。かじゃでい風を踊る。トイレに行かない。寝ない、など）							2 0																											
履修上の注意：																																		
1 講義中はトイレに行かない、居眠りをしない、私語をつつしむなどの基本的なことは守ってください。 2 講義ではテストは行いません。そのかわりレポートを提出してもらいます。 3 講義は、言語を学ぶ講座ですので声を出すことが基本です。何度も発音させるので恥ずかしがらないようにして下さい。																																		

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員	
Okinawan Studies		David Ulvog	
授業の到達目標及びテーマ			
The objective of this class is for students to use English to acquire a more proficient understanding of Okinawa through a variety of contemporary subjects and to improve their language skills and knowledge of the subject matter.			
授業の概要			
沖縄について、特に琉球王国の近代日本への吸収から今日までの歴史的経過や文化の概要の紹介を目的とする。王国時代についても必要事項について言及しつつ、米国や日本からの外圧、王国内の社会的、政治的関係や発展に焦点を当てる。英語のアーカイブ現代資料を利用し戦後沖縄の状況についての紹介をすると同時に G.H.カーや Chalmers Johnson、大田昌秀などの研究者の様々な見解を紹介検討する。琉球・沖縄の驚嘆すべき文化の興隆から数項目を選び検討する。講義ではパワーポイントを使用する。日本語のキーワードを紹介しつつ英語で講義を行うことにより期せずして学生の英語聴解力、会話力、読解力の向上を促す。			
予習：Students should gather data about upcoming themes in order to make the class more fruitful			
復習：Students should review previously learned information, as previous topics will feed into future topics			
授 業 計 画			
第 1 回：	Orientation; geology, and geography, the constituent islands, population and units of local government	第 9 回：	Classical music and dance; quiz
第 2 回：	Outline of Ryukyuan history to 1879; quiz	第 10 回：	Architecture and masonry; quiz
第 3 回：	Outline of Okinawan history, 1879 to 2000; quiz	第 11 回：	Okinawa's UNESCO World Heritage Sites; quiz
第 4 回：	Iha Fuyu, the origins of Ryukyuan・Okinawan Studies, and Iha's critics, quiz	第 12 回：	Pacifism in Okinawa; quiz
第 5 回：	Karate; quiz	第 13 回：	Pacifism in Okinawa; quiz
第 6 回：	Lacquer; quiz	第 14 回：	Okinawan cuisine, <i>awamori</i> , longevity and health foods; quiz
第 7 回：	Ceramics and the <i>mingei undo</i> ; the Dialect Controversy; quiz	第 15 回：	Student choice: women's history <u>or</u> education in Okinawa
第 8 回：	Textiles; mid-term summary quiz	第 16 回：	Final summary quiz
テキスト： n/a			
参 考 書： 資料リストは最初の講義に配布する。			
評価方法・評価基準：			
1) 質疑応答を通じての積極的姿勢、時間厳守（重視する）、授業への参加度、意識・関心度			
2) 講義内容についての事前学習			
3) 復習クイズ（毎週）、中間及び期末クイズ			
履修上の注意：			

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
沖縄の歴史と現在 (Okinawa modern history)		照屋 信治					
授業の到達目標及びテーマ 沖縄の歴史に関する一定程度の知識を習得し、現代沖縄に関する諸問題を歴史的な視点から考察することができるようになること。							
授業の概要 現在の沖縄をめぐる諸問題は、歴史的な堆積の上に存在するものである。その歴史的経緯を抜きに沖縄を論ずることはできない。本講義では、基地・文化・歴史教科書・アイデンティティといった沖縄をめぐる諸問題を歴史的な視点から考察してゆく。私たちが生きる沖縄の現在と沖縄近現代史とを往還することになる。 授業形態に関しては、各回のテーマを論争的なものひとつに絞り込み、授業前半で講師による解説を行い、授業後半で参加者間の意見の交換・バズ討論・発表という展開をとる。よって、参加する学生の発言が授業成立の前提となり、積極的な参加が不可欠である。 沖縄でより良く生きるための学知を提供し、話し合いの空間の創造を目指すので、より多くの学生の参加を期待する。 予習：ネットや文献で「授業計画」にある歴史用語を調べ、概要を把握した上で授業に臨むこと 復習：授業中に提示された参考文献に目を通すこと							
授 業 計 画							
第 1 回： 沖縄の歴史と現在を学ぶ意義	第 8 回： 【近代④】近代沖縄の歴史教育 (1895-1940 年)						
第 2 回： 【現在①】沖縄イメージとその政治性：『ちゅらさん』『ナヴィの恋』	第 9 回： 【近代⑤】山之口猯と大和で生きる沖縄人						
第 3 回： 【現在②】歴史認識をめぐる抗争①2007 年の歴史教科書検定をめぐる沖縄県民集会	第 10 回： 【近代⑥】ソテツ地獄と移民、植民地						
第 4 回： 【現在③】歴史認識をめぐる抗争②小林よしのり『沖縄論』	第 11 回： 【近代⑦】「方言論争」と柳宗悦 (1940 年)						
第 5 回： 【近代①】「琉球処分」論争と「琉球救国運動」 (1870-1895)	第 12 回： 【近代⑧】沖縄戦と「方言」 (1945 年)						
第 6 回： 【近代②】謝花昇と沖縄の自由民権運動 (1900 年前後)	第 13 回： 【戦後①】米軍基地の建設と沖縄経済 (1950 年代)						
第 7 回： 【近代③】伊波普猷の日琉同祖論と「個性」論 (1910 年代)	第 14 回： 【戦後②】復帰運動と 1960 年代の「方言札」						
	第 15 回： 【戦後③】「反復帰論」と沖縄独立論・自立論 (1860 年代～現在)						
テキスト： 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。							
参 考 書： 池宮城秀意『戦争と沖縄』岩波書店、1980 年（ブックレビューの課題図書）							
評価方法・評価基準：評価に関しては、沖縄史の概説書のブックレビューの提出、各回の議論への参加具合、中間期末試験、レポートによって行う。							
成績評価 到達目標等 試験 (中間・期末試験) 小テスト・授業内レポート	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
授業態度	○	○	○	○	○		40
受講者の発表	○	○	○	○	○		40
演 習							20
その他							
履修上の注意：新聞・TV・書籍などで沖縄社会の動向に注意を払うこと							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員
近代沖縄とアイデンティティ		新垣 誠
授業の到達目標及びテーマ： 沖縄の近代化がそのアイデンティティにもたらす様々な影響について学ぶ 知識理解：「近代性」や「アイデンティティ」に対する知識を持つ 関心意欲：地域社会の問題解決に対する意欲をもつ 思考判断：近代化や多様性に対する自己見解を持つ 態 度：国際社会と地域の事象を比較して考えることが出来る		
授業の概要 近代国民国家日本の形成と沖縄の近代化が、沖縄のアイデンティティにどのような影響を及ぼしてきたのか、その歴史的背景と現状について学ぶ。アイヌ民族や在日コリアン、混血児や労働移民、難民など近代国家の狭間にあって、様々な課題を抱える人々と沖縄を照らし合わせながら、アイデンティティについて考える。異質なものを排除する近代システムの暴力と、多様性の強みを理解し、多文化共生社会に積極的に関わるための知識と考察力を養う。 予習：次回の内容予告を受け、基礎的な用語、歴史、事実関連を調べておくこと。 復習：次回の授業との関連性を考えながら、内容の再確認をおこなうこと。		
授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。		
第 1 回： イントロダクション 「うちなーんちゅ」とは誰？	第 9 回： 米軍占領下における宣撫工作と沖縄のアイデンティティ	
第 2 回： 「近代」という時代	第 10 回： 「日本復帰」、沖縄の経済開発とアイデンティティ	
第 3 回： 近代国民国家と日本	第 11 回： 帰国県系人のアイデンティティ	
第 4 回： 「アイデンティティ」とは	第 12 回： 「世界のウチナーンチュ・ネットワーク」とディアスポラ	
第 5 回： 日本における少数民族の歴史と現状	第 13 回： 観光のなかのイメージとしての沖縄文化	
第 6 回： 沖縄の近代化と日本への同化と沖縄戦	第 14 回： 地域言語と沖縄の文化的アイデンティティ	
第 7 回： 沖縄の労働移民と沖縄救済活動	第 15 回： 沖縄アイデンティティのゆくへ	
第 8 回： 第二次世界大戦と日系アメリカ人、沖縄系アメリカ人	第 16 回： 総括	
テキスト： 適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。		
参 考 書： 講義においてそのつど提示する。		
評価方法・評価基準： レポート、課題及び授業内のワークショップへの参加度で評価する。		
成績評価 到達目標等 定期試験 (中間・期末試験) 小テスト・ 授業内レポート 授業態度 受講者の発表 演 習 その他 調査	知識・理解 ○ <	

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員																																													
中国語Ⅰ (ChineseⅠ)		武村 朝吉																																													
授業の到達目標及びテーマ																																															
中国語の発音（声調コントロールを含む）の基礎を習得する。基本的な文法事項を理解（約 60 個の文型を習得）し、初級レベルの中国語の会話文が読め、簡単な作文と会話ができることを目標とする。																																															
授業の概要																																															
中国語のピン音（発音記号）の概要を説明すると同時に、個々の発音・声調の具体的発声方法の十分な練習を行う。それに引き続き、基本的な文法事項を学習し、その応用として、会話練習、作文練習を行う。総合中国語Ⅰでは、テキストの第1課から第10課までを学習する。 予習：授業内容を事前に目を通しておくこと。 復習：ピンイン、簡体字の書き取り練習を行うこと。																																															
授 業 計 画																																															
第1回：中国語の発音、ピン音、声調	第9回：提案の仕方、“有”文																																														
第2回：発音練習、ピン音書き取り練習	第10回：介詞構造																																														
第3回：“吗”を用いた疑問文	第11回：時間詞																																														
第4回：疑問代名詞を用いた疑問文	第12回：連動文																																														
第5回：形容詞述語文	第13回：連用修飾語																																														
第6回：動詞述語文	第14回：方位詞																																														
第7回：所属・所有関係を表す連体修飾語	第15回：反覆疑問文																																														
第8回：“是”文、名詞述語文	第16回：期末試験																																														
テキスト：『漢語会話 301 句』康玉華、来思平、北京言語大学出版社																																															
参 考 書：																																															
評価方法・評価基準：																																															
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>80</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度 授業への参加度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>10</td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)	○	○			○		80	小テスト・ 授業内レポート								授業態度 授業への参加度			○	○	○		10	受講者の発表	○		○	○	○		10							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																								
試験 (中間・期末試験)	○	○			○		80																																								
小テスト・ 授業内レポート																																															
授業態度 授業への参加度			○	○	○		10																																								
受講者の発表	○		○	○	○		10																																								
履修上の注意：相互（学生⇔教師，学生⇔学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。5回以上欠席で「不可」とする。																																															

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員																																																					
中国語Ⅱ (ChineseⅡ)		武村 朝吉																																																					
授業の到達目標及びテーマ																																																							
中国語の発音（声調コントロールを含む）の正確な発声方法を習得する。基本的な文法事項を理解（60個の文型を習得）し、初級レベルの中国語の会話文が読める、簡単な作文と平易な日常会話ができることを目標とする。																																																							
授業の概要																																																							
個々の発音・声調の具体的発声方法の十分な練習も継続しつつ、十分な時間をかけ各課を学習する。各課の学習においては、基本的な文法事項の学習に続き、その応用として、簡単な日常会話の練習と作文練習を行う。																																																							
予習：授業内容を事前に目を通しておくこと。																																																							
復習：ピンイン、簡体字の書き取り練習を行うこと。																																																							
授 業 計 画																																																							
第 1 回：中国語Ⅰの復習	第 9 回：“还没（有）…呢”（完了の否定）																																																						
第 2 回：文末の語気助詞“了”	第 10 回：選択疑問文																																																						
第 3 回：動詞の重ね型、主述述語文	第 11 回：動作の手段を表す連動文																																																						
第 4 回：能願動詞、二重目的語文	第 12 回：方向補語																																																						
第 5 回：連体修飾語としての数量詞	第 13 回：“要…了”、“是…的”、“从”の用法																																																						
第 6 回：兼語文、“是”文（2）	第 14 回：同量補語																																																						
第 7 回：結果補語、介詞“给”	第 15 回：連体修飾語としての動詞・動詞構造・主述構造																																																						
第 8 回：動態助詞“过”、無主語文	第 16 回：期末試験																																																						
テキスト：『漢語会話 301 句』康玉華、来思平、北京言語大学出版社																																																							
参 考 書：中日辞典																																																							
評価方法・評価基準：																																																							
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>80</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度 授業への参加度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)	○	○			○		80	小テスト・ 授業内レポート								授業態度 授業への参加度			○	○	○		10	受講者の発表	○		○	○	○		10	その他														
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																
試験 (中間・期末試験)	○	○			○		80																																																
小テスト・ 授業内レポート																																																							
授業態度 授業への参加度			○	○	○		10																																																
受講者の発表	○		○	○	○		10																																																
その他																																																							
履修上の注意：相互（学生⇔教師，学生⇔学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。5 回以上欠席で「不可」とする。																																																							

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員
韓国語Ⅰ (KoreanⅠ)		金 永秀

授業の到達目標及びテーマ

ハングルの読み書きの基礎を身につけ、簡単な会話をすることができる。

授業の概要

ハングルの基礎から、簡単な会話と読み書きの習得を目的とする。CD による発音の練習を行い。実際に使われている音声に慣れる。日常会話で最もよく使われる基本的な単語を使用し、実際の例文を使って反復練習をおこなう。あいさつ、感情表現、自己紹介、旅行に必要な会話、暦やお金の数え方など、交流に必要な最低限の語学力の習得ができる内容とする。韓国人の特別ゲストを招いて、実際の場面を想定した練習を、できるだけ多くおこなう。又、簡単な民謡、歌謡曲を数曲覚える。

予習： 次回の講義について予習すべきことを毎回告知する。

復習： その日の講義で学んだことを自宅で復習することを指示

授 業 計 画

第 1 回：	コースガイダンス、韓国と日本、沖縄について。	第 8 回：	これは何ですか。
第 2 回：	ハングルの読み方と書き方。 (1) 母音	第 9 回：	生活用品と存在詞
第 3 回：	ハングルの読み方と書き方。 (2) 子音	第 10 回：	家族関係。
第 4 回：	ハングルの読み方と書き方。 (3) パッチムについて。	第 11 回：	位置関係。
第 5 回：	自己紹介と関連文法	第 12 回：	漢字の読み方と使い方
第 6 回：	挨拶と自己紹介（国、職業）	第 13 回：	韓国の歌の表現
第 7 回：	挨拶（2）疑問文。－ 関連する文法	第 14 回：	韓国の映画の表現
		第 15 回：	まとめ
		第 16 回：	期末テスト

テキスト： 『韓国語を学ぼう』初級（前半）

参 考 書： 民衆 韓日辞典

評価方法・評価基準：

適宜行うショートテストと、期末テストの結果を主として評価するが、授業態度、授業への参加度も参考にする

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○						100
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
その他							

履修上の注意：

語学は、反復が大切である。講義内容の復習を重点的にするために、家庭での復習を充分にすること。確認のため適宜、ショートテストを行う。

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員					
韓国語Ⅱ (KoreanⅡ)		金 永秀					
授業の到達目標及びテーマ 会話に必要な文法の基礎を身につける							
授業の概要 韓国語Ⅰの単位取得者もしくはそれと同等の語学力を持つものを対象にする。日常会話のより高度な段階をめざし、簡単なハングル文書の講読が可能になるまでの語学力の習得を目的とする。ハングルで、韓国の地理、人口、生活と、ある程度の韓国の文化理解をし、日本及び、沖縄のことがある程度紹介できるようにする。ハングルは、漢字を多く使用することによって成立しており、漢字語を利用することにより語彙力の増強をはかる。韓国で流行している歌謡曲にも挑戦する。韓国人の特別ゲストを招いて韓国生活文化を学んだりもする。 予習：次の講義の予習すべきことを毎回告知する。 復習：その日の講義で学んだことを自宅で復習。							
授 業 計 画							
第1回： 韓国語と日本語の関係	第9回： 交通についての会話と関連文法事項（2）						
第2回： 食事についての会話と関連事項（1）	第10回： 会社事務所での会話と関連文法事項						
第3回： 食事についての会話と関連事項（2）	第11回： 会社事務所での会話と関連文法事項						
第4回： 天候についての会話と関連文法事項（1）	第12回： 家庭生活についての会話と関連文法事項						
第5回： 天候についての会話と関連文法事項（2）	第13回： 韓国の歌						
第6回： 買い物についての会話と関連文法事項（1）	第14回： 韓国の映画						
第7回： 買い物についての会話と関連文法事項（2）	第15回： まとめ						
第8回： 交通についての会話と関連文法事項（1）	第16回： 期末テスト						
テキスト： 『韓国語を学ぼう』初級（後半）	参 考 書：民衆 韓日辞典						
評価方法・評価基準： 適宜行うショートテストと、期末テストの結果を主として評価するが、授業態度、授業への参加度も参考に する。							
成績評価 到達目標等 試験 (中間・期末試験)	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
小テスト・ 授業内レポート							100
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意： 語学は、反復が大切である。講義内容の復習を重点的にするために、家庭での復習を充分にすること。確認のため適宜、ショートテストを行う。							

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
スペイン語 I		武村 朝吉

授業の到達目標及びテーマ

スペイン語の発音、リズムに慣れ親しみ、基本的な文法を理解する。それによって、平易な会話を習得し、実際に使ってみる。

授業の概要

スペイン語の文字・発音について概説した後、基本的な文法事項を学習し、十分な練習を重ねて着実に平易な会話ができる基盤を構築してゆく。また、文字の数え方、日時、曜日の言い方等、平易な日常会話で頻出する表現を練習する。

また、スペイン圏諸国についての紹介も行う。

予習：文法事項を理解しておくこと。

復習：授業内容が理解できているか確認し、単語のスペルを書き取り練習すること。

授 業 計 画

第 1 回： スペイン語の発音と表記法	第 9 回： 時刻の言い方
第 2 回： 名詞、定冠詞、不定冠詞	第 10 回： 曜日と月、昨日、今日、明日
第 3 回： 形容詞、動詞 ser と estar	第 11 回： 単位、長さ、重さ、容積
第 4 回： 肯定文と否定文、前置詞	第 12 回： 規則動詞の活用
第 5 回： 所有形容詞	第 13 回： 規則動詞の活用練習
第 6 回： 指示詞	第 14 回： 不規則動詞の活用
第 7 回： 数の数え方、	第 15 回： 不規則動詞の活用の練習
第 8 回： 分数、序数、	第 16 回： 期末試験

テキスト： 『スペイン語をはじめよう！』大岩功 著，すばる舎

参 考 書： 西和辞典

評価方法・評価基準：

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○				○		80
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度			○	○	○		10
受講者の発表	○		○	○	○		10
その他							

履修上の注意：

相互（学生⇔教師，学生⇔学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。5回以上欠席で「不可」とする。

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員																																																					
スペイン語Ⅱ		武村 朝吉																																																					
授業の到達目標及びテーマ スペイン語の発音、リズムに慣れ親しみ、基本的な文法を理解する。それによって、平易な会話を習得し、実際使ってみて、その感覚を蓄積する。																																																							
授業の概要 スペイン語Ⅰの復習を行いつつ、基本的な文法事項を学習し、十分な練習を重ねて着実に平易な会話ができる基盤を構築してゆく。その上で、平易な日常会話ができるよう練習を行う。 また、スペイン圏諸国についての紹介も行う。 予習：文法事項を理解しておくこと。 復習：授業内容が理解できているか確認し、単語のスペル書き取りを練習すること。																																																							
授 業 計 画																																																							
第 1 回： スペイン語Ⅰの復習	第 9 回： 副詞、疑問詞																																																						
第 2 回： 目的語「を格」と「に格」	第 10 回： 関係詩																																																						
第 3 回： 向き違いの動詞	第 11 回： 否定語と不定語																																																						
第 4 回： 再起動詞	第 12 回： 未来形																																																						
第 5 回： 過去分詞とその用法	第 13 回： 点過去形、線過去形																																																						
第 6 回： 現在完了形	第 14 回： 過去完了形、過去未来形																																																						
第 7 回： 現在分詞とその用法	第 15 回： 接続法現在、接続法過去形																																																						
第 8 回： 比較の表現	第 16 回： 期末試験																																																						
テキスト： 『スペイン語をはじめよう！』大岩功 著，すばる舎																																																							
参 考 書： 西和辞典																																																							
評価方法・評価基準：																																																							
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>80</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度・ 授業への参加度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)	○				○		80	小テスト・ 授業内レポート								授業態度・ 授業への参加度			○	○	○		10	受講者の発表	○		○	○	○		10	その他														
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																
試験 (中間・期末試験)	○				○		80																																																
小テスト・ 授業内レポート																																																							
授業態度・ 授業への参加度			○	○	○		10																																																
受講者の発表	○		○	○	○		10																																																
その他																																																							
履修上の注意：																																																							
相互（学生⇔教師，学生⇔学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。5回以上欠席で「不可」とする。																																																							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員						
文化人類学 (Cultural Anthropology)		新垣 誠						
授業の到達目標及びテーマ								
知識理解：「文化」という概念を説明できる。	関心意欲：自己および他者に興味を持てる。							
思考判断：社会的構築物としての概念を指摘できる。	態 度：既存概念に疑いを持つ。							
授業の概要								
私たちの日常生活に存在する「文化」と「人類」に関する様々な課題を考える。15世紀に始まった大航海時代の異文化観からグローバル時代の文化人類学に至るまでの歴史を追い、「ヒト」と「文化」に対する考え方の変化を理解する。また、沖縄という現実を通して、文化人類学という学問が、わたしたちの社会生活にどのように影響を及ぼしてきたかを学ぶ。最後に「海洋民族」、「万国津梁の民」など、沖縄の文化的アイデンティティについても考えてみる。								
予習：次回の内容予告を受け、基礎的な概念について調べておくこと。								
復習：次回の講義との連続性を意識しながら事実関連を再確認すること。								
授 業 計 画								
第 1 回： 「文化人類学」とは？「文化」とは？	第 9 回： 象徴主義人類学							
第 2 回： 15～17 世紀大航海時代とヨーロッパ植民地主義	第 10 回： 解釈学的人類学							
第 3 回： 社会進化論的人類文化研究	第 11 回： 「オリエンタリズム」と文化人類学							
第 4 回： 文化伝播主義	第 12 回： グローバリズムと文化人類学							
第 5 回： ボアズとアメリカ文化人類学	第 13 回： 日本文化人類学と「沖縄」							
第 6 回： イギリス社会人類学	第 14 回： 沖縄のポップカルチャー研究							
第 7 回： 「コロニアル人類学（古典人類学）」批判とパラダイム転換	第 15 回： 文化の雑種性と多文化主義							
第 8 回： 構造主義人類学	第 16 回： 総括							
テキスト： 講義でそのつど提示する。								
参 考 書： 講義でそのつど提示する								
評価方法・評価基準：								
レポートと課題、及び授業でのワークショップなどへの参加度で評価する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート		○	○					70
授業態度				○	○			30
受講者の発表								
演 習								
その他								
履修上の注意：								

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
異文化理解 (Cross-cultural Understanding)		新垣 誠					
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：文化的他者の概念を説明できる。 思考判断：文化から社会的・歴史的背景を指摘できる。		関心意欲：他者の歴史に興味を持てる。 態 度：他者の声を聴く態度を持つ。					
授業の概要							
新たな世紀が明けると同時に私たちが目にしたのは、異民族・異文化の衝突であり、耐えることのない紛争である。グローバル化の進展は、更なる人々の出会いを生み、異文化の出会いを生んでいく。様々な文化や価値観との出会いのなかで、文化的他者を理解し、共に生きるとはいかなることなのか。様々な文化が生成していくプロセスのなかに込められた人々の声を聞き、その思いを探る。 「文化」を理解するカギとして、この講義では特にアメリカ黒人音楽の歴史を例に、文化にまつわる諸テーマを考える。ディスカッションの機会を出来るだけ増やし、学生の批判的能力・口頭表現能力の育成にも留意する。 予習：次回の内容予告を受け、基礎的な用語や歴史、事実関連を調べること。 復習：次回の内容との関連性を考え、概念などの再確認をおこなうこと。							
授 業 計 画							
第 1 回： 「文化」とは？「異文化理解」とは？	第 9 回： 現代アメリカの社会問題とヒップ・ホップ						
第 2 回： 大航海時代と異民族・異文化接触	第 10 回： レイシズムと音楽						
第 3 回： アメリカ合衆国の歴史と奴隷制度	第 11 回： 沖縄の音楽と文化						
第 4 回： 奴隷解放とブルースの誕生	第 12 回： 歴史・社会・文化						
第 5 回： 北部都市シカゴと R&B	第 13 回： 比較文化論						
第 6 回： 貿易港ニューオリンズとジャズ	第 14 回： 日米における教育と文化の関連性について						
第 7 回： ブルースからロックへ	第 15 回： 「文化」の概念再考						
第 8 回： 抵抗の音楽～レゲエ	第 16 回： 総括						
テキスト： 教材は、そのたびに講義担当者が準備する。							
参 考 書： 講義についてそのつど提示する。							
評価方法・評価基準：							
レポートやエッセイを課す。講義でのワークショップなどへの積極的参加が最も重視される。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		70
授業態度			○	○			30
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員
国際平和学 (International Peace Studies)		新垣 誠

授業の到達目標及びテーマ： 21世紀における平和構築の可能性を考える。
知識理解：世界の現状を説明できる。 関心意欲：発展途上国に興味を持てる。
思考判断：「グローバリゼーション」を指摘できる。 態 度：地球市民としての意識を持つ。

授業の概要

21世紀を迎えた最初の年、私たちが直面した現実はこの世界が平和ではないこと、政治経済のグローバリゼーションに伴う新たな宗教間の対立や国際的テロリズムの蔓延など、平和をめぐる問題の構造の急激な変化であった。

これらの新たな紛争の原因を明らかにすること、現状に基づいた新たな平和研究の取り組みが今、必要とされている。「平和」や「暴力」など、根本的な概念を理論的レベルで再考すると同時に、それらが私たちの日常生活でどのような意味を持つのか、様々な側面から「平和」を考える。その一環として沖縄の米軍基地問題から身近に存在する暴力と平和についても学習する。またキリスト教の視点から世界平和について考えてみる。

予習： 次回の内容予告を受け、基礎的な用語や歴史的事実などについて調べておくこと。

復習： 回次の講義との関連性において重要だと思う点を再確認しておくこと。

授 業 計 画

第1回： 「平和」と「暴力」	第9回： 憲法・教育基本法改定、有事法、自衛隊
第2回： 民族、宗教、国家間の紛争	第10回： 環境破壊と平和
第3回： 近代国民国家とナショナリズム	第11回： アメリカの世界的軍事戦略と在日米軍基地
第4回： 人口移動とグローバリゼーション	第12回： 音楽と平和
第5回： 新たな社会形態の可能性	第13回： ジェンダー・ジャスティス
第6回： 沖縄と平和	第14回： 核廃絶と軍備撤廃
第7回： 軍事主義と軍産複合体	第15回： 地球市民社会の創造
第8回： 国際テロリズムとは—9.11以降の世界	第16回： 総括

テキスト： クラスにて指示します。 参 考 書： クラスにて指示します。

評価方法・評価基準： レポート・エッセイを課します。
授業でのワークショップなどへの積極的参加が最も重要視されます。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		70
授業態度			○	○			30
受講者の発表							
演 習							
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員					
海外ボランティア演習 (Overseas Volunteer Seminar)		新垣 誠					
授業の到達目標及びテーマ：海外ボランティアの実践的手法を学ぶ。 知識理解：海外ボランティアの活動紹介ができる 関心意欲：海外ボランティア活動に興味を持つ 思考判断：活動の取り組みについて指摘できる 態 度：参加活動できるようになる							
授業の概要 海外ボランティアとは何であるのかを学ぶ時間であり、本授業は海外ボランティア実習授業と連動している。 海外ボランティア実習授業を検討中、もしくは興味ある学生の皆さんと一緒に本年度の現地の事前学習を兼ねたものとする。尚、現地へ行くことが無理な場合でも、本授業を受講することは可能であり、参加型授業を通して海外ボランティアを学ぶ時間としたい。 予習：次回の内容について与えられた事項を調べておくこと 復習：次回の内容との連続性について考え、事実関連を再確認すること。							
授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。							
第 1 回： イン트로ダクション 「ボランティア」とは	第 9 回： フィリピンの歴史と社会①						
第 2 回： 海外ボランティアの心構え 1	第 10 回： フィリピンの歴史と社会②						
第 3 回： 海外ボランティアの心構え 2	第 11 回： フィリピンの歴史と社会③						
第 4 回： 海外調査法 1 ～共に学びあうために～	第 12 回： ボランティアの注意点						
第 5 回： 海外調査法 2 ～共に学びあうために～	第 13 回： 実習へ向けての準備①						
第 6 回： フィリピンの歴史	第 14 回： 実習へ向けての準備②						
第 7 回： NGO 活動事例の紹介（日本）	第 15 回： 実習へ向けての準備③						
第 8 回： 日本とフィリピンの歴史的関係	第 16 回： 実習オリエンテーション						
※基本は、講義と参加型学習（ワークショップ）。 時によりフィールドワークやボランティア体験への積極的参加を必要とする。							
テキスト： 適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。							
参 考 書： 講義においてそのつど提示する。							
評価方法・評価基準： 参加型学習なので授業でのワークショップなどへの参加度を重視する。 積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
定期試験 （中間・期末試験）							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					30
授業態度			○	○			40
受講者の発表					○		30
演 習							
その他							
履修上の注意： 本プログラムの履修に合わせて、国際ボランティア論も同時履修であるとよい。							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
日本国憲法 (Japanese Constitutional Law)		仲宗根 京子					
授業の到達目標及びテーマ							
そもそも法律とは別に、なぜ憲法があるのでしょうか？本講義では、日本国憲法の基本原理を学んだ上で、私達の身近にある憲法に関する具体的な問題をより深く理解することで、主権者である私達自身が、憲法の現在そして未来について考えられるようになることを目標とします。							
授業の概要							
まず、近代立憲主義が確立されてきた世界の歴史や日本国憲法が成立するまでの歴史をたどり、次に、憲法で保障されている基本的な権利の内容を具体的な事例を基に解説します。そして、基本的人権を保障するための国の仕組みや平和主義について理解を進める予定です。							
予習：配付レジュメや教科書の該当箇所を読んで来てください。							
復習：講義で指示した点を復習してください。							
授 業 計 画							
第 1 回：ガイダンス、近代立憲主義の確立、明治憲法から日本国憲法へ	第 9 回：経済的自由（財産権保障の構造他）						
第 2 回：日本国憲法の基本原理（憲法とは誰を縛るルールか？）	第 10 回：社会権（自由権とはどう違うのか？）						
第 3 回：人権総論（人権の分類、新しい人権、外国人の人権）	第 11 回：その他の人権、まとめ						
第 4 回：子供の権利	第 12 回：統治総論						
第 5 回：法の下での平等	第 13 回：国会および内閣						
第 6 回：精神的自由①内心の自由	第 14 回：裁判所						
第 7 回：②表現の自由	第 15 回：平和主義、総まとめ						
第 8 回：③検閲の禁止	第 16 回：定期試験						
テキスト：初宿正典他著『いちばんやさしい憲法入門第 4 版』有斐閣アルマシリーズ（有斐閣）							
参 考 書：初宿正典他著『目で見る憲法 第 4 版』（有斐閣）							
評価方法・評価基準：期末試験の結果、授業への参加度、授業態度などから総合的に評価する。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○			○		55
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			25
受講者の発表		○	○		○		20
演 習							
その他							
履修上の注意：受講希望者は、必ず第 1 回目の授業に出席してください。							

授業科目名	2単位 (0ー2)	担当教員																																																						
アクションリサーチ		玉城 直美																																																						
授業の到達目標及びテーマ:開発に対する歴史的な変化と人の役割について学ぶ 知識理解:調査の有効性、方法の知識を得る 関心意欲:アクションリサーチや調査活動に関心を持つ 思考判断:課題を見つけ、深める 態 度:アクションリサーチの活動への参加																																																								
授業の概要 アクションリサーチという研究方法を用いて、物事を深く調査する手続きを学ぶ。授業の流れは①問題の発掘、②調査、③課題の絞込み、④取り組み方針の設定、⑤手立ての明確化、⑥評価、⑧改善案の設定、という取り組み方法を学ぶ。調査方法、ワークショップ、ファシリテーションも併せて学び、様々な場面で有効活用可能な技術の習得も目指す。 予習:社会の課題や変化に対して意識すること。ニュースを見る、地域歩きなどを推奨する。 復習:実際に授業で学んだ手法を友人、アルバイト、学生間の人間関係において活用することを推奨する。																																																								
授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。 第1回目:授業の進め方、アクションリサーチに関する講義 第2回目:アクションリサーチの学びのすすめ 第3回目:ワークショップ、ファシリテーションとは その1 第4回目:ワークショップ、ファシリテーションとは その2 第5回目:マインドマップ 私の頭の整理 第6回目:SWOT 分析 、私の強み・弱み・機会・脅威分析 第7回目:アクションリサーチ デモ(校内リサーチ1) 第8回目:アクションリサーチ デモ(校内リサーチ2) 第9回目:校外学習に備えてデータ分析その1 第10回目:校外学習に備えて インタビュー訓練 第11回目:アクションリサーチ地域を実際にデモウォーク(校外学習) 第12回目:校外学習振り返り その1 第13回目:校外学習振り返り その2 第14回目:アクションリサーチの手法まとめ 第15回目: アクションリサーチの手法まとめ ※基本は、講義と参加型学習(WS=ワークショップ)。演習としてアクションリサーチへの積極的参加を必要とする。																																																								
テキスト:適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。																																																								
参 考 書:講義においてそのつど提示する。																																																								
評価方法・評価基準: <table><tr><th>成績評価</th><th>到達目標等</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>授業内レポート</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>授業態度・ 授業への参加度</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他 校外学習 アクションリサーチ参加</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td>30</td></tr></table>			成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	授業内レポート		○	○					20	授業態度・ 授業への参加度		○		○	○			30	受講者の発表			○			○		20	演 習									その他 校外学習 アクションリサーチ参加		○		○			○	30
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																
授業内レポート		○	○					20																																																
授業態度・ 授業への参加度		○		○	○			30																																																
受講者の発表			○			○		20																																																
演 習																																																								
その他 校外学習 アクションリサーチ参加		○		○			○	30																																																
履修上の注意:アクションリサーチ活動への参加は授業外、校外活動となります。 積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 また、本授業は下記の評価にもあるように、課題としてのレポート・プレゼン発表を重視している。																																																								

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員						
ジェンダー論		玉城 直美						
授業の到達目標及びテーマ:ジェンダーそのものの意味を理解しながら、社会をジェンダーの視点で見ていく。 知識理解:ジェンダーの持つ意味の理解 関心意欲:社会の起こっている事象をジェンダーの視点から見つめることができる 思考判断:ジェンダーの歴史的な流れおよび新しい示唆を持つことができる 態 度:授業への積極的な参加および自主学習への取り組み								
授業の概要 ジェンダーとは、語源はラテン語:“genus”(産む、種族、起源)である。「生まれつきの種類」という意味から転じて、性別のことを指すようになった。しかし、ジェンダー研究が進むにつて、家族・政治・軍隊などこれまで自明とされてきた事柄へのジェンダーの関与が明らかになり、ジェンダーを男女という2つの項目と捉えるのではなく、2つの区分を作り上げるものである。 メディアリテラシーからジェンダー捉えていく意味でも、アニメや様々なメディア情報を通して通して学んでいく。また沖縄の中での戦後復帰以降の女性運動にも触れていく。 授業の中で学んだトピックを学生自らが(グループ可)一つ取り上げ・掘り下げ、新たなジェンダー思想または価値観について発表を行ってもらう。 □予習:身の回りのジェンダー課題に意識的になり、学びの視点を意識して作られた価値観を批判的に見る。 適時、予習課題を与えるので取り組む □復習:身の回りの作られたジェンダー思想に対して、新たな視点、意識を持つことが出来るようになり、課題やプレゼンに備える								
授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。 第1回:ジェンダーの学びは何故必要か(WS、講義) 第2回:女性学・ジェンダーとは何か 第3回:家父長制、日本における女性運動 第4回:メディアリテラシーとジェンダー 第5回:アニメにみるジェンダーその1 第6回:アニメにみるジェンダーその2 第7回:グローバリゼーションとジェンダー 第8回:ワークシェアリング 家庭、家族、個としてどう生きるのか 第9回:女性と貧困の課題 第10回:LGBTについて学ぶ 第11回:社会派映画にみるジェンダー問題 第12回:男性性について考える 第13回:新たなジェンダーのあり方 プレゼンテーション その1 第14回:同上 その2 第15回:同上 その3 講義まとめ、振り返り								
テキスト:適宜プリントを配布								
参 考 書:講義においてそのつど提示する。								
評価方法・評価基準: 参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他 (参加)	評価割合(%)
授業内レポート		○	○					20
授業態度・ 授業への参加度		○		○	○			30
フィールドワーク					○		○	20
演 習								
その他 プレゼンテーション		○		○	○			30
履修上の注意:第13、14、15回は学生自らによるプレゼンテーションです。グループ、個人、自由								

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員					
国際ボランティア論			玉城 直美					
授業の到達目標及びテーマ：国際ボランティア活動の意味と意義を理解しながら、社会活動への参加を促す。 今年は5年に一度開催される世界のうちなーんちゅ大会が10月27～30日に行われる。世界中からやってくるうちなーんちゅとつながりのある県系人のためのボランティア活動を計画している。 知識理解：国際ボランティア活動の中身や流れを理解する 関心意欲：地域社会で行われている活動に関心を寄せることができる 思考判断：国際ボランティア活動の抱える課題や取り組みに対し個人的な判断を持つことが出来る 態 度：授業への積極的な参加および自主学習への取り組み								
授業の概要								
国内のボランティアに加え、なぜ人は国境を超えて活動するのだろうか？ ボランティアの意義、特性、これまでの歴史や活動内容を分野ごとに整理して学んでいく。国境を越えて、または国内の中で行えるボランティア活動について学び合い、人と人が出会い、様々な価値観が触れ合い、互いに学び合う豊かな経験の可能性を持つことについて学ぶ。 今年は5年に一度開催される世界のうちなーんちゅ大会に因んで、ボランティア活動およびフィールドワーク学習の成果を授業内にてまとめる。 □予習：本授業の中で一度はどちらかの組織・団体でボランティア活動を行うこと。日々のニュースの中でのボランティア活動に関心を持つこと。 □復習：授業で取り上げた課題に関して、より深い学びにつながるようにその課題を探究する努力を行うこと。								
授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。								
第1回：世界に広がるうちなーネットワークについて（WS，講義） 第2回：うちなーんちゅとの交流、ボランティア活動（校外フィールドワーク） 第3回：うちなーんちゅとの交流、ボランティア活動（校外フィールドワーク） 第4回：多文化共生とは その1 ～うちなーんちゅ大会で学んだ実態調査まとめ～ 第5回：多文化共生とは その2 ～うちなーんちゅ大会で学んだ実態調査まとめ～ 第6回：調査まとめ発表、プレゼンテーション 第7回：教育と国際ボランティア活動 第8回：医療と国際ボランティア活動 第9回：青年海外協力活動にみるボランティア活動 第10回：社会派映画にみる国際ボランティア 第11回：福祉、循環型社会にみるボランティア活動 第12回：大震災にみる国際ボランティア活動 第13回：海外の活動にみるボランティア活動 その1 第14回：海外の活動にみるボランティア活動 その2 第15回：講義まとめ								
テキスト：適宜プリントを配布								
参 考 書： 講義においてそのつど提示する。								
評価方法・評価基準：								
参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
	授業内レポート	○	○		○			30
	授業態度・ 授業への参加度			○	○			20
	受講者の発表	○				○		20
	演 習							
	その他 校外学習等への参加度			○	○			30
履修上の注意：校外学習に参加できない場合、別途課題提出を行うので自ら申し出ること								

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員																																																
NGO・NPO 論 (NGO・NPO)		玉城 直美																																																
授業の到達目標及びテーマ																																																		
・ NGO・NPO の活動および取り巻く環境を学ぶ ・ NGO・NPO 活動に何らかの形でと直接触れる ・ 本テーマに興味関心を持ち、自らが進んで調査研究を行い発表・共有する																																																		
授業の概要																																																		
NGO（非政府組織）そして NPO（非営利組織）と呼ばれる市民グループの社会的役割が現在注目されている。社会のひずみの中で、小さな穴に落ちてしまう弱者、もしくは私だってその一人かもしれない。活動内容、分野、経済的な効果や影響等、新しい分野でありよく分からない点もあるその一つひとつ、授業者と皆さんとの協働でこの疑問を解決していく予定。 特に、私たち沖縄県内に存在する NGO・NPO をケーススタディとしてライフスタイルのあり方を見つめる時間とする □予習：県内外で活動している NGO・NPO 活動 に関心を持ち、事前に出された題材のことを自ら調べる。 □復習：実際に授業中に取り上げた活動を行う団体への訪問、調査やボランティア活動等を行う。																																																		
授 業 計 画																																																		
第1回：NGO・NPOのつくる社会（始めるにあたって大事にしたいこと、講義） 第2回：地域を見る 私の町の課題発見 第3回：地域を見る 私の町の課題共有 第4回：NGO・NPO・ボランティア行政、企業、NGO・NPO の役割 第5回：社会企業家と NPO その1 第6回：社会企業家と NPO その2 第7回：NPO/NGO 団体調査方法 第8回：NPO/NGO 団体調査書作成2 第9回：社会派映画にみる NGO・NPO 活動 第10回：NGO/NPO ケーススタディ 子どもと貧困 第11回：NGO/NPO ケーススタディ 国際協力活動 第12回：NGO/NPO ケーススタディ 学生 NGO・NPO 第13回：NPO/NGO 調査結果1 学生自らの発表 第14回：NPO/NGO 調査結果2 学生自らの発表 第15回：まとめ																																																		
※計画の変更の可能性あり。その都度連絡します																																																		
テキスト：特になし																																																		
参 考 書 等：日々の新聞およびニュース等																																																		
評価方法・評価基準：レポート、期末テスト、グループ研究発表、出席と授業への積極的参加																																																		
<table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>授業内レポート</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>授業態度・ 授業への参加度</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他 課題への取り組み</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>20</td></tr></table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	授業内レポート	○		○				20	授業態度・ 授業への参加度	○		○	○			30	受講者の発表	○	○	○				30	演 習								その他 課題への取り組み			○		○		20
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																											
授業内レポート	○		○				20																																											
授業態度・ 授業への参加度	○		○	○			30																																											
受講者の発表	○	○	○				30																																											
演 習																																																		
その他 課題への取り組み			○		○		20																																											
履修上の注意：ディスカッションへの積極的な準備・参加・発言を評価します。																																																		

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
経営学総論 (Introduction to Management)		高崎 正名					
授業の到達目標及びテーマ：経営学全般にわたる基礎知識を習得し、企業活動に対する理解を深める。							
授業の概要							
現代社会において、我々は企業との関わりなしに生活することはできない。我々の多くは、企業を通じて生計を立てている。企業の打ち出す方針によって生活が左右されることもある。 本講義は、我々と切っても切れない存在である企業について論じる。具体的には、企業活動は誰によって決定され、実行されているのか、企業の組織はどのようにして組み立てられているのか、組織の各構成部分はどうな機能を果しているのか等、経営学全般にわたって総論し、企業に対する理解度を強めていく。 講義は、36年間にわたって国内外の企業に勤務した実務体験と事例を織り込みながら、わかりやすく解説する。 予習：次回のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと 復習：学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること							
授 業 計 画							
第 1 回：生活を支える企業	第 9 回：経営資源の獲得、利用、配分と経営戦略						
第 2 回：経営学を学ぶ意義	第 10 回：企業の組織作りとは						
第 3 回：自分達で企業を起こしてみよう (グループ作業)Ⅰ	第 11 回：企業はどのようにして製品やサービスを 開発し、生産しているか						
第 4 回：自分達で企業を起こしてみよう (グループ作業)Ⅱ	第 12 回：企業はどのようにして製品やサービスを 販売しているか(マーケティングという 考え方について)						
第 5 回：企業は誰が動かしているのか	第 13 回：企業はどのようにして人材を活用して いるか						
第 6 回：企業は何を目指して活動して いるのか	第 14 回：企業はどのようにして資金を調達し、運 用しているか						
第 7 回：経営資源(ヒト、モノ、カネ等) の特徴Ⅰ	第 15 回：まとめ						
第 8 回：経営資源(ヒト、モノ、カネ等) の特徴Ⅱ	第 16 回：定期試験						
テキスト：片岡信之他『初めて学ぶ人のための経営学(Ver.2)』文真堂							
参 考 書：坂下昭宣『経営学への招待』白桃書房 齊藤毅憲『経営学を楽しく学ぶ』中央経済社 加護忠男・吉村典久『1からの経営学』碩学社							
評価方法・評価基準：							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○				50
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				20
授業態度			○	○			30
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意：本講義に対して、関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。 配付資料は必ずファイルしておくこと							

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
経済学 (Economics)		友利 廣

授業の到達目標

経済学で使用されている専門用語と経済現象の関連性を理解し新聞や雑誌、TVなどの経済報道の内容を理解できるようにすることを本講義の到達目標とする。

授業の概要

経済の基本を理解することは社会人として大切な要件と言えます。語学を職業とする皆さんの場合でもさまざまな現場で活躍するために不可欠な学問です。この点を理解した上で受講するか否かを判断してください。

授業計画に示すように、講義の前半は経済学の中で入門的経済理論を解説します。後半では前半で学んだ経済理論を沖縄の経済にあてはめて沖縄経済の課題を抽出し、受講生の問題意識の涵養につなげます。尚、講義はパワーポイントや動画、新聞記事を活用して理解し易い工夫を講じます。又、出席カードに記入した受講生の質問に解答をまとめて資料として毎回配布し、双方向の講義を行います。

予習：配布資料の専門用語は講義で説明することはありません。予め調べた上で講義に臨んでください。

復習：受講生が出席カードに記入した質問を解答したプリントを毎回配ります。同プリントを必ず読み直して次回講義に臨んでください

授 業 計 画

第 1 回：	経済学的发展史を概観し経済学の全体像を解説。
第 2 回：	家計と企業の行動を経済学の視点から解説。
第 3 回：	市場の多様性、多層性を経済学の視点から解説。
第 4 回：	所得を左右するからくりを経済学の視点から解説。
第 5 回：	貿易と国民経済の関係を経済学の視点から解説。
第 6 回：	好況と不況の周期性を経済学の視点から解説。
第 7 回：	小国の経済発展を経済学の視点から解説。
第 8 回：	前半の講義を総括した上で、中間試験を実施する。

第 9 回：	沖縄の生徒の低い学力を経済の視点で考える。
第 10 回：	沖縄の求人倍率の低さを経済の視点で考える。
第 11 回：	沖縄の物価の高さを経済の視点で考える
第 12 回：	沖縄経済に及ぼしている基地の影響を考える。
第 13 回：	沖縄の低い所得を経済の視点で考える。
第 14 回：	昨今、沖縄経済が注目されている背景を考える。
第 15 回：	沖縄経済を海外の事例と比較し可能性を考える。
第 16 回：	講義の後半を総括。レポート提出の要領を説明。

テキスト：テキストは使用しません。講義はレジュメを事前に配布して予習、復習が出来るように配慮します

参 考 書：講義毎に関連する文献を紹介します。

評価方法・評価基準：

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験（中間試験）	◎						60
小テスト・ 授業内レポート	○	○					30
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
その他 (出席カードの内容)			○	○			10

履修上の注意：

- ・毎回出席カードを配り出欠の確認用と同時に、カードに記載した質問、意見、感想で受講態度を評価します。尚、3回の遅刻は1回の欠席としてカウントします。又、三分の一以上の欠席は不可とします。
- ・受講中の退室、私語、スマホは厳禁とします。これは受講の基本マナーですので守れない受講生には厳しく対応します。
- ・理由あって欠席する際は前日迄に事情を記してメールで連絡してください。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員					
ビジネス実務総論Ⅰ (Theory of Business PracticeⅠ)		高崎 正名					
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：ビジネス環境の把握・実務における基本的な知識・技能を身につける							
関心意欲：ビジネス環境・変化等に興味を持つ							
思考判断：ビジネス実務の基本的な思考方法を理解							
態度：積極的な勉強姿勢							
授業の概要							
今日、ビジネスを取り巻く環境は、社会・経済のグローバル化・IT化を背景として急速に変化している。そして、従来型に代わって新しいシステムの構築が求められ動き出している。本講義は、ビジネス環境の変化を的確に捉えながら、まず、ビジネスとは何かについて学ぶ。続いて、ビジネスの現場で起こっているオフィス環境やワークスタイルの変化に検討を加え、ビジネス実務の基本的知識・技能と心構えについて理解を深めていく。							
予習：本講義で使用するテキストを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと							
復習：学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること							
授 業 計 画							
第 1 回： ビジネス実務の基本	第 9 回： 少子高齢化問題						
第 2 回： ビジネスの目的、事業活動	第 10 回： 日本的経営システム						
第 3 回： 営利組織と非営利組織	第 11 回： ワークスタイルの変化						
第 4 回： ビジネスの定義	第 12 回： ワーカーの心構え						
第 5 回： 経営とグローバル化	第 13 回： ビジネスと法律Ⅰ						
第 6 回： 高度情報化	第 14 回： ビジネスと法律Ⅰ						
第 7 回： 地球環境問題Ⅰ	第 15 回： まとめ						
第 8 回： 地球環境問題Ⅱ	第 16 回： 定期試験						
テキスト： 全国大学実務教育協会 『ビジネス実務総論』 紀伊国屋書店							
参 考 書： 逐次紹介する。							
評価方法・評価基準：テスト結果(期末)70 点、授業態度(参加度・質問) 30 点を基準とし、総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○		○		50
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○		30
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意：							
本講義に対して、関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。							
配付資料は必ずファイルしておくこと。							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
ビジネス実務総論Ⅱ (Theory of Business PracticeⅡ)		湧川 華江					
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：ビジネス環境の把握・実務における基本的な知識・技能を身につける							
関心意欲：ビジネス環境・変化等に興味を持つ							
思考判断：ビジネス実務の基本的な思考方法を理解							
態度：積極的な勉学姿勢							
授業の概要							
本講義は、「ビジネス実務総論Ⅰ」で学んだことを基礎において、具体化的な実務学習を行う。前半は、仕事の進め方、サービス活動、表現活動、組織活動について検討を加える。							
後半は、オペレーション活動、マーケティング活動、コストパフォーマンスの基本活動からビジネス実務を捉え、ビジネスの効率的な進め方と課題について解説する。							
講義にあたっては、具体的な事例紹介を行い、理解を深めていく。							
予習：授業で指示した箇所を読んでおくこと。							
復習：授業で学んだ箇所を読み、講義の内容をより理解し、応用できるよう努めること。							
授 業 計 画							
第 1 回：	オリエンテーション、グループワーク	第 9 回：	マーケティング活動 (1)				
第 2 回、3 回	仕事の進め方 (1)、(2)	第 10 回：	〃 (2)				
第 4 回	サービス活動	第 11 回：	〃 (3)				
第 5 回：	表現活動	第 12 回：	コストパフォーマンス (1)				
第 6 回：	情報活動	第 13 回：	〃 (2)				
第 7 回：	組織活動 (1)	第 14 回：	〃 (3)				
第 8 回：	オペレーション活動	第 15 回：	〃 (4)				
		第 16 回：	期末試験				
テキスト： 全国大学実務教育協会 『ビジネス実務総論』 紀伊国屋書店							
参 考 書： 逐次紹介する。							
評価方法・評価基準：							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
期末試験	○	○			○		50
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		25
授業態度			○	○			25
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員						
簿記論 (Bookkeeping)		多賀 寿史						
授業の到達目標及びテーマ								
・ 決算書が作成できるようになること。 ・ 日商簿記 3 級合格レベルの力をつけること								
授業の概要								
現代の経済社会において、営利企業は成績表(財務諸表といいます)を作成し、問題点を把握し次年度以降の経営活動に活かしています。また各種利害関係者にも自社の成績を公表しています。企業の経営成績の作成プロセスが複式簿記であり、本講義のではこの複式簿記のプロセスを学びます。								
予習： 次回のテーマの箇所を事前に読んで講義に参加してください。								
復習： 毎回講義の終了時に復習問題を出します。次回の講義で提出してもらいます。								
授 業 計 画 ※授業計画は若干変更になることもあります。								
第 1 回： オリエンテーション・簿記とは？	第 9 回： 帳簿組織その 1							
第 2 回： 商品売買	第 10 回： 帳簿組織その 2							
第 3 回： 現金預金	第 11 回： 試算表							
第 4 回： 手形	第 12 回： 決算手続きその 1							
第 5 回： 有価証券と固定資産	第 13 回： 決算手続きその 2							
第 6 回： 棚卸資産	第 14 回： 決算手続きその 3							
第 7 回： その他取引(その 1)	第 15 回： 伝票							
第 8 回： その他取引(その 2)	第 16 回： テスト							
テキスト：みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商 3 級商業簿記 第 4 版(972＋税)								
参 考 書：みんなが欲しかった 簿記の問題集 日商 3 級商業簿記 第 4 版(918＋税)								
評価方法・評価基準：								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○	○	○	○		70%
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度				○	○			10%
受講者の発表								
演 習								
課題の提出				○	○			20%
その他								
履修上の注意：毎回出席を取ります。出席しましょう！簿記に電卓は必須です。電卓を持参しましょう！ テキストの方は受講者は全員購入してください。参考書の方は、日商簿記 3 級を受験してみようという学生は必ず購入してください。								

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員						
沖縄経済学 (Okinawan Economy)		高崎 正名						
授業の到達目標及びテーマ 知識理解：沖縄経済社会の実態把握の考え方・分析視点等を身につける 関心意欲：沖縄経済社会の在り方について常に関心を持つ（経済紙を読む） 思考判断：日本経済との比較分析することで総合的な思考方法を理解 態度：積極的な勉学姿勢								
授業の概要 日本経済は長年のデフレから抜け出し、回復基調にあると報道や政府の見解が発表されている。沖縄も、観光産業が順調で回復基調が続くとの見方がなされている。しかしながら沖縄の一人当たりの県民所得、完全失業率は依然厳しい状況にある事に変わりはない。 本講義では基礎的な経済学の知識と用語を習得し、日本経済新聞や地元新聞を読みこなすことによって、現在日本・沖縄経済が直面する状況を把握することに重点を置く。講義では地元新聞および日本経済新聞の記事、経済雑誌の記事を多用し、理解を深めていく。 予習：次回のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと 復習：学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること								
授 業 計 画								
第 1 回： 沖縄経済の歩み	第 9 回： 観光産業							
第 2 回： 沖縄の全体像（Ⅰ）	第 10 回： 交通産業							
第 3 回： 沖縄の全体像（Ⅱ）	第 11 回： 沖縄文化の産業化							
第 4 回： 県民経済計算	第 12 回： 沖縄の特区（Ⅰ）（金融）							
第 5 回： 県民の意識調査	第 13 回： 沖縄の特区（Ⅱ）（IT・物流）							
第 6 回： 雇用	第 14 回： 沖縄地場産業の未来							
第 7 回： 家計と金融	第 15 回： まとめ							
第 8 回： 財政	第 16 回： 定期試験							
テキスト： 毎講義ごとに講義資料を配布する。								
参 考 書： 講義ごとに提示する。								
評価方法・評価基準：								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
試験 （中間・期末試験）		○	○	○		○		50
小テスト・ 授業内レポート		○	○	○	○	○		30
授業態度				○	○			20
受講者の発表								
演 習								
その他								
履修上の注意：								

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
キャリア・ガイダンス (Career Guidance)		松堂 美和子					
授業の到達目標							
・ 自分の特徴や能力を知り、それらを文章や言葉で表現することができる。 ・ 将来に向けて具体的な目標を立てる等、自らのキャリアをデザインすることができる。 ・ 職業観の形成に向けて、必要な情報を収集する力、情報を吟味する力が身につく。							
授業の概要							
「自分らしい生き方」を発見するために、①自分を知る、②他人を知る、③社会を知る、の3つをキーワードに授業を展開します。特に、自分を知るために様々なワーク等を用いることで、自分の将来について内外から考える契機とします。 本講義を受講することで、未来を構想する力、計画・実行に移す力、社会人に求められる基礎力、就活に必要なテクニック等を習得することができます。 予習(preparation)：与えられた課題に取り組んだうえで、授業に臨む 復習(review)：授業での学びを深めるために、日頃から関連する記事や書物に触れることを習慣化する							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーション（講義の目的） 大学2年間のステージとサイクル	第 9 回：未来予想図を作ろう						
第 2 回：キャリアデザインって何だろう？	第 10 回：今、求められている人材とは？①						
第 3 回：自分を発見しよう	第 11 回：今、求められている人材とは？②						
第 4 回：自分のPOPを作ろう	第 12 回：今、求められている人材とは？③ 一般常識模擬試験を振り返り						
第 5 回：ロジカルライティング①	第 13 回：表現力を高める①						
第 6 回：ロジカルライティング②	第 14 回：表現力を高める②						
第 7 回：働くとは①身近な人をインタビュー	第 15 回：まとめ						
第 8 回：働くとは②身近な人のキャリアを分析	第 16 回：定期試験						
テキスト： オリジナル資料							
参 考 書： 講義にて紹介							
評価方法・評価基準：※キャリア支援課の利用、フィールドワークも評価の対象とします							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○			○		40
小テスト・ 授業内レポート			○		○		10
授業態度 授業への参加度			○	○		○	20
受講者の発表		○			○		10
演 習				○		○	20
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員																																																								
ビジネス実務演習Ⅰ (Applied Business PracticeⅠ)		湧川 華江																																																								
授業の到達目標及びテーマ ビジネスの基本的な要素とその流れを理解し、効率的かつ効果的な実務処理能力の養成を目標とし、ビジネス実務を実際に行うために必要な知識や技術を習得する。																																																										
授業の概要 ビジネス現場で活躍するために必要なビジネスマナーを学習する。Microsoft Word を利用したビジネス文書作成演習を通して、ビジネス実務に必要な知識や技術を学ぶ。 文書作成のスピードアップの為に授業の始め 5 分～10 分間を「美佳タイプ」で Touch typing の練習をする。 予習：授業で指示した箇所を予め読んでおくこと。 復習：授業で学んだ箇所を読み、講義の内容をより理解し、パソコン演習においても復習すること。																																																										
授 業 計 画																																																										
第 1 回： 「美佳タイプ」を使用しての touch typing の練習	第 9 回： ビジネス文書作成 (1)																																																									
第 2 回： あいさつのマナー	第 10 回： " (2)																																																									
第 3 回： 職場生活のマナー	第 11 回： " (3)																																																									
第 4 回： 実務のマナー	第 12 回： " (4)																																																									
第 5 回： 来客対応のマナー	第 13 回： " (5)																																																									
第 6 回： 他社訪問のマナー	第 14 回： " (6)																																																									
第 7 回： ビジネス文書のマナー	第 15 回： " (7)																																																									
第 8 回： その他ビジネス実務に必要な知識・技術など	第 16 回： 期末試験																																																									
テキスト：『BUSINESS MANNER PASSPORT』 ビジネスマナー向上研究委員会 株式会社 創育社																																																										
参 考 書： 特になし																																																										
評価方法・評価基準：																																																										
<table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>期末試験</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>45</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内課題(演習)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>35</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	期末試験	○	○		○	○		45	小テスト・ 授業内課題(演習)	○	○	○	○	○		35	授業態度			○	○			20	受講者の発表								演 習								その他									
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																			
期末試験	○	○		○	○		45																																																			
小テスト・ 授業内課題(演習)	○	○	○	○	○		35																																																			
授業態度			○	○			20																																																			
受講者の発表																																																										
演 習																																																										
その他																																																										
履修上の注意： 各自USBメモリを準備すること。																																																										

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員						
ビジネス実務演習Ⅱ (Applied Business PracticeⅡ)		湧川 華江						
授業の到達目標及びテーマ 知識理解：ビジネス実務への総括的な理解を深める 思考判断：自分で考えて行動する思考判断能力を身につける 関心意欲：コミュニケーションスキルやビジネスマナー等へ関心をもつ 態 度：真摯に取り組む態度で望む								
授業の概要 本授業では、「ビジネス実務演習Ⅰ」に続き、ビジネス実務に必要な実務的な知識や技術の向上を目指す。日々、めまぐるしく変化するビジネス環境に対応できる能力やプレゼンテーション、コミュニケーション能力の重要性を重視し、修得をめざす。具体的な内容として、ビジネスマナー、コミュニケーション実務、ビジネス文書作成、主要ビジネスソフトの紹介と練習を行い、就職に不可欠な技術を習得する。 予習：授業で指示した箇所を予め読んでおくこと。 復習：授業で学んだ箇所を読み、講義の内容をより理解し、パソコン演習においても復習すること。								
授 業 計 画								
第 1 回： Introduction、前期の復習	第 10 回： Word の基礎							
第 2 回： ビジネスマナーの基本	第 11 回、12 回： PowerPoint の基礎							
第 3 回： 名刺交換／来客応対	第 13 回、14 回： Excel の基礎							
第 4 回： 電話応対	第 15 回： Excel の基礎							
第 5 回： 飲食・慶弔	第 16 回： 期末試験							
第 6 回： 仕事への基本姿勢								
第 7 回、8 回： ビジネス文書の基本と社内文書								
第 9 回： 社外文書の特徴と基本構成								
テキスト： 適宜、プリントや資料を配布								
参 考 書： 特になし								
評価方法・評価基準：授業への参加度、定期テスト、課題提出状況、受講態度などを総合的に判断して評価。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
期末試験		○	○			○		45
小テスト・授業内課題（演習）		○	○	○	○	○		35
授業態度				○	○			20
受講者の発表								
演 習								
その他								
履修上の注意：各自 USB メモリを準備する事。								

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
会計学 (Accounting Principles)		多賀 寿史					
授業の到達目標及びテーマ							
・ 財務会計のしくみを学び、経済社会の仕組みを理解しよう。 ・ 財務諸表を通じて財務分析の方法を学び意思決定の重要性を学ぼう							
授業の概要							
本講義では、なぜ会計を学ぶの？からはじめて、会計学の基礎概念のほか以下のことを学び、意思決定するための「情報」の重要性を学習します。 ・ 株式会社の仕組みを理解した上で、財務会計、管理会計の必要性を学ぶ ・ 株式会社が営んでいる事業の仕組みと、財務諸表の読み方を学ぶ ・ 実際にある会社の財務分析をすることで、経営者の意思決定の難しさを学ぶ 予習：次回のテーマの資料を事前配布するので、事前に目を通して参加してください。 復習：毎回講義の時に簡単な課題を出します、その課題にこたえて次の講義で提出してください。							
授 業 計 画 ※授業計画は若干変更になることもあります							
第 1 回： オリエンテーション・会計とは？	第 9 回： 国際活動						
第 2 回： 財務会計のシステムと基本原則(その 1)	第 10 回： 税金と配当						
第 3 回： 財務会計のシステムと基本原則(その 2)	第 11 回： 財務諸表の作成と公開						
第 4 回： 企業の設立と資金調達	第 12 回： 企業集団の財務報告						
第 5 回： 仕入・生産活動	第 13 回： 財務諸表による経営分析(その 1)						
第 6 回： 販売活動	第 14 回： 財務諸表による経営分析(その 2)						
第 7 回： 生産設備と研究開発	第 15 回： 財務諸表による経営分析(その 3)						
第 8 回： 資金の管理と運用	第 16 回： 試験						
テキスト：講義で配付する資料							
参 考 書：桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門第 10 版補訂』有斐閣 (1,800 円＋税)							
評価方法・評価基準：							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○	○	○		7 0 %
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			1 0 %
受講者の発表							
演 習							
課題の提出			○	○			2 0 %
その他							
履修上の注意：毎回出席を取ります。出席しましょう！講義の際に電卓は必携です。							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
国際経済論 (International Economics)							
授業の到達目標及びテーマ 知識理解：グローバリゼーションの本質を体系的に理解する。 関心意欲：国際経済の現状・課題について関心を持つ 思考判断：他国との比較分析を通じて客観的な分析視点を持つ 態度：積極的な勉学姿勢							
授業の概要 現在のグローバリゼーションの本質を経済の構造要因と循環要因により理解する。その実際の動向・仕組み等について各国の価格比較（内外価格差）、貿易実務者から説明等を通じて、国際経済における各国経済の実態等を理解する。また、世界経済白書・通商白書（政府の報告書）における国際経済の具体的な実態・課題について補足する視点等を体得する。併せて背景の経済理論等についても分かりやすく説明する。 予習：次回のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと 復習：学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること							
授 業 計 画							
第 1 回： 経済とグローバリゼーション	第 9 回： 世界経済白書等を読む③						
第 2 回： 地球規模で動く経済社会①	第 10 回： 通商白書等を読む①						
第 3 回： 地球規模で動く経済社会②	第 11 回： 通商白書等を読む②						
第 4 回： 世界規模で動く経済社会③	第 12 回： 日本と外国の価格比較から①						
第 5 回： 世界規模で動く経済社会④	第 13 回： 日本と外国の価格比較から②						
第 6 回： 世界規模で動く経済社会⑤	第 14 回： 日本と外国の価格比較から③						
第 7 回： 世界経済白書等を読む①	第 15 回： まとめ						
第 8 回： 世界経済白書等を読む②	第 16 回： 定期試験						
テキスト： 毎講義ごとに講義資料を配布する。							
参 考 書： 講義ごとに提示する。通商白書（経済産業省）、世界白書（内閣府）							
評価方法・評価基準：授業への参加度（50点：講義毎の小レポート）、期末テスト（50点）							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○					50
小テスト・ 授業内レポート	○	○					30
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意： 毎講義ごとに小レポート（質問・意見）を提出。							

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員					
国際金融論 (International Finance)		高崎正名・David Ulvog					
授業の到達目標及びテーマ 金融の基礎知識から国際金融市場の動向まで学び、国際金融のメカニズムを修得する。							
授業の概要 国際金融論は、世界の経済情勢・金融動向を常に把握していく、極めて現実的かつチャレンジングな分野です。本講義は、金融基礎知識の理解・国際金融取引・外国為替・国際金融市場等を学び、国際金融の理論・分析手法の習得を目指します。 講義では、長年国際ビジネスに携わってきた実務経験を活かし、具体的な事例を中心に分かりやすく解説します。また、日々報道されている国際金融関連のトピックスについての解説も行います。 予習：次回のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと 復習：学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること							
授 業 計 画							
第 1 回： グローバル化する経済と金融	第 9 回： 外国為替市場と為替レート						
第 2 回： 金融とは	第 10 回： グローバル化と金融新時代						
第 3 回： 金融市場の仕組み	第 11 回： 主要な国際金融市場の特色						
第 4 回： 金融機関の種類と業務	第 12 回： グローバル化と金融リスク						
第 5 回： 金融商品の特徴Ⅰ	第 13 回： 事例研究～アイルランドの国際金融センター						
第 6 回： 金融商品の特徴Ⅱ	第 14 回： 事例研究～沖縄金融特区						
第 7 回： 国際金融の基礎知識	第 15 回： まとめ						
第 8 回： 国際金融取引の構造	第 16 回： 定期試験						
テキスト： 逐次プリント資料を配布する。							
参 考 書： 1. 上川孝夫 『現代国際金融論』 有斐閣アルマ 2003 年 2. 有吉章編 『図説国際金融論』 財経詳報社 2003 年 3. 小川英治 『国際金融入門』 日本経済新聞社 2002 年							
評価方法・評価基準：							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○				60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				10
授業態度			○	○			30
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意： 本講義に対して、関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。 配布資料は必ずファイルしておくこと。							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
国際経営 (International Management)		高崎 正名					
授業の到達目標及びテーマ 国際経営環境、国際的リスク、国際的経営戦略、組織構築、マーケティング等を学び、 国際経営のあり方を修得する。							
授業の概要 「国際経営論」が研究対象としている国際経営は、国内経営の単なる延長線上にあるのではない。 国際経営は、複雑な国際経済情勢・国際経営環境・国際的リスク等の把握、そして国際的視野に 立った経営資源（人・物・金）の最適配分、意思決定や組織の戦略的構築等が不可欠である。 本講義では、国際的な経営戦略、組織の構築、情報システム、財務管理、人材活用、能力開発、マーケ ティング、リスク管理、そして異文化コミュニケーション等を学び、国際経営のあり方について理解を深 める。 なお、講義と並行して、国際経営論に関連したトピックスを逐次取り上げ、国際経営の最新情報を紹介し ていく。 予習：次回のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと 復習：学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること							
授 業 計 画							
第 1 回： 国際経営環境	第 9 回： 国際経営組織の要諦						
第 2 回： 国際経営と国内経営の違い	第 10 回： 海外生産活動の実際 (事例研究；トヨタ自動車)						
第 3 回： 企業はなぜ国際ビジネス活動をお こなうか (事例研究；スズキ)	第 11 回： 海 外 子 会 社 の 組 織 づ く り (事例研究；大和証券)						
第 4 回： 国際経営のチャンスとリスク	第 12 回： 国際的な企業提携・事業買収（Ⅰ）						
第 5 回： 国際経営戦略の策定	第 13 回： 国際的な企業提携・事業買収（Ⅱ）						
第 6 回： 国際化と経営理念	第 14 回： 日本型多国籍企業						
第 7 回： 人事管理とリーダーシップ	第 15 回： まとめ						
第 8 回： 国際マーケティングの進め方 (事例研究；タイ花王)	第 16 回： 定期試験						
テキスト： 逐次プリント資料を配布する。							
参 考 書：吉原英樹 『国際経営論への招待』 有斐閣ブックス 中村久人 『最新国際経営論』 中央経済社 淵本康方 『国際経営学入門』 創成社							
評価方法・評価基準：							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
試験 (中間・期末試験)	○	○	○				60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				10
授業態度			○	○			30
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
マーケティング (Introduction to Marketing)		高崎 正名					
授業の到達目標及びテーマ							
ビジネス活動において必要とされるマーケティングの基礎知識を体系的に学び、実際の場面において応用できるマーケティング力の修得を目指す。							
授業の概要							
まず、始めにマーケティングの全体像を把握し、続いて企業を取り巻く環境・市場のとらえ方を把握し、商品づくりから顧客に届くまでのチャネルや販売促進方法について学ぶ。こうした流れが身近に理解できるよう企業の実際の事例を紹介していく。							
予習：次回のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと							
復習：学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること							
授 業 計 画							
第 1 回： マーケティングの基礎	第 9 回： 事例研究：ユニクロ						
第 2 回： 業績が好調な企業のポイント	第 10 回： どこで売るか（流通チャンネル戦略）						
第 3 回： マーケティングの全体像	第 11 回： 事例研究：ヤマト運輸（クロネコヤマト）						
第 4 回： 企業を取り巻くマーケティング環境	第 12 回： どのように買ってもらうか（販売促進戦略）						
第 5 回： マーケティング戦略を考える	第 13 回： 事例研究：星野リゾート						
第 6 回： 何を売るか（商品戦略）	第 14 回： これからのマーケティングを考える						
第 7 回： 事例研究：ヒット商品紹介	第 15 回： まとめ						
第 8 回： いくらで売るか（価格戦略）	第 16 回： 定期試験						
テキスト：逐次プリント資料を配布する。							
参 考 書：大山秀一郎（著）「マーケティングの基本と常識」フォレスト出版 2005 年 安田貴志（著） 「マーケティングのしくみ」日本能率協会 2007 年							
評価方法・評価基準：							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○				5 0
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				2 0
授業態度			○	○			2 0
受講者の発表							
演 習							
その他			○				1 0
履修上の注意：本講義に関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。							

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員																																																
キャリア開発演習		高崎 正名																																																
授業の到達目標及びテーマ キャリア開発に必要な実践的知識・技能を講義と演習を通して修得する。																																																		
授業の概要 本講義は、前期の「キャリア・ガイダンス」にて学んだことを基礎として、より実践的なキャリア開発について学んでいく。 具体的には、講義は演習を中心に進め、内容は必要書類の作成・筆記試験対策・業界、企業分析・面接対策等とする。 予習：現在の自分の疑問点を整理すること 復習：各テーマについての自分の考えを講義ノートにまとめること																																																		
授 業 計 画																																																		
第 1 回： 就活の心構え	第 9 回： 企業実務家の講話（Ⅰ）																																																	
第 2 回： 企業研究の進め方	第 10 回： 企業実務家の講話（Ⅱ）																																																	
第 3 回： 沖縄企業の研究	第 11 回： 企業実務家の講話（Ⅲ）																																																	
第 4 回： 筆記試験のポイント（Ⅰ）	第 12 回： 新聞の読み方																																																	
第 5 回： 筆記試験のポイント（Ⅱ）	第 13 回： 先輩の講話																																																	
第 6 回： 履歴書の書き方（Ⅰ）	第 14 回： ビジネスマナー																																																	
第 7 回： 履歴書の書き方（Ⅱ）	第 15 回： まとめ																																																	
第 8 回： 面接のポイント	第 16 回： 定期試験																																																	
テキスト： 逐次プリント資料を配布する。																																																		
参 考 書： 『JOB HUNTING GUID BOOK』 沖縄キリスト教学院大学																																																		
評価方法・評価基準：																																																		
<table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>演 習</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>40</td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>20</td></tr></table>	到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)	○	○	○				30	小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				10	受講者の発表								演 習	○	○	○		○		40	その他			○	○			20		
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																											
試験 (中間・期末試験)	○	○	○				30																																											
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				10																																											
受講者の発表																																																		
演 習	○	○	○		○		40																																											
その他			○	○			20																																											
履修上の注意：本講義に関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。																																																		

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員						
インターンシップ (Internship Program)		高崎正名・近藤功行						
授業の到達目標及びテーマ								
知識理解：職業・業務に関する情報を把握・研究するとともに就業体験により見識を高め就職等に寄与する。								
関心意欲：就業に対する関心を強く持つ								
思考判断：仕事の概要・内容等に関する意味・働きを理解する 態度：積極的な勉学姿勢								
授業の概要								
インターンシップの目的は、「学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと（平成9年、教育改革プログラム）」となっており、「正規の教育課程とする」もの、「学校行事とする」もの、「大学と無関係に行うもの」に分別される。								
本講義は、「正規の教育課程」であり、基準を満たした者に対しては単位が与えられる。夏期休暇中の2週間程度、企業において就業体験を積む。事前指導では、テキスト、学外から講師を招いての講演を予定している。インターンシップの実施にあたっては、学生の仕事に対する意識向上だけでなく、配属先の活性化にも大きな効果をもたらすことを目標とする。なお、受け入れ先は自ら決めることを基本とする。								
予習：各テーマについて疑問事項を整理しておくこと								
復習：学んだテーマの理解を深めるため講義ノートを作成すること								
授 業 計 画								
第 1 回： インターンシップの心構え	第 9 回： 希望先企業の研究レポート完成							
第 2 回： 事前指導、行動日程、希望先選定	第 10 回： 希望先企業の研究レポート発表							
第 3 回： 先輩の話	第 11 回： 企業実習の心得							
第 4 回： 希望先企業の選定	第 12 回： 職場とは							
第 5 回： 履歴書の作成	第 13 回： 職場のマナー（1）							
第 6 回： 履歴書の作成	第 14 回： 職場のマナー（2）							
第 7 回： 履歴書の完成	第 15 回： まとめ							
第 8 回： 希望先企業の調査・研究	第 16 回： 定期試験							
テキスト： プリント資料を逐次配布する								
参 考 書： JOB HUNTING GUIDE BOOK 2015/ 沖縄キリスト教学院大学								
評価方法・評価基準：								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他(外部)	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート		○	○	○	○	○		30
授業態度		○	○	○	○	○	○	50
受講者の発表								
演 習								
その他				○	○			20
履修上の注意：								
事後研修レポート（A4サイズ2枚以内）は、必ず提出すること。また、派遣先での実習風景を撮った写真も提出すること。なお、本学のインターンシップは、自分が働きたい分野での企業や機関に自ら研修を依頼する方式をとっているため、自主性と独立心が求められることを強調したい。								

授業科目名	1 単位 (1－0)	担当教員																																																								
体育理論 [Physical Education(Theory)]		音野 太志																																																								
授業の到達目標 現代社会に生きる人々や自分自身の「からだと内面（こころ）」について認識し、よりよいライフスタイルを構築できる知識と態度を養うこと。																																																										
授業の概要 授業は、アクティブラーニングの手法を用いて進めていく。 前半は、グループ毎にテーマを決め、現代の健康問題に関し調査し、模擬授業として発表を行い、各テーマに対しての学びを深める。 後半は、問題への解決方法を探り、同学年へ向けた、健康問題改善の為の取り組みをグループ毎に考案し、提案を行う。 予習：それぞれのテーマに沿った健康問題に関する情報を収集して授業に臨む。 復習：講義で感じた疑問や発見を振り返り、自身の生活と照らし合わせる。																																																										
授 業 計 画 第 1 回： コースオリエンテーション：健康とは？ 第 2 回： テーマの決定 第 3 回： グループワーク① 第 4 回： グループワーク② 第 5 回： グループワーク③ 第 6 回： 発表 第 7 回： 発表 第 8 回： 発表：結果の発表 第 9 回： 後半：テーマの決定 第 10 回： グループワーク④ 第 11 回： グループワーク⑤ 第 12 回： グループワーク⑥ 第 13 回： 発表 第 14 回： 発表 第 15 回： 発表：結果の発表																																																										
テキスト： 使用しない。講義ごとに資料を配布する。																																																										
参 考 書： 九州大学健康研究センター編『健康と運動の科学』 大修館書店他																																																										
評価方法・評価基準：レポート 40 点（中間 20 点、期末 20 点）、授業への参加度 60 点による。																																																										
<table><tr><th>到達目標等 成績評価</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>40 (20×2)</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>60</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				40 (20×2)	授業態度				○	○		60	受講者の発表								演 習								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																			
試験 (中間・期末試験)																																																										
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				40 (20×2)																																																			
授業態度				○	○		60																																																			
受講者の発表																																																										
演 習																																																										
その他																																																										
履修上の注意：																																																										

授業科目名		1 単位 (0－3)	担当教員					
体育実技 [Physical Education (Sports)]			音野 太志					
授業の到達目標								
1) スポーツの楽しさ、喜びを味わうこと。 2) スポーツに対して、「真剣に」「コミュニケーションを図りながら」実践することを通し、諸課題を解決しながら、個人またはグループの成長プロセスに介入できるようになること。								
授業の概要								
ドッジビー、ソフトバレーボール、バスケットボールをとりあげる。毎授業では練習と試合を実施する。 個人とグループの諸課題について、1)実践 2)ふりかえり 3)次の課題設定 4)実践というプロセスを繰り返すことによって、個人またはグループの成長プロセスを考える機会とする。 予習：体調を整えて授業に備える。 復習：授業内容を振り返り、次の授業に備える。								
授 業 計 画								
第 1 回：		コースオリエンテーション (授業概要、目標、成績評価方法、等)						
第 2 回：		イニシアティブゲーム						
第 3 回：		ドッジビー： 練習、ゲーム						
第 4 回：		ドッジビー：アルティメット 練習、ゲーム						
第 5 回：		ドッジビー：アルティメット 練習、ゲーム						
第 6 回：		ドッジビー：アルティメット 練習、ゲーム						
第 7 回：		ドッジビー：アルティメット 練習、ゲーム						
第 8 回：		ソフトバレーボール 練習、ゲーム						
第 9 回：		ソフトバレーボール 練習、ゲーム						
第 10 回：		ソフトバレーボール 練習、ゲーム						
第 11 回：		ソフトバレーボール 練習、ゲーム						
第 12 回：		バスケットボール 練習、ゲーム						
第 13 回：		バスケットボール 練習、ゲーム						
第 14 回：		バスケットボール 練習、ゲーム						
第 15 回：		バスケットボール 練習、ゲーム						
テキスト： 使用しない。								
参 考 書： 特になし								
評価方法・評価基準：授業への参加度 60 点 技能評価 40 点 計 100 点による。								
到達目標等 成績評価		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート					○	○		40
授業態度								
受講者の発表								
演 習								
授業への参加度			○		○	○		60
その他								
履修上の注意：								
1) 体育館用のシューズを準備し、運動にふさわしいウェアで参加すること。 2) 金属製のピアス、ネックレス、ブレスレット等、人を傷つけ、傷つけられる恐れのあるモノは外すこと。 3) その他の注意事項は初回授業時に伝達する。								

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
生命の科学と倫理 (Life Science and Life Ethics)		近藤 功行

授業の到達目標

2004年度から実施となった本講義において、この時期から数年間は、BSE 問題が、本講義におけるキーワードとして浮上した。逆に、2010年度においてはこのキーワードはベスト10から外れた。この年度、COP10が開催されたこともあり、生物多様性などに関連したもの、宇宙関連の内容も増えた。こうした本講義に関連した新聞記事収集を図りつつ、単年度でみれば合計件数はこの順位だが、トータルするとまだ BSE 問題は上位に来るため、目線をどこに置くかでこうした内容は違ってくる。基礎的知識に基づき、多層的な思考を養いつつ、既存概念に疑いを持ちつつ、生物系の内容に興味を持たせる取り組みを行う。

授業の概要

近年の科学技術の進歩は将来、長い目で見れば、人間の進化にもその影響を及ぼすと考えられる。講義当初の年度は当該科目に関するキーワード内容として、新聞記事に着目すると BSE 問題などが突出した年度であった。その後、クローン、遺伝子治療、代理出産、など様々な内容が出ている。こういった講義を実施している中においても、どのようなキーワード（小見出しとなる関連事象）が現在、社会でおこっているのかに目を向け、概説して行くこととする。本講義は臓器移植や安楽死問題などよりも、より生物学（一部、地学内容含む）的な内容を重視し、その講義関連内容の最新情報の収集を図り、教示してゆく。

予習：配布資料を元に講義を展開するため、その都度説明します。

復習：毎回配布の配布資料を読み返すこと。

授業計画

第1回： 生命の科学と倫理を学ぶ意義を考える視点	第9回： 生物を考える視点② ー固有種、品種改良、レッドブック、生物多様性、化石
第2回： 遺伝子組み換えと遺伝子組み換え技術	第10回： 地球環境と地球温暖化ー森林から海への本来の必要な環境ー
第3回： 遺伝子組み換えと現在の農業 ー自給率4割の国、日本ー	第11回： 地球資源とバイオ燃料ー代替エネルギー、バイオマスとはー
第4回： 種、BT 菌、ES 細胞（黄教授の功罪）、ヒト ES 細胞と iPS 細胞（万能細胞）	第12回： 食を考える視点ー遺伝子組み換え食品の安全性、食の安全ー
第5回： クローンネコ、クローン犬の誕生からクローン 奄美の黒ウサギ、マンモスへ	第13回： BSE 問題を考える視点ープリオン病、狂牛病、米国産牛問題の概説ー
第6回： 進化を考える視点 ー小笠原諸島、ガラパゴス諸島と 1000 年後のヒトー	第14回： 命を考える視点 ー代理出産、無国籍児、体外受精ー
第7回： DNA 技術とミトコンドリア DNA 鑑定ーこの用語 のもつ意味ー	第15回： まとめ
第8回： 生物を考える視点① ー雑種交配、絶滅危惧種、新種、希少（貴重）種、外来種ー	第16回： 試験に代わる課題（試験に変わる課題 レポート作成：指定期日までに提出）

テキスト：毎回、担当者が作成したプリントを用いての講義となります。

評価方法・評価基準：毎時間、B4 の感想用紙を配布します。この用紙の左側には簡単な質問と右側上部にはその日の講義を聞いての感想と、その下に「ここで一言」を書く欄があります。「ここで一言」は何を書いても構いません。こういった感想用紙を用いて、一方通行的になりがちな講義の解消に努めます。この感想用紙は成績に直接影響はしません。講義終盤で、試験にかかわるレポート課題（B5 のレポート用紙で作成）を出します。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○	○			70
小テスト・ 授業内レポート	○						10
授業態度							評価せず
受講者の発表							評価せず
演習							評価せず
授業への参加度				○			20
その他							なし

履修上の注意：予備知識は、不要です。生物・地学系の内容が中心となるなかで、現在起こっている社会事象が学べます。県内企業のエントリーシートで、バイオマス・環境問題を書くようなことも、皆さんの中には起こるはずです。教示している内容を自分のものにして、有効に使うことが大学で学ぶこと、大学生らしさにつながることでしょう。

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員					
健康の科学 (Health Science)			近藤 功行					
授業の到達目標及びテーマ								
医療・保健・福祉系の分野で担当者は、継続した研究を行っている。そのため、こうした経緯を学生に教示する中で、学生も研究手法や当該分野に興味をもつことができればと考えている。沖縄に潜む内容なども盛り込みながら、現代社会における健康をテーマにした内容を取り扱うが、学生の習熟度や基礎的知識の違いもあることから、なるべく幅広いテーマ設定を行うことを心がけつつ、与えたテーマについては熟考できるだけの力を付けてもらいたいと考えている。つまり、ある事実に対しての意見・感想をより深く書けるだけの力量を身に付けてもらいたい。								
授業の概要								
沖縄の長寿、特に男性の平均寿命の低落が危惧されている。がん、脳血管疾患、心疾患などの発症には、個人の生活習慣が大きく影響している。このことは、生活習慣病という用語で、予防対策が叫ばれている。ライフスタイルの変遷、また、長寿要因を考究する上では、心理・精神面における健康現象も加味する必要がある。平均寿命が世界有数のものとなったわが国において、長寿の中味を考える必要があろう。そこではQOL また QOD (Quality of Death) の側面も考究する必要がある。再生医学に至る近代科学の発展までを含め、講義する。 予習：配布資料を元に講義を展開するため、その都度説明します。 復習：毎回配布の配布資料を読み返すこと。								
授 業 計 画								
第 1 回：人間にとっての健康とは。病気とは		第 9 回：高齢女性の社会的役割（第 2 回講義に連動）						
第 2 回：健康幻想。高齢女性の一過性の徘徊行動を探る視点。		第 10 回：QOL また QOD について（死生学と健康科学の連関性）						
第 3 回：医療圏と救急搬送—沖縄、奄美群島内での調査研究から—		第 11 回：生活習慣病・メタボ・大宜味村内の健康調査からの紹介						
第 4 回：缶飲料にみるカロリー表記（ゼロキロカロリーの存在）		第 12 回：再生医学を学ぶ、形成外科学の側面（エンバーミング含む）						
第 5 回：百歳老人（センテナリアン）を探る。秋田県と沖縄県の比較から		第 13 回：沖縄の長寿は守れるのか、長寿科学の側面から						
第 6 回：身体の恒常性（こころと精神のバランス）、心身医学・精神衛生学から		第 14 回：厚生科学研究（厚生省長寿科学研究事業）から得られた視点						
第 7 回：高齢者の生きがいを探る。よい老人ホームとは？		第 15 回：まとめ（保健・医療・福祉を学ぶ視点；試験にかわる課題説明）						
第 8 回：適寿（appropriate age）論、衛生学公衆衛生学の側面から		第 16 回：試験に代わる課題（試験に変わる課題レポート作成：指定期日までに提出）						
テキスト：（毎回、担当者が作成したプリントを配布しての講義です）								
参 考 書：購入の必要はありません。 近藤功行（分担執筆）『幸福祈願』 筑摩書房（ちくま新書 196）、1999 近藤功行（分担執筆）『長寿の要因』 九州大学出版会、2000 近藤功行（編集）『死の儀法』 ミネルヴァ書房、2008								
評価方法・評価基準：毎時間、B4 の感想用紙を配布します。この用紙の左側には簡単な質問と右側上部にはその日の講義を聞いての感想と、その下に「ここで一言」を書く欄があります。「ここで一言」は何を書いても構いません。こういった感想用紙を用いて、一方通行的になりがちな講義の解消に努めます。この用紙は欠席した場合は後で出して下さい（毎時間、担当者が作成したプリントを配布します）。これは成績に直接影響はしません。毎回学生の理解度を知る上で、また学生を救済する上で用います。講義終盤で、試験にかわるレポート課題（B5 のレポート用紙で作成）を出します。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
試験（中間・期末試験）		○	○		○			70
小テスト・授業内レポート		○						10
授業態度								評価に加えず
受講者の発表								評価に加えず
演 習								評価に加えず
授業への参加度				○				20
その他								なし
履修上の注意：特に前知識は（自然科学の知識）は問わない。講義形式で概説しながら、トピックなどの紹介やマスコミ報道などにも注意を払いながら進めていく。								

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員					
死生学 (Thanatology)			近藤 功行					
授業の到達目標								
本講義は、医療と結びついている内容でもあり、また教育の現場とも連動している内容となります。こうしたことから、この講義を受講している皆さんには社会的にどのような事象が現在、起こっているのか、こうした予備知識を理解しつつ、担当者も解説に努めます。医療医学的知識が身に付くことを期待します。そうした中で、何故、こうした講義が本学で開講されているのか理解できることが、1つの到達点であるように考えています。教職課程の学習とも連動していると考えます。生と死を学ぶ教育、こうした視点を医学的観点から解説してゆきます。								
授業の概要								
各宗教（宗派）には、生と死に対する考え方がある。加齢（エージング）と共に、生きることの質が問われると同時に、死の質（Quality of Death）も考察しなければならない時代となってきた。終末期医療、ターミナルケアのあり方やホスピスケアの意義、死への科学（サナトロジー）を学生・社会教育の上で取り扱う時代が到来してきているその本質を教示する。実りある豊かな老いを考えるために、医学史におけるトピック、病理解剖面での知見、医療技術の変遷、再生医療等の現状を紹介し、現代社会における医療の役割を学びながら考究してみる。								
予習：配布資料を元に講義を展開するため、その都度説明します。								
復習：毎回配布の配布資料を読み返すこと。								
授 業 計 画								
第1回： 生と死を学ぶ学問		第9回： ハンセン病医療医学の側面を学ぶ(2)						
第2回： よりよい生と死を考える視点		第10回： 各地にみられる死生観の側面を学ぶ						
第3回： ホスピスは我が国に定着するのか		第11回： 若者～高齢者の持つ死生観						
第4回： 在宅死を考える視点―鹿児島県大島郡与論町の事例から―		第12回： 死の人類学(1) ビデオ学習(30分) (担当者；テレビ出演番組)						
第5回： 在宅ターミナルケアを学ぶ ビデオ学習 (担当者；テレビ出演番組(60分))		第13回： 死の人類学(2) 生から死への途次、死後・死者儀礼と文化						
第6回： 病院ケア、病院死を考える視点―鹿児島県大島郡与論町の事例から―		第14回： エージング（加齢）、老い、終（つい）の場所、死、死者儀礼を探る						
第7回： エンバーミング、遺体観、身体観そして剖検（病理解剖）の側面を学ぶ		第15回： まとめ（試験に代わる課題提出の説明、解説）						
第8回： ハンセン病医療医学の側面を学ぶ(1)		第16回： 試験に代わる課題（試験に変わる課題レポート作成：指定期日までに提出）						
テキスト：								
参 考 書：(映像資料)								
塩月亮子（制作ビデオ）：『死生観の人類学』第1巻「死をみつめる」、第2巻「死を体験する」、 （株）新宿スタジオ 第1巻に担当者の協力資料の紹介あり。その他、担当者出演テレビ番組 2本のビデオテープを用いた教材を使用。（毎回、担当者が作成したプリントを用いての講義となります）。受講者の状況をみて、こうした教材を避けて配付資料で説明の場合もあります。								
評価方法・評価基準：								
毎時間、B4の感想用紙を配布します。この用紙の左側には簡単な質問と右側上部にはその日の講義を聞いての感想と、その下に「ここで一言」を書く欄を設けています。「ここで一言」のコーナーには何を書いても構いません。こういった感想用紙を用いて、一方通行的になりがちな講義の解消に努めます。この感想用紙は、成績に直接影響はしません。講義終盤で、試験にかかわるレポート提出の課題（B5版のレポート用紙で作成）を明示します。								
到達目標等		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○	○				70
小テスト・ 授業内レポート		○						10
授業態度								評価に加えず
受講者の発表								評価に加えず
演 習								評価に加えず
授業への参加度				○				20
その他								なし
履修上の注意：								
特に前知識（死生学に関連した）は必要としません。専門的な知識の修得を狙うのではなく、生と死を地域や担当者のフィールドワークから投げかける視点を通して、学んで欲しいと思っています。視覚教材を用いて講義を行う予定ですが、上述したように変更もあります。								

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
生活環境論 (Human Environmental Science)		近藤 功行					
授業の到達目標							
本講義では、医療・保健・福祉分野において、予防医学的な視点を中心に、離島医療における高齢者の終（つ）の問題など、担当者の調査研究に基づいたフィールドワークから得られた視点を教示します。直接、受講者の卒業論文に影響を及ぼさないかも分かりませんが、本講義を通して、研究手法、研究に関する一連の内容を教示することに心がけます。4年生の受講となる講義のため、研究目線を中心とした内容で本講義を展開します。深い洞察力を身に付け、社会事象を理解し、より深い知識が身に付けられることを目指したいと考えています。							
授業の概要							
寝たきり予防は、自己管理で可能か。超高齢社会に突入した現在、疾病予防と介護予防の2つの行政サービスが展開されている。「転ばぬ先の杖」という言葉は昔からの言い伝えだ。ただ、杖1つとっても、ステッキ、T字型、フィッシャー形、C字型、ロフトランド・クラッチと目的用途は多数である。歩行器や車椅子も、多種多様。家庭内事故、転倒、骨折、寝たきり。「高齢者が病院に行くわけ」を考えること、住宅改造のイロハ、福祉器具などを考えることで、先の命題が解決できないだろうか。介護に関連する内容も加味し、このテーマを考究する。 予習：配布資料を元に講義を展開するため、その都度説明します。 復習：毎回配布の配布資料を読み返すこと。							
授 業 計 画							
第1回： 人類働態学（Human Ergology）、人類生態学（Human Ecology）的健康観	第8回： 雪国における車椅子の使い方について						
第2回： 疾病予防と介護予防	第9回： 3障害こみる手厚さの違いー交通バリアフリー法補助犬法、ジョブコーチ制度などー						
第3回： 寝たきり予防は自己管理で可能かー与論島での調査研究からー	第10回： 福祉船の就航する島ー岡山県笠岡市の島々ー						
第4回： 元気な高齢者であることの意義	第11回： 寝たきりにかわる用語を探る						
第5回： 3障害（障碍）の中で、精神障害者、回復者を考える視点	第12回： 百寿者が生活する家庭環境						
第6回： バリアフリーとユニバーサルデザインを考える	第13回： ケアサイエンスとフィールドワーク（1）						
第7回： ノーマライゼーションの発想と障害者雇用、その職種、職場環境を探る	第14回： ケアサイエンスとフィールドワーク（2）						
	第15回： まとめ（試験に代わる課題の解説、説明を実施）						
	第16回： 試験に代わる課題（試験に変わる課題レポート作成：指定期日までに提出）						
テキスト：こちらで講義資料を印刷して、準備します。							
参考書：近藤功行（共著）『高齢者教育論』東信堂 1997（講義資料は毎回プリント配布します。購入は不要です。）							
評価方法・評価基準：毎時間、B4 の感想用紙を配布します。この用紙の左側には簡単な質問と右側上部にはその日の講義を聞いての感想を書く余白、そしてその下に「ここで一言」を書く欄があります。「ここで一言」は何を書いても構いません。こういった感想用紙を用いて、一方的になりがちな講義の解消に努めます。講義終盤で、試験にかかわるレポート課題（B5 のレポート用紙で作成）を明示します。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
試験 （中間・期末試験）	○	○	○				70
小テスト・ 授業内レポート	○						10
授業態度							評価に加えず
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
授業への参加度			○				20
その他							なし
履修上の注意：特に、前知識は問いません。講義計画は、1～15 まで記載していますが、講義の進行状況や学生の興味関心などで、順位の変動や内容が変わる場合も想定されます。授業への積極的な取り組みを希望します。講義形式で概説しながら、トピックなどの紹介などを含めて、講義を進めて行きます。なお、感想用紙などを毎回用いる理由には、これまで4年制大学で卒論ゼミを持った学生が、2次3次の就職試験で落ちてくるのは簡単な作文です。日頃から書くことをしておきたい担当者の老婆心から始まっている内容です。							

授業科目名	2単位	担当教員																																																								
自主研究 (Independent Research)																																																										
授業の到達目標及びテーマ このコースは卒業論文とは別に興味を持った研究テーマをピックアップし深くリサーチするものです。このコースを通して、学生はアカデミックライティングのスキルを磨くことができます。																																																										
授業の概要 カリキュラムに設置されていない科目（分野）について研究を深めたい学生、または設置されている科目について更に高度の知識・技能を身につけたい学生、を対象にした科目である。個々の学生が、適切な指導教員のもとで自主的に学習・研究し、その成果に対して単位が与えられる。 予習・復習：基本的に学期を通して課題が出されます。詳しくは担当教員より説明します。																																																										
授 業 計 画 1. 学生は、指導を希望する専任教員に対して下記の事項を含む提案書を提出し相談する。 1) 日英両語による研究テーマ名 2) 研究の目的 3) 自主研究を行う理由 4) 指導教諭との面談日ならびに面談回数・時間 5) 学習・研究活動計画書／リーディング・リスト 6) 学習・研究の評価方法について 2. 下記の者の承認が得られた場合にかぎり、自由研究による履修が受理される。 1) 指導教諭 2) 学部長 3) 教学支援部長																																																										
テキスト：																																																										
参 考 書：																																																										
評価方法・評価基準： 学習・研究内容による評価が決定される。 成績簿には、「自主研究（...テーマ...）」と記される。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		100	授業態度								受講者の発表								演 習								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																			
試験 (中間・期末試験)																																																										
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		100																																																			
授業態度																																																										
受講者の発表																																																										
演 習																																																										
その他																																																										
履修上の注意：																																																										

授業科目名		1 単位 (0－2)	担当教員				
フレッシュマン・セミナーⅠ			近藤功行 照屋信治 大城直人 武村朝吉 仲里和花 玉城直美 糸洲理子				
授業の到達目標及びテーマ： アドバイザーや学友との豊かな関係の中で、本学の理念やカリキュラムを理解し、大学生に必要な最低限のアカデミックスキルを獲得する。							
授業の概要 1) 自校教育。キリ学に学ぶ意義を理解し、本学学生としての自覚を高める。図書館利用案内・カリキュラム解説・大学生活での目標の相談・渡嘉敷キャンプに向けての平和教育。 2) アカデミックスキルズ（読み・書き・調査・発表・議論など）。テキストで目標とされている「精読」「要約文」「論評文」「ブックリポート」まで。引用・注釈・参考文献一覧などを備えたレポートが書けるようにする。 3) 少人数のアドバイザーグループでの授業の中で、充実した学びの基礎となる人間関係を形成する。 予習：指定された課題文を熟読すること 復習：授業内容を、議論、ディベート、レポートに活かせるように復習すること							
授 業 計 画							
第 1 回： 講義の概要説明。図書館利用説明。		第 8 回： 要約文の作成③（同上）					
第 2 回： 精読①（渡嘉敷キャンプ概要、金城重明氏の著作、平和教育）		第 9 回： 論評文の作成③（同上）					
第 3 回： 要約文の作成①（同上）		第 10 回： ブックリポートの作成①					
第 4 回： 論評文の作成①（同上）		第 11 回： ブックリポートの作成②					
第 5 回： 議論①（同上）		第 12 回： ブックリポートの作成③					
第 6 回： 要約文の作成②（各講師設定課題）		第 13 回： ディベート①					
第 7 回： 論評文の作成②（同上）		第 14 回： ディベート②					
		第 15 回： ブックリポートの提出、まとめ					
テキスト： 沖縄キリスト教学院大学著『論述・作文』2011 年							
参 考 書： 授業中に提示、あるいは提供する。							
評価方法・評価基準： 授業への参加度、授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○		30
授業態度	○	○	○	○	○		30
受講者の発表	○	○	○	○	○		20
演 習							
その他	○	○	○	○	○		20
履修上の注意： 1 初年次の必修科目である。 2 積極的に発言すること。							

授業科目名	1 単位 (0－2)	担当教員					
フレッシュマン・セミナーⅡ		Chris Valvona, Daniel Broudy, David Ulvog, 新垣誠 浜川仁 新垣友子、					
授業の到達目標及びテーマ フレッシュマン・セミナーⅠで学んだ「読む・書く」などのアカデミックなスキルに加え、フレッシュマン・セミナーⅡでは、ディベートやプレゼンテーション、グループ・プロジェクトなどを通して、社会に対応し適応する力としてのコンピテンシーを身につける。 また、これらの社会適応能力を英語を通して取得することを目的とする。							
授業の概要 個人よりもグループでの作業を中心とする。グループ・ディスカッションやプロジェクト、プレゼンテーションを通して、表現力、理論的思考力、主体性／積極性、社会への関心や、他者と協働するためのスキルを身につける。 予習・復習：グループで参加する授業のため、お互いの信頼関係が大切になってきます。そのためグループのメンバーとして課題をこなしていく事が必須となり、それが出来ない学生は他のメンバーの迷惑になるため、責任を持って授業にとりくむこと。							
授 業 計 画							
第 1 回：	批判的思考と研究法(調査研究)のイントロダクション	第 8 回：	調査研究結果①に関するディスカッションとディベート				
第 2 回：	ディスカッションのテーマ①導入と参考資料準備	第 9 回：	ディスカッションのテーマ②導入と参考資料準備および研究計画				
第 3 回：	ディスカッションと評価(個人とグループ)	第 10 回：	テーマ②に関する調査研究②の実施(少人数グループ)				
第 4 回：	調査研究①のテーマ設定と研究計画	第 11 回：	少人数グループ研究				
第 5 回：	調査研究①の実施	第 12 回：	少人数グループ研究				
第 6 回：	調査研究①の結果発表準備	第 13 回：	少人数グループ研究				
第 7 回：	調査研究①結果のグループ発表(個人評価とグループ評価)	第 14 回：	少人数グループ研究				
		第 15 回：	最終発表 (個人評価とグループ評価)				
テキスト： 担当教員が逐次配付する							
参 考 書： なし							
評価方法・評価基準：							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				40
授業態度							
受講者の発表	○	○	○	○	○		40
演 習							
授業への参加度			○	○			20
履修上の注意：							
・ 授業の目的をきちんと理解し、知的好奇心、探究心をもって積極的に授業にかかわること。 ・ 教室外の活動もあるので、各自責任をもって授業の進行・過程を確認すること。 ・ 個人作業の責任を果たすとともに、他者との協働を怠らないこと。							

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員					
キリスト教平和学 (Christian Peace Studies)		金 永秀					
授業の到達目標及びテーマ 「キリスト教」「沖縄」から平和に関する 이슈、思想、歴史を考える							
授業の概要 聖書における平和理解をはじめ、特にキリスト教の歴史の中にみられる主要な平和論又は反暴力運動を概観し、いわゆる「ポスト冷戦」時代における平和運動、特に沖縄における平和運動の重要性に目覚め、「平和の島・沖縄」建設への道を模索すると共にグローバルな視点での平和を考える。 予習：次回講義のために予習すべきことをそのつど告知する。 復習：その日の講義内容をまとめる。							
授 業 計 画							
第 1 回：キリスト教の歴史と戦争と平和の関係	第 9 回：ナチスの台頭と教会闘争「バルメン宣言」における平和の理念						
第 2 回：聖書における平和（シャロームとエイレーネ）	第 10 回：第二次大戦とキリスト教						
第 3 回：聖書における国家権力と宗教	第 11 回：フィールド						
第 4 回：アウグスチヌスにおける「地上の国」と「神の国」	第 12 回：戦争沖縄における土地闘争と平和論の特質						
第 5 回：宗教改革者（特にアナバプテスト）の戦争と平和理解をめぐって	第 13 回：戦争と女性						
第 6 回：「大交易時代」の琉球の夢と理想	第 14 回：マーティン・ルーサー・キング牧師						
第 7 回：マーティンルーサーキングガンジーの非暴力運動と思想	第 15 回：まとめ						
第 8 回：「15 年戦争」の結末としての沖縄戦	第 16 回：期末試験						
テキスト：『聖書』							
参 考 書：『非暴力思想の研究』、『バルメン宣言研究』等							
評価方法・評価基準：レポート 1) ブック・レポート 2) フィールドのレポート 3) 口頭及び文章によるリサーチのレポート							
成績評価 到達目標等 試験 (中間・期末試験)	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○			8 0
授業態度			○	○			1 0
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	1 単位 (0－2)	担当教員																																																													
卒業基礎研究（演習）Ⅰ・Ⅱ																																																															
授業の到達目標及びテーマ																																																															
「卒業基礎研究Ⅰ」「卒業基礎研究Ⅱ」は3年次の学生が履修する科目である。4年次に卒業論文を作成する前段階として、学術的なレポート・論文を制作する基礎的な能力を習得する。各ゼミ担当者の方針により具体的な達成目標に違いはあるものの、例えば、自主的にテーマを定め、先行研究の検討などを行い、ゼミ内で発表・ディスカッションを行う。卒業論文のコアとなるレポートを作成することを達成目標としたい。 テーマの選定に関しては、学生の主体性に任せる。ただし、担当教員の指導可能なテーマにすること。																																																															
授業の概要																																																															
卒業論文の作成は、大学での学びの集大成ともいえるものである。本科目では、卒業論文を作成するための基礎的な能力を習得する。各担当教員は、自己の専門分野に関連のある研究課題をもつ学生を原則として10名を超えない範囲で指導する。授業はゼミナール形式で行われる。また授業は隔週で行われ、各学期8回である。 ゼミの具体的な運営方法は各教員の専門分野の方法論に基づく。ただし、ゼミナール方式であるから、テーマ報告会・中間報告会などの学生による発表が中心となり、最終的には卒業論文のコアとなるレポートを作成することを目標としたい。 予習：指定された論文を熟読すること 復習：指定された論文を、自信の論文に活かすつもりで再読すること																																																															
卒業基礎研究（演習）の流れ																																																															
〔2年次後期〕 ①1月中旬・・・所属ゼミに関する希望調査 ②3月中旬・・・所属ゼミの決定 〔3年次前期〕 ゼミナール形式で資料の収集方法、基本的文献の精読、グループ研究、レポート、口頭発表、ディスカッション等によって、当該専門分野の概観、主要な問題点の明確化が行われる。同時に、研究課題の見つけ方、正しい研究手順、論文作成の方法について基本的な知識・技能を身につける。 基本文献を輪読しつつ、全学生が暫定的にでもテーマを定め、テーマ報告ができることを目指したい。 〔3年次後期〕 3年次前期と同様に、論文作成の基本的な知識・技能を身につけると同時に、各学生が中間報告を行い、卒業論文のコアとなるレポートを提出することを目指す。																																																															
テキスト・参考書：各担当教員が提示する。																																																															
評価方法・評価基準：																																																															
<table><tr><td>成績評価 到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>定期試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>30</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>40</td></tr><tr><td>演 習</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>90</td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	定期試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度	○	○	○	○	○	○	30	受講者の発表	○	○	○	○	○	○	40	演 習	○	○	○	○	○	○	90	その他														
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																								
定期試験 (中間・期末試験)																																																															
小テスト・ 授業内レポート																																																															
授業態度	○	○	○	○	○	○	30																																																								
受講者の発表	○	○	○	○	○	○	40																																																								
演 習	○	○	○	○	○	○	90																																																								
その他																																																															
履修上の注意：																																																															
本科目は、学生の主体的な学び、発表を軸とするものである。積極的に取り組むこと。																																																															

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員																																																								
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ																																																										
授業の到達目標及びテーマ 学術的なレポート・論文を作成する基礎的な能力を習得し、大学における学びの集大成である卒業論文を作成する。「卒業基礎研究Ⅰ」「卒業基礎研究Ⅱ」で培った知識・技能に基づき、引き続き、各人が設定したテーマを深めてゆく。																																																										
授業の概要 卒業論文の作成は、大学での学びの集大成ともいえるものである。本科目では、論文・レポートを作成するための能力に磨きをかけ、最終的に卒業論文を作成する。各担当教員は、自己の専門分野に関連のある研究課題をもつ学生を原則として10名を超えない範囲で指導する。授業はゼミナール形式で行われる。 ゼミの具体的な運営方法は各教員の専門分野の方法論に基づく。ただし、ゼミナール方式であるから、テーマ報告会・中間報告会などの学生による発表が中心となり、最終的には卒業論文を作成する。 予習：Students should work consistently throughout the week and each week bring to the advisor any notes, records or writing for discussion and review 復習：Students should constantly be reading and rereading their writing in order to make improvements towards the final thesis																																																										
卒業論文作成までの流れ 〔1年時前・後期〕 「フレッシュマンセミナーⅠ」「フレッシュマンセミナーⅡ」を受講。大学で必要なアカデミックスキル（読み・書き・調査・発表・議論など）を身につけると同時に、本学のカリキュラムについての理解を深め、4年次の卒業研究をにらみつつ、様々な科目を学んでゆく。 〔2年次後期〕 1月中旬に、所属ゼミに関する希望調査を行う。そして、3月中旬には所属ゼミを決定する。 〔3年次前期〕 「卒業基礎研究Ⅰ」を履修。ゼミナール形式で資料の収集方法、基本的文献の精読、グループ研究、レポート、口頭発表、ディスカッション等によって、当該専門分野の概観、主要な問題点の明確化が行われる。同時に、研究課題の見つけ方、正しい研究手順、論文作成の方法について基本的な知識・技能を身につける。基本文献を輪読しつつ、学学生が暫定的にでもテーマを定め、テーマ報告ができることを目指したい。 〔3年次後期〕 「卒業基礎研究Ⅱ」を履修。3年次前期と同様に、論文作成の基本的な知識・技能を身につけると同時に、各学生が中間報告を行い、卒業論文のコアとなるレポートを提出することを目指す。 〔4年次前期〕 「卒業研究Ⅰ」を履修。3年次に培った知識・技能と、深めたテーマをさらに進化させ、卒業研究を進める。担当教員による個別の指導を受け、ゼミで集団的に学び、個別発表を行う。卒業論文テーマの確定を行う。 〔4年次後期〕 「卒業研究Ⅱ」を履修。「卒業研究Ⅰ」を継続し、グループによる討議、個別指導を行い。卒業論文を完成させる。12月下旬にはゼミごとの研究成果発表会を行う。2月上旬には卒業論文の提出。																																																										
テキスト・参考書：各担当教員が提示する。																																																										
評価方法・評価基準： <table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>定期試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>30</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>20</td></tr><tr><td>演習</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>20</td></tr><tr><td>その他</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>30</td></tr></table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	定期試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度	○	○	○	○	○	○	30	受講者の発表	○	○	○	○	○	○	20	演習	○	○	○	○	○	○	20	その他	○	○	○	○	○	○	30
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																			
定期試験 (中間・期末試験)																																																										
小テスト・ 授業内レポート																																																										
授業態度	○	○	○	○	○	○	30																																																			
受講者の発表	○	○	○	○	○	○	20																																																			
演習	○	○	○	○	○	○	20																																																			
その他	○	○	○	○	○	○	30																																																			
履修上の注意：本科目は、学生の主体的な学び、発表を軸とするものである。積極的に取り組むこと。																																																										

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ (Senior Thesis I・II)		近藤 功行
授業の到達目標及びテーマ 担当者のところでは、第4章構成で終わるため、規定枚数の心配はない。この章立てで書き終わるとそこはすでにクリアしているからだ。大学院進学にあたり、通用する論文指導を実施している。学部レベルにおける当該論文指導の手法は、[はじめに]+[第1章 各節立て+小括～第4章 各節立て+小括]+[おわりに（課題）]+[文献]の構成である。各章の始まり部分で、各章でこれから何を論じるのか明記させる。また、各章ごとに小括でまとめることとし、そのことは、各章立てがどこでどう有機的に連動するのかを説明することともつながる。第4章構成の章立てを行うことで、当該論文で犯人が捜し出しているのか、ここを一緒にみてトレーニングすることとなる。文献は10冊程度の挿入を図る。これらの作業を一緒に行うことで、就活と連動したこうした諸作業から、自己の研究を対外的にも口述できる力が養われ、どんどん伸びてゆくことが期待される。学術的内容と社会的視座の両方を学生は、この1年間で学ぶこととなる。		
授業の概要 学際的領域の担当として、1期生では、日米両文化の食、アロマセラピーとハーブを通じた癒やし、自己のジム通いを通してのスポーツの重要性、沖縄に移住してくる人の意識面、日本人の宗教観、絵本、三味線を通してのウチナーンチュの心、といった内容の7名の卒論提出があった。2期生では、ロハス・エコ・環境問題、ダンスセラピー、バスケットボール、食の安全性、沖縄のリゾートウエディングと観光、沖縄の人と音楽の繋がり、ギャンブル依存症（パチンコ依存症）、美容・ブライダル、ペットと生きる質の変化、ヨーロッパ文化とサッカー、沖縄の祖先崇拝の精神、愛国心と道徳教育、青年会活動とエイサー・非行撲滅、肥満と健康、ステレオタイプ、子供の出産・幸せな結婚、現代人の健康と運動、ハワイのフラ・エステ、をめぐる18名の研究があった。3期生11名は、これ以外の内容を取り組んでおり、自己の興味・関心を発展させることを優先しているため、テーマ設定に関してのいわゆる縛りを設けず、自己の研究を発展させることを目指している。4期生は、17名が終了した。 予習：随時、説明してゆきます。 復習：同上		
卒業研究（演習）の流れ 各自の卒論を進める中で、論文の書き方を習得させることを目標に置く。そのため、1期生から全員、本論に関しては第1章から第4章までの構成で書く指導を実施（「はじめに」「終わりに（課題）」「文献」）。各章各節と各章の最後に「小括」（章のまとめ）を挿入して、論文を展開する技法を指導している。当初抱いていた自分の興味・関心は、絶対に盛り込むが鉄則である。指導者側がみれば、絶対にどこかにその内容は盛り込めるため、自己の関心を引き出す努力を学生と指導者側で探求・追求していく。		
4月～ 6月	① テーマ設定の仕方についての指導。 ② 先行研究の文献検索の仕方の指導。 ③ 研究方法の検討。 ④ 文献挿入に際して有効なインターネット検索とそうでない場合の説明。 ⑤ 章立て節立て（各章ごとの最後に「小括」を挿入）に向けた学習（1期生から、これまで第1章～第4章構成で卒論指導実施）。 ⑥ アンケート調査の手法を学ぶ（実施者を想定し）＆予備（プレ）調査実施、分析・検討。 ⑦ 論文構成の確認（「はじめに」「本論（第1章～第4章）」「おわりに（課題）」「文献」）。 ⑧ [中間発表会（6月期予定：3年次ゼミ学生も同席）]。	
7月～ 9月	① アンケート調査（実施者のみ）票の作成（アンケートをつくり聞き取り調査にまわす場合もあり）。 ② アンケートを実施する学生は7月期迄に終える指導。 ③ 卒業論文指導（夏休み、各自での実施体制をつくる）。	
10月～12月	① 本調査の実施。 ② データ整理と分析。 ③ 各章節の文章化（指導教員と詰めてゆく作業を繰り返す）。 ④ 引用と参考文献の用い方実践（各自の卒論を通して、文献と本文記載内容を実際に全件チェック）。 ⑤ [卒論進展状況の発表（卒後の進路方向性などを含む）：4年次のみで実施]。	
12月（冬休み）	① 全体文章のチェック（本論：第1章～第4章迄の入力中の文章） ② 各章の[小括]文章の挿入。「要約」を書く作業。「キーワード」の抽出。「目次」（図表がある場合これらも該当）をつくる作業。 ③ 文献が10冊以上挿入されているか。必要な場合は「謝辞」挿入。	
1月～ 2月	① 研究結果のまとめ（指導教員と詰めてゆく作業を繰り返す）。	

	② 提出に向けた指導教員との最終の詰めの作業。 ③ 本論あとの「終わりに」の中で、今回解明出来なかった内容&将来に持ち越すこととなる「課題」文章作成&「要約・キーワード」「目次(本文&図表)」「表紙」作成。 ④ 挿入された全文献記載の整合性を指導教員と最終チェック&完成。																																																									
テキスト・参考書： 指定なし。随時、紹介してゆく。卒論の「文献」では、書籍以外に学会誌を含めた論文挿入があれば良いが、必ずそれが必要な訳ではない。各自の内容で、必要に応じて挿入。																																																										
評価方法・評価基準： 卒業論文指導は、上記の流れのように章・節立ての手助け含めて、マンツーマンでのやりとりを実施している。そのため、最終提出があった評価に関して『秀』以外は存在しない。それ以外の評価でなければ困る学生に関しては相談に応じる。ただし、過去にその事例はない。																																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価 定期試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>氷塊に加え</td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加え</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加え</td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加え</td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加え</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							氷塊に加え	小テスト・ 授業内レポート							評価に加え	授業態度							評価に加え	受講者の発表							評価に加え	演習							評価に加え	その他	○	○	○		○	○	100
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																			
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							氷塊に加え																																																			
小テスト・ 授業内レポート							評価に加え																																																			
授業態度							評価に加え																																																			
受講者の発表							評価に加え																																																			
演習							評価に加え																																																			
その他	○	○	○		○	○	100																																																			
履修上の注意： 1) 「何でかねえ」と当初疑問を持ったことを、科学的に解明する力が必要だと考える。「第○章第○節と第○章第○節のここを見て下さい」「ここで類似あるいは相違があるでしょう。だから、最後に出てくる犯人を決める材料はここにあるんです。」、といった裏付けが実施出来るかどうか。また、自分が作ったオリジナルな図・表（ここでは、欄外に「2010年：××××作成」記載をする。××××は卒論提出者の氏名である）で勝負出来れば、この論文はある意味、新発見(New Finding)が得られたことにつながる。 2) 卒業論文は、他の講義課題の提出と違って、後輩に残してゆくものとなります。そのため、教員と一緒に二人三脚となり、「何でかねえ」と考えたテーマを熟考し、犯人となる手がかりを求め、最後に犯人を突き止めることとなる論述をしてゆくこととなりますが、前述しているように、最後につく評価は1つしかありません。1期生から、卒論を仕上げて出すことは、最高レベルの成績評価であり、後輩が、他の人が読んで恥ずかしくない論文が仕上がっていることを意味します。最後に記載された文献が、本文でちゃんと書かれているのか、そうしたこと、全てのチェックをして終えることとなります。 [担当教員メールアドレス（質問・レポート等の受付）] noriyuki@oejc.ac.jp メールやりとり及び、随時、下記研究室来研で指導を実施している。 [研究室] 北研4-4																																																										

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員					
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ (Senior ThesisⅠ・Ⅱ)		高崎 正名					
授業の到達目標及びテーマ 企業のビジネス活動における様々な動向・課題について研究・分析を行い提言をおこなう。							
授業の概要 私たちはインターナショナル・ビジネス領域における様々な課題を取り上げ、研究を行っています。この領域は世界の経済・経営・金融の動向を常にウォッチしていく分野であり、身近な沖縄企業の活動状況から世界の金融市場までと幅広く、極めてチャレンジングな分野です。5期生から8期生の研究テーマを参考までに、例を挙げて紹介します。 5期生（2012年3月卒業） ①ネット社会における新たな広告戦略 ②ウチナンチュよ オキナワの可能性を広げるのだ ②ハローキティから学ぶマーケティング戦略 ③沖縄農業ビジネスの発展性 等 6期生（2013年3月卒業） ①女性を伸ばし、日本を伸ばす ②路面電車と創る沖縄の未来 ③メディカルツーリズム沖縄観光等 7期生(2014年3月卒業) ①「アーティストが恋人」の恋人戦略 ②ココ・シャネルに学ぶ自立と責任 ③主夫始めました 等 8期生（2015年3月卒業） ①日本マクドナルドの利用者拡大に向けて ②沖縄の模合～地域金融のあり方～ ③ランドセル革命 等 予習：事前配布資料のポイントをよく整理し、理解を進めておくこと 復習：授業内容についての理解を一層深めていくために講義ノートを作成すること							
卒業研究（演習）の流れ 4月～6月 卒論作成のための基本学習 ・テーマの選定・卒論のきまり・卒論の書き進め方・文献の集め方・研究の進め方 7月～9月 論文作成、第1回発表会・意見交換 10月～12月 論文作成、論文の中間案提出、第2回発表会・意見交換 1月～2月 論文の最終詰め(個別指導中心)							
テキスト・参考書： 逐次紹介します。							
評価方法・評価基準：卒論の評価は下記項目を総合的に判断して決定します。 ①十分な基礎知識・研究に基づいて書く。 ②先行研究との比較をする。 ③自分の主張や根拠を明確にする。 ④予想される批判やそれに対する反論を用意する。							
成績評価 到達目標等 定期試験 (中間・期末試験) 小テスト・ 授業内レポート	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
授業態度	○	○	○				10
受講者の発表	○	○	○		○		80
演習							
その他			○	○			10
履修上の注意： [受講生への要望] 卒論作成は担当教員と二人三脚で進む協同作業です。そして、卒論に取り組むに際に必要な姿勢は、卒論にかけける意気込みと情熱です。卒論作成を通じ様々なものを吸収していこうとする意欲を持って参加してください。 [担当教員メールアドレス（質問・レポ等の受付）] mtakasaka@ocjc.ac.jp [研究室] 西研4－7							

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員						
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ (Senior Thesis I・Ⅱ)		新垣 誠						
授業の到達目標及びテーマ								
知識理解：物事の内容を説明できる。		関心意欲：社会に興味を持てる。						
思考判断：論理的思考ができる。		態 度：計画的な研究計画を立てる。						
授業の概要								
卒業研究Ⅰでは、知的財産権や論文の形式・構成など、学術論文執筆における基礎を学ぶ。また、卒業研究における様々な調査方法、統計処理、先行研究調査、理論的枠組の活用方法を学ぶ。卒業研究Ⅱでは、実際の執筆作業を通して、理論展開、議論の整合性、文章構成のテクニックなど、学術論文における技術を習得する。卒業研究・卒業論文作成の作業を通して、豊かな観察力、言語力、コミュニケーション能力、批判的思考力、論理的思考力を身につけることが、主な目的である。 国際平和学や国際関係論、国際ボランティア論など、インターナショナル・サービス関連科目、また異文化理解やカルチュラル・スタディーズ、文化人類学などの講義で扱ったトピックを中心に研究テーマを選択し、データ収集をおこない、論文を執筆する。学際研究であるため、理論的アプローチや調査方法などに関して特に規定はないが、綿密な相談の上、研究テーマを決定することが望ましい。 予習：次回の内容予告を受け、必要な専門用語などを調べておくこと。 復習：次回の内容との連続性を考えて概念などの再確認をおこなうこと。								
卒業研究（演習）の流れ								
卒業研究Ⅰ（4月～7月）：テーマ設定のための事前調査、テーマ選択の指導、テーマ決定。先行研究調査。学術論文の基本的考え方、データ収集方法、質的・量的リサーチ、統計処理方法などに加え、引用の方法、文章の体裁・構成、論文執筆の手順などを学ぶ。研究計画書の最終バージョン、アウトラインの完成、先行研究のまとめをおこなう。 夏休み（8月～9月）：インタビュー、聞き取り調査、参与観察、アンケートなどの実施。 卒業研究Ⅱ（9月～2月）：執筆開始。データ処理作業、個別相談、グループでの読み合わせ作業、中間報告、体裁整え・仕上げの作業。								
テキスト・参考書： 必要な資料等は、講義担当者が準備します。								
評価方法・評価基準：								
卒業研究Ⅰ：出席、各週に課される課題、研究計画書、先行研究のまとめなどの提出状況と、内容をもとに評価します。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
定期試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度			○	○				10
受講者の発表						○		10
演 習								
その他							○	80
履修上の注意：								
作業を進行させる各ステップにおいて、綿密な打ち合わせと指導・相談が必要です。設定された時間には必ず出席し、課された作業を確実にこなすことが重要となります。								

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員																																
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ （Senior Thesis Ⅰ・Ⅱ）		浜川 仁																																
授業の到達目標及びテーマ 卒業論文を完成させる。テーマは、文学テキスト及び動画などこれに類するものを批判・分析するものが望ましい。																																		
授業の概要 リサーチの方法に始まり、読みやすく説得力のある表現方法を身につけ、参照・引用のルールにきちんと従って論文を書く能力を養う。 予習：先行研究を読んで概説をまとめ、2～3分で説明できるようにしておく。 復習：指摘されたことを見直し、卒業論文内に組み入れる。																																		
卒業研究（演習）の流れ 4月～ リサーチの方法を学びつつ、先行研究や関連情報を収集する。 5月～ 7月 資料収集と、進捗状況の報告 8月～ 9月 経過説明とアウトラインの作成 10月～11月 研究経過を口頭で説明し、アドバイザーと他の受講生と意見交換を行なう。 12月～ 1月 執筆作業 2月 最終調整																																		
テキスト・参考書： 特になし																																		
評価方法・評価基準： 以下を目安とし、評価する。 <table><tr><th>到達目標等 成績評価</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>卒業論文</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>80</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>10</td></tr></table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	卒業論文	○	○	○	○	○	○	80	授業態度			○	○			10	受講者の発表	○	○	○	○	○	○	10
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																											
卒業論文	○	○	○	○	○	○	80																											
授業態度			○	○			10																											
受講者の発表	○	○	○	○	○	○	10																											
履修上の注意：ミーティングは毎週出席し、調査、執筆、校正に責任感をもって取り組んでもらいたい。																																		

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員						
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ (Senior Thesis I・II)		照屋 信治						
授業の到達目標及びテーマ								
大学における学習の最終的な仕上げを目指す。各学生が、それぞれ主体的に研究課題を設定し、適正な手順に則って研究し、その成果を卒業論文・レポート等の適切な方法によって発表する。								
授業の概要								
担当者の専門は、近代沖縄教育史・思想史である。現代の教育、近現代教育史、近現代沖縄史に関連する卒業研究の指導を行う。主に歴史学の学問的な手法に依拠する。先行研究を収集・精読し、史料を読み・考え、論文の構想を練り、口頭発表、論文完成という手順を踏む。								
予習：指定された論文を熟読すること								
復習：指定された論文を、自身の論文に活かすつもりで再読すること								
卒業研究（演習）の流れ								
前期においては、研究テーマ検討、講読、テーマ決定をおこなう。各学生に4月に漠然とでもテーマを発表してもらう。その後、講読において、学問的な手法を確認してもらい、その後、各学生はテーマと主な分析史料を決定する。								
今年度の講読に関しては、教育・歴史・沖縄の三点が交錯するという点から、1940年の「沖縄方言論争」を取り上げる予定である。ただし、参加者の興味関心を確認の上で、別のテーマに変更する可能性もある。								
後期においては、中間発表、章立て検討、執筆、口頭発表、論文完成という流れである。各参加者、2回ほどの発表を行う。								
概ね以上を予定しているが、参加者の人数により、指導形態が変わる可能性がある。								
テキスト・参考書： 教場において随時提示する。								
評価方法・評価基準： 卒業論文の水準によって評価する。出席状況も加味する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度								
受講者の発表								
演 習	○	○	○	○	○	○	○	20
その他	○	○	○	○	○	○	○	80（卒論）
履修上の注意：								
卒業論文の作成には、莫大な時間と労力を要する。よく考えたうえで、担当教員・研究テーマをきめること。どのような手法・分野を選ぼうとも、卒業研究をしっかりと行った経験は、卒業後に何らかの形で役立つものであるから、しっかりとがんばってもらいたい。								

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員					
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ (Senior Thesis I・Ⅱ)		新垣 友子					
授業の到達目標及びテーマ 自ら明らかにしたいテーマを設定し、文献研究・調査等を踏まえて卒業論文を完成させる							
授業の概要 音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論などあらゆる側面から言語に関する研究を行なう。研究の対象となる言語は主に日本語、英語、沖縄語(うちなーぐち)で、身近にある言語現象を細かく調査・分析し、何故そのような言語現象が起こるのか追求する。コーパスを用いて談話分析を行なったり、必要に応じてフィールドワークを実施し、データの収集・分析法を学ぶ。 予習：前期は先行研究の読み込み、後期は研究計画書に従って執筆 復習：フィードバックに沿った課題							
卒業研究（演習）の流れ							
4月～6月	卒論の書き進め方、研究の方法を詳しく学ぶ。 先行研究を収集し、テーマ設定のための演習を行なう。						
7月	中間報告会を行なう。(研究の目的、方法、章立て、先行研究など。)						
8～10月	先行研究の読み込み、論文構成、調査研究。						
10～11月	調査結果の分析と考察。						
12～1月	研究結果のまとめ						
2月	推敲						
テキスト・参考書： 随時提示する。							
評価方法・評価基準： 卒業論文(80%) 授業態度（発表、参加度など）(20%)を基準とし、総合的に評価する。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○					80%
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			20%
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意： ・卒業研究は学生主体であるため、一方的な講義は期待せず、積極的に授業に参加すること。 ・毎回、授業では発表・発言を求められるため、かなりの時間を割いて準備をすることが要求される。 予習を怠らないこと。 ・学生同士のフィードバックもとても大切である。みんなで作る授業であるという意識を持って、積極的にピア・レビューを心がけること。							

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員																																			
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ (Senior Thesis I・Ⅱ)		David Ulvog																																			
授業の到達目標及びテーマ																																					
卒業論文の完成。卒業論文のテーマは担当教師との相談の上、決定。																																					
授業の概要																																					
Over the course of one year, students will research a topic, report regularly on their progress, present the results of research to the class and write the graduation thesis.																																					
卒業研究（演習）の流れ																																					
April~July (1 st term): Determine topic Learn research techniques and commence research Form basic outline of thesis																																					
October~February (2 nd term): Continue research in more depth Present research findings Submit initial and final drafts																																					
予習：Students should work consistently throughout the week and each week bring to the advisor any notes, records or writing for discussion and review																																					
復習：Students should constantly be reading and rereading their writing in order to make improvements towards the final thesis																																					
テキスト・参考書： n/a																																					
評価方法・評価基準：																																					
<table><tr><th>到達目標等 成績評価</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>授業態度</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>必修</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>必修</td></tr><tr><td>演 習</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>必修</td></tr><tr><td>卒業論文</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td>100</td></tr></table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価割合(%)	授業態度	○		○	○		必修	受講者の発表					○	必修	演 習	○	○	○	○		必修	卒業論文	○	○			○	100
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価割合(%)																															
授業態度	○		○	○		必修																															
受講者の発表					○	必修																															
演 習	○	○	○	○		必修																															
卒業論文	○	○			○	100																															
履修上の注意：登録前に担当教師と相談するのが必修である。																																					

授業科目名	2 単位 (0－2)	担当教員
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ (Senior Thesis I・Ⅱ)		Christopher Valvona
授業の到達目標及びテーマ Students will develop their skills in research methods, critical thinking, planning, and writing.		
授業の概要 Having chosen a suitable topic for research, students will design and carry out research in order to answer a research question or prove/disprove a hypothesis relating to that topic. Although the advisor’s area is English Language Teaching, each student’s topic is not limited. Students will begin by reflecting on suitable topics for research, including considering issues of scope, academic relevance, and researchability. Students then select one appropriate topic. Students will then do background reading and research on the topic in order to develop a deep understanding of the wider topic, and to help develop a research question or hypothesis for research. Students then consider the various ways that research can be carried out, and apply the most suitable method(s) to their own topic. After carrying out the research and collecting data, students analyse the data and look for patterns and findings of interest. Finally, students write up their research, including detailed explanation of the topic, the research question, the methodology, the results, discussion, and conclusion. The final thesis will have relevant references and appendices included. <i>Note: the thesis can be in English or Japanese, although English is preferred.</i>		
予習：Students should work consistently throughout the week and each week bring to the advisor any notes, records or writing for discussion and review 復習：Students should constantly be reading and rereading their writing in order to make improvements towards the final thesis		
卒業論文作成までの流れ Although every student will follow a slightly different timeline, the rough outline is as follows: 4 th year April: Topic selection, background reading and planning May – July: preparation and carrying out of research work (further reading, interviewing, preparing experiments, surveys etc.) Summer Vacation: begin writing up results. October – December: complete 1 st draft with advisor’s guidance January: make corrections according to advisor’s instructions. February:submit final thesis		
テキスト・参考書:This will depend on the area selected for research. Follow advisor’s instruction.		
評価方法・評価基準：The advisor assigns a grade based on the quality of research and the level of effort <u>throughout the year</u> . An incomplete thesis will not receive a final grade, and therefore no credit.		
成績評価 到達目標等 (定期試験 (中間・期末試験) 小テスト・ 授業内レポート 授業態度 受講者の発表 演 習 授業への参加度	知識・理解 ○ 	

授業科目名	2 単位 (0－2)	担当教員					
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ (Senior Thesis I・Ⅱ)		Daniel Broudy					
授業の到達目標及びテーマ： Students will develop their skills in research methods, critical thinking, planning, and writing.							
授業の概要： Having chosen a suitable research topic, students consult with the professor to formulate research questions and/or to pose hypotheses so as to undertake fruitful research that leads to a finished product with the potential for publication and/or further investigation in a graduate program. While the advisor’s area of academic study is primarily in psycholinguistics and rhetoric, students are free to develop reseach projects that also intersect with these areas. Students begin their project by reflecting critically on the knowledge they already possess through lived experience, then work to formulate any questions that might seek to define, understand, survey, analyze, or critique problems they see. From these questions emerge a list of readings students can address so as to raise their awareness and deepen their understanding of any body of literature that presently treats the problems they are interested in solving. From their readings come further critical reflections on the questions students had posed early on in their research as well as any necessary re-adjustments to their claims, questions, hypotheses, and/or perspectives. Students then consider the variety of methods that might be used to gather data for the questions they have and how data might effectively be analyzed, contextualized, and presented in ways that are meaningful and relevant to the underlying goals of the project. Finally, students work to express their argument in reflection, summary, and analysis of their inquiries. Since the process of writing is itself a recursive activity, students enjoy the benefit of experiencing all writing and reseraching acts that lead to success in the senior thesis project.							
卒業論文作成までの流れ Though each student will likely progress within his or her own timeline, a rough outline of the course is as follows: April: Topic selection, background reading, organzing ideas, and planning a research strategy May – July: Preparation and carrying out research (further reading, interviewing, preparing experiments, surveys etc.) Summer Vacation: Begin drafting results. October to December: Finish 1 st draft with advisor’s guidance January: Make corrections according to advisor’s suggestions Feburary:Submit final draft of thesis							
テキスト・参考書：This depends on the area selected for research. Follow advisor’s instruction.							
評価方法・評価基準：The advisor assigns a mark based on quality of research and level of effort exhibited by student throughout the entire year. Incomplete theses receive no passing mark.							
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価割合(%)
	授業態度						
	小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○	100
	演 習						
	受講者の発表						
	卒業論文						
履修上の注意：Participation is an important part of this course. This means that coming to meetings on time and focusing on the work is necessary for success.							

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員																																										
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ （Senior Thesis Ⅰ・Ⅱ）																																												
授業の到達目標及びテーマ Students will develop their skills in thinking, planning, and writing in English.																																												
授業の概要 Graduation Thesis: Over the two year period, students will undertake to write their graduation thesis paper. In doing so, students will steadily improve their academic writing and thinking skills.																																												
卒業論文作成までの流れ ● Second year (April - March): Students will meet their advisor and other zemi members. And learn the basics of academic research. Students will plan their outline and make a detailed schedule for research and completion of their thesis. ● Third year (April - February): Students will conduct research, and write their first, second and final drafts.																																												
テキスト・参考書：n/a																																												
評価方法・評価基準：The advisor assigns a grade based on the quality of research and the level of effort <u>throughout the year</u> . An incomplete thesis will not receive a final grade, and therefore no credit.																																												
<table><tr><th>到達目標等 成績評価</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>評価割合（％）</th></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>100</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>卒業論文</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価割合（％）	授業態度							小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○	100	演 習							受講者の発表							卒業論文						
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価割合（％）																																						
授業態度																																												
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○	100																																						
演 習																																												
受講者の発表																																												
卒業論文																																												
履修上の注意：																																												

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員																																																																					
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ (Senior Thesis I・Ⅱ)		金 永秀																																																																					
授業の到達目標及びテーマ 自ら問題を設定し、資料を収集して文献を読み解く。思考を整理し、研究内容を口頭発表する。 論文規定に従って、卒業論文を完成させることを目標とする。																																																																							
授業の概要 学生自ら研究テーマを設定する。情報収集、文献研究の方法、論文の書き方を学び、口頭発表を経て、論文を仕上げる。 予習：卒論テーマに関する文献をあらかじめ探して読む 復習：指導された内容と文献を精査する																																																																							
卒業研究（演習）の流れ 第1回：オリエンテーション「卒業論文とは」 第3～4回： 研究課題の設定，研究の進め方，資料収集 第5～6回： 論文の読み方と書き方 第7～13回： ディスカッション，口頭発表 第14回： 卒業研究中間報告会 第15回： 前期まとめ 第16～20回： 論文の書き方 第21～25回： 個人指導 第26回： 卒業研究発表 第26～29回： 個人指導 第30回： まとめ 卒業論文提出																																																																							
テキスト・参考書： 特になし																																																																							
評価方法・評価基準：																																																																							
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>成績評価</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>定期試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>50</td></tr><tr><td>演習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>20</td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価								定期試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度			○				30	受講者の発表	○	○					50	演習								その他			○	○			20							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																																
成績評価																																																																							
定期試験 (中間・期末試験)																																																																							
小テスト・ 授業内レポート																																																																							
授業態度			○				30																																																																
受講者の発表	○	○					50																																																																
演習																																																																							
その他			○	○			20																																																																
履修上の注意： 学生の自発的な資料収集と、担当教員との綿密な相談、締め切り厳守を求めます。																																																																							

授業科目名		2 単位 (0－2)	担当教員																																																								
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ (Senior Thesis I・Ⅱ)			大城 直人																																																								
授業の到達目標及びテーマ 学術論文作成のプロセス（テーマ設定/先行研究リサーチ/データ収集/データ分析/データ解釈/論文執筆）を体得し、各自の研究テーマに沿った論文の完成を目指す。																																																											
授業の概要 先行研究リサーチの成果発表と並行して、データ収集に向けた取り組み（アンケート調査の質問項目作成など）を進める。また、データ分析の手法（統計ソフトの活用など）を学び、論文執筆の土台づくりを行う。さらに、論文執筆における約束事（引用方法、図表等の提示方法など）についても具体例を取り上げ、理解を深める。 予習：研究テーマに沿って、各自の課題（先行研究リサーチ、調査方法の検討など）に取り組む。 復習：指導助言を踏まえ、継続的に課題に取り組む。																																																											
卒業研究（演習）の流れ <table><tr><td>前期（4 月～7 月）</td><td>先行研究リサーチと並行して、データ収集に向けた準備（アンケート調査の質問紙作成など）を行った後、データ収集（アンケートの実施など）に取り組む。</td></tr><tr><td>後期（10 月～2 月）</td><td>統計ソフトを用いてデータを処理・分析し、さらに分析結果の解釈を試みる。その後、論文の執筆作業を開始する。後半は個別指導を中心に、論文の推敲を重ね完成させる。</td></tr></table>				前期（4 月～7 月）	先行研究リサーチと並行して、データ収集に向けた準備（アンケート調査の質問紙作成など）を行った後、データ収集（アンケートの実施など）に取り組む。	後期（10 月～2 月）	統計ソフトを用いてデータを処理・分析し、さらに分析結果の解釈を試みる。その後、論文の執筆作業を開始する。後半は個別指導を中心に、論文の推敲を重ね完成させる。																																																				
前期（4 月～7 月）	先行研究リサーチと並行して、データ収集に向けた準備（アンケート調査の質問紙作成など）を行った後、データ収集（アンケートの実施など）に取り組む。																																																										
後期（10 月～2 月）	統計ソフトを用いてデータを処理・分析し、さらに分析結果の解釈を試みる。その後、論文の執筆作業を開始する。後半は個別指導を中心に、論文の推敲を重ね完成させる。																																																										
テキスト・参考書： 必要な書類は適宜、授業内で配付する予定です。																																																											
評価方法・評価基準： <table><tr><th>到達目標等 成績評価</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合（%）</th></tr><tr><td>定期試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>4 0</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>6 0</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）	定期試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度			○				4 0	受講者の発表	○	○					6 0	演 習								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）																																																				
定期試験 (中間・期末試験)																																																											
小テスト・ 授業内レポート																																																											
授業態度			○				4 0																																																				
受講者の発表	○	○					6 0																																																				
演 習																																																											
その他																																																											
履修上の注意： 学生の自発的な資料収集と、担当教員との綿密な相談、締め切り厳守を求めます。																																																											

Oral Communication

There are two things you must do to communicate orally. You must be able to understand what you hear and be able to put into understandable English what you want to say. In these classes you will get a large dose of listening. The way to understand spoken English is to listen, listen, and then listen some more. The instructor will speak to you in English and, each week, you will also listen to recorded material (both audio and video) in the language laboratory or on the internet.

You will also be given many opportunities to speak English with your classmates, and you will be expected to speak to your instructor in English. Although the focus of these classes is oral communication, we will also use the written word to assist you in understanding what you hear, help you develop accuracy by giving you the chance to rehearse what you want to say in English, and provide you with the opportunity to increase your vocabulary.

The key to success in oral communication is to USE English. It is not enough to passively sit in the classes, you must be prepared to open your mouth and speak.

Oral Communication is divided into 6 levels. Similar formats are used in each level but both the difficulty and amount of material covered increase with each level. As students progress through the levels, they will be expected to be able to use English more and more, and should not need to be pushed by the teacher to do so.

授業科目名	4 単位 (0-8)	担当教員					
Oral Communication I		Christopher Valvona					
授業の到達目標							
The goal of this class is to help students whose English is not yet developed enough. It will help improve ability to communicate in English, and actually use English in a meaningful manner. Students will be shown the very basics of English communication, starting with basic communication and pronunciation skills. Students in this class are expected to progress quickly, with an aim to catching the other OC classes as quickly as possible.							
授業の概要							
This is an oral communication English course, so the emphasis will be on speaking and listening. There will be a lot of pair work and group work, revolving around speaking, listening, and pronunciation skills. In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.							
予習 : Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons							
復習 : Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes							
授 業 計 画 : These are subject to change, but as a general guide the weekly themes are:							
第 1 回 : Ice breaker activities and explanation of classroom English	第 9 回 : Meeting people on the internet: a good idea?						
第 2 回 : First impressions	第 10 回 : Do young people need to slow down?						
第 3 回 : Shoplifting: moral dilemmas	第 11 回 : What's your pet peeve?						
第 4 回 : Technology: addicted to the internet?	第 12 回 : Understanding disabilities						
第 5 回 : Dating: who should pay, the man or the woman?	第 13 回 : The environment						
第 6 回 : Should you say "I love you" all the time?	第 14 回 : Follow your dream, no matter what?						
第 7 回 : Review and mid-term assessment	第 15 回 : Review						
第 8 回 : Must we always tell the truth?	第 16 回 : Final assessment and interviews						
テキスト : To be confirmed. Please check for the required text <u>for your teacher</u> at the bookstore.							
参 考 書 : A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.							
評価方法・評価基準 :							
Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy.							
NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections.							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			20
その他							
履修上の注意 : Students should be aware that much of their grade is based on in-class performance, such as talking in English in class and actively participating. Both are essential for improvement in speaking English.							

授業科目名	4 単位 (0－8)	担当教員						
Oral Communication II		Christopher Valvona						
授業の到達目標								
The goal of these classes is to improve ability to communicate in English, and actually use English in a meaningful manner. The teacher will provide students with chances to speak, and will also support students in terms of vocabulary, grammar, and pronunciation, where necessary. It may take time to build up the necessary confidence, so these classes will provide a framework for students to develop their communicative skills.								
授業の概要								
This is an oral communication English course, so the emphasis will be on speaking and listening. There will be a lot of pair work and group work, revolving around speaking, listening, and pronunciation skills. In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.								
予習：Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons								
復習：Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes								
授 業 計 画：These are subject to change, but as a general guide the weekly themes are:								
第 1 回：Introductions	第 9 回：Meeting people on the internet: a good idea?							
第 2 回：First impressions	第 10 回：Do young people need to slow down?							
第 3 回：Shoplifting: moral dilemmas	第 11 回：What's your pet peeve?							
第 4 回：Technology: addicted to the internet?	第 12 回：Understanding disabilities							
第 5 回：Dating: who should pay, the man or the woman?	第 13 回：The environment							
第 6 回：Should you say "I love you" all the time?	第 14 回：Follow your dream, no matter what?							
第 7 回：Review and mid-term assessment	第 15 回：Review							
第 8 回：Must we always tell the truth?	第 16 週：Final assessment and interviews							
テキスト：To be confirmed. Please check for the required text <u>for your teacher</u> at the bookstore.								
参 考 書：A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.								
評価方法・評価基準：								
Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy.								
NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections.								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
定期試験 (中間・期末試験)		○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート		○		○	○	○		20
授業態度				○	○			20
受講者の発表								
演 習								
授業への参加度				○	○			20
その他								
履修上の注意：Students should be aware that much of their grade is based on in-class performance, such as talking in English in class and actively participating. Both are essential for improvement in speaking English.								

授業科目名	4 単位 (0－8)	担当教員					
Oral Communication III							
授業の到達目標							
The principal goal of these classes is to continue improving ability to communicate in English. Students in this class will already have displayed a sound knowledge or development in their communication skills. By continuing to practice speaking, listening and pronunciation as much as possible, students should feel more comfortable communicating smoothly in life-like situations by the end of the course.							
授業の概要：							
This course will increase students' fluency in English. It will assist them in engaging more actively in their own learning and prepare them to be able to express their opinions in English. Students will focus on improving listening and speaking skills, and they will actively participate in class by asking and answering questions, engaging in group discussions and giving oral presentations. In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.							
予習：Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons							
復習：Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes							
授 業 計 This may change depending on the textbook selected.							
第 1 回：	Module One- Building awareness of situational conventions	第 9 週：	Module Four- Speaking professionally				
第 2 回：	Module One- Building awareness of appropriateness of questions	第 10 週：	Module Three・Four assessment				
第 3 回：	Module two- Developing problem-solving skills	第 11 週：	Module Five- Creative problem solving				
第 4 回：	Module Two- Building awareness of politeness	第 12 週：	Module Five- Presenting to an audience				
第 5 回：	Module One・Two assessment	第 13 週：	Module Six- Reflecting on acquired skills				
第 6 回：	Module Three- Agreeing, disagreeing and stating opinions	第 14 週：	Module Six- Interviewing				
第 7 回：	Module Three- Practicing presentation skills	第 15 週：	Assessment				
第 8 回：	Module Four- Professional presentation skills						
テキスト：To be confirmed							
参 考 書：A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.							
評価方法・評価基準：							
Class participation, groups discussions, oral presentations, listening tests, short tests (quizzes), end-of-semester test, other methods as determined by the instructors. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy.							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			20
その他							
履修上の注意：All Students must keep a personal English language notebook while studying at OCU.							

授業科目名		4 単位	担当教員				
Oral Communication IV		(0－8)					
授業の到達目標							
The principal goal of these classes is to continue improving ability to communicate in English. Students should be starting to show considerable skill and confidence in their English communication skills. They will now be looking to take their communication to the next level, which will involve a lot more speaking without preparation, without reference to notes, in a smooth and confident manner. Students will also find the content of the class to be more practical, requiring students to communicate in meaningful ways to achieve various goals and tasks. This more closely mirrors real-life communication.							
授業の概要：							
This course will increase students' fluency in English. It will assist them in engaging more actively in their own learning and prepare them to be able to express their opinions in English. Students will focus on improving listening and speaking skills, and they will actively participate in class by asking and answering questions, engaging in group discussions and giving oral presentations. In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.							
予習：Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons							
復習：Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes							
授 業 計 This may change depending on the textbook.							
第 1 回：		Module One- Building awareness of situational conventions					
第 2 回：		Module One- Building awareness of appropriateness of questions					
第 3 回：		Module Two- Developing problem-solving skills					
第 4 回：		Module Two- Building awareness of politeness					
第 5 回：		Module One- Two assessment					
第 6 回：		Module Three- Agreeing, disagreeing and stating opinions					
第 7 回：		Module Three- Practicing presentation skills					
第 8 回：		Module Four- Professional presentation skills					
第 9 回：		Module Four- Speaking professionally					
第 10 回：		Module Three- Four assessment					
第 11 回：		Module Five- Creative problem solving					
第 12 回：		Module Five- Presenting to an audience					
第 13 回：		Module Six- Reflecting on acquired skills					
第 14 回：		Module Six- Interviewing					
第 15 回：		Assessment					
テキスト：To be confirmed							
参 考 書：A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.							
評価方法・評価基準：							
Class participation, groups discussions, oral presentations, listening tests, short tests (quizzes), end-of-semester test, other methods as determined by the instructors. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy.							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40
小テスト・授業内レポート	○		○	○	○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			20
その他							
履修上の注意：All Students must keep a personal English language notebook while studying at OCU.							

授業科目名	4 単位 (0－8)	担当教員					
Oral Communication V		Christopher Valvona					
授業の到達目標							
Because this is the highest level of oral communication, students will be expected to perform at a suitably high level. This means that throughout the course, students should be aiming to communicate solely in English, using language that is well-pronounced, articulated, and of a sufficiently high-level and appropriate register. Grammar mistakes should be avoided, although the principal aim is, as with all other levels of Oral Communication, to actually USE English and communicate a message. Students should also aim to have found their own ‘right way’ to study in the future.							
授業の概要：							
This class will provide a bridge to higher-level courses including Public Speaking, Debate & Discussion, and Advanced Communication. Students will focus on developing the ability to accurately understand lectures, reports or announcements, and then properly express their opinions based on such information. Through numerous activities including role-playing, debate and discussion, presentation and suchlike, the skills necessary for advanced communication will be acquired: exchanging remarks, expressing counterarguments, verifying facts and apologizing. In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.							
予習：Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons							
復習：Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes							
授 業 計 画：Subject to change depending on the textbook selected.							
第 1 回：	Module Eight- Review Countries and Cultures	第 9 回：	Module Twelve- Must Have It				
第 2 回：	Module Nine- Old and New	第 10 回：	Module Thirteen- The Right Kind of Person				
第 3 回：	Module Nine- Exciting New Competition	第 11 回：	Module Thirteen- Discussion				
第 4 回：	Open Discussion	第 12 回：	Module Fourteen- Building Your Dreams				
第 5 回：	Module Ten- Health Problems	第 13 回：	Module Fifteen- Money, Money, Money				
第 6 回：	Module Eleven- The Best things in Life	第 14 回：	Module Sixteen- Imagine				
第 7 回：	Module Eleven- Discussion	第 15 回：	Review				
第 8 回：	Midterm assessment						
テキスト：Dependent on the teacher. Please check for the required text <u>for your teacher</u> at the bookstore.							
参 考 書：n/a							
評価方法・評価基準：							
Class participation, oral presentations, listening tests, short tests (quizzes), end-of-semester test, other methods as determined by the instructors. Grades will be based upon the school grading policy							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			20
履修上の注意：All Students must keep a personal English language notebook while studying at OCU							

授業科目名	1 単位 (0－2)	担当教員					
多読 (Extensive Reading I)		浜川 仁・武村 朝吉					
授業の到達目標及びテーマ							
The goal of this class is to provide students with a designated time to sit and read English books. Students will read graded readers appropriate for their own individual level. Through this process students can progress in three key areas: 1. Students' reading speed will increase. 2. Students' vocabulary will increase. 3. Students will develop an appreciation for the joy of reading. Of course, by reading a lot students will also learn a lot. They might learn about classic literature, about other cultures, or indeed about any of the great many themes within the graded reader literature.							
授業の概要							
At the beginning of the course, students will be shown the extensive reading library, and the graded reader grading system will be explained to them. Students will look at the different books and decide for themselves what level is appropriate. This is not rigid, and students can later choose books of a lower or higher level (in fact, students should later move up a level or two as they become more comfortable with the concept of reading for pleasure.) After that, students will simply begin reading. When they finish a book, they will log the details of the book, including the number of words. They will also write a short report about the book. When they have finished the report, they choose another book and begin reading. They will keep a log throughout the course, which will include a running total of the words they have read. This is submitted with their book reports at the end of the semester for the purposes of assessment. Rules: 1. The process should be enjoyable. If the book is not interesting, choose another one. 2. Students should read at their own pace. 3. Dictionaries are <u>not</u> to be used. 4. Any parts students don't understand should be skipped over. For points 3 and 4, if a student finds that they don't understand many words or phrases, then that book's level is too high. Choose another book at a lower level. 予習(preparation)：多読用テキストを読んだ後、多読メモ用紙に必要事項を記入する。iKnow は一日 10～20 分学習する。 復習(review)：多読用テキストを読んだ後、多読メモ用紙に必要事項を記入する。iKnow は一日 10～20 分学習する。							
授 業 計 画							
第 1 回： 多読とは何か	第 9 回： Reading						
第 2 回： Reading	第 10 回： Reading						
第 3 回： Reading	第 11 回： Reading						
第 4 回： Reading	第 12 回： Reading						
第 5 回： Reading	第 13 回： Reading						
第 6 回： Reading	第 14 回： Reading						
第 7 回： Reading	第 15 回： Reading						
第 8 回： Reading							
テキスト： iKnow!（語彙力強化 e ラーニング）							
参 考 書：							
評価方法・評価基準：							
Attitude－50% Reading log/iKnow－20% (students may be called upon at any stage of the semester to come and talk with the teacher about a book they claim to have read.) Number of words to be read－30% (30,000 words), plus 1% for every 1,000 words after that							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
授業態度	○		○	○			50
課 題（多読）	○		○	○	○		30
課 題（iKnow）	○		○	○	○		20
履修上の注意：							

授業科目名		4 単位 (0－4)	担当教員																																																																
英語講読演習 I (English Reading I)			スミス 陽子																																																																
授業の到達目標及びテーマ テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。																																																																			
授業の概要 使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験（STEP）準 2 級、TOEIC ～290 予習（preparation）：学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。 復習（review）：MyELT 等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。																																																																			
授 業 計 画 ※クラス及び使用テキストに合わせて、変更・調整が加えられます。																																																																			
<table><tr><td>第 1 回</td><td>Unit 1 A</td><td>第 16 回</td><td>Unit 6 A</td></tr><tr><td>第 2 回</td><td>Unit 1 A&B</td><td>第 17 回</td><td>Unit 6 B</td></tr><tr><td>第 3 回</td><td>Unit 1 B</td><td>第 18 回</td><td>Unit 7 A</td></tr><tr><td>第 4 回</td><td>Unit 2 A</td><td>第 19 回</td><td>Unit 7 B</td></tr><tr><td>第 5 回</td><td>Unit 2 A&B</td><td>第 20 回</td><td>Unit 8 A</td></tr><tr><td>第 6 回</td><td>Unit 2 B</td><td>第 21 回</td><td>Unit 8 B</td></tr><tr><td>第 7 回</td><td>Unit 3 A</td><td>第 22 回</td><td>まとめと小テスト</td></tr><tr><td>第 8 回</td><td>Unit 3 A&B</td><td>第 23 回</td><td>Unit 9 A</td></tr><tr><td>第 9 回</td><td>Unit 3 B</td><td>第 24 回</td><td>Unit 9 B</td></tr><tr><td>第 10 回</td><td>Unit 4 A</td><td>第 25 回</td><td>Unit 10 A</td></tr><tr><td>第 11 回</td><td>Unit 4 A&B</td><td>第 26 回</td><td>Unit 10 B</td></tr><tr><td>第 12 回</td><td>Unit 4 B</td><td>第 27 回</td><td>Unit 11 A</td></tr><tr><td>第 13 回</td><td>まとめと小テスト</td><td>第 28 回</td><td>Unit 11 B</td></tr><tr><td>第 14 回</td><td>Unit 5 A</td><td>第 29 回</td><td>Unit 12 A</td></tr><tr><td>第 15 回</td><td>Unit 5 B</td><td>第 30 回</td><td>Unit 12 B</td></tr><tr><td></td><td></td><td>第 31 回</td><td>まとめと小テスト</td></tr></table>				第 1 回	Unit 1 A	第 16 回	Unit 6 A	第 2 回	Unit 1 A&B	第 17 回	Unit 6 B	第 3 回	Unit 1 B	第 18 回	Unit 7 A	第 4 回	Unit 2 A	第 19 回	Unit 7 B	第 5 回	Unit 2 A&B	第 20 回	Unit 8 A	第 6 回	Unit 2 B	第 21 回	Unit 8 B	第 7 回	Unit 3 A	第 22 回	まとめと小テスト	第 8 回	Unit 3 A&B	第 23 回	Unit 9 A	第 9 回	Unit 3 B	第 24 回	Unit 9 B	第 10 回	Unit 4 A	第 25 回	Unit 10 A	第 11 回	Unit 4 A&B	第 26 回	Unit 10 B	第 12 回	Unit 4 B	第 27 回	Unit 11 A	第 13 回	まとめと小テスト	第 28 回	Unit 11 B	第 14 回	Unit 5 A	第 29 回	Unit 12 A	第 15 回	Unit 5 B	第 30 回	Unit 12 B			第 31 回	まとめと小テスト
第 1 回	Unit 1 A	第 16 回	Unit 6 A																																																																
第 2 回	Unit 1 A&B	第 17 回	Unit 6 B																																																																
第 3 回	Unit 1 B	第 18 回	Unit 7 A																																																																
第 4 回	Unit 2 A	第 19 回	Unit 7 B																																																																
第 5 回	Unit 2 A&B	第 20 回	Unit 8 A																																																																
第 6 回	Unit 2 B	第 21 回	Unit 8 B																																																																
第 7 回	Unit 3 A	第 22 回	まとめと小テスト																																																																
第 8 回	Unit 3 A&B	第 23 回	Unit 9 A																																																																
第 9 回	Unit 3 B	第 24 回	Unit 9 B																																																																
第 10 回	Unit 4 A	第 25 回	Unit 10 A																																																																
第 11 回	Unit 4 A&B	第 26 回	Unit 10 B																																																																
第 12 回	Unit 4 B	第 27 回	Unit 11 A																																																																
第 13 回	まとめと小テスト	第 28 回	Unit 11 B																																																																
第 14 回	Unit 5 A	第 29 回	Unit 12 A																																																																
第 15 回	Unit 5 B	第 30 回	Unit 12 B																																																																
		第 31 回	まとめと小テスト																																																																
テキスト： <i>Reading Explorer Foundations Second Edition</i> （HEINLE, CENGAGE Learning）																																																																			
参 考 書： 参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。																																																																			
評価方法・評価基準： 以下を目安とする。																																																																			
<table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合 (%)</td></tr><tr><td>小テスト</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>60</td></tr><tr><td>授業態度</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>演 習</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td>30</td></tr></table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	小テスト	○	○	○		○		60	授業態度	○		○	○			10	演 習	○		○			○	30																																
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																																																												
小テスト	○	○	○		○		60																																																												
授業態度	○		○	○			10																																																												
演 習	○		○			○	30																																																												
履修上の注意：講読の中ではもっともベーシックな内容なので、しっかり理解に努めよう。																																																																			

授業科目名	4 単位 (0-4)	担当教員					
英語講読演習 II (English Reading II)		レイフィールド典子・ 渡久山幸功・崎原千尋					
授業の到達目標及びテーマ： テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。							
授業の概要 使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験（STEP）準 2 級～2 級、TOEIC 290～380 予習（preparation）： 学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。 復習（review）： MyELT 等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。							
授 業 計 画 ※クラス及び使用テキストに合わせて、変更・調整が加えられます。							
第 1 回	Unit 1 A	第 16 回	Unit 6 A				
第 2 回	Unit 1 A&B	第 17 回	Unit 6 B				
第 3 回	Unit 1 B	第 18 回	Unit 7 A				
第 4 回	Unit 2 A	第 19 回	Unit 7 B				
第 5 回	Unit 2 A&B	第 20 回	Unit 8 A				
第 6 回	Unit 2 B	第 21 回	Unit 8 B				
第 7 回	Unit 3 A	第 22 回	まとめと小テスト				
第 8 回	Unit 3 A&B	第 23 回	Unit 9 A				
第 9 回	Unit 3 B	第 24 回	Unit 9 B				
第 10 回	Unit 4 A	第 25 回	Unit 10 A				
第 11 回	Unit 4 A&B	第 26 回	Unit 10 B				
第 12 回	Unit 4 B	第 27 回	Unit 11 A				
第 13 回	まとめと小テスト	第 28 回	Unit 11 B				
第 14 回	Unit 5 A	第 29 回	Unit 12 A				
第 15 回	Unit 5 B	第 30 回	Unit 12 B				
		第 31 回	まとめと小テスト				
テキスト：Reading Explorer 1 Second Edition （HEINLE, CENGAGE Learning）							
参 考 書： 参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。							
評価方法・評価基準： 以下を目安とする。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
小テスト	○	○	○		○		60
授業態度	○		○	○			10
演 習	○		○			○	30
履修上の注意： 講読の中では基本的な内容なので、しっかり理解に努めよう。							

授業科目名	4 単位 (0－4)	担当教員																																																																
英語講読演習 Ⅲ (English Reading Ⅲ)		浜川仁・レイフィールド典子																																																																
授業の到達目標及びテーマ テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。																																																																		
授業の概要 使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験（STEP）準 2 級～2 級、TOEIC 380～460 予習（preparation）：学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。 復習（review）：MyELT 等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。																																																																		
授 業 計 画 ※クラス及び使用テキストに合わせて、変更・調整が加えられます。 <table><tr><td>第 1 回</td><td>Unit 1 A</td><td>第 16 回</td><td>Unit 6 A</td></tr><tr><td>第 2 回</td><td>Unit 1 A&B</td><td>第 17 回</td><td>Unit 6 B</td></tr><tr><td>第 3 回</td><td>Unit 1 B</td><td>第 18 回</td><td>Unit 7 A</td></tr><tr><td>第 4 回</td><td>Unit 2 A</td><td>第 19 回</td><td>Unit 7 B</td></tr><tr><td>第 5 回</td><td>Unit 2 A&B</td><td>第 20 回</td><td>Unit 8 A</td></tr><tr><td>第 6 回</td><td>Unit 2 B</td><td>第 21 回</td><td>Unit 8 B</td></tr><tr><td>第 7 回</td><td>Unit 3 A</td><td>第 22 回</td><td>まとめと小テスト</td></tr><tr><td>第 8 回</td><td>Unit 3 A&B</td><td>第 23 回</td><td>Unit 9 A</td></tr><tr><td>第 9 回</td><td>Unit 3 B</td><td>第 24 回</td><td>Unit 9 B</td></tr><tr><td>第 10 回</td><td>Unit 4 A</td><td>第 25 回</td><td>Unit 10 A</td></tr><tr><td>第 11 回</td><td>Unit 4 A&B</td><td>第 26 回</td><td>Unit 10 B</td></tr><tr><td>第 12 回</td><td>Unit 4 B</td><td>第 27 回</td><td>Unit 11 A</td></tr><tr><td>第 13 回</td><td>まとめと小テスト</td><td>第 28 回</td><td>Unit 11 B</td></tr><tr><td>第 14 回</td><td>Unit 5 A</td><td>第 29 回</td><td>Unit 12 A</td></tr><tr><td>第 15 回</td><td>Unit 5 B</td><td>第 30 回</td><td>Unit 12 B</td></tr><tr><td></td><td></td><td>第 31 回</td><td>まとめと小テスト</td></tr></table>			第 1 回	Unit 1 A	第 16 回	Unit 6 A	第 2 回	Unit 1 A&B	第 17 回	Unit 6 B	第 3 回	Unit 1 B	第 18 回	Unit 7 A	第 4 回	Unit 2 A	第 19 回	Unit 7 B	第 5 回	Unit 2 A&B	第 20 回	Unit 8 A	第 6 回	Unit 2 B	第 21 回	Unit 8 B	第 7 回	Unit 3 A	第 22 回	まとめと小テスト	第 8 回	Unit 3 A&B	第 23 回	Unit 9 A	第 9 回	Unit 3 B	第 24 回	Unit 9 B	第 10 回	Unit 4 A	第 25 回	Unit 10 A	第 11 回	Unit 4 A&B	第 26 回	Unit 10 B	第 12 回	Unit 4 B	第 27 回	Unit 11 A	第 13 回	まとめと小テスト	第 28 回	Unit 11 B	第 14 回	Unit 5 A	第 29 回	Unit 12 A	第 15 回	Unit 5 B	第 30 回	Unit 12 B			第 31 回	まとめと小テスト
第 1 回	Unit 1 A	第 16 回	Unit 6 A																																																															
第 2 回	Unit 1 A&B	第 17 回	Unit 6 B																																																															
第 3 回	Unit 1 B	第 18 回	Unit 7 A																																																															
第 4 回	Unit 2 A	第 19 回	Unit 7 B																																																															
第 5 回	Unit 2 A&B	第 20 回	Unit 8 A																																																															
第 6 回	Unit 2 B	第 21 回	Unit 8 B																																																															
第 7 回	Unit 3 A	第 22 回	まとめと小テスト																																																															
第 8 回	Unit 3 A&B	第 23 回	Unit 9 A																																																															
第 9 回	Unit 3 B	第 24 回	Unit 9 B																																																															
第 10 回	Unit 4 A	第 25 回	Unit 10 A																																																															
第 11 回	Unit 4 A&B	第 26 回	Unit 10 B																																																															
第 12 回	Unit 4 B	第 27 回	Unit 11 A																																																															
第 13 回	まとめと小テスト	第 28 回	Unit 11 B																																																															
第 14 回	Unit 5 A	第 29 回	Unit 12 A																																																															
第 15 回	Unit 5 B	第 30 回	Unit 12 B																																																															
		第 31 回	まとめと小テスト																																																															
テキスト：Reading Explorer 2 Second Edition （HEINLE, CENGAGE Learning）																																																																		
参 考 書：参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。																																																																		
評価方法・評価基準：以下を目安とする。 <table><tr><th>到達目標等 成績評価</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合（％）</th></tr><tr><td>小テスト</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>60</td></tr><tr><td>授業態度</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>演 習</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td>30</td></tr></table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）	小テスト	○	○	○		○		60	授業態度	○		○	○			10	演 習	○		○			○	30																																
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）																																																											
小テスト	○	○	○		○		60																																																											
授業態度	○		○	○			10																																																											
演 習	○		○			○	30																																																											
履修上の注意：初めての単語やすこし長めのセンテンスなど、繰り返し学習し定着を図ろう。																																																																		

授業科目名	4 単位 (0-4)	担当教員
英語講読演習 IV (English Reading IV)		大城直人・山内淳・崎原千尋

授業の到達目標及びテーマ

テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。

授業の概要

使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。

英語検定試験（STEP）2 級～準 1 級、TOEIC 460～530

予習（preparation）：学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。

復習（review）：MyELT 等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。

授 業 計 画 ※クラス及び使用テキストに合わせて、変更・調整が加えられます。

第 1 回	Unit 1 A	第 16 回	Unit 5 A&B
第 2 回	Unit 1 A	第 17 回	Unit 5 B
第 3 回	Unit 1 A&B	第 18 回	Unit 6 A
第 4 回	Unit 1 B	第 19 回	Unit 6 A&B
第 5 回	Unit 2 A	第 20 回	Unit 6 B
第 6 回	Unit 2 A&B	第 21 回	まとめと小テスト
第 7 回	Unit 2 B	第 22 回	Unit 7 A
第 8 回	Unit 3 A	第 23 回	Unit 7 A&B
第 9 回	Unit 3 A&B	第 24 回	Unit 7 B
第 10 回	Unit 3 B	第 25 回	Unit 8 A
第 11 回	まとめと小テスト	第 26 回	Unit 8 A&B
第 12 回	Unit 4 A	第 27 回	Unit 8 B
第 13 回	Unit 4 A&B	第 28 回	Unit 9 A
第 14 回	Unit 4 B	第 29 回	Unit 9 A&B
第 15 回	Unit 5 A	第 30 回	Unit 9 B
		第 31 回	まとめと小テスト

テキスト： Reading and Vocabulary Focus 4 （HEINLE, CENGAGE Learning）

参 考 書： 参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。

評価方法・評価基準：以下を目安とする。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
小テスト	○	○	○		○		60
授業態度	○		○	○			10
演 習	○		○			○	30

履修上の注意：耳慣れない単語や複雑なセンテンスなど、あきらめず学習し定着を図ろう。

授業科目名		4単位 (0－4)	担当教員				
英文法・英作文Ⅰ (English Grammar and CompositionⅠ)			赤嶺 ゆかり				
授業の到達目標及びテーマ 文法の基礎を習得し、短い英文を書く力を養う。							
授業の概要 英文法のもっとも基礎的な科目である。英文法の基本事項を復習し、英語を話し、聞き、読み、書く能力の基礎を習得する。短い英文が書けるようにする。 予習(preparation)：決められた章の問題を解き、解答する 復習(review)：間違った問題を再度解いて確認する							
授 業 計 画：							
第 1 回： Introduction&時制（現在）Unit 1-9		第 9 回： 代名詞、所有、冠詞 Unit60-74					
第 2 回： 時制（過去、現在完了）Unit10-21		第 10 回： 限定詞、代名詞 Unit75-85					
第 3 回： 受動態、動詞、時制（未来）Unit22-29		第 11 回： 形容詞、副詞 Unit86-93					
第 4 回： 助動詞、命令系 Unit30-37		第 12 回： 語順、前置詞 Unit94-103					
第 5 回： There, it, 助動詞 Unit38-44		第 13 回： 前置詞、群動詞 Unit104-111					
第 6 回： 疑問、話法 Unit45-51		第 14 回： 接続詞、句 Unit111-116					
第 7 回： 準動詞 Go, get, do, make and have, Unit52-59		第 15 回： まとめ・授業内試験					
第 8 回： まとめ〈中間〉		第 16 回： Review					
テキスト： 『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）』 Cambridge							
参 考 書： 『総合英語 Forest』 石黒昭博（監） 桐原書店							
評価方法・評価基準：中間・期末試験、小テスト、授業態度などを総合して評価する。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
定期試験 （中間・期末試験）	○						70
小テスト・ 授業内レポート	○						20
授業態度			○				10
受講者の発表							
演 習							
その他							遅刻・欠席はマ イナス
履修上の注意：							
・辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、授業に参加すること。							
・大量に宿題を出すので、各自の責任で宿題をする時間を確保すること。							
・積極的に授業に参加して質問すること。							
・遅刻・欠席はマイナスになるので注意すること。							

授業科目名		4単位 (0－4)	担当教員					
英文法・英作文Ⅱ (English Grammar and Composition Ⅱ)			山里晃平・赤嶺ゆかり・山内淳					
授業の到達目標及びテーマ								
身につけた能力を活用して、簡単な質問とそれに対する回答、短い伝言、報告、依頼、指示等の実際的な場面に必要とされる英文が書けるようになることを目標とする。								
授業の概要								
中学校・高等学校で学んだ事を基礎にして、英文法の基本的事項全般を復習し、正しい英文を書く能力を養う。徹底した文法演習を行い、各文法項目に対する総合的な理解を深める。自分の書いた英文を口頭で発表する機会を出来るだけ多くする。								
予習(preparation)：決められた章の問題を解き、解答する								
復習(review)：間違った問題を再度解いて確認する								
授 業 計 画：								
第 1 回： Introduction & Tense (Present), Unit 1-9		第 9 回： Pronouns, Possessives & a, the, Unit 60-74						
第 2 回： Tense (Past & Present Perfect), Unit 10-21		第 10 回： Determiners and Pronouns, Unit 75-85						
第 3 回： Passive, Verb Forms & Tense (Future), Unit 22-29		第 11 回： Adjective & Adverbs, Unit 86-93						
第 4 回： Modals & Imperatives, Unit 30-37		第 12 回： Word Order & Prepositions, Unit 94-103						
第 5 回： There, it & Auxiliary Verbs, Unit 38-44		第 13 回： Prepositions & Two-word Verbs, Unit 104-11						
第 6 回： Questions & Reported Speech, Unit 45-51		第 14 回： Conjunctions & Clauses, Unit 111-116						
第 7 回： -ing and to..., & Go, get, do, make and have, Unit 52-59		第 15 回： まとめ・授業内試験						
第 8 回： まとめ（中間）		第 16 回： Review						
テキスト： Raymond Murphy, Basic Grammar in Use, Cambridge University Press								
参 考 書： 未定								
評価方法・評価基準： ・期末試験、小テスト、授業態度などを総合して評価する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)		○						70
小テスト・ 授業内レポート		○						20
授業態度				○				10
受講者の発表								
演 習								
その他								遅刻・欠席はマイナス
履修上の注意：								
・辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、積極的に授業に参加すること。								
・大量に宿題を出すので、各自の責任で宿題をする時間を確保すること。								

授業科目名		4 単位 (0－4)	担当教員																																																										
英文法・英作文Ⅲ (English Grammar and Composition Ⅲ)			山里晃平・赤嶺ゆかり・山内淳																																																										
授業の到達目標及びテーマ 短い叙述文、説明文、要約等が書けるようになることを目標とする。																																																													
授業の概要 英文法・英作文Ⅱで学んだことを基礎にして、文法事項の再確認および徹底した作文演習を通して、正しい英文を書く能力を定着させる。作文能力の向上に加え、書くスピードも養う。自分の書いた英文を口頭で発表する機会を出来るだけ多くする。 予習(preparation)：決められた章の問題を解き、解答する 復習(review)：間違った問題を再度解いて確認する																																																													
授 業 計 画：																																																													
<table><tr><td>第 1 回：</td><td>イントロダクション、Determiners</td></tr><tr><td>第 2 回：</td><td>Pronouns and nouns</td></tr><tr><td>第 3 回：</td><td>Adjectives and adverbs</td></tr><tr><td>第 4 回：</td><td>Comparison, degree</td></tr><tr><td>第 5 回：</td><td>Modal auxiliary verbs</td></tr><tr><td>第 6 回：</td><td>Tenses: future</td></tr><tr><td>第 7 回：</td><td>Tenses: present</td></tr><tr><td>第 8 回：</td><td>Tenses: perfect and past</td></tr></table>		第 1 回：	イントロダクション、Determiners	第 2 回：	Pronouns and nouns	第 3 回：	Adjectives and adverbs	第 4 回：	Comparison, degree	第 5 回：	Modal auxiliary verbs	第 6 回：	Tenses: future	第 7 回：	Tenses: present	第 8 回：	Tenses: perfect and past	<table><tr><td>第 9 回：</td><td>Passives</td></tr><tr><td>第 10 回：</td><td>Conjunctions</td></tr><tr><td>第 11 回：</td><td>Indirect speech</td></tr><tr><td>第 12 回：</td><td>Structures with if, unless, in case etc.</td></tr><tr><td>第 13 回：</td><td>Relative clauses</td></tr><tr><td>第 14 回：</td><td>Prepositions</td></tr><tr><td>第 15 回：</td><td>まとめ、期末試験</td></tr><tr><td>第 16 回：</td><td>Review</td></tr></table>		第 9 回：	Passives	第 10 回：	Conjunctions	第 11 回：	Indirect speech	第 12 回：	Structures with if, unless, in case etc.	第 13 回：	Relative clauses	第 14 回：	Prepositions	第 15 回：	まとめ、期末試験	第 16 回：	Review																										
第 1 回：	イントロダクション、Determiners																																																												
第 2 回：	Pronouns and nouns																																																												
第 3 回：	Adjectives and adverbs																																																												
第 4 回：	Comparison, degree																																																												
第 5 回：	Modal auxiliary verbs																																																												
第 6 回：	Tenses: future																																																												
第 7 回：	Tenses: present																																																												
第 8 回：	Tenses: perfect and past																																																												
第 9 回：	Passives																																																												
第 10 回：	Conjunctions																																																												
第 11 回：	Indirect speech																																																												
第 12 回：	Structures with if, unless, in case etc.																																																												
第 13 回：	Relative clauses																																																												
第 14 回：	Prepositions																																																												
第 15 回：	まとめ、期末試験																																																												
第 16 回：	Review																																																												
テキスト： 未定																																																													
参 考 書： なし																																																													
評価方法・評価基準： ・ 期末試験、小テスト、授業態度などを総合して評価する。																																																													
<table><tr><th>到達目標等</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>成績評価 定期試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>70</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>授業態度 授業への参加度</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>遅刻・欠席は 減点</td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○						70	小テスト・ 授業内レポート	○						20	授業態度 授業への参加度			○				10	受講者の発表								演 習								その他							遅刻・欠席は 減点					
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																						
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○						70																																																						
小テスト・ 授業内レポート	○						20																																																						
授業態度 授業への参加度			○				10																																																						
受講者の発表																																																													
演 習																																																													
その他							遅刻・欠席は 減点																																																						
履修上の注意： ・ 辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、積極的に授業に参加すること。 ・ 大量に宿題を出すので、各自の責任で宿題をする時間を確保すること。																																																													

授業科目名	4単位 (0－4)	担当教員					
英文法・英作文Ⅳ (English Grammar and Composition Ⅳ)		新垣友子・玉城要・ スミス陽子・赤嶺ゆかり					
授業の到達目標及びテーマ 文法の基礎を習得し、短い英文を書く力を養う。							
授業の概要 英文法のもっとも基礎的な科目である。英文法の基本事項を復習し、英語を話し、聞き、読み書く能力の基礎を習得する。短い英文が書けるようにする。 予習(preparation)：決められた章の文法事項を確認し、問題を解いてくる 復習(review)：授業で提示された解答を参考に、再度英文をつくる							
授 業 計 画：							
第 1 回： イントロダクション、Unit1 動詞	第 9 回： Unit10 受動態						
第 2 回： Unit2 進行形・未来形・助動詞	第 10 回： Unit11 完了形						
第 3 回： Unit3 名詞・冠詞・代名詞	第 11 回： Unit12 接続詞（Ⅱ）						
第 4 回： Unit4 前置詞・接続詞（Ⅰ）	第 12 回： Unit13 5 つの基本文型						
第 5 回： Unit5 形容詞・副詞と比較	第 13 回： Unit14 仮定法						
第 6 回： Unit6 命令文・感嘆文	第 14 回： Unit15 関係代名詞						
第 7 回： Unit7 不定詞、Unit8 動詞と分詞	第 15 回： まとめ・期末試験						
第 8 回： Unit9 各種疑問文・It の特別用法	第 16 回： Review						
テキスト： “Primer for English Writing” Tetsuzo Sato, Yukari Aiko, Teruo Shindo NAN’UN-DO							
参 考 書： 未定							
評価方法・評価基準：中間・期末試験、小テスト、授業態度などを総合して評価する。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○						70
小テスト・ 授業内レポート	○						20
授業態度			○				10
受講者の発表							
演 習							
その他							遅刻・欠席はマ イナス
履修上の注意： ・辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、授業に参加すること。 ・大量に宿題を出すので、各自の責任で宿題をする時間を確保すること。 ・積極的に授業に参加して質問すること。 ・出席はプラス点にはならず、遅刻・欠席はマイナスになるので注意すること。							

授業科目名	4 単位 (0－4)	担当教員					
English Composition I		Daniel Broudy ・ Jason Arbogast ・ Christopher Melley ・ Ron Breines					
授業の到達目標及びテーマ							
Composition instructors use a wide variety of approaches to help students raise their awareness and understanding of sentence-level grammar and meaning. The principal goals in this basic writing course are to encourage the development of explicit awareness of and skill in writing sentences and paragraphs, and how coherence and cohesion can be achieved within the paragraph. Liberal practice with grammatical structures aims to help students see and understand the relationship between meaning and syntax.							
授業の概要							
This is an elementary course providing an introduction to the basic principles of developing meaning in sentences and longer passages. Students are introduced to techniques for generating and arranging phrases or other grammatical structures to create sentence-level meaning. Students may be required to practice in class with various structures to develop skills in sentence-level drafting. Students will develop the necessary knowledge and skills in revising and editing which they can use in more advanced writing courses. 予習(preparation) : Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW 復習(review) : Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.							
授 業 計 画							
Week 1 > introductions / syllabus / writing process / generating and organizing / HW Week 1 Review Week 2 > lectures and exercises / mind-mapping / outlining / HW Week 2 Review Week 3 > lectures / identifying subjects-verbs / modifiers / phrase structures /HW Week 3 Review Week 4 > exercises to reinforce Weeks 1-3 content /reviews / quiz 1 / prepare essay for next week Week 5 > writers workshop / peer evaluation and instructor-lead critical discussions / HW Week 5 Review Week 6 > exercises to reinforce Weeks 1-5 content / quiz 2 Week 7 > lectures / relative clauses / conjunctions / connectors / HW Week 7 Review Week 8 > lectures / paragraph coherence / in-class editing exercises / HW Week 8 Review Week 9 > lectures / paragraph cohesion / in-class editing excises / HW Week 9 Review Week 10 > exercises to reinforce Weeks 6-9 content / reviews / quiz 3 / prepare for next week presentations Week 11 > student presentations in prose and/or poetics / prepare for essay for next week Week 12 > writers' workshops / HW Readings for Week 13 Week 13 > lectures / rhetorical structures / HW Week 13 Review Week 14 > exercises to reinforce Weeks 11-13 content /reviews / quiz 4 / prepare for essay for next week Week 15 > writers workshop / practice sessions / HW prepare for presentations Week 16 > student presentations of prose and/or poetics							
テキスト： Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.							
参 考 書： Students are expected to take notes in lectures and review their notes.							
評価方法・評価基準：							
Grades are calculated from scores on essays, presentations, quizzes, and participation.							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○			○		40
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習	○	○			○		10
その他			○	○			10
履修上の注意： Participation is a major part of this course. This means that coming to class—on time—and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on Facebook or some other social networking site, playing with your mobile phone, or some other electronic device not connected to the course, will affect your participation score.							

授業科目名	4 単位 (0－4)	担当教員					
English Composition II		Daniel Broudy ・ Ron Breines ・ Peter Wodarz					
授業の到達目標 Composition instructors use a variety of methods to help students develop as practitioners and editors of their own writing. Central goals in this writing course are to develop explicit awareness of and skill in writing essays, to sustain an argument, to describe and/or define a problem, and to integrate the perspectives of others into the argument as support for the writer’s main points. Liberal practice in the development of introductions and conclusions, of topics within body paragraphs, and paragraph cohesion across a full essay is also stressed.							
授業の概要 This course expands on composition skills gained in English Composition I. Students practice exercises in finding and narrowing subjects, generating and organizing ideas as well as drafting, editing and revising essays. Students are introduced to a range of expository styles and the principles of argumentation. They practice developing thesis sentences and communicating their positions on certain topics discussed in class and in course readings. Students are also introduced to methods in researching and citing sources in essays. 予習(preparation) : Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW 復習(review) : Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.							
授 業 計 画 : Week 1 > introductions / syllabus / writing process / generating and organizing / outlining / HW Week 1 Review Week 2 > lectures / defining / keyterms / stipulations / extended definitions / connotations / HW Week 2 Review Week 3 > lectures / in-class readings / definition essays / critical analysis /HW Week 3 Review Week 4 > exercises to reinforce Weeks 1-3 content /reviews / quiz 1 / prepare essay for next week Week 5 > writers workshop / peer evaluation and instructor-lead critical discussions / HW Week 5 Review Week 6 > readings and exercises to reinforce Weeks 1-5 content / quiz 2 / HW Week 6 Review Week 7 > lectures / exercises/ deduction / induction / fallacies / HW Week 7 Review Week 8 > lectures / argumentation methods / persuasion / exercises / HW Week 8 Review Week 9 > lectures / contextualizing quotes / summarizing / in-class editing exercises / HW Week 9 Review Week 10 > exercises to reinforce Weeks 6-9 content / reviews / quiz 3 / prepare for next week presentations Week 11 > student presentations for definition essays / prepare for essay for next week Week 12 > writers’ workshops / HW Readings for Week 13 Week 13 > lectures / exercises / rhetorical tropes and schemes / HW Week 13 Review Week 14 > exercises to reinforce Weeks 11-13 content /reviews / quiz 4 / prepare for essay for next week Week 15 > writers workshop argumentation / practice sessions / HW prepare for presentations Week 16 > student presentations of final argumentative papers							
テキスト： Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.							
参 考 書： Students are expected to take notes in lectures and review their notes.							
評価方法・評価基準： Grades are calculated from scores on essays, presentations, quizzes, and participation.							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)	○	○			○		40
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習	○	○			○		10
その他			○	○			10
履修上の注意： Participation is a major part of this course. This means that coming to class—on time—and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on Facebook or some other social networking site, playing with your mobile phone, or some other electronic device not connected to the course, will affect your participation score.							

授業科目名		2 単位 (0－2)	担当教員																																																									
Accessing Digital Media I			Daniel Broudy																																																									
授業の到達目標 本科目の目標は、様々な英語による音声メディア（ラジオ、TV、映画、音楽、インターネットなどの音声メディア）を通して行われるコミュニケーションに対応すべく、正確なリスニング力を養成することである。視覚情報やその背景知識（文化的、社会的、政治的知識）を活用して、かなりのスピードで話される英語を理解する聴力技術を身につける。リスニング力養成の過程で、メディア情報の正当性、ニュース情報の解釈、様々なキャンペーンとプロパガンダの識別、ビジネス広告の理解、文化的偏見についても学ぶ。																																																												
授業の概要 This course introduces students to communications in western culture conveyed through various forms media and artful expression over the past decades. Subject matter covers a range of topics and cultural themes of societal import. Students see and hear communication within social, political, commercial, and entertainment contexts in order to study and understand the complex ways in which meaning is given shape through a variety of rhetorical strategies. Students practice listening skills and perceiving meaning through context, tone and register. 予習(preparation) : Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW 復習(review) : Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.																																																												
授 業 計 画 : Day 1 > Introductions / performance poetry / HW review transcripts and answers Day 2 > Commercial advertising (Contemporary) / HW review transcripts and answers Day 3 > Contemporary pop songs (Themes of romantic love) / HW review transcripts and answers Day 4 > Political speeches (Themes of antiwar) / HW review transcripts and answers Day 5 > Political songs (Themes of antiwar) / HW review transcripts and answers Day 6 > Film (Political themes) / HW review transcripts and answers Day 7 > Cartoons (Political satire) / HW review transcripts from Day 1 to Day 7 for Midterm exam Day 8 > Midterm exam Day 9 > Film (Social themes) / HW review transcripts and answers Day 10 > Commercial advertising (1990s) / HW review transcripts and answers Day 11 > Songs (1990s Pop culture) / HW review transcripts and answers Day 12 > Film (Fantasy and science fiction) / HW review transcripts and answers Day 13 > Political Speeches (Social justice) / HW review transcripts and answers Day 14 > Performance Poetry / HW review transcripts and answers Day 15 > Cartoons (Consumerism satire) / HW review transcripts from Day 9 to Day 14 for Final exam Day 16 > Final exam / HW review transcripts and answers																																																												
テキスト： Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.																																																												
参 考 書： Students are expected to take notes and review their notes.																																																												
評価方法・評価基準： Your final grade is calculated from scores on exams and in classroom participation.																																																												
<table><tr><th>到達目標等</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>成績評価 定期試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>60</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>20</td></tr></table>					到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○					60	小テスト・ 授業内レポート								授業態度			○	○			20	受講者の発表								演 習								その他			○	○			20
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																					
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○					60																																																					
小テスト・ 授業内レポート																																																												
授業態度			○	○			20																																																					
受講者の発表																																																												
演 習																																																												
その他			○	○			20																																																					
履修上の注意： Participation is a major part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.																																																												

授業科目名	2 単位 (0－2)	担当教員					
Accessing Digital Media II		Daniel Broudy					
授業の到達目標 本科目の目標は、様々な英語による音声メディア（ラジオ、TV、映画、音楽、インターネットなどの音声メディア）を通して行われるコミュニケーションに対応すべく、正確なリスニング力を養成することである。視覚情報やその背景知識（文化的、社会的、政治的知識）を活用して、かなりのスピードで話される英語を理解する聴力技術を身につける。リスニング力養成の過程で、メディア情報の正当性、ニュース情報の解釈、様々なキャンペーンとプロパガンダの識別、ビジネス広告の理解、文化的偏見についても学ぶ。							
授業の概要 This course is a follow-on course to Accessing Digital Media 1 where students encounter and study communications in western culture conveyed through various forms media and artful expression over the past decades. Subject matter covers a wide range of subjects and themes of societal importance. Students see and hear communication within social, political, commercial, entertainment contexts in order to study and understand the complex ways in which meaning is shaped through a variety of rhetorical strategies. Students practice listening skills and assessing meaning through context, tropes, schemes, tone, and register. 予習(preparation) : Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW 復習(review) : Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.							
授 業 計 画 : Day 1 > Introductions / Classic Rap (1970s) / HW review transcripts and answers Day 2 > Film Noir (1960s) / HW review transcripts and answers Day 3 > Political Speeches (Civil Rights) / HW review transcripts and answers Day 4 > Cartoons (Social Satire) / HW review transcripts and answers Day 5 > Folk Songs (Social Justice) / HW review transcripts and answers Day 6 > Situation Comedy (Racism and Bigotry) / HW review transcripts and answers Day 7 > Performance Poetry (Gender Equality) / HW review transcripts from Day 1 to Day 7 for exam Day 8 > Midterm exam Day 9 > Commercial advertising (1950s) / HW review transcripts and answers Day 10 > Cartoons (Deviant behavior satire) / HW review transcripts and answers Day 11 > Songs (2000s Popular Culture) / HW review transcripts and answers Day 12 > Film (Science Fiction Satire) / HW review transcripts and answers Day 13 > Contemporary Hip Hop (Themes of social justice) / HW review transcripts and answers Day 14 > Political Speeches (Antiwar themes) / HW review transcripts and answers Day 15 > Commercial advertising (1990s) / HW review transcripts from Day 9 to Day 14 for Final exam Day 16 > Final exam / HW review transcripts and answers							
テキスト： Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.							
参 考 書： Students are expected to take notes and review their notes.							
評価方法・評価基準： Your final grade is calculated from scores on exams and in classroom participation.							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
その他			○	○			20
履修上の注意： Participation is a major part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.							

授業科目名	2 単位 (0－2)	担当教員
Public Speaking I		Simon Robinson
授業の到達目標 Allowing the students to learn to make engaging presentations in English		
授業の概要 This course will introduce the key elements of public speaking through practical experience: students will make presentations on a topic of their choice, and after each presentation we will have a feedback session to assess both the good points and what could be better next time. Over the semester these points will gradually build up a clear picture of how to make an effective presentation in English - this will form a checklist that we will use to assess the final exam presentations. As necessary throughout the semester we will also do group practice activities focusing on particular aspects of presentation. 予習(preparation) : students must regularly prepare to speak publicly about a given topic and also prepare for the group practice activities 復習(review) : techniques about public speaking learnt in each class must be reviewed before each following class		
授 業 計 画		
第 1 回 : Class orientation, students make basic self-introductions. Past presentation examples shown.	第 9 回 : Free presentations Round 1 (3)	
第 2 回 : Basic self-introductions with pictures + show past presentation example	第 10 回 : Free presentations Round 2 (1)	
第 3 回 : Introduction to Powerpoint, students begin preparing their 'past' presentations	第 11 回 : Free presentations Round 2 (2)	
第 4 回 : 'Past' presentations (1)	第 12 回 : Free presentations Round 2 (3)	
第 5 回 : 'Past' presentations (2)	第 13 回 : Exam presentations (1)	
第 6 回 : 'Past' presentations 3	第 14 回 : Exam presentations (2)	
第 7 回 : Free presentations Round 1 (1)	第 15 回 : Exam presentations (3)	
第 8 回 : Free presentations Round 1 (2)		
テキスト : This course will use a handout prepared by the teacher. Students will need to buy this from kyoumuka.		
参 考 書 : Preparing for the presentations is an important part of this course, and will mostly be done outside of class.		
評価方法・評価基準 : Participation 25%、Free Presentations 25%、Exam Presentations 50%		
履修上の注意 : My aim for this course is for students to gain as much practical experience of presenting as is possible, so that they go into the exam presentation feeling confident of their ability to make a presentation in English.		

授業科目名	2 単位 (0－2)	担当教員
Public SpeakingⅡ		Simon Robinson
授業の到達目標 Allowing the students to further develop their ability to make engaging presentations in English		
授業の概要 This course will build on the experience of Public Speaking I to further develop the students' ability to make presentations in English. It will follow a similar format in that students will make presentations followed by a feedback session to assess what was good and what could be better next time. We will take the checklist we used in PSI and expand on it to promote a natural speaking presence on stage, and we will also add a Question-and-Answer session at the end to test the students' ability to react to audience questions with intelligent and informative responses. 予習(preparation) : students must regularly prepare to speak publicly about a given topic and also prepare for the group practice activities 復習(review) : techniques about public speaking learnt in each class must be reviewed before each following class		
授 業 計 画 ※講義内容は、変更することがあります。		
第 1 回 :	Class Orientation and Introduction, basic self-introductions, review of PSI, introduce Q&A	第 8 回 : Free Presentations Round 2 (2)
第 2 回 :	Self-introductions with Q&A	第 9 回 : Free Presentations Round 2 (3)
第 3 回 :	Free Presentations Round 1 (1)	第 10 回 : Free Presentations Round 3 (1)
第 4 回 :	Free Presentations Round 1 (2)	第 11 回 : Free Presentations Round 3 (2)
第 5 回 :	Free Presentations Round 1 (3)	第 12 回 : Free Presentations Round 3 (3)
第 6 回 :	Focused Practice Exercises (contents to be decided during the course)	第 13 回 : Exam Presentation (1)
第 7 回 :	Free Presentations Round 2 (1)	第 14 回 : Exam Presentation (2)
		第 15 回 : Exam Presentation (3)
テキスト : This course will use a handout prepared by the teacher - students will need to buy this from kyoumuka		
参 考 書 : Preparation for the presentations is an important part of this course - students will need to prepare outside of class time.		
評価方法・評価基準 : Participation30%、Free Presentations20%、Exam Presentations40%		
履修上の注意 : <u>Public Speaking & Oral Presentation I（2 単位）を履修済みのこと。</u> My aim for this course is to give students as much practice as possible at presenting in order to really develop their skills in preparation for the final exam.		

授業科目名	2 単位 (0－2)	担当教員																																
Discussion & Debate I		Simon Robinson																																
授業の到達目標 Allowing the students to engage in strong debate in English																																		
授業の概要 This course will provide an introduction to strong debate on a given opinion. Each opinion will be related to the students' daily lives in order to spark interest, and in each topic students will engage in several preparation activities that lead up to the final debate task: a ten-minute debate between two pairs, where one pair is the 'agree' side and the other is the 'disagree' side of the debate. The course will then repeat this cycle of "preparation then debate" to give the students as much practice as possible prior to the final exam, where they will debate with the teacher for ten minutes on a topic of their choosing. 予習(preparation) : Students must arrive suitably prepared for the debate that will take place in each class. 復習(review) : students must review debate techniques learnt in previous classes before each new class.																																		
授 業 計 画																																		
<table><tr><td>第 1 回 :</td><td>Orientation, introduction to "The 'Why?' Game", choose topics, begin the first topic with an introductory debate with the teacher.</td></tr><tr><td>第 2 回 :</td><td>Topic 1 : Introduction to the "Hot Seat" activity</td></tr><tr><td>第 3 回 :</td><td>Topic 1: Introduction to debate preparation and debate</td></tr><tr><td>第 4 回 :</td><td>Topic 2: "Hot Seat" activity and discussion</td></tr><tr><td>第 5 回 :</td><td>Topic 2: Debate preparation and debate</td></tr><tr><td>第 6 回 :</td><td>Topic 3: "Hot Seat" activity and discussion</td></tr><tr><td>第 7 回 :</td><td>Topic 3: Debate preparation and debate</td></tr></table>		第 1 回 :	Orientation, introduction to "The 'Why?' Game", choose topics, begin the first topic with an introductory debate with the teacher.	第 2 回 :	Topic 1 : Introduction to the "Hot Seat" activity	第 3 回 :	Topic 1: Introduction to debate preparation and debate	第 4 回 :	Topic 2: "Hot Seat" activity and discussion	第 5 回 :	Topic 2: Debate preparation and debate	第 6 回 :	Topic 3: "Hot Seat" activity and discussion	第 7 回 :	Topic 3: Debate preparation and debate	<table><tr><td>第 8 回 :</td><td>Topic 4: "Hot Seat" activity and discussion</td></tr><tr><td>第 9 回 :</td><td>Topic 4: Debate preparation and debate</td></tr><tr><td>第 10 回 :</td><td>Topic 5: "Hot Seat" activity and discussion</td></tr><tr><td>第 11 回 :</td><td>Topic 5: Debate preparation and debate</td></tr><tr><td>第 12 回 :</td><td>Exam Preparation (1)</td></tr><tr><td>第 13 回 :</td><td>Exam Preparation (2)</td></tr><tr><td>第 14 回 :</td><td>Exam Preparation (3)</td></tr><tr><td>第 15 回 :</td><td>Exam (1)</td></tr><tr><td>第 16 回 :</td><td>Exam (2)</td></tr></table>	第 8 回 :	Topic 4: "Hot Seat" activity and discussion	第 9 回 :	Topic 4: Debate preparation and debate	第 10 回 :	Topic 5: "Hot Seat" activity and discussion	第 11 回 :	Topic 5: Debate preparation and debate	第 12 回 :	Exam Preparation (1)	第 13 回 :	Exam Preparation (2)	第 14 回 :	Exam Preparation (3)	第 15 回 :	Exam (1)	第 16 回 :	Exam (2)
第 1 回 :	Orientation, introduction to "The 'Why?' Game", choose topics, begin the first topic with an introductory debate with the teacher.																																	
第 2 回 :	Topic 1 : Introduction to the "Hot Seat" activity																																	
第 3 回 :	Topic 1: Introduction to debate preparation and debate																																	
第 4 回 :	Topic 2: "Hot Seat" activity and discussion																																	
第 5 回 :	Topic 2: Debate preparation and debate																																	
第 6 回 :	Topic 3: "Hot Seat" activity and discussion																																	
第 7 回 :	Topic 3: Debate preparation and debate																																	
第 8 回 :	Topic 4: "Hot Seat" activity and discussion																																	
第 9 回 :	Topic 4: Debate preparation and debate																																	
第 10 回 :	Topic 5: "Hot Seat" activity and discussion																																	
第 11 回 :	Topic 5: Debate preparation and debate																																	
第 12 回 :	Exam Preparation (1)																																	
第 13 回 :	Exam Preparation (2)																																	
第 14 回 :	Exam Preparation (3)																																	
第 15 回 :	Exam (1)																																	
第 16 回 :	Exam (2)																																	
テキスト : This course will use a handout prepared by the teacher that the students will need to buy from kyoumuka.																																		
参 考 書 : n/a																																		
評価方法・評価基準 : 1. Classroom Preparation and Classroom Participation 30% 2. Final exam 70%																																		
履修上の注意 : Students will need to actively participate in all practice activities in order to get as much debate practice as possible prior to the final exam.																																		

授業科目名	2 単位 (0－2)	担当教員
Discussion & Debate II		Simon Robinson
授業の到達目標		
Further developing the students' ability to engage in strong debate in English on topics related to the students' experience.		
授業の概要		
In this course we will expand the students' ability to engage in strong debate either agreeing or disagreeing with a controversial opinion that relates to the students' experience. In particular we will expand the student's ability to debate on social issues that are broader in scope than the daily-life topics we covered in D&DI		
予習(preparation) : Students must arrive suitably prepared for the debate that will take place in each class.		
復習(review) : students must review debate techniques learnt in previous classes before each new class.		
授 業 計 画		
第 1 回 :	Introduction to the course; Review of content of D&D I; discuss and choose topics for debate for the semester	第 8 回 : Topic 4: "Hot Seat" activity and discussion
第 2 回 :	Topic 1: "Hot Seat" activity and discussion	第 9 回 : Topic4: Debate preparation and debate
第 3 回 :	Topic 1: Debate preparation and debate	第 10 回 : Topic 5: "Hot Seat" activity and discussion
第 4 回 :	Topic 2: "Hot Seat" activity and discussion	第 11 回 : Topic5: Debate preparation and debate
第 5 回 :	Topic 2: Debate preparation and debate	第 12 回 : Exam Preparation (1)
第 6 回 :	Topic 3: "Hot Seat" activity and discussion	第 13 回 : Exam Preparation (2)
第 7 回 :	Topic 3: Debate preparation and debate	第 14 回 : Exam Preparation (3)
		第 15 回 : Exam (1)
		第 16 回 : Exam (2)
テキスト : This course will use a handout prepared by the teacher that the students will need to buy from kyoumuka		
参 考 書 : n/a		
評価方法・評価基準 :		
1. Classroom Preparation and Classroom Participation 30%		
2. Final Exam 70%		
履修上の注意 :		
Discussion and Debate I (2 単位) を履修済みのこと。		
Students will need to participate actively and enthusiastically in all preparatory and debate activities in order to get as much practice as possible prior to the final exam.		

授業科目名		2 単位 (0－2)	担当教員				
Advanced Communication I			Simon Robinson				
授業の到達目標: The goal of this class is to provide a more challenging communicative environment for students whose English is already at intermediate level, or higher. The fundamentals of communication, including correct pronunciation, will be assumed and therefore not explicitly covered in the course materials. Instead, students will learn about more complex elements of communication, to a deeper level.							
授業の概要 : This is a class for students who have already passed Oral Communication 1-5. A reasonably high level of communicative ability will be assumed of all students who opt to take this class, and students who are not yet quite comfortable communicating entirely in English should not consider taking this class. This class is about taking student's communication skills to the next level: taking difficult topics and learning how to express your thoughts on them in a clear way. In this way, our theme really is critical thinking, since it is only through critical thinking that we will find the complexity that we need to really stretch our communicative abilities. Our rough theme will be to critically examine our assumptions about how society should operate in order to develop our ideas about how a fair and just society would function. 予習 : As well as assignments required for the class, students are expected to prepare for each class by reviewing all grammar, vocabulary, and elements of communication covered in the previous class. 復習 : Each class continues from the previous one (classes are not in isolation), so a thorough knowledge of the previous class is essential for smooth progression.							
授 業 計 画 :							
第 1 週 : Shopping			第 9 週 : The Age of Miracles				
第 2 週 : What do we need?			第 10 週 : Transportation				
第 3 週 : Consumption will fill the void			第 11 週 : Energy Slaves				
第 4 週 : Minimalism			第 12 週 : Work				
第 5 週 : Tiny Houses			第 13 週 : Money and debt				
第 6 週 : Advertising			第 14 週 : The Alternatives				
第 7 週 : Media			第 15 週 : Your life plan				
第 8 週 : Social Media			第 16 週 : Speaking test				
テキスト : There is no textbook for this course – all the content will come from our conversations.							
参 考 書 : A dictionary (paper or electronic).							
評価方法・評価基準 :							
Class attendance and participation, presentations, and an end-of-semester speaking test. Grades will be based upon the school grading policy							
成績評価 (到達目標等)	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
その他							20
履修上の注意 :							
This is a high-level course. Students should enter this course with a reasonable proficiency of English, and should be looking to practice and hone their skills in the class. Simply attending the class and not speaking will result in students failing the class.							

授業科目名	2 単位 (0－2)	担当教員					
Advanced Communication II		Christopher Valvona					
授業の到達目標							
This class will follow on from the skills learned and practiced in Advanced Communication I. The fundamentals of communication will be assumed and therefore not explicitly covered in the course materials. Instead, students will learn about more complex elements of communication, to a deeper level.							
授業の概要：							
This is a class for students who have already passed Oral Communication I-V, and Advanced Communication I. A reasonably high level of communicative ability will be assumed of all students who take this class, and students who are not yet comfortable communicating entirely in English should not consider taking this class.							
The classes will focus on specific advanced communication skills. These will include (but not be limited to): communication in an academic context; negotiation and mediation; persuasion; constructive criticism; clarification; avoidance techniques; sarcasm and irony; humour; anger; interruption; conceding; polite refusal; diplomacy and tact. All will need to be performed with a high degree of comfort to successfully complete the course.							
Each class will focus around a communication issue or skill, which will be explored from both theoretical and practical angles. Issues of culture inherent in communication will also be explained. Stimulating topics will be selected to provide a platform for discussion and practice of the communication issues.							
予習：As well as assignments required for the class, students are expected to prepare for each class by reviewing all grammar, vocabulary, and elements of communication covered in the previous class.							
復習：Each class continues from the previous one (classes are not in isolation), so a thorough knowledge of the previous class is essential for smooth progression.							
授 業 計 画 (may change depending on class)：							
第 1 週： Tact	第 9 週： Mid-term assignment (pres.)						
第 2 週： Diplomacy	第 10 週： Humour						
第 3 週： Euphemisms	第 11 週： Humour (cont'd)						
第 4 週： Political Correctness	第 12 週： Accents						
第 5 週： Persuasion	第 13 週： Conversational strategies						
第 6 週： Advertising	第 14 週： Negotiation						
第 7 週： Rhyme, alliteration, assonance	第 15 週： Negotiation (cont'd)						
第 8 週： Advertising (practical)	第 16 週： Final Test						
テキスト： Materials are provided by the teacher							
参 考 書： n/a							
評価方法・評価基準：							
Class participation, presentations and group projects, short tests (quizzes), end-of-semester assignment, other methods as determined by the instructors. Grades will be based upon the school grading policy.							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			20
履修上の注意：							

授業科目名		2 単位	担当教員					
Advanced Communication III		(0-2)	Simon Robinson					
授業の到達目標								
This class is the second-highest level of English communication at this university. The goal is to provide opportunities for students to reach as close as possible to communicative fluency. Students not confident in English, nor willing to speak it, should not take this class.								
授業の概要：								
This is a class for students who have already passed Oral Communication 1-4, and Advanced Communication I and II (or who otherwise display sufficient proficiency to be accepted into the class). Students who are not yet comfortable communicating entirely in English on complex topics should not consider taking this class.								
The key difference between this course and Advanced Communication I is that in this course we will together decide the topics through a weekly homework to post interesting articles on a class web page. This will provide a variety of topics that the students themselves are interested in, and will also develop a key skill of an independent and critical thinker: finding your own areas of interest and researching them ready for discussion.								
Each class will focus around a challenging and thought-provoking topic, but since we will decide the topics together, here I can only provide the rough outline.								
予習(preparation)：Prepare by thinking of five super topics for discussion.								
復習(review)：Each lesson must be reviewed in preparation for the final exam.								
授 業 計 画：								
第 1 週：Language learning Skills			第 9 週：Break on Through					
第 2 週：In My Life			第 10 週：Shiny Happy People					
第 3 週：Here, There and Everywhere			第 11 週：Around the World					
第 4 週：Across The Universe			第 12 週：Don't Dream It's Over					
第 5 週：Let's Dance			第 13 週：I Know It's Over					
第 6 週：Young Americans			第 14 週：Exam preparation					
第 7 週：Robots			第 15 週：Exam practice					
第 8 週：Take Five			第 16 週：Speaking Exam					
テキスト：There is no textbook for this course – all materials will come from the students brains and life experience, and the internet.								
参 考 書：A good monolingual dictionary is recommended								
評価方法・評価基準：								
Class participation, presentations, and the end-of-semester speaking test, as well as other methods as determined by the instructors. Grades will be based upon the school grading policy.								
到達目標等 成績評価		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
定期試験 (中間・期末試験)		○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート		○		○	○	○		20
授業態度				○	○			20
受講者の発表								
演 習								
授業への参加度								20
その他								
履修上の注意：This is a high-level course. Students should enter this course with a high proficiency of English, and should be looking to practice and hone their skills in the class. Simply attending the class and not speaking will result in students failing the class.								

授業科目名		2 単位 (0－2)	担当教員																																																								
Advanced Communication IV																																																											
授業の到達目標																																																											
This class is the highest level of English communication at this university, so it is expected that students already have a strong command of English. The goal of this class is for students to actually use their English ability to “teach” a content based lesson, on a topic of their choice, to their peers.																																																											
授業の概要：																																																											
This class is only for students who have already passed other Advanced Communication classes and higher level English classes.																																																											
These classes will focus on the student as learner and as teacher. Students will put into practice not only the English skills and knowledge that they have learned in their English classes, but also at the workplace, pursuing hobbies and during study abroad. Students should bring all of their experience to this class.																																																											
In the first lessons, students will be introduced to the basics of content based language instruction (CBLI) and classroom management. They will then select a topic that they will teach. Each student will be required to teach a lesson from thirty minutes to one hour in length (depending on class size and topic). Students are required to create a lesson plan, a classroom worksheet and a final quiz. In addition to teaching their lesson, students are expected act as active participants in their peers’ lessons too.																																																											
予習(preparation)：Think about what makes a good lesson. Make a list of 3-5 topics that you could teach.																																																											
復習(review)：Students should review each class, as their will be a short test based on content from each lesson.																																																											
授 業 計 画：																																																											
第 1 週：What Makes a Good Lesson? (1)		第 9 週：If Humans Dissapeared Today																																																									
第 2 週：Classroom management		第 10 週：The Business of Face Painting																																																									
第 3 週：CBLI (1)		第 11 週：Becoming a JHS Teacher																																																									
第 4 週：CBLI (2) + topic selection		第 12 週：How to Give Presentations																																																									
第 5 週：Lessons From Studying Abroad		第 13 週：Cultural Lessons From Fashion																																																									
第 6 週：The Deep Web		第 14 週：Island Music; Okinawan Music																																																									
第 7 週：Edible Plants of Okinawa		第 15 週：What Makes a Good Lesson? (2)																																																									
第 8 週：Gone Fishing																																																											
テキスト： n/a																																																											
参 考 書：A good monolingual dictionary (paper or electronic) is recommended																																																											
評価方法・評価基準：																																																											
Class participation, lesson preperation, giving a lesson, reflection on teaching, short tests (quizzes).																																																											
<table><tr><th>到達目標等 成績評価</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合 (%)</th></tr><tr><td>定期試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>60</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	定期試験 (中間・期末試験)	○	○					20	小テスト・ 授業内レポート	○	○					20	授業態度								受講者の発表	○	○	○	○	○	○	60	演 習								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																																																				
定期試験 (中間・期末試験)	○	○					20																																																				
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20																																																				
授業態度																																																											
受講者の発表	○	○	○	○	○	○	60																																																				
演 習																																																											
その他																																																											
履修上の注意：																																																											
This is a high-level course. Students should enter this course with a high proficiency in English, and should be looking to practice and increase their skills in class.																																																											

授業科目名	2 単位 (0－4)	担当教員					
英語講読演習 V (English Reading V)		宮平 勝行・前原 直子					
授業の到達目標及びテーマ テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。							
授業の概要 使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験（STEP）2 級～準 1 級、TOEIC 530～590 予習（preparation）：学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。 復習（review）：MyELT 等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。							
授 業 計 画 ※クラス及び使用テキストに合わせて、変更・調整が加えられます。							
第 1 回	Unit 1 A	第 16 回	Unit 6 A				
第 2 回	Unit 1 A&B	第 17 回	Unit 6 B				
第 3 回	Unit 1 B	第 18 回	Unit 7 A				
第 4 回	Unit 2 A	第 19 回	Unit 7 B				
第 5 回	Unit 2 A&B	第 20 回	Unit 8 A				
第 6 回	Unit 2 B	第 21 回	Unit 8 B				
第 7 回	Unit 3 A	第 22 回	まとめと小テスト				
第 8 回	Unit 3 A&B	第 23 回	Unit 9 A				
第 9 回	Unit 3 B	第 24 回	Unit 9 B				
第 10 回	Unit 4 A	第 25 回	Unit 10 A				
第 11 回	Unit 4 A&B	第 26 回	Unit 10 B				
第 12 回	Unit 4 B	第 27 回	Unit 11 A				
第 13 回	まとめと小テスト	第 28 回	Unit 11 B				
第 14 回	Unit 5 A	第 29 回	Unit 12 A				
第 15 回	Unit 5 B	第 30 回	Unit 12 B				
		第 31 回	まとめと小テスト				
テキスト： <i>Reading Explorer 3 Second Edition</i> （HEINLE, CENGAGE Learning）							
参 考 書： 参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。							
評価方法・評価基準： 以下を目安とする。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
小テスト	○	○	○		○		60
授業態度	○		○	○			10
演 習	○		○			○	30
履修上の注意：文章の難易度が高く、学習量も多い。予習を心がけよう。							

授業科目名	2 単位 (0-4)	担当教員
英語講読演習 VI (English Reading VI)		レイフィールド典子

授業の到達目標及びテーマ

テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。

授業の概要

使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。

英語検定試験 (STEP) 準 1 級以上、TOEIC 640～

予習 (preparation) : 学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。

復習 (review) : MyELT 等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。

授 業 計 画 ※クラス及び使用テキストに合わせて、変更・調整が加えられます。

第 1 回	Unit 1 A	第 16 回	Unit 6 A
第 2 回	Unit 1 A&B	第 17 回	Unit 6 B
第 3 回	Unit 1 B	第 18 回	Unit 7 A
第 4 回	Unit 2 A	第 19 回	Unit 7 B
第 5 回	Unit 2 A&B	第 20 回	Unit 8 A
第 6 回	Unit 2 B	第 21 回	Unit 8 B
第 7 回	Unit 3 A	第 22 回	まとめと小テスト
第 8 回	Unit 3 A&B	第 23 回	Unit 9 A
第 9 回	Unit 3 B	第 24 回	Unit 9 B
第 10 回	Unit 4 A	第 25 回	Unit 10 A
第 11 回	Unit 4 A&B	第 26 回	Unit 10 B
第 12 回	Unit 4 B	第 27 回	Unit 11 A
第 13 回	まとめと小テスト	第 28 回	Unit 11 B
第 14 回	Unit 5 A	第 29 回	Unit 12 A
第 15 回	Unit 5 B	第 30 回	Unit 12 B
		第 31 回	まとめと小テスト

テキスト : *Reading Explorer 4 Second Edition* (HEINLE, CENGAGE Learning)

参 考 書 : 参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。

評価方法・評価基準 : 以下を目安とする。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
小テスト	○	○	○		○		60
授業態度	○		○	○			10
演 習	○		○			○	30

履修上の注意 : 文章の難易度はかなり高く、学習量も非常に多い。予習を心がけよう。

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員					
Current Issues in English		Michael Bradley					
授業の到達目標							
授業の概要							
The purpose of this course is to introduce students to English as it is used in the media. It aims to: build students' vocabulary; develop a greater awareness of local, national, and international issues; and increase their ability to express themselves. 予習(preparation) : Students should familiarize themselves with the topic before every class, to enable them to better understand the lesson. 復習(review) : Students will usually be asked to write a short report after every class giving their reaction to that week's topic.							
授 業 計 画							
Reports from English medium newspapers and TV news broadcasts will be selected by the course instructor for discussion and coursework. Classes may be divided into groups to work on assignments. Because of the nature of the class, some of the topics below may be dropped in favour of a breaking news story.							
第 1 回 :	Introduction. Tales of hope from the Tsunami.	第 9 回 :	Students write a script for a video report.				
第 2 回 :	Bases in Okinawa.	第 10 回 :	Mid-term test – Students introduce a Japanese news story.				
第 3 回 :	The Hague Convention.	第 11 回 :	Environmental news.				
第 4 回 :	The Migrant Crisis in Europe.	第 12 回 :	A foreigner's view of Okinawa. (A BBC radio report.)				
第 5 回 :	Agent Orange in Okinawa.	第 13 回 :	Japan's ageing population.				
第 6 回 :	Islamist violence.	第 14 回 :	Lance Armstrong – a cautionary tale				
第 7 回 :	Tabloids and Broadsheets.	第 15 回 :	Lighter stories from Japan and abroad				
第 8 回 :	Henoko.	第 16 回 :	Final Test – students introduce a Japanese news story.				
テキスト： No textbook、All the materials are provided by the instructor							
参 考 書：							
評価方法・評価基準：Assignments/Classwork: 40%.Two Presentations: 30% each							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
Current Issues (Online)		

授業の到達目標及びテーマ

The objective of this course is to improve students' English and online learning abilities to increase their critical awareness and understanding of current issues that affect our lives locally, nationally, and internationally.

授業の概要

This course is conducted almost entirely online. Students will use email as well as internet sites to participate in the course. By the end of this course, the student should be more comfortable working and learning in an online environment, as well as have developed a greater understanding of current issues of importance. Students should also have developed a greater ability in thinking, talking and writing about these issues.

予習(preparation) : Review all academic writing that you have done. Take note of your strong points and of areas that you need to improve.

復習(review) : It is essential to review and make sure you understand each week's lesson.

授 業 計 画 [Topics may change depending on the current issues at the time of the course]

第 1 回 :	The what, why and how of online learning	第 9 回 :	Consumerism in Today's World
第 2 回 :	Reproduction issues	第 10 回 :	Feedback, editing and rewriting.
第 3 回 :	Feedback, editing and rewriting.	第 11 回 :	Slavery in Today's World
第 4 回 :	Hikikomori	第 12 回 :	Feedback, editing and rewriting.
第 5 回 :	Feedback, editing and rewriting.	第 13 回 :	Explaining the final report, topic selection and outline
第 6 回 :	Bullying in schools and the workplace	第 14 回 :	Submit final report
第 7 回 :	Feedback, editing and rewriting.	第 15 回 :	Feedback, editing and final rewrite.
第 8 回 :	Feedback, editing and rewriting.		

テキスト : None

参 考 書 : Access to a computer with an internet connection is necessary and mandatory.

評価方法・評価基準 :

Students will be evaluated in accordance with the quantity of their participation and, to a lesser extent, the quality of their writing. Since the course assumes and values the importance of dialogue and discussion of issues, quantity communicates a genuine desire to participate.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度	Knowledge through basic research		Important	Important	Ability to express oneself in English		7 5
受講者の発表	同上		同上	同上	同上		1 5
演 習							
							1 5
その他							

履修上の注意 : Preferably, students should have completed English Composition I and/or II.

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員						
高等英文法 (Advanced English Grammar)		新垣 友子						
授業の到達目標及びテーマ：大学生として英語で意見を述べる事ができる英文法力を養う								
授業の概要								
英文法・英作文Ⅰ～Ⅳで学んだことを基礎に、文法的に正しい文章を、自信をもって書けるようにする。自分の話す英語が文法的に正しいかどうかを自分で判断できる能力を磨き、自分の書いた英語の文法的誤りを自分で修正する能力を高める。特に、日本人の苦手とする文法事項について集中的に学ぶ。 予習 (preparation)：決められた章の問題を解き、解答して分からないところに印をつける。 復習 (review)：分からなかったところを中心に再度、問題を解く。								
授 業 計 画								
第 1 回： Introduction & Tense (Present and Past), Unit 1 - 6	第 9 回： Conditionals, Unit 36-39							
第 2 回： Tense (Present Perfect & Past), Unit 7 - 11	第 10 回： Passive, Unit 40-44							
第 3 回： Tense (Present Perfect & Past), Unit 12 - 17	第 11 回： Reported Speech, Unit 45-46							
第 4 回： Tense (Future) , Unit 18 - 24	第 12 回： Questions 47-50							
第 5 回： Review 1 時制まとめ	第 13 回： -ing&the infinitive, Unit 51-55							
第 6 回： Modals, Unit25-29	第 14 回： -ing&the infinitive, Unit 56-60							
第 7 回： Modals, Unit30-35	第 15 回： -ing&the infinitive, Unit 61-66							
第 8 回： Review2 時制・助動詞テスト	第 16 回： 定期試験							
テキスト： Raymond Murphy, <i>Grammar in Use Intermediate</i> , Cambridge								
参 考 書： なし								
評価方法・評価基準：								
Quiz、中間テスト、期末テスト、等を総合的に判断して評価する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)		○						80%
小テスト・ 授業内レポート		○						10%
授業態度				○	○			10%
受講者の発表								
演 習								
その他								
履修上の注意：								
・ 頻繁に Quiz を行うが、文法学習を英作文・口頭発表に役立てるものとして取り組むこと。								
・ 英文法・英作文Ⅲを履修済みか、それ相当の実力がある学生が受講すること。								

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員					
Investigative Reporting		Chris Melley ▪ Daniel Broudy ▪ Ron Breines					
授業の到達目標							
Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. This course is a survey of key areas of investigative writing that aims to develop independent thinking, skills in independent field research and the integration of results from interviews with people as a way to support observations and perspectives presented in articles.							
授業の概要							
Investigative Reporting is an upper-level writing course that introduces students to the principles of journalistic work. Students will learn about the value of collaboration, investigation, ethical reporting practices, truth claims, sourcing, and narrative approaches to journalistic writing.							
予習(preparation) : Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW							
復習(review) : Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.							
授 業 計 画 :							
Day 1 > Introductions / investigation / social inquiry / reporting / HW review readings							
Day 2 > local environmental issues / HW review readings							
Day 3 > local social issues / selected readings / discussions / HW review readings							
Day 4 > local economic issues / selected readings / discussions / HW review readings / prepare for workshop							
Day 5 > writers' workshop / peer-review / instructor-led							
Day 5 > national environmental issues / selected readings / discussions / HW review readings							
Day 6 > national social issues / selected readings / discussions / HW review readings							
Day 7 > national economic issues / selected readings / discussions / HW review readings							
Day 8 > national political issues / selected readings / discussions / HW review readings / prepare for workshop							
Day 9 > writers' workshop / peer-review / instructor-led							
Day 10 > global environmental issues / selected readings / discussions / HW review readings							
Day 11 > global social issues / selected readings / discussions / HW review readings							
Day 12 > global economic issues / selected readings / discussions / HW review readings / prepare for workshop							
Day 13 > writers' workshop / peer-review / instructor-led							
Day 14 > workshop for presentations							
Day 15 > Presentations							
Day 16 > Presentations							
テキスト : Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.							
参 考 書 : Students are expected to conduct interviews, take notes, and use notes in the development of article.							
評価方法・評価基準 :							
Grades are calculated from scores on articles, presentations, and participation.							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○	○	○				50
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○	○		30
受講者の発表	○	○					20
演 習							
その他			○	○			
履修上の注意 : Participation is an important part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.							

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
Advanced Writing		Daniel Broudy
授業の到達目標及びテーマ: Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. 習得した知識や能力を更に高める。授業時間内の演習を行い、十分な議論を考え出し、組み立て、一貫させるため、さらに技術を向上させる。レトリックの方法や、それが議論の際どのように役立つかに関する説明も行われる。主な内容としては、リサーチやサマリーの方法、ノートのとり方、適切な引用により主張を裏付けること、議論を展開すること、などがあげられる。学生は、日常生活に影響を与える問題や、学問、社会、政治、経済に関わる問題に真剣に考えるよう促させる。卒業論文のため、関心分野を探す助けとなる。		
授業の概要 This course expands on knowledge and skills gained in ECII. Students practice exercises and undertake an academic research project that develops skills in generating and developing fully developed arguments. Researching, summarizing, note-taking and using sources to support claims and develop discussions are all features of the course. Students are encouraged to think critically about issues that affect their lives or areas of social, political, or economic interest. 予習(preparation): Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW 復習(review): Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.		
授 業 計 画 Day 1 > introductions / review syllabus / HW: read short essay "Sugar: Friend of Foe" pgs. 3-4 Day 2 > discussion of Unit 1 in small groups / finish exercises / HW: read Unit 2, pgs. 8-14 Day 3 > discussion of Unit 2 / finish all exercises in class / HW: finish brainstorming, outlining, and drafting first essay for Day 4 / read Unit 3 to understand any new vocabulary and the purpose of Peer Review during next class Day 4 > bring a copy of your essay to share with your classmate work through Unit 3 together / HW: finish your the Peer Review of your classmate's essay for the next class Day 5 > finish up Peer Review process, refer to "Put it Together" pg. 22 / writers' workshop for essay / HW: read Unit 4 to understand any new vocabulary and the purpose of Researching during next class Day 6 > discussion of Unit 4 / finish all exercises / HW: read and follow directions in "Put it Together" pg. 29 / read Unit 5 to understand any new vocabulary and the purpose of Outlining during next class Day 7 > submit essay for grading / lecture on brainstorming and outlining, how to move from subject area to topic, to brainstorming and creating an outline / discussion of Unit 5 / finish all exercises / HW: read Unit 6 to understand any new vocabulary and the purpose of Avoiding Plagiarism during next class Day 8 > discussion of Unit 6 / finish all exercises / HW: read and follow directions in "Put it Together" pg. 49 / read Unit 7 to understand any new vocabulary and the purpose of The Language of the Research Paper during next class Day 9 > discussion of Unit 7 / finish all exercises / read and follow directions in "Put it Together" pg. 59 / HW: read Unit 8 to understand new vocabulary and the purpose of Writing the First Draft Day 10 > discussion of Unit 8 / finish all exercises / HW: read and follow directions in "Put it Together" pg. 66 / read exercises 8 to 11 on pgs. 67 to 68 to prepare for discussions during next class Day 11 > discussion of exercises / writers' workshop for research paper / HW: read Unit 9 to understand any new vocabulary and the purpose of In-Text Citations during next class Day 12 > discussion of exercises / writers' workshop for research paper / HW: read Unit 10 to understand new vocabulary and the aims of academic language /do exercise 4 pg. 78, exercises 8 and 9 pg. 81, and exercise 10 pg. 82 Day 13 > discussion of exercises / writers' workshop for research paper discussion of Unit 12 / HW: prepare your presentation for the next two classes Day 14 > students' presentations Day 15 > students' presentations /submit final research paper		
テキスト: <i>Writing Research Papers</i> (Macmillan Writing Series ISBN: 978-0-230-42194-3)		
評価方法・評価基準 / Short Essay = 30% / Research Paper = 40% Participation = 30%		
履修上の注意: Participation is an important part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.		

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員					
Creative Writing		Peter Wodarz ・ Ron Breines ・ Daniel Broudy					
授業の到達目標及びテーマ							
Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. This course asks you to use your imagination and to express yourself creatively with the central view of publishing and/or presenting the various creative works developed throughout the course.							
授業の概要							
This is an upper-level course in creative writing that surveys key areas of creative writing: poetry, short story, and/or drama. Emphasis is on close reading and critical thinking from a writer's perspective as a way to better understand the art. Students examine poetry, prose and/or drama, and discuss the elements of creative writing and put new knowledge into practice with the production of creative output in genres of the professor's choosing.							
予習(preparation) : Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW							
復習(review) : Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.							
授 業 計 画							
Day 1 > Introductions / literary themes / HW review readings							
Day 2 > settings / HW review readings							
Day 3 > tone and style / HW review readings / prepare poem for workshop 1							
Day 4 > writers' workshop 1 / peer-reviewed instructor-led / HW review readings							
Day 5 > metaphor and simile / short story / HW review readings / prepare poem workshop 2							
Day 6 > writers' workshop 2 / found poetry exercise / HW review readings / prepare poem workshop 3							
Day 7 > writers' workshop 3 / character development / HW review readings / prepare for performance							
Day 8 > performance poetry							
Day 9 > point of view / dialogue / HW review readings / prepare for workshop 4 (short story draft 1)							
Day 10 > writers' workshop 4 / peer-reviewed instructor-led							
Day 11 > plot development / HW review readings							
Day 12 > complication / dramatic situation / HW review readings / prepare for workshop 5 (short story draft 2)							
Day 13 > writers' workshop 5 / peer-reviewed instructor-led / HW review readings							
Day 14 > Performance prose							
Day 15 > Performance prose / HW review readings to prepare for final exam							
Day 16 > Final exam							
テキスト： Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.							
参 考 書： Students are expected to take notes and review their notes.							
評価方法・評価基準：							
Grades are calculated from scores on writings, presentations, and participation.							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○				50
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○	○		30
受講者の発表	○	○					20
演 習							
その他			○	○			
履修上の注意： Participation is an important part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.							

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員																																																
Visual Rhetoric		Daniel Broudy																																																
授業の到達目標及びテーマ Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. Since it is important to examine what rhetorical theory and criticism can offer to our understanding and interpretation of the visual world of signs, symbols and images, in this course, students will: 1. Develop an understanding of the concepts and methods used to rhetorically analyze and interpret images and artifacts; and 2. Demonstrate ability to critically engage in rhetorical analysis of visual images and artifacts through essays and presentations. 授業の概要 Visual Rhetoric is an upper-level course in critical analysis that fulfills part of the advanced communication studies requirement. Advances in communication technology have resulted in new and more accessible means for creating and distributing visual images and artifacts. At the same time, the rhetorical impact of these images and artifacts is not yet well documented or understood. It is important to examine what rhetorical theory and criticism can offer to our understanding, use and interpretation, of visual images. This course examines social and political media and the visual aspects of mass persuasion. Students are introduced to theories of communication and contemporary methods of persuasion used in civil, commercial, and military media. 予習(preparation) : Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings and viewings of videos within the Coursebase marked as Homework. 復習(review) : Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period to reinforce knowledge of theories and their applications.																																																		
授 業 計 画 : Day 1 > Focus Group >> HO1 <i>What is Visual Rhetoric?</i> >> Aristotle > Homework: Visit Coursebase for Readings Day 2 > Color Psychology in Mass Persuasion >> Psychological Properties of Colours > HO2 Color Psychology Homework: Visit Coursebase for Readings Day 3 > Reinforcing Gender Stereotypes & Roles >> various a > Homework: Visit Coursebase for Readings Day 4 > Green-washing Techniques >> various media > Homework: Visit Coursebase for Readings Day 5 > Hyper-sexualizing >> various media > Homework: Visit Coursebase for Readings Day 6 > Agenda Setting >> Max McCombs & Donald Shaw > Homework: Visit Coursebase for Readings Day 7 > Workshop for Presentations > Homework: Visit Coursebase for Readings Day 8 > Presentations > Homework: Visit Coursebase for Readings Day 9 > Propagandizing Techniques >> Noam Chomsky > Homework: Visit Coursebase for Readings Day 10 > Cultivation Theory >> George Gerbner, Brainstorming session for presentations Visit Coursebase for Readings Day 11 > Subliminal Techniques >> Edward Bernays > Homework: Visit Coursebase for Readings Day 12 > Semiotics >>Roland Barthes > Homework: Prepare copies of essay for Workshops over next 2 weeks Day 13 > Definitional Control >> Herbert Schiller > Homework: Visit Coursebase for Readings Day 14 > Workshop for Presentations Day 15 > Presentations																																																		
テキスト : Handouts are provided for students in each class.																																																		
参 考 書 : Students are expected to take notes in lectures and review their notes.																																																		
評価方法・評価基準 : Grades are calculated from scores on essays, presentations, quizzes, and participation. <table><tr><th>到達目標等</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合 (%)</th></tr><tr><td>成績評価 試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>50</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				50	小テスト・ 授業内レポート								授業態度			○	○	○		30	受講者の発表	○	○					20	その他			○	○			
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																																											
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				50																																											
小テスト・ 授業内レポート																																																		
授業態度			○	○	○		30																																											
受講者の発表	○	○					20																																											
その他			○	○																																														
履修上の注意 :																																																		

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
英語音声学 (The Sounds of English)		新垣 友子

授業の到達目標及びテーマ：英語音の発音方や発音のメカニズムを学ぶ。

授業の概要

英語の母音や子音がどのように発音されているのか、自分の口の中の構造を認識しながら、調音点や調音方法を意識して発音のメカニズムを学ぶ。個々の音の正しい発音、隣接する音とその影響、音節やアクセント、イントネーション等について学び。更に、音声記号の読み・書きを練習することにより、英語音により近い音が発せられるようになることを授業の目標とする。

予習：各章に出てくる単語を調べて、左ページの解説を読んでくる。

復習：各章で学んだ音声記号を読めて書けるように復習すること。自主学習用の CD で発音練習をすること。

授 業 計 画

第 1 回： イントロダクション&母音について Practice1	第 9 回： Lesson1 音節と語強勢
第 2 回： 母音について Practice2,3	第 10 回： Lesson2 文強勢
第 3 回： 母音について Practice4,5	第 11 回： Lesson3 ポーズ
第 4 回： 母音まとめ・クイズ	第 12 回： Lesson4 ピッチとイントネーション
第 5 回： 子音について Practice6	第 13 回： Lesson5,6 連結、脱落（1）
第 6 回： 子音について Practice7,8	第 14 回： Lesson7,8 脱落（2）、同化
第 7 回： 子音について Practice9,10	第 15 回： Lesson9,10 機能語の弱形と強形
第 8 回： 子音まとめ・クイズ	第 16 回： 定期試験

テキスト：今井由美子他 『Sounds make perfect 英語音声学への扉』 英宝社

参 考 書：なし

評価方法・評価基準： 授業態度、小テスト、テスト

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○						80%
小テスト・ 授業内レポート	○		○				10%
授業態度			○	○	○		10%
受講者の発表							
演 習							
その他							

履修上の注意：

- ・ テキスト・参考書の変更がないか各自確認すること。
- ・ 英語発音の仕組み（メカニズム）を捉えること。発音記号の読みと表記に慣れること。
- 指摘された発音上の弱点を克服すること。遅刻しないこと。

授業科目名		2 単位 (2－0)	担当教員				
英語学概論 I (Introduction to the Study of English I)			新垣 友子				
授業の到達目標及びテーマ：英語とは何か、基礎的な英語の構造と機能を学ぶ。							
授業の概要							
英語史を概説し、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論を紹介する。ことばの構造のみならず、英語が社会や文化とどのように関わっているか文化的側面からの考察も行なう。英語の成立や現況、各時代区分の特色、つづり字や多様性など英語の輪郭と背景を学ぶ。毎回課題を課し、応用問題やクイズで理解の確認を図る。							
予習：決められた章を読んでノートをとる。(テストはノート持ち込み可)							
復習：授業で配付するプリントの問題の復習							
授 業 計 画							
第 1 回： ことばの起源と語族、人間のことばと言語研究		第 9 回： ことばの意味にみられる主観性、ことばの意味とコンテキスト					
第 2 回： 英語の発音とスペリング		第 10 回： まとまりのある文章、文中の情報構造					
第 3 回： 英語の語彙と多様性、標準英語の成立		第 11 回： ことばのやりとりにおけるルール					
第 4 回： 英語のバリエーション、ことばの変化		第 12 回： コミュニケーションの民俗誌、英語と文化					
第 5 回： ことばと音声、音の組合せとアクセント		第 13 回： ことばと社会、ことばと国家					
第 6 回： 単語ができる仕組み、文ができる仕組み		第 14 回： 日本の英語教育と教授法					
第 7 回： 文の内部構造、ことばの意味		第 15 回： まとめ					
第 8 回： 語の間の意味関係、意味の拡張		第 16 回： 定期試験					
テキスト：長谷川瑞穂 編 『はじめての英語学』 研究社 (2006)							
参 考 書：なし							
評価方法・評価基準：							
授業態度や授業への参加度、期末テストの結果を総合的に判断する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○						80%
小テスト・ 授業内レポート	○						10%
授業態度			○	○			10%
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意：							
・ 予習や課題は義務であり必ず済ませて授業に参加すること。							

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員					
社会言語学		新垣 友子					
授業の到達目標及びテーマ							
英語を社会との関連の中で多面的に理解する。社会に実際に存在する具体的な問題やその背景を把握し、矛盾や問題を認識・解決する姿勢を養う。							
授業の概要							
言語構造としての英語ではなく、英語をとりまく地域、世代、性別、職業、民族性など様々な背景と英語との相関関係を社会言語学的な観点から概観する。国際化とともに変移する英語の社会的立場や他の言語との関係など、英語に特化したテーマに加えて、言語の多様性や言語権など言語と社会をどう捉えるか学際的研究の動向を学ぶ。							
予習：決められた範囲をを読んでくる。							
復習：返却された理解チェックプリントの確認。							
授 業 計 画：							
第 1 回： 社会言語学とは何か	第 8 回： 年齢と言語						
第 2 回： 多言語社会、ダイグロッシア	第 9 回： オーディエンス・デザイン						
第 3 回： コードスイッチング	第 10 回： スピーチ・アコモデーション						
第 4 回： 言語の死と誕生	第 11 回： ポライトネス・ストラテジー						
第 5 回： 地域方言、社会方言	第 12 回： 法律と言葉、精神療法の英語						
第 6 回： 黒人英語	第 13 回： 異文化コミュニケーション						
第 7 回： ジェンダーと言語	第 14 回： 言語政策：米国での公用語運動						
	第 15 回： まとめ、期末テスト						
	第 16 回： 定期試験						
テキスト： 『社会言語学入門』（改訂版） 東照二 著 研究社							
参 考 書： なし							
評価方法・評価基準：期末試験、小テスト、授業態度などを総合して評価する。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○						60
小テスト・ 授業内レポート	○						30
授業態度				○			10
受講者の発表							
演 習							
その他							遅刻・欠席はマイナス
履修上の注意：							
・ 居眠りや私語は減点の対象となるので気をつけること。							
・ 必ず宿題を済ませて授業にのぞむこと。							

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
教育英文法 (Pedagogical Grammar)		大城 直人

授業の到達目標及びテーマ

英文法の文法規則についての理解を深め、その知識を基に文法指導力を身につけることが、本講義の到達目標である。確かな文法知識を習得し、文法規則を分かりやすく伝える説明力を養い、さらに、効果的な言語活動を計画・実践する授業運営力の獲得を目指す。

授業の概要

外国語として英語を学ぶ環境（EFL 環境）においては、英文法の学習は不可欠であり、効果的な文法指導力が教師には求められる。本講義では、中学・高校で扱う文法項目から主要なものを取り上げ、宣言的知識の獲得を視野に入れ、文法規則についての理解を深める。また、帰納的な導入の仕方や、分かりやすい説明の仕方についても実例を交えながら考究する。さらに、文法形式の定着を図るエクササイズや文法事項の活用を図るタスクの計画及び実施のあり方についても、実践的な演習やマイクロティーチングを通して理解を深め、指導技術を高める。

予習：テキストに事前に目をとおす（課題がある場合は、課題に取り組む）

復習：授業ハンドアウトの見直しやテキストの再読（課題がある場合は、課題に取り組む）

授 業 計 画：

第 1 回：	講義概要説明／なぜ文法を教えるのか－文法指導の意義－	第 8 回：	文法指導における練習の実際（1）
第 2 回：	学校英文法（1）	第 9 回：	文法指導における練習の実際（2）
第 3 回：	学校英文法（2）	第 10 回：	文法指導における活動の実際（1）
第 4 回：	文法指導における教材研究	第 11 回：	文法指導における活動の実際（2）
第 5 回：	文法指導の流れと留意点	第 12 回：	マイクロティーチング①
第 6 回：	文法指導における導入の実際	第 13 回：	マイクロティーチング②
第 7 回：	文法指導における説明の実際	第 14 回：	マイクロティーチング③
		第 15 回：	マイクロティーチング④

テキスト： 「英語教師のための文法指導デザイン」（大修館書店）

参 考 書： 「新しい英文法指導アイデアワーク」（明治図書）

評価方法・評価基準：

課題（指導案、レポート）、マイクロティーチング、授業への貢献度等を総合的に判断する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		30
授業態度			○	○			10
受講者の発表	○	○	○		○		20
演 習	○	○	○		○		40
その他							

履修上の注意：

- 遅刻： ①遅刻3回は1回の欠席となる。 ②20分以上の遅刻は、欠席となる。
- 事前に教科書に目を通しておくこと（授業内の発言、有意義な議論につながる！）。
- 英語教育関係の研究会、研修会へ積極的に参加し、指導力、研究力を高める。
- 『英語教育』やその他の英語教育関連の雑誌等に目をとおす。

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員					
英語学概論 II (Introduction to the Study of English II)		新垣 友子					
授業の到達目標及びテーマ：英語の構造と機能について理解を深める。							
授業の概要							
英語学概論 I で学んだことを基礎として、英語史、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論に関する各分野の専門知識を深める。英語の文献を読み、演習やディスカッションを通して応用力・専門性の向上を図る。							
予習：決められた章を読んで、事前に配布する問題を解く							
復習：授業で行う解答を参考に内容を確認する							
授 業 計 画							
第 1 回： Why Study English Linguistics	第 9 回： How to Communicate with Other People: Pragmatics						
第 2 回： How Words Are Made: Morphology	第 10 回： The Sounds of English: Phonetics and Phonology						
第 3 回： How Words Mean: Semantics I	第 11 回： Regional Varieties of English: Sociolinguistics I						
第 4 回： How English Phrases Are Formed: Syntax I	第 12 回： English in Society: Sociolinguistics II						
第 5 回： How English Sentences Are Formed: Syntax II	第 13 回： How English is Acquired: Psycholinguistics						
第 6 回： How Sentences Mean: Semantics II	第 14 回： Review (2)						
第 7 回： Review (1)	第 15 回： Discussion						
第 8 回： Why Study English Linguistics	第 16 回： Final Examination						
テキスト：未定							
参 考 書：影山太郎他(2004) Introduction to English Linguistics 2 nd ed. くろしお出版							
評価方法・評価基準：							
授業態度や授業への参加度、課題やクイズ、期末テストの結果を総合的に判断する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
定期試験 (中間・期末試験)	○						60%
小テスト・ 授業内レポート	○						30%
授業態度			○	○			10%
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意：							
・ <u>英語学概論 I を履修しておくこと。</u>							
・ 予習や課題は義務であり必ず済ませて授業に参加すること。							
・ 教材はほぼ英語で、かなりの英語力が要求されるため、その覚悟で授業にのぞむこと。							

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員				
英語科教育法Ⅰ（＝英語教育法） (English Language EducationⅠ)			大城 直人				
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：英語教育理論や教育の現状について説明できる。 思考・判断：教育の問題を批判的に考察できる。 関心・意欲/技能・表現：情報や現状を客観的に捉え、整理、発表できる。							
授業の概要							
教育とは何かという本質的な問題提議を通して、英語教育の意義と目的を認識し、英語教育理論を学習理論と指導理論の双方から概観する。英語教育の歴史的、理論的背景について体系的に理解した上で、指導要領や教授法の変遷について考察する。又、英語教育に関わる諸問題を広くとりあげながら、現状理解を図り、日本の英語教育の方向性について議論を深める。							
予習：配付資料及び教科書の該当箇所を事前に読んでおく。							
復習：指定された課題に取り組み期日までに提出する							
授 業 計 画							
第 1 回： オリエンテーション・英語教育の目的		第 9 回： 教室の使用言語					
第 2 回： 日本の英語教育の歴史		第 10 回： 授業の形態					
第 3 回： 英語教師論		第 11 回： 測定と評価					
第 4 回： 言語習得と教授法		第 12 回： 語彙の指導と評価					
第 5 回： 第一言語習得と第二言語習得		第 13 回： 文法の指導と評価①					
第 6 回： 学習者論①		第 14 回： 文法の指導と評価②					
第 7 回： 学習者論②		第 15 回： まとめ					
第 8 回： 英語教育課程							
テキスト： 「英語科教育の基礎と実践」（三修社）							
参 考 書： 課題図書、参考文献は授業において提示する。							
評価方法・評価基準： 1.発表、授業への参加姿勢 2.レポート・クイズ・定期テスト 上記、1， 2をもって総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
Take-home Exam (3 回)	○	○					7 0％
小テスト・ 授業内レポート	○	○					2 0％
授業態度			○				1 0％
受講者の発表				○			評価に加えず
演 習	○				○		評価に加えず
その他							
履修上の注意：							
1 テキストとともに課題図書が指定される。							
2 予習を前提として講義を行う。							

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員																								
英文学史 (History of British Literature)		浜川 仁																								
授業の到達目標及びテーマ 英文学史の流れをつかみ、イギリスおよび英語圏の歴史・文化への関心を高める。																										
授業の概要 古代、中世からルネッサンス、産業革命を経て、20 世紀以降へと流れるイギリス文学の歴史について、歴史・文化・社会の背景を学びつつ、代表的な作品を読み解きながら理解を深める。 予習：該当する章を読み、テキスト中の代表的作品の抜粋についても目を通しておく。 復習：講義とハンドアウトを参考に、とくに解説の加えられた作品を再読する。																										
授 業 計 画																										
第 1 回： 教養とは何か	第 9 回： ロマン派 (2)																									
第 2 回： チョーサー	第 10 回： まとめ																									
第 3 回： シェイクスピア (1)	第 11 回： ビクトリア朝 (1)																									
第 4 回： 17 世紀文学	第 12 回： ビクトリア朝 (2)																									
第 5 回： ミルトン	第 13 回： モダニズム																									
第 6 回： 18 世紀文学	第 14 回： 現代																									
第 7 回： プレロマン	第 15 回： 期末試験																									
第 8 回： ロマン派 (1)	第 16 回： まとめと期末レポートの提出																									
テキスト： 神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス史』（ミネルヴァ書房）																										
参 考 書： ハンドアウトなど、その他の資料は適宜クラスで配布する。																										
評価方法・評価基準： 以下を目安とし、評価する。																										
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合 (%)</td></tr><tr><td>期末試験</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>90</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>10</td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	期末試験	○	○	○		○		90	授業態度			○	○			10		
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																			
期末試験	○	○	○		○		90																			
授業態度			○	○			10																			
履修上の注意： 大きめの教室なので、とくに集中力を高めてしっかり講義についてきてほしい。																										

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員
米文学史 (History of American Literature)		喜納 育江

授業の到達目標及びテーマ

講義を通してアメリカ文学史の全体図を概ね説明できる知識や理解を習得するほか、旺盛な知的好奇心と積極的な学習態度によって、アメリカ文学がアメリカ文化やアメリカ社会の形成にどのように関わっているかについて、講義で学んだ内容を自らの思考によって深め、最終的にはある米文学史において重要なテーマについての自らの見解を語れるようになることを目標とする。

授業の概要

この授業は、アメリカ文学を理解するうえで重要な作家と作品を選んで読み、その社会的・思想的コンテキストを歴史的に概観していく。イギリス・ヨーロッパによるアメリカ大陸の植民地化から、独立戦争、南北戦争を経て、モダニズムの時代から、第二次世界大戦に至るまで、アメリカが国家として歴史を重ねる中で、どのような文化や思潮を形成していったのかを辿り、それぞれの時代が生んだ文学作品に反映されるアメリカ文化について考察する。アメリカ文学・文化という研究分野への入門講座。

予習：事前に配布する教材（英文）に目を通して、どのような作家や作品かをある程度認識しておくこと。

復習：初回の授業で配布するシラバスに沿って、各回の授業内容について思い出しながら考える。

授 業 計 画

第 1 回：	アメリカ史のアウトライン	第 9 回：	奴隷制度、南北戦争、奴隷制度廃止運動の文学（2）
第 2 回：	アメリカ大陸の征服と先住民とヨーロッパ人の関係の始まり	第 10 回：	リアリズムと地域主義の文学（1）
第 3 回：	ピューリタンとアメリカ文学	第 11 回：	リアリズムと地域主義の文学（2）
第 4 回：	先住民とピューリタンの関係	第 12 回：	アメリカ社会と移民の文学
第 5 回：	建国の父たち	第 13 回：	モダニズムの時代と文学
第 6 回：	アメリカ文学の文学的成熟	第 14 回：	公民権運動から多文化主義へ
第 7 回：	19 世紀アメリカ詩	第 15 回：	アメリカ文学の現在
第 8 回：	奴隷制度、南北戦争、奴隷制度廃止運動の文学（1）	第 16 回：	期末試験

テキスト：授業で配付するハンドアウト。その他のテキストについては随時告知する。

参 考 書：亀井俊介著『アメリカ文学史講義』 1～3 巻、南雲堂 1998 年

評価方法・評価基準：

期末テスト 50%、クイズ、レポート 30%、レスポンスなどを含む授業への参加貢献度 20%

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)	○	○					50%
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○		30%
授業態度			○	○	○		20%
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
その他			○	○			1/3 以上の欠席 で不可とする

履修上の注意：

文学作品の背景知識を覚えればよいというのではなく、歴史の中で生まれたそれぞれの文学表現を実際に読むことも重視する科目でもあるので、授業にのぞむにあたっては、時間をかけた丁寧な予習を心がけてほしい。

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員																																					
英国文学作品研究 I (Readings in British Literature I)		浜川 仁																																					
授業の到達目標及びテーマ 18 世紀後半から 19 世紀初めの英国の政治・社会状況を把握しつつ、英国文学への造詣を深める。																																							
授業の概要 Jane Austen の <i>Pride and Prejudice</i> (1813) を題材に作品研究を行う。作家の研究及びこの作品の精読からなる文学批評の基礎演習である。授業はセミナー方式で行う。毎回、読書課題があり、クラスではそのサマリーや感想、並びに課題箇所についての討論を行う。学期の中頃と期末には小論文を提出する。 予習：該当するチャプターについて情報に目を通しておく。 復習：小論文と期末テストに備え、講義内容の整理につとめる。																																							
授 業 計 画																																							
第 1 回： オースティンの時代	第 9 回： Chapters 35～40																																						
第 2 回： Chapters 1～6	第 10 回： " 41～43																																						
第 3 回： " 7～11	第 11 回： " 44～47																																						
第 4 回： " 12～17	第 12 回： " 48～52																																						
第 5 回： " 18～22	第 13 回： " 53～56																																						
第 6 回： " 23～28	第 14 回： " 57～61／第二回論文提出																																						
第 7 回： " 29～34／初回論文提出	第 15 回： 期末試験																																						
第 8 回： まとめ	第 16 回： まとめ																																						
※第 2～6 回、第 9～14 回にサブ教材についての説明や映画鑑賞もある。																																							
テキスト： Jane Austen 著 <i>Pride and Prejudice</i>																																							
参 考 書： サブテキストなど、その他の資料は適宜クラスで配布する。																																							
評価方法・評価基準： 以下を目安とし、評価する。																																							
<table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合 (%)</td></tr><tr><td>期末試験</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>70</td></tr><tr><td>小論文・レポート</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>10</td></tr></table>	到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	期末試験	○	○			○		70	小論文・レポート	○	○			○		20	授業態度			○	○			10							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																																
期末試験	○	○			○		70																																
小論文・レポート	○	○			○		20																																
授業態度			○	○			10																																
履修上の注意：積極的にディスカッションに参加して欲しい。																																							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員					
英国文学作品研究Ⅰ (Readings in British LiteratureⅠ)			渡久山 幸功					
授業の到達目標及びテーマ：知識理解：19世紀後半から20世紀のアイランド文学の主要な主題及び現代批評理論の基礎を説明できる。 関心意欲：英国文学に興味を持てる。 思考判断：様々な角度から文脈の解釈を実践する。 態 度：文学作品を通して既成概念を批判的に観察する。アイランド文学の特色を理解しながら、現代文学理論の基礎を援用し、詩や短編小説を批評分析する能力を身に付ける。 英文の読解力を付ける。								
授業の概要：W.B. YeatsとSeamus Heaneyの詩、およびJames Joyceの短編集 <i>Dubliners</i> (1914)のアイランド文学の作品研究を行う。テキストを精読し、毎回の授業では、前半に学生は口頭発表を行い、後半に講義形式の授業形態となる。積極的にディスカッション（討論）に参加することを義務化し、最終的には講義で学んだ批評理論を援用して、文学批評小論文（英文 A4 版 1ページ 12フォント 20行 600英単語以上）を提出する。講義では文学研究に必要なアカデミックなライティングの手続きを習得する。								
予習：授業前の Reading Assugnment を行うこと（毎回クイズを行います。） 復習：講義で説明されたこと、ディスカッションしたことをまとめる作業。								
授 業 計 画								
第1回：	コース・イントロダクショ W.B. Yeats	第9回：	Clay					
第2回：	W.B. Yeats	第10回：	A Painful Case					
第3回：	W.B. Yeats	第11回：	The Dead					
第4回：	W.B. Yeats	第12回：	The Dead					
第5回：	Araby	第13回：	Seamus Heaney					
第6回：	Eveline	第14回：	Seamus Heaney					
第7回：	The Boarding House	第15回：	Seamus Heaney					
第8回：	Counterparts	第16回：	定期試験					
テキスト： James Joyce 著 <i>Dubliners</i> (1914) Yeats Heaney の詩はプリント配布。								
参 考 書： サブテキストや批評論文は適宜クラスで配布する。								
評価方法・評価基準：定期試験：(25%) 英文小論文：(25%) クイズ：(30%) ディスカッション貢献度：(10%) 発表：(10%)								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○					25
小テスト・ 授業内レポート		○	○			○		25
授業態度				○	○			10
受講者の発表					○	○		10
演 習								評価に加えず
その他(クイズ)		○		○				30
履修上の注意：欠席5回以上は単位を与えない。討論に積極的に参加する事。 英文小論文に剽窃行為がある場合には、評価は0点とする。								

授業科目名		2 単位 (2－0)	担当教員				
英国文学作品研究 II (Readings in British Literature II)			浜川 仁				
授業の到達目標及びテーマ 19 世紀英国の政治・社会状況を把握しつつ、英国文学への造詣を深める。							
授業の概要 Charlotte Brontë の <i>Jane Eyre</i> (1857) を題材に作品研究を行う。作家の研究及びこの作品の精読からなる文学批評の基礎演習である。授業はセミナー方式で行う。毎回、読書課題があり、クラスではそのサマリーや感想、並びに課題箇所についての討論を行う。学期の中頃と期末には小論文を提出する。 予習：該当するチャプターについて情報に目を通しておく。 復習：小論文と期末テストに備え、講義内容の整理につとめる。							
授 業 計 画							
第 1 回： ブロンテの時代		第 9 回： Chapters 21～23					
第 2 回： Chapters 1～3		第 10 回： Chapters 24～26					
第 3 回： Chapters 4～7		第 11 回： Chapters 27～28					
第 4 回： Chapters 8～11		第 12 回： Chapters 29～32					
第 5 回： Chapters 12～15		第 13 回： Chapters 33～34					
第 6 回： Chapters 16～17		第 14 回： Chapters 35～38／第 2 回論文提出					
第 7 回： まとめ		第 15 回： 期末試験					
第 8 回： Chapters 18～20／初回論文提出		第 16 回： まとめ					
テキスト： Charlotte Brontë 著 <i>Jane Eyre</i>							
参 考 書： サブテキストなど、その他の資料は適宜クラスで配布する。							
評価方法・評価基準： 以下を目安とし、評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
期末試験	○	○			○		70
小論文・レポート	○	○			○		20
授業態度			○	○			10
履修上の注意： 積極的にディスカッションに参加して欲しい。							

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員																																																													
米国文学作品研究 I (Readings in American Literature I)		崎原 千尋																																																													
授業の到達目標及びテーマ： （技能・表現）文学作品を読む作業を通してtextual analysis（テキスト分析）の基礎を学ぶ。（思考・判断）その上でテキストと（１）米国の（黒人女性を主体とした）文化的、歴史的、政治的文脈に照らし合わせること、（２）race, gender, sexualityの基礎概念を理解することに焦点をあてる。（関心・意欲）アフリカ系アメリカ人女性の作品から読み解くテーマやメッセージがどのようにメインストリームのアメリカ文学や大衆文化・社会に影響してきたのかを考察する。また時代や空間を超えて今、沖縄に生きる私たちにどう呼応するのかを議論する。																																																															
授業の概要 （概要）テキストは Tony Morrison の <i>The Bluest Eye</i> (1970) を使用する。グループで割り当てられたチャプターを担当して概要や感想をシェアしながら読み進める。 （授業方法）その流れの中で ①作者やアフリカ系アメリカ人女性と文学作品に関する時代背景、②race, gender, sexuality の概念と文学の分析方法の基礎（textual analysis）を学ぶための講義を盛り込む。Google+のコミュニティを利用してコメントをシェアし、各セクションでは感想ノートを提出する。期末は in-class エッセイ方式とする。 （予習）毎週の割り当て分のチャプターを読んでから授業に臨むこと。 （復習）Google+にコメントや質問をシェアしたり、わかりにくかった箇所は和訳を参照したりして理解を深めること。																																																															
授 業 計 画 第 1 回：イントロダクション 第 2 回： <i>The Bluest Eye</i> p. 1-32 第 3 回：グループ発表とディスカッション（1） 第 4 回： <i>The Bluest Eye</i> p. 33-58 第 5 回：グループ発表とディスカッション（2） 第 6 回： <i>The Bluest Eye</i> p. 59-93 第 7 回：グループ発表とディスカッション（3） 第 8 回： <i>The Bluest Eye</i> p. 95-131 第 9 回：グループ発表とディスカッション（4） 第 10 回： <i>The Bluest Eye</i> p. 132-163 第 11 回：グループ発表とディスカッション（5） 第 12 回： <i>The Bluest Eye</i> p. 164-205 第 13 回：グループ発表とディスカッション（6） 第 14 回：グループ発表とディスカッション（7） 第 15 回：まとめ 第 16 回：授業内試験：期末エッセイ																																																															
テキスト：Tony Morrison, <i>The Bluest Eye</i> (New York: Pocket Books, 1970) ※アマゾンで各自購入します。 ネットでの購入が難しい場合は相談してください。																																																															
参 考 書：トニ・モリスン著、大社淑子翻訳『青い眼がほしい』（早川書房） クラスで適宜、資料を配布または Google+のコミュニティに投稿する。																																																															
評価方法・評価基準：																																																															
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合（%）</td></tr><tr><td>試験 （中間・期末試験）</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>30%</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>30%</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>10%</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>30%</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他（課題）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）	試験 （中間・期末試験）	○	○	○				30%	小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		30%	授業態度		○	○	○			10%	受講者の発表	○	○	○	○	○		30%	演 習								その他（課題）														
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）																																																								
試験 （中間・期末試験）	○	○	○				30%																																																								
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		30%																																																								
授業態度		○	○	○			10%																																																								
受講者の発表	○	○	○	○	○		30%																																																								
演 習																																																															
その他（課題）																																																															
履修上の注意：「米文学史」を履修していることが望ましい（必須ではない）。 1 冊の文学作品をきちんと読み通すことが前提なので、予習を心がけてほしい。																																																															

授業科目名		2 単位 (2－0)	担当教員				
米国文学作品研究 II (Readings in American Literature II)			渡久山 幸功				
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：米国文学の主要な主題及び現代批評理論の基礎を説明できる。							
関心意欲：米国文学に興味を持てる。							
思考判断：様々な角度から文脈の解釈を実践する。							
態 度：文学作品を通して既成概念を批判的に観察する。20 世紀米国小説の特色を理解し、研究論文を作成する。							
授業の概要							
学期の前半は、主にアメリカ演劇から Tennessee Wiilimans の <i>A Streetcar Named Desire</i> (1947) および John Patrick の <i>The Teahouse of the August Moon</i> (1953) を講義し、後半は <i>The Great Gatsby</i> (1925) の米国小説を学ぶ。授業前半に学生は口頭発表を行い、後半に講義形式の授業形態となる。積極的にディスカッションに参加することを義務化する。最終的には講義で学んだ批評理論を援用して、演劇 2 作品に関しては、日本語による小論文（3000 字以上）最終的には <i>The Great Gatsby</i> の文学批評小論文（英文 A4 版 1 ページ 12 フォント 20 行 8 0 0 単語以上）を提出する。講義では文学研究に必要なアカデミックなライティングの手続きを習得する。							
予習：授業前の Reading Assugnment を必ず行うこと。（ <i>The Great Gatsby</i> では、毎回クイズを行います。）							
復習：講義で説明されたこと、ディスカッションしたことをまとめる作業。							
授 業 計 画							
第 1 回： コース・イントロダクション		第 9 回： <i>The Great Gatsby</i> 4					
第 2 回： Tennessee Williams: <i>A Streetcar Named Desire</i>		第 10 回： <i>The Great Gatsby</i> 5					
第 3 回： Tennessee Williams: <i>A Streetcar Named Desire</i>		第 11 回： <i>The Great Gatsby</i> 6					
第 4 回： <i>The Great Gatsby</i> 1		第 12 回： <i>The Great Gatsby</i> 7					
第 5 回： <i>The Great Gatsby</i> 2		第 13 回： <i>The Great Gatsby</i> 8					
第 6 回： John Patrick: <i>The Teahouse of the August Moon</i>		第 14 回： <i>The Great Gatsby</i> 9					
第 7 回： John Patrick: <i>The Teahouse of the August Moon</i>		第 15 回： <i>The Great Gatsby</i> 10					
第 8 回 <i>The Great Gatsby</i> 3		第 16 回： 定期試験					
テキスト： Tennessee Wiilimans の <i>A Streetcar Named Desire</i> (1947) John Patrick の <i>The Teahouse of the August Moon</i> (1953) F. Scott Fitzgerald <i>The Great Gatsby</i> (1925)							
参 考 書： Lois Tyson <i>Critical Theory Toeday: A User-Friendly Guide</i> (2006)							
評価方法・評価基準： 定期試験：（2 0 %） ディスカッション貢献度：（1 0 %） 和文・英文小論文：（4 0 %） 発表：（1 0 %） その他（クイズ課題）：（2 0 %）							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
試験 （中間・期末試験）	○	○					2 0
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		4 0
授業態度			○	○			1 0
受講者の発表							1 0
演 習							評価に加えず
その他（課題）							2 0
履修上の注意：欠席 5 回以上は単位を与えない。討論に積極的に参加する事。 和文・英文小論文に剽窃行為がある場合には、評価は 0 点とする。 米国作品研究 I の単位取得済みの方が望ましい。							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員						
同時通訳Ⅰ (Simultaneous InterpretationⅠ)		城間 仙子						
授業の到達目標								
・ 同時通訳に必要な訓練をこなすことができる ・ 基礎的な同時通訳、逐次通訳に必要な要素を理解する								
授業の概要								
同時通訳者は特別な人だけになれると思っていませんか？そんなことはありません。適切な訓練と鍛錬を積み、特別なバックグラウンドを持っていなくても同時通訳者への道は開かれます。この授業では、シャドウイング、サイト・トランスレーション、キック・レスポンスといった同時通訳のための独特の訓練法を用い、日・英両語の発音、イントネーション、語彙力、予測能力、同時通訳能力を高めます。特に英語のリスニング力を高めるため、CNN や NHK（日英両語）のニュースなども教材の一部として活用します。逐次通訳においては、教材やスピーチを聞きながらメモを取り通訳をする訓練をします。また、クラスメートのスピーチを逐次で通訳し、必要なプレゼンテーションの要素も学習します。								
予習(preparation)：配布資料の予習 復習(review)：授業内容の反復と応用								
授 業 計 画								
第 1 回：	通訳とは、同時通訳と他の通訳の違い、通訳のための訓練について	第 9 回：	日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 1					
第 2 回：	シャドウイング（発音、イントネーションの練習）	第 10 回：	日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 2					
第 3 回：	語彙（単語・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス	第 11 回：	通訳者としての立ち振る舞い（マナー）					
第 4 回：	予測練習	第 12 回：	メモ取り					
第 5 回：	リテンション・リプロダクション	第 13 回：	逐次通訳（日→英）					
第 6 回：	サイト・トランスレーション	第 14 回：	逐次通訳（英→日）					
第 7 回：	日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 1	第 15 回：	月曜礼拝メッセージの同時通訳					
第 8 回：	日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 2	上記 2～15 を 15 週適宜行う。						
テキスト：授業担当教員が準備・配布します。								
評価方法・評価基準：ラボで毎回個人をモニターする。月曜礼拝メッセージの同時通訳。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート		○	○	○		○		60
授業態度				○	○	○		20
受講者の発表								
演 習		○	○	○	○	○		20
その他								
履修上の注意：								
遅刻しないこと。USB を常に持っていること。語彙を増やす努力をすること。 月曜礼拝のメッセージに聞き入れること。日・英両語で新聞を読むこと。								

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
同時通訳Ⅱ (Simultaneous InterpretationⅡ)		城間 仙子
授業の到達目標 ・同時通訳に必要な訓練をスムーズにこなすことができる ・基礎的な同時通訳、逐次通訳ができる		
授業の概要 同時通訳Ⅰで学んだものを更にステップアップし、日・英両語で同時通訳が出来るようになることを目的とします。演習の内容は同時通訳Ⅰと同様（詳しくは「同時通訳Ⅰ」をご覧ください）ですが、これらをさらに徹底し、より豊富な語彙力、安定した文法力、的確な表現を目指して同時通訳に備えます。 実践演習として、月曜礼拝の同時通訳にもチャレンジします。 予習(preparation)：配布資料の予習 復習(review)：授業内容の反復と応用		
授 業 計 画		
第1回：シャドウイング (発音、イントネーションの練習)	第9回：日・英両語のニュースの同時通訳練習1	
第2回：語彙（単語・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス	第10回：日・英両語のニュースの同時通訳練習2	
第3回：予測練習	第11回：メモ取り	
第4回：リテンション・リプロダクション	第12回：逐次通訳（日→英）	
第5回：サイト・トランスレーション	第13回：逐次通訳（英→日）	
第6回：日・英両語の原稿を用いた同時通訳の練習	第14回：月曜礼拝メッセージの同時通訳	
第7回：スピーチの同時通訳練習	第15回：特別講演等の同時通訳	
第8回：日・英両語の新聞記事読解		
テキスト：担当教員が準備・配布します。		
評価方法・評価基準：ラボで毎回個々人をモニターする。月曜礼拝メッセージ同時通訳。 特別講演同時通訳。		
成績評価	到達目標等	知識・理解
試験 (中間・期末試験)		思考・判断
小テスト・授業内レポート	○	関心・意欲
授業態度		態度
受講者の発表		技能・表現
演習	○	その他
その他		評価割合(%)
		60
		20
		20
履修上の注意：遅刻しないこと。USBを常に持っていること。語彙を増やす努力をすること。 月曜礼拝のメッセージに聞きなれること。日・英両語で新聞を読むこと。 NHK、CNNのニュースをよく聞くこと。		

授業科目名		1 単位 (0－2)	担当教員				
同時通訳実践演習Ⅰ（Chapel Service） （Chapel Service InterpretationⅠ）			城間 仙子				
授業の到達目標及びテーマ							
月曜礼拝やキリスト教講演会において同時通訳の実践をする。高度な同時通訳の実践力を備えた人材、また沖縄から平和を作り出す意義を大切に建学の精神を英語と日本語で適切に表現できる人材になることを目標とする。							
授業の概要							
前期の月曜礼拝とキリスト教講演会において同時通訳（場合により逐次通訳）を担当する。本学の通訳関連科目で習得できる種々のスキルを総動員して実践に挑戦するとともに、建学の精神を伝える一翼を担う意識をもって臨む。							
予習(preparation)：配布資料を研究しておく							
復習(review)：実際に行ったパフォーマンスを振り返って分析する							
授 業 計 画 ※授業計画は若干変更になることもあります							
第 1 回： 月曜礼拝通訳の実践 1		第 9 回： 月曜礼拝通訳の実践 8					
第 2 回： 月曜礼拝通訳の実践 2		第 10 回： 月曜礼拝通訳の実践 9					
第 3 回： 月曜礼拝通訳の実践 3		第 11 回： 月曜礼拝通訳の実践 10					
第 4 回： キリスト教講演会通訳		第 12 回： 月曜礼拝通訳の実践 11					
第 5 回： 月曜礼拝通訳の実践 4		第 13 回： 月曜礼拝通訳の実践 12					
第 6 回： 月曜礼拝通訳の実践 5		第 14 回： 月曜礼拝通訳の実践 13					
第 7 回： 月曜礼拝通訳の実践 6		第 15 回： まとめとフィードバック					
第 8 回： 月曜礼拝通訳の実践 7							
テキスト： 礼拝プログラムや説教者の原稿、その他の資料（その都度配布します）							
参 考 書： 聖書（日本語、英語）、その他内容に応じた資料（その都度指定します）							
評価方法・評価基準：							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
毎回の小テスト							
課題レポート							
授業態度			○	○			50
受講者の発表	○	○			○		50
演 習							
その他							
履修上の注意：							
「同時通訳Ⅰ」または「同時通訳Ⅱ」を履修中または履修済みであることが望ましい。							

授業科目名		1 単位 (0－2)	担当教員																																																								
同時通訳実践演習Ⅱ（Chapel Service） （Chapel Service InterpretationⅡ）			城間 仙子																																																								
授業の到達目標及びテーマ																																																											
月曜礼拝やキリスト教講演会において同時通訳の実践をする。高度な同時通訳の実践力を備えた人材、また沖縄から平和を作り出す意義を大切にする建学の精神を英語と日本語で適切に表現できる人材になることを目標とする。																																																											
授業の概要																																																											
後期の月曜礼拝とキリスト教講演会において同時通訳（場合により逐次通訳）を担当する。本学の通訳関連科目で習得できる種々のスキルを総動員して実践に挑戦するとともに、建学の精神を伝える一翼を担う意識をもって臨む。																																																											
予習(preparation)：配布資料を研究しておく																																																											
復習(review)：実際に行ったパフォーマンスを振り返って分析する																																																											
授 業 計 画 ※授業計画は若干変更になることもあります																																																											
第 1 回： 月曜礼拝通訳の実践 1		第 9 回： 月曜礼拝通訳の実践 8																																																									
第 2 回： 月曜礼拝通訳の実践 2		第 10 回： 月曜礼拝通訳の実践 9																																																									
第 3 回： 月曜礼拝通訳の実践 3		第 11 回： 月曜礼拝通訳の実践 1 0																																																									
第 4 回： キリスト教講演会通訳		第 12 回： 月曜礼拝通訳の実践 1 1																																																									
第 5 回： 月曜礼拝通訳の実践 4		第 13 回： 月曜礼拝通訳の実践 1 2																																																									
第 6 回： 月曜礼拝通訳の実践 5		第 14 回： 月曜礼拝通訳の実践 1 3																																																									
第 7 回： 月曜礼拝通訳の実践 6		第 15 回： まとめとフィードバック																																																									
第 8 回： 月曜礼拝通訳の実践 7																																																											
テキスト： 礼拝プログラムや説教者の原稿、その他の資料（その都度配布します）																																																											
参 考 書： 聖書（日本語、英語）、その他内容に応じた資料（その都度指定します）																																																											
評価方法・評価基準：																																																											
<table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>毎回の小テスト</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>課題レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>50</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>50</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	毎回の小テスト								課題レポート								授業態度			○	○			50	受講者の発表	○	○			○		50	演 習								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																				
毎回の小テスト																																																											
課題レポート																																																											
授業態度			○	○			50																																																				
受講者の発表	○	○			○		50																																																				
演 習																																																											
その他																																																											
履修上の注意：																																																											
「同時通訳Ⅰ」または「同時通訳Ⅱ」を履修中または履修済みであることが望ましい。																																																											

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員																																																																
通訳とプレゼンテーション			城間 仙子																																																																
授業の到達目標 逐次通訳とは何かを理解し、日本語⇄英語の逐次通訳に必要なプレゼンテーションの力を習得する。																																																																			
授業の概要 「通訳」には大きく分けて同時通訳と逐次通訳がありますが、この授業では逐次通訳に必要なプレゼンテーションの能力を向上させるために様々な演習をします。スピーチをする人のメッセージの内容はもちろんのこと、心に届く気持ちまでも失わずに聴衆に伝えるにはどうすればよいのか。スピーチの実践練習や種々の技能の訓練に加えて、「共感力」や「信頼」といった高度なコンセプトも学んでいただきます。人と人とが通じ合う喜びをサポートする意義深さも感じてください。 予習(preparation)：事前に配布する資料を用いて準備 復習(review)：授業で学んだ内容の応用に努める																																																																			
授 業 計 画 第 1 回： 通訳とは： 通訳と翻訳の違い、同時通訳と逐次通訳との違い 第 2 回： スピーチの実践・・・効果的なスピーチに必要なものは？ 第 3 回： スピーチの実践・・・効果的なスピーチに挑戦 第 4 回： リテンション・・・短文を再生する練習 第 5 回： リテンション・・・様々なリテンションを行う 第 6 回： リプロダクション・・・全体の内容をまとめる練習 第 7 回： リプロダクション・・・効果的なリプロダクションを目指す 第 8 回： 発音・イントネーションとは 第 9 回： 発音・イントネーションを磨く 第 10 回： 通訳のためのメモ取り練習とは 第 11 回： 通訳のためのメモ取り実践① 第 12 回： 通訳のためのメモ取り実践② 第 13 回： 他人のスピーチの逐次通訳① 第 14 回： 他人のスピーチの逐次通訳② 第 15 回： 他人のスピーチの逐次通訳③																																																																			
テキスト： 講師作成資料を配布します。																																																																			
評価方法・評価基準： 授業への参加度、クラス内でのパフォーマンス等を総合的に判断し評価します。																																																																			
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>成績評価</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>50</td></tr><tr><td>演 習</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>50</td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価								試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表	○	○	○	○	○		50	演 習	○	○	○	○	○		50	その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
成績評価																																																																			
試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度																																																																			
受講者の発表	○	○	○	○	○		50																																																												
演 習	○	○	○	○	○		50																																																												
その他																																																																			
履修上の注意： 毎回持参するもの： 英和辞書、和英辞書、ノート、筆記用具																																																																			

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員					
英日翻訳技法Ⅰ (English—Japanese Translation I)			浜川 仁					
授業の到達目標及びテーマ 英日翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。								
授業の概要 翻訳教材として用いる原文は、一般的な内容のもので、さまざまなスタイルや分野からとられている。しっかりした文法力と一般常識に基づく理解に添いつつ、いわゆる「直訳」にこだわらず、より自然な和文として訳出していくための翻訳技法を教授する。 予習：課題を翻訳しタイピングしておく。 復習：返却された課題と演習の指摘箇所を、訳案等をもとに再チェックする。								
授 業 計 画								
「トレーニングマニュアル」/「翻訳英文法」		「トレーニングマニュアル」/「翻訳英文法」						
第1回： イントロダクション with『翻訳の極意』		第9回： §9, §10／§11, §12						
第2回： 翻訳デモンストレーション		第10回： §11A／§13, §14						
第3回： §1, §2／§1, §2, §3, §6, §7, §8		第11回： §11B／§15, §16						
第4回： §3／§4A, §4B, §4C		第12回： まとめと小テスト						
第5回： §4／§5A		第13回： §12／§17A, §17B, §17C, §17 D						
第6回： §5, §6／§4D, §5B		第14回： §13／§18						
第7回： まとめと小テスト		第15回： §14／§19A, §19B, §19C, §19D						
第8回： §7, §8／§9, §9A, §9B, §9C, §10		第16回： まとめと小テスト						
テキスト： テキスト（演習課題）は、クラスで配布する。								
参 考 書： ・『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』安西徹雄（バベル・プレス） ・『翻訳英文法』安西徹雄（バベル・プレス）、 ・『翻訳の極意』小林淳夫（南雲フェニックス） ・その他								
評価方法・評価基準：以下を目安とし、評価する。								
到達目標等 成績評価		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
小テスト		○	○			○	○	60
授業態度				○	○			10
演習と課題		○	○			○	○	30
履修上の注意：課題はできるだけ毎週提出してほしい。英和・和英辞書を毎回忘れずに持参すること。								

授業科目名	2 単位 (0－2)	担当教員																																								
英日翻訳技法 II (English—Japanese Translation II)		浜川 仁																																								
授業の到達目標及びテーマ 英日翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。																																										
授業の概要： 翻訳教材として用いる原文は、一般的な内容のもので、さまざまなスタイルや分野からとられている。しっかりした文法力と一般常識に基づく理解に添いつつ、いわゆる「直訳」にこだわらず、より自然な和文として訳出していくための翻訳技法を教授する。 予習：課題を翻訳しタイピングしておく。 復習：返却された課題と演習の指摘箇所を、訳案等をもとに再チェックする。																																										
授 業 計 画																																										
「トレーニングマニュアル」／「英文翻訳術」 <table><tr><td>第 1 回：</td><td>イントロダクション with 『翻訳の極意』</td></tr><tr><td>第 2 回：</td><td>翻訳デモンストレーション</td></tr><tr><td>第 3 回：</td><td>§15A, §15B／§20A, §20B</td></tr><tr><td>第 4 回：</td><td>§15C／§20C</td></tr><tr><td>第 5 回：</td><td>§16A, §16B／§25A, §25B</td></tr><tr><td>第 6 回：</td><td>§16C, §17／§25C, §26A, §26B</td></tr><tr><td>第 7 回：</td><td>まとめと小テスト</td></tr><tr><td>第 8 回：</td><td>§18A／§29</td></tr></table> 「トレーニングマニュアル」／「英文翻訳術」 <table><tr><td>第 9 回：</td><td>§18B／§30</td></tr><tr><td>第 10 回：</td><td>§18C／§31, §32</td></tr><tr><td>第 11 回：</td><td>まとめと小テスト</td></tr><tr><td>第 12 回：</td><td>§19A／§33, §34, §35</td></tr><tr><td>第 13 回：</td><td>§19B／§36, §37, §38</td></tr><tr><td>第 14 回：</td><td>§20, §21／§39, §40</td></tr><tr><td>第 15 回：</td><td>§22, §23／§41D, §41A, §41B</td></tr><tr><td>第 16 回：</td><td>まとめと小テスト</td></tr></table>			第 1 回：	イントロダクション with 『翻訳の極意』	第 2 回：	翻訳デモンストレーション	第 3 回：	§15A, §15B／§20A, §20B	第 4 回：	§15C／§20C	第 5 回：	§16A, §16B／§25A, §25B	第 6 回：	§16C, §17／§25C, §26A, §26B	第 7 回：	まとめと小テスト	第 8 回：	§18A／§29	第 9 回：	§18B／§30	第 10 回：	§18C／§31, §32	第 11 回：	まとめと小テスト	第 12 回：	§19A／§33, §34, §35	第 13 回：	§19B／§36, §37, §38	第 14 回：	§20, §21／§39, §40	第 15 回：	§22, §23／§41D, §41A, §41B	第 16 回：	まとめと小テスト								
第 1 回：	イントロダクション with 『翻訳の極意』																																									
第 2 回：	翻訳デモンストレーション																																									
第 3 回：	§15A, §15B／§20A, §20B																																									
第 4 回：	§15C／§20C																																									
第 5 回：	§16A, §16B／§25A, §25B																																									
第 6 回：	§16C, §17／§25C, §26A, §26B																																									
第 7 回：	まとめと小テスト																																									
第 8 回：	§18A／§29																																									
第 9 回：	§18B／§30																																									
第 10 回：	§18C／§31, §32																																									
第 11 回：	まとめと小テスト																																									
第 12 回：	§19A／§33, §34, §35																																									
第 13 回：	§19B／§36, §37, §38																																									
第 14 回：	§20, §21／§39, §40																																									
第 15 回：	§22, §23／§41D, §41A, §41B																																									
第 16 回：	まとめと小テスト																																									
テキスト： テキスト（演習課題）は、クラスで配布する。																																										
参 考 書： ・『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』安西徹雄（バベル・プレス） ・『翻訳英文法』安西徹雄（バベル・プレス）、 ・『翻訳の極意』小林淳夫（南雲フェニックス） ・その他																																										
評価方法・評価基準：以下を目安とし、評価する。																																										
<table><tr><th>到達目標等</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>成績評価</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>60</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>演習と課題</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>30</td></tr></table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価								小テスト	○	○			○	○	60	授業態度			○	○			10	演習と課題	○	○			○	○	30
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																			
成績評価																																										
小テスト	○	○			○	○	60																																			
授業態度			○	○			10																																			
演習と課題	○	○			○	○	30																																			
履修上の注意： 課題はできるだけ毎週提出してほしい。英和・和英辞書を毎回忘れずに持参すること。																																										

授業科目名		2単位 (1-2)	担当教員																																							
同時通訳初級（夏期集中講座） (Simultaneous Interpretation, Elementary)			宮田耀彰・城間仙子・ David Ulvog・柳田正豪																																							
授業の到達目標 英語ニュースのシャドウイングや、ショート・スピーチの同時通訳が出来ることを目標とする。																																										
授業の概要 スクリーニングテストに合格した学生を対象とする。 同時通訳が実際に行われる現場を想定し、プロ通訳者兼教育者と共同して、徹底した訓練を集中的に行う。レベルとして、各種イベントのボランティア通訳を目指す。教材として、月曜礼拝原稿、学内外での会議、講演等のゲストスピーチや基調報告等の原稿・録音テープを用いる。また、今、現在報道中のニュース（日・英）を用い同時通訳のスキルを養う。シャドウイング、サイト・トランスレーション、クイック・レスポンスを中心に日・英両語で徹底的に訓練する。また、逐次通訳に必要なノート・テーキングやマナーをも含め、通訳者としてのトータル・パフォーマンスを学ぶ。コースの仕上げとして、ボランティア通訳が出来るよう、受講者のスピーチを逐次・同時通訳させる。 予習(preparation)：配布された資料を研究しておく 復習(review)：修得した内容・技術の応用																																										
授 業 計 画																																										
第 1 回： 通訳学習をする上で大切なこと、コミュニケーション理論について		第 9 回： 日・英両語のショートスピーチ																																								
第 2 回： シャドウイング		第 10 回： メモ取り																																								
第 3 回： 語彙（単語・数字・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス		第 11 回： 逐次通訳（1）																																								
第 4 回： サイト・トランスレーション		第 12 回： 逐次通訳（2）																																								
第 5 回： 日・英両語の原稿を用いた同時通訳		第 13 回： トータル・パフォーマンス（1）																																								
第 6 回： 日・英両語の新聞記事読解		第 14 回： トータル・パフォーマンス（2）																																								
第 7 回： 日・英両語のニュース同時通訳		第 15 回： 同時通訳専用ブースでの同時通訳実演（1）																																								
第 8 回： 日・英両語の翻訳		第 16 回： 同時通訳専用ブースでの同時通訳実演（2）																																								
テキスト： テレビ・ラジオ番組の録音テープ・トランスクリプション、講演などの録音・録画テープ・トランスクリプション、日・英両語の新聞、ジャーナル																																										
評価方法・評価基準： ラボで毎回個人々々をモニターする。トータル・パフォーマンスの出来具合を見る。同時通訳専用ブースでの同時通訳を見る。																																										
<table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td rowspan="3">}</td><td></td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>総合 100%</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	授業態度			○	○	○	}		受講者の発表	○	○	○	○	○	総合 100%	演 習			○	○	○		その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																			
授業態度			○	○	○	}																																				
受講者の発表	○	○	○	○	○		総合 100%																																			
演 習			○	○	○																																					
その他																																										
履修上の注意：遅刻しないこと。テープ2本とUSBを常に持参すること。語彙を増やす努力をすること。																																										

授業科目名		2単位 (1－2)	担当教員					
同時通訳上級（夏期集中講座） (Simultaneous Interpretation , Advanced)			宮田耀彰・城間仙子・ David Ulvog・柳田正豪					
授業の到達目標 ニュース、講演、スピーチを英語⇄日本語で同時通訳が出来るようになることを目標とする。								
授業の概要 英検準1級、もしくは、それと同等の英語力を有する者を対象とする。 学内外で行われる会議、講演等で同時通訳が出来るよう、プロ通訳者兼教育者と共同し、徹底した訓練を集中的に行う。教材には、実際におこなわれた会議、講演等のゲストスピーチや基調報告等の原稿・録音テープを用いる。また、今、現在報道中のニュース（日・英）を用い、同時通訳現場の臨場感を味わいつつ、スキルの向上、特に、訳の正確さと迅速さを養う。また、通訳者のマナー（特に逐次通訳）を含め、通訳者としてのトータル・パフォーマンスを学ぶ。コースの仕上げとして、受講者のスピーチや、コース修了式のすべての発話（司会者の言葉、学長挨拶、学科長挨拶、ゲスト挨拶等）を同時通訳機器を活用し、実際に同時通訳を体験させる。 また、本県で必要とされている法廷通訳の練習も行う。 予習(preparation)：配布された資料を研究しておく 復習(review)：修得した内容・技術の応用								
授 業 計 画								
第1回：通訳学習をする上で大切なこと、コミュニケーション理論について		第9回：英語→日本語。新聞記事の訳						
第2回：通訳理論と背景知識		第10回：日本語→英語。ニュース同時通訳						
第3回：シャドウイング		第11回：英語→日本語。ニュース同時通訳						
第4回：語彙（単語・数字・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス		第12回：メモ取り						
第5回：サイト・トランスレーション		第13回：逐次通訳						
第6回：日本語→英語。原稿を用いた同時通訳		第14回：法廷通訳						
第7回：英語→日本語。原稿を用いた同時通訳		第15回：トータル・パフォーマンス						
第8回：日本語→英語。新聞記事の訳		第16回：同時通訳専用ブースでの同時通訳実演						
		上記2～16を60時間で適宜行う						
テキスト：テレビ・ラジオ番組の録音テープ・トランスクリプション、 講演などの録音・録画テープ・トランスクリプション、日・英両語の新聞、ジャーナル								
評価方法・評価基準：ラボで毎回個々人をモニターする。トータル・パフォーマンスの出来具合を見る。同時通訳専用ブースでの同時通訳を見る。								
到達目標等 成績評価		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
授業態度				○	○	○	}	
受講者の発表		○	○	○	○	○		総合100%
演習				○	○	○		
その他								
履修上の注意：遅刻しないこと。テープ2本とUSBを常に持参すること。語彙を増やす努力をすること。								

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員				
日英翻訳技法Ⅰ (Japanese→English TranslationⅠ)			David Ulvog				
授業の到達目標及びテーマ 日英翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。							
授業の概要 日英翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。和文と英文の間に見られる、同義語上のニュアンスの違い、文法上の成り立ちの違い、表現の仕方の違いなど、両言語の特質上の相違から生じる様々な問題点を具体的に整理・検討する。翻訳教材は、和文を、英語検定試験準 2～2 級程度の語彙力と英文法構成力を基礎に、より自然な英文として訳出していくための翻訳技法を教授する。 予習(preparation) : Students must look at previous classes' techniques before each new class. 復習(review) : Students must review all new vocabulary, grammar, and translation techniques on an ongoing basis.							
授 業 計 画							
第 1 回： 和文英訳技法の基本－その 1		第 9 回： 動詞の選択－その 1					
第 2 回： 和文英訳技法の基本－その 2		第 10 回： 動詞の選択－その 2					
第 3 回： 日本文の主語→英文の主語－その 1		第 11 回： 使役動詞と態の用法－その 1					
第 4 回： 日本文の主語→英文の主語－その 2		第 12 回： 使役動詞と態の用法－その 2					
第 5 回： 日本文の主語→英文の主語－その 3		第 13 回： 和文英訳と英語の時制－その 1					
第 6 回： 英語的な主語－その 1		第 14 回： 和文英訳と英語の時制－その 2					
第 7 回： 英語的な主語－その 2		第 15 回： まとめ					
第 8 回： まとめ（中間）		第 16 回： 期末テスト					
テキスト： 演習課題（プリント）を、クラスで配布する。							
参 考 書： 和英と英和辞典（例文の多いの）							
評価方法・評価基準：授業参加レベル（参加度を含む）・課題・book report (20%)、中間テスト(40%)、期末試験(40%)を目安とし、総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
	○	○			○		80
Book report			○	○			20
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
履修上の注意：英和・和英辞典を毎回忘れずに持参すること。 Homework must be finished before reporting to class.							

授業科目名	2 単位 (0－2)	担当教員																																																
日英翻訳技法Ⅱ (Japanese→English Translation II)		David Ulvog																																																
授業の到達目標及びテーマ 日英翻訳技法Ⅰの上級講義。日英翻訳の際に留意すべき応用技法を、演習を通して身につける。																																																		
授業の概要 日英翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。和文と英文の間に見られる、同義語上のニュアンスの違い、文法上の成り立ちの違い、表現の仕方の違いなど、両言語の特質上の相違から生じる様々な問題点を具体的に整理・検討する。翻訳教材は、和文を、英語検定試験準 2～2 級程度の語彙力と英文法構成力を基礎に、より自然な英文として訳出していくための翻訳技法を教授する。 予習(preparation) : Students must look at previous classes' techniques before each new class. 復習(review) : Students must review all new vocabulary, grammar, and translation techniques on an ongoing basis.																																																		
授 業 計 画																																																		
第 1 回 : 和文英訳技法の基本	第 9 回 : まとめ (中間)																																																	
第 2 回 : 日本文の主語→英文の主語 : 復習と応用	第 10 回 : 名詞と名詞構文の生かし方																																																	
第 3 回 : 和文英訳と英語の時制 : 復習と応用	第 11 回 : 否定の構文																																																	
第 4 回 : 動詞の選び方 : 復習と応用	第 12 回 : 冠詞																																																	
第 5 回 : 使役動詞と態の用法 : 復習と応用	第 13 回 : 長文演習																																																	
第 6 回 : 直接話法と間接話法	第 14 回 : 長文演習																																																	
第 7 回 : 日本語と英語の比較構文	第 15 回 : まとめ																																																	
第 8 回 : 上記の復習、中間試験の準備	第 16 回 : 期末テスト																																																	
テキスト : 演習課題 (プリント) を、クラスで配布する。																																																		
参 考 書 : 和英と英和辞典 (例文の多いの)																																																		
評価方法・評価基準 : 授業参加レベル (参加度を含む)・課題・book report (20%)、中間テスト(40%)、期末試験(40%)を目安とし、総合的に評価する。																																																		
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合 (%)</td></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>80</td></tr><tr><td>Book report</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	試験 (中間・期末試験)	○	○			○		80	Book report			○	○			20	授業態度								受講者の発表								演 習									
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																																											
試験 (中間・期末試験)	○	○			○		80																																											
Book report			○	○			20																																											
授業態度																																																		
受講者の発表																																																		
演 習																																																		
履修上の注意 : 英和・和英辞典を毎回忘れずに持参すること。 Homework must be finished before reporting to class.																																																		

授業の到達目標及びテーマ：グローバル化と地域社会、自己との関連を理解する。 知識理解：時事問題を説明できる。 思考判断：国際社会と自己との関連を指摘できる。		関心意欲：国際社会に興味を持てる。 態度：国際情勢を持つ。
---	--	---

新しい国際秩序に向けてどのような取り組みが国際社会においてなされているかを理解する。既存の理論のみならず、現状分析に基づいた新たな国際関係論を理解する。異文化間の相互理解や、世界的視野で様々な社会問題を考える重要性について認識する。複雑化する国際関係現象を的確に把握する上で国際関係論の習得は重要であり、そのためには、国際関係論の根幹を支える伝統的学問分野の諸原則を理解することが不可欠である。本講義では、学際的かつ実践的手法を採用し、国家関係および人間生活を取り巻く様々な領域に、横断的かつ総合的にアプローチする。特に第二次世界大戦以降の国際関係史の変遷と国際社会における諸原則の発展に重点をおいて本講義をすすめる。本講義では、受講生が国際関係史や国際問題をより身近に感じ、国際関係論の基本を理解することを目指す。

予習： 次回の内容予告を受け、基礎的な専門用語などを調べておくこと。

復習： 回次の講義との連続性を意識しながら、事実関連の再確認をおこなうこと

第 1 回：	近代国家と国際社会 — 国際関係とは？	第 9 回：	平和外交、軍縮外交、人権外交、 環境外交、援助外交の現在
第 2 回：	国際連合、外交、サミット	第 10 回：	国連と平和主義—日本の国際責任？ 国際協調とは？日本の国連常任理事国 加盟？
第 3 回：	民間外交と NGO	第 11 回：	テロリズムとは — 9.11 以降の世界 と国際関係
第 4 回：	ナショナリズムと地域・民族紛争	第 12 回：	憲法・教育基本法改定
第 5 回：	冷戦後の国際政治、新民族主義、 新国際主義	第 13 回：	有事法制、自衛隊から自衛軍へ
第 6 回：	グローバリゼーションの功罪	第 14 回：	環境問題と国際関係
第 7 回：	WTO, IMF, WB とグローバル資本 主義、南北問題、経済格差、 投機マネーとトービン税	第 15 回：	アメリカの世界的軍事戦略と沖縄
第 8 回：	軍産複合体—東西冷戦と核の脅威、 軍需産業の拡大、日米同盟と武器輸出 三原則の緩和	第 16 回：	総括

参 考 書： 講義でそのつど提示

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		70
授業態度			○	○			30
受講者の発表							
演 習							
その他							

183

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員																																																
国際協力論 (International Cooperation)		玉城 直美																																																
授業の到達目標及びテーマ：国際協力の実践的手法を学ぶ。 知識理解：国際協力を説明できる。関心意欲：世界情勢に興味を持てる。 思考判断：援助の仕組みを指摘できる。態 度：行動できるようになる。																																																		
授業の概要 私たちの足元で起こっている出来事は、世界とつながり、世界のどこかで起こっている出来事も私たちの生活と密接に関係している。しかし何から理解していけばよいのか。よく日本はお金持ちの国だから、貧しいかわいそうな国や人びとに支援、協力しなければならない、したいということを聞くが、果たしてそうだろうか。 この授業では、国際協力、世界や足元の開発の問題を参加型学習（ワークショップ）や、フィールドワーク、実際の現場体験を通して一人ひとり考える時間としたい。一つの答えではなく、それぞれの答えや考えを重視する。 予習：ニュース、インターネット等を通じて発信される国際協力活動、課題について関心を寄せる。 復習：実際に訪問する場所、イベントを自ら見つけてボランティア、イベント参加することを推奨します。																																																		
授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。																																																		
第1回：国際協力とは、イメージと実際（講義） 第2回：アジアがもし 100 人の村だったら （WS） 第3回：地球の食卓に見る世界の現状（WS・講義） 第4回：国際協力のアクター 国連・NGO・ボランティア 第5回：沖縄県内国際協力機関訪問 予定：JICA 沖縄訪問予定（上下合わせて2コマ使用） 第6回：同上 第7回：貿易ゲーム（WS） 貧困は何故なくならないのか 第8回：貿易ゲーム（講義） 振り返り 第9回：貿易と貧困その1 ～社会派映画に観る～ 第10回：貿易と貧困その2 （講義） 第11回：バナナやコーヒー、紅茶を通して世界とつながる（ワークショップ、講義） 第12回：開発援助を考えるその1 ～PCM手法を通してプロジェクトを考える～ 第13回：開発援助を考えるその2 ～PCM手法を通してプロジェクトを考える～ 第14回：プロジェクト発案 プレゼン1 第15回：プロジェクト発案 プレゼン2 最終振り返り																																																		
テキスト： 適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。																																																		
参 考 書： 講義においてそのつど提示する。																																																		
評価方法・評価基準：																																																		
<table><tr><th>到達目標等</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>授業態度・授業への参加度</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他 校外学習への参加度</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td>20</td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	授業内レポート	○	○					20	授業態度・授業への参加度		○	○	○			30	受講者の発表	○		○		○		30	演 習								その他 校外学習への参加度			○			○	20		
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																											
授業内レポート	○	○					20																																											
授業態度・授業への参加度		○	○	○			30																																											
受講者の発表	○		○		○		30																																											
演 習																																																		
その他 校外学習への参加度			○			○	20																																											
履修上の注意：※基本は、講義と参加型学習（ワークショップ）。時によりフィールドワークや現場体験への参加の機会提供有り。																																																		

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員				
沖縄からみるグローバル化			新垣 誠				
授業の到達目標及びテーマ：グローバル化が沖縄にもたらす様々な影響について学ぶ 知識理解：「グローバル化」に対する知識を持つ 関心意欲：地域社会の問題解決に対する意欲をもつ 思考判断：グローバル化に対する自己見解を持つ 態 度：国際社会の事象を地域の問題として考えることが出来る							
授業の概要							
概念や理論としての「グローバリゼーション」を理解するだけではなく、実際に沖縄という地域において、どのような政治的、経済的、文化的変化が生じているかについて学ぶ。経済格差に伴う人口移動など、沖縄の過去や現在に照らし合わせながら、グローバル化を理解する。島嶼であるが故の沖縄の課題について学び、地域の将来を予測し、積極的に関わるための知識と考察力を養う。							
予習：毎回、次週の講義内容についての予告をおこなうので関連事項について調べ、基礎知識を身につけておくこと。							
復習：次回の講義との連続性を意識しながら事実関連の再確認をおこなうこと。							
授 業 計 画 ※授業内容は、国際情勢の変化にともない変更する場合があります。							
第 1 回： イントロダクション 生活の中の「グローバル化」		第 9 回： 島嶼経済とグローバル化その 2 ～アジア・ミクロネシアの島社会～					
第 2 回： 「グローバル化」の功罪		第 10 回： 沖縄と食料自給率その 1					
第 3 回： 「文化帝国主義」とグローバル化		第 11 回： 沖縄と食料自給率その 2					
第 4 回： 経済格差と人口移動その 1 ～沖縄沖縄移民を事例として～		第 12 回： 軍事のグローバル化と沖縄その 1					
第 5 回： 経済格差と人口移動その 2 ～戦後沖縄の出稼ぎから～		第 13 回： 軍事のグローバル化と沖縄その 2					
第 6 回： 経済のグローバル化と市場原理		第 14 回： グローバル化と「世界のウチナーン チュ・ネットワーク」その 1					
第 7 回： 国家（政府）、市場（企業）、民間 （NGO）の役割		第 15 回： グローバル化と「世界のウチナーン チュ・ネットワーク」その 2					
第 8 回： 島嶼経済とグローバル化その 1 ～世界の島社会と沖縄の比較～		第 16 回： 総括					
テキスト： 適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。							
参 考 書： 講義においてそのつど提示する。							
評価方法・評価基準：							
レポート、課題、授業やワークショップへの参加度によって評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
定期試験 （中間・期末試験）							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					50
授業態度			○	○			10
受講者の発表					○		20
演 習							
その他 調査			○	○			20
履修上の注意：国際関係論を履修していること。							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員																																																
地域と国際開発論		玉城 直美																																																
授業の到達目標及びテーマ：開発に対する歴史的な変化と人の役割について学ぶ 知識理解：開発とは何かという知識を持つ 思考判断：開発に対する自己見解を持つ 関心意欲：地域社会の開発を探究する意欲をもつ 態 度：深く調査することが出来る																																																		
授業の概要 「開発」とは何であるのかを学ぶ時間であり、開発は誰のためのものか？一人ひとりの役割について考えていく時間とする。沖縄の地域開発の歴史に触れ、アジア地域の開発の歴史も併せて学んでいくなかで、沖縄とアジア地域の社会開発を併せて学ぶ。昨年より、沖縄県における「子どもと貧困」の話題が大きく取り上げられているため、本科目においても原因、これからの社会形成にとって何が重要であるのかを、本テーマを通して沖縄社会の開発の課題を学ぶ。 □予習：社会の課題に関心を持ち、ニュースに目を通す。本テーマは特に社会ニュースの今が非常に重要であり、関心をもつことが推奨する。 □復習：書く課題を自分自身でも学び、地域の課題をフィールドワークし、研究する。																																																		
授 業 計 画 ※授業内容を変更する場合は、事前連絡の予定 第1回 地域と国際開発の目指すこと、「開発」の概念理解 第2回 沖縄線、沖縄移民にみる沖縄の世代わり 第3回 沖縄の戦後復帰を振り返る 第4回 沖縄の貧困課題「子どもと貧困」を学ぶ（フィールドワーク事前学習） 第5回 沖縄の貧困課題「子どもと貧困」を学ぶ（フィールドワーク事前学習） 第6回 沖縄の貧困課題「子どもと貧困」を学ぶ（フィールドワーク予定） 第7回 沖縄の貧困課題「子どもと貧困」を学ぶ（フィールドワーク予定） 第8回 沖縄の貧困、世界の貧困問題を学ぶ 第9回 個人史から沖縄の社会開発をみる 第10回 地域史から沖縄の社会開発をみる 第11回 アジア地域開発の歴史 その1 第12回 アジア地域開発の歴史 その2 第13回 沖縄の開発の行方 その2 私たちの社会はどこへ向かうのか 第14回 沖縄とアジアとの連携 その1 協力しあう国際社会開発とは 第15回 沖縄とアジアとの連携 その2 協力しあう国際社会開発とは																																																		
テキスト：適宜プリントを配布																																																		
参 考 書： 講義においてそのつど提示するが特定のものを定めない																																																		
評価方法・評価基準： <table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>授業態度・ 授業への参加度</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他 フィールドワーク調査</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>20</td></tr></table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	授業内レポート	○	○		○			30	授業態度・ 授業への参加度		○	○	○			30	受講者の発表	○				○		20	演 習								その他 フィールドワーク調査			○	○			20
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																											
授業内レポート	○	○		○			30																																											
授業態度・ 授業への参加度		○	○	○			30																																											
受講者の発表	○				○		20																																											
演 習																																																		
その他 フィールドワーク調査			○	○			20																																											
履修上の注意：フィールドワークへの参加は授業外、校外活動となり、2コマの通しです 積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 本授業は、上記評価にあるように、授業レポート、プレゼンテーション、フィールドワーク等を重視する。																																																		

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
国際人権論		玉城 直美					
授業の到達目標及びテーマ：国際社会における人権の役割、現状を理解する能力を養う 知識理解：国際人権とは何かという知識を持つ 関心意欲：国際人権問題に対する基本的な理解をし、興味関心を持つ 思考判断：国際社会における人権問題に対する判断力を養う 態 度：地域社会の出来事と、人権問題に対する探求心を持つ							
授業の概要 国際連合憲章（1945 年）は、前文において「基本的人権と人間の尊厳及び価値と男女……の同権とに関する信念をあらためて確認」するとし、第 1 条で「人種、性、言語または宗教による差別なくすべての者のために人権及び基本的自由を尊重するように助長奨励すること」を国際連合設立の目的の一つとした。しかし、私たちの日常生活では、基本的人権の尊重が行われているだろうか、世界の現状はどうだろうか、現状の把握から始まり、国際人権の果たす役割、問題となっている人権問題とは一体何であるのか、そこに携わる人や団体はどうなっているのか学ぶ時間とする。 □予習：社会的な問題に関心を寄せ、ニュース記事を収集、レビュー記事を書く □復習：授業で取り上げた課題をさらに深め、定着を図り、課題やプレゼンに備える							
授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。 第 1 回：イントロダクション、導入 第 2 回：世界人権宣言に始まる、人権とは何か？ 第 3 回：世界で起きている人権侵害 1 第 4 回：世界で起きている人権侵害 2 第 5 回：世界で起きている人権侵害 3 第 6 回：国内課題：ワーキングプア、ブラック企業の現実 1 第 7 回：国内課題：ワーキングプア、ブラック企業の現実 2 第 8 回：社会派映画に観る人権 第 9 回：沖縄：琉球から沖縄までの人権問題を考える 1 第 10 回：沖縄：琉球から沖縄までの人権問題を考える 2 第 11 回：人権侵害をなくすための仕組みを考える 1 第 12 回：人権侵害をなくすための仕組みを考える 2 第 13 回：人権侵害をなくすための仕組みに取り組む NGO、団体（参加型プレゼンテーション）その 1 第 14 回：人権侵害をなくすための仕組みに取り組む NGO、団体（参加型プレゼンテーション）その 2 第 15 回：同上＋まとめ～国際人権を学んだことを日常にどう役立てるのか～							
テキスト：適宜プリントを配布							
参 考 書： 講義においてそのつど提示する。							
評価方法・評価基準： 参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。							
到達目標等 成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
授業内レポート	○	○					20
授業態度・ 授業への参加度	○		○	○			30
受講者の発表				○		○	20
演 習							
その他 調査発表		○	○	○			30
履修上の注意：第 13、14 回目のプレゼンテーションはグループ発表を行って頂きます							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
Global Issues		David Ulvog					
授業の到達目標及びテーマ：グローバル・イシューと社会責任について学ぶ 知識理解：グローバル・イシューを理解する 関心意欲：グローバル・イシューに取り組む意欲をもつ 思考判断：グローバル・イシューに対する自己見解を持つ 態 度：グローバル・イシューに対する地球市民としての社会責任を認識することが出来る							
授業の概要 グローバル化が進むなか、国際社会がともに取り組むべき地球規模の課題（グローバル・イシュー）は、年々増加・多様化している。環境問題や紛争、難民など国境を越えて連携しなければ解決しない問題について理解を深める。 予習：毎回、次週の講義内容についての予告をおこなうので関連事項について調べ、基礎知識を身につけておくこと。 復習：次回の講義との連続性を意識しながら事実関連の再確認をおこなうこと。							
授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。							
第 1 回： イントロダクション	第 8 回： 食料とエネルギー問題						
第 2 回： 地球規模の課題とは	第 9 回： AIDS、パンデミックと国際保健						
第 3 回： 「ミレニアム開発目標」と国連	第 10 回： 国際テロリズム						
第 4 回： 人間の安全保障その 1（貧困）	第 11 回： 地球環境問題その 1						
第 5 回： 人間の安全保障その 2（紛争）	第 12 回： 地球環境問題その 2						
第 6 回： 途上国とキャパシティー・ディベロップメント	第 13 回： NGO と国連						
第 7 回： 開発と資源、富の分配	第 14 回： 教育、人権、ジェンダーWID						
	第 15 回： まとめ						
	第 16 回： 総括						
テキスト： 適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。							
参 考 書： 講義においてそのつど提示する。							
評価方法・評価基準： 参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20
授業態度			○	○			10
受講者の発表					○		20
演 習							
							30
その他 調査			○	○			20
履修上の注意：調査活動への参加は授業外、校外活動となります							

授業科目名		2単位 (0-2)	担当教員				
NGO・NPO 実習 (NGO-NPO)			玉城 直美				
授業の到達目標及びテーマ							
・ NGO・NPO、県内国際機関でコミュニケーションの実践を学ぶ ・ NGO・NPO、県内国際機関を自らで実習先として選定し、直接実習等を行いなう ・ 自ら計画し、実践した活動の報告を行い、活動のPDCAサイクルの実施を行うことができる							
授業の概要							
海外ボランティア、留学を目指す学生にとっては行く前に語学を実践の場で活用する場面を自らで開拓し、キャリア形成のためのボランティア経験を積む。また学内外の奨学金プログラムへの積極的活用に向けての目標設定、学びの計画作りにつながることを期待する。 海外ボランティア、留学を経験した後の学生の受講に関しては自己の経験を地域で活かし、語学や学びの継続を地域の国際的な場面において学生の経験を活かす場面を自らで開拓し、さらにキャリア形成を積む。 □予習：自らで計画を立て、フィールドワーク先等の調整を常に行っておくこと。当科目において必要となるコミュニケーションスキルを身につけておくこと。 □復習：アクションプランの計画から実施、結果、振り返りを自らで管理するため、スケジュールの管理、臨機応変の対応を復習する時間を活用し行うこと。							
授 業 計 画							
第1回 前期で学んだことの復習、NGO・NPOの作る社会							
第2回 フィールドワークを通しての課題設定、アクションプラン設定（SWOT 分析、PDCA サイクル表作成）							
第3回 フィールドワーク（各自）：フィールド先選定 フィールド先に関しては規定あり							
第4回 フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動							
第5回 フィールドワーク（各自）：フィールド先選定 フィールド先に関しては規定あり							
第6回 フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 フィールド先の活動を学ぶ①							
第7回 フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 フィールド先の活動を学ぶ②							
第8回 フィールドワーク（各自）：中間発表 フィールド先活動内容、個人の活動テーマ発表							
第9回 フィールドワーク（各自）：個別面談その①							
第10回 フィールドワーク（各自）：個別面談その②							
第11回 フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 アクションプランの実施①							
第12回 フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 アクションプランの実施②							
第13回 フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 アクションプランの実施③							
第14回 フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 実施した内容を活動機関へプレゼン、フィードバックを得る							
第15回 前期フィールドワークで学んだ結果発表							
※計画の変更の可能性あり。							
・ フィールド先に関して：自らで選定し、交渉を行う。県内国際機関、NGO・NPO、インターナショナル学校等を選定し、担当の教員と相談の上決定すること。 ・ フィールドワークは 90 分×コマ数の活動時間の証明をフィールドワーク機関より提出されることが前提となります（活動時間数の証明する紙面に関しては授業にて配布予定）							
テキスト、参考書等：特になし							
評価方法・評価基準：レポート、期末テスト、グループ研究発表、出席と授業への積極的参加							
成績評価 到達目標等 授業態度・ 授業への参加度	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
受講者の発表		○			○		10
演 習	○						10
その他 フィールドワーク	○	○	○	○			60
履修上の注意：学外でのフィールドワーク参加があります。							

授業科目名	2単位	担当教員
海外研修 (Overseas Field Studies)		
授業の到達目標及びテーマ 知識理解：研修先の歴史・社会を説明できる。 関心意欲：異文化に興味を持てる。 思考判断：社会構造の違いを指摘できる。 態 度：他者に対して寛容な態度を持つ。		
授業の概要 本学の協定締結校において 2～3 週間の研修を行う。異文化を直接体験し、異文化に対する寛容さを養い、国際社会で活躍できる人間の資質を身につける。受講生はレポートを提出することが要求される。国際的視野をもってものごとを認識、把握することで、意識を高め、地球市民としての自覚を養う。参加する学生は、事前に「異文化理解」の講義を通して海外研修に必要な基本的知識として沖縄・日本・米国の歴史、社会、文化について学ぶことが望ましい。 この講義とフィールドワークに参加することによって、学生たちは語学の学習のみならずグローバルなものの考え方、価値観、習慣、宗教等について体験的に学び、国際理解を深め、より寛容で広い視点を持つ人間に成長し、平和を志向して国際社会に貢献し得る人材となることが期待される。 予習：海外研修の内容によって異なります。登録する前に研修の詳細を確認ください 復習：海外研修の内容によって異なります。登録する前に研修の詳細を確認ください。		
授 業 計 画 1. 海外研修（国際交流）※研修内容検討中 ミシガン州立大学（もしくはポートランド・コミュニティ・カレッジ）研修 （8月下旬～9月中旬 約3週間） 語学強化訓練のみならず、正規授業への参加を通して学術的な力をつける。また大学における諸行事に参加し、参与観察を通しての研究体験もおこなう。諸施設見学やホームスティ等を通し、地域に触れ異文化体験をより深める。 2. 海外研修（国際交流） 台湾長栄大学研修 （8月中旬～下旬 約2週間） 博物館や文化施設の見学、大学の諸行事に参加することで、台湾文化に触れる。現地の大学生と、中国語の講義や、正規の講義（英語）に参加することで異文化交流を深める。また台湾訪問前に、長栄大学からの研修生と沖縄で交流をおこない、異文化に対するより深い理解を得る。 3. 海外研修（国際協力） フィリピン(現地の状況により研修先の変更あり)研修（8月下旬～9月上旬 約10日間） フィリピン大学やフィリピン女子大学の交流を通し、日本と関係の深いフィリピンの現状を知る。マニラ近郊の福祉施設やスラム街で活動するNGOの活動を視察、地域開発や国際協力の課題について理解を深める。 また、発展途上国の様々な問題について直接調査し、考える機会とする。研修出発前に、沖縄県内での事前学習、ワークショップ、各種講習会に参加することが義務づけられている。 4. 海外研修（多文化共生） ハワイ・コミュニティ・カレッジ研修（2月中旬～3月上旬 約3週間） 最初の2週間をカウアイ島のカウアイ・コミュニティ・カレッジにおいて異文化学習を英語で行う。その後オアフ島に移動、最後の1週間で現地でのフィールドワークをとおり、ハワイの歴史・文化・社会について学習を行う。		
[海外研修・・・実施前・後の日程] 1. 研修説明会 6. 研修費振込 2. 研修参加希望者申込み・誓約書等提出 7. 保護者説明会 3. 研修オリエンテーション 8. 結団式（出発直前、空港にて） 4. 海外研修奨励奨学金説明会 9. レポート提出（帰国後） 5. 海外研修事前学習発表会・決定 10. 海外研修報告会（帰国後）		

授業科目名			担当教員	
海外ボランティア実習 (Overseas Volunteer Practice)		2単位	新垣 誠	
授業の到達目標及びテーマ：ボランティアの実践を体験する。 知識理解：ボランティアのノウハウを説明できる。				

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員					
教職の意義 (Principles of Teaching)		藤原 幸男					
授業の到達目標及びテーマ 教職の意義、教員の役割、職務内容を理解し、教員になるための心構えをつくる。							
授業の概要 現代社会における教職の意義、教員の役割、職務内容、教員の服務と身分保障などについて考察するとともに、教員養成のあり方や大学の教職課程について解説し、教職に関する理解を深める。また、将来の進路選択に資するものとして、受講生が自らの資質や適性に照らしながら、教員への適性を見極めていく手がかりとなるよう、教職に関する情報を提供する。 予習：教科書をよく読み、その回の学習内容（知識）を確認する。 復習：配布されたプリント、学んだ内容を読み直し、整理する。							
授 業 計 画							
第 1 回： 講義の概要説明	第 9 回： 同上 V（保護者・地域・関係機関との連携）						
第 2 回： 現代社会における教職の意義	第 10 回： 学校における教職員の連携・協働						
第 3 回： 教員の種類・役割と仕事の性格	第 11 回： 教員の職場環境						
第 4 回： 教員生活の 1 年間	第 12 回： 教員の任用と服務						
第 5 回： 教員の仕事と専門性Ⅰ (子ども理解と学級経営)	第 13 回： 教員に求められる資質能力						
第 6 回： 同上 Ⅱ（教科指導）	第 14 回： 教員養成と教職課程						
第 7 回： 同上 Ⅲ（特別活動・生徒指導）	第 15 回： 教員の採用選考						
第 8 回： 同上 Ⅳ（進路指導・教育相談）	第 16 回： 定期試験						
テキスト： 教職問題研究会編『教職論（第 2 版）』ミネルヴァ書房、2011 年。							
参 考 書： 『解説教育六法（2016 年度版）』三省堂、2016 年。							
評価方法・評価基準： 授業への参加度、授業態度、レポート、期末試験によって総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
試験 (期末試験)	○						5 0
課題レポート	○	○			○		4 0
授業態度			○	○			1 0
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			
履修上の注意： 1 「教職の意義」は、教職科目の必修科目であり、今後の教職課程履修の出発点である。真摯な態度で授業に臨んでほしい。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出すること。 2 配布資料をきちんとファイルしておくこと。							

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員						
教育原理 (Principles of Education)		照屋 信治						
授業の到達目標及びテーマ								
教育の思想と歴史を学ぶ。教育の思想・歴史といっても抽象的な事柄のみを学ぶのではなく、具体的な教育問題を考えながら、そのなかに教育の思想・原理を確認してゆく。また、それらの考え方が生まれてきた歴史的な背景を理解し、現代の教育を考える視座を確立する。								
授業の概要								
教育に関する思想と歴史を学ぶ。学校教育に即して、教育に関する基本的な考え方を学んでゆく。主に近代日本の学校の歴史的な展開を踏まえて、現代日本の学校で問題となっている事象を検討しながら教育の原理・思想を学んでゆく。各回の授業は具体的なテーマを定め、講師による解説と、受講者同士で小集団議論、作業、当日提出レポート作成などを行う。授業の参加者で、教育について考え、議論する場にしてゆきたい。								
予習：「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握した上で授業に臨むこと								
復習：授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと								
授 業 計 画								
第 1 回：	講義概要説明、構成的エンカウターの体験	第 9 回：	学習指導要領について① (2008 年の改正と学力論争)					
第 2 回：	最近の日本の教育をめぐる議論① (「全国学力テスト」など)	第 10 回：	学習指導要領について② (その歴史)					
第 3 回：	最近の日本の教育をめぐる議論② (習熟度別授業など)	第 11 回：	教育課程をめぐる問題 (教科書検定と歴史教育問題)					
第 4 回：	カリキュラム編成の歴史と理論 (デューイ、ブルーナー)	第 12 回：	新しい教育内容の創造 (「性教育裁判」を考える)					
第 5 回：	近代日本の学校教育の歴史① (明治期)	第 13 回：	生徒指導の課題 (「いじめ問題」を考える)					
第 6 回：	近代日本の学校教育の歴史② (大正自由教育)	第 14 回：	学級経営の課題 (「学級崩壊」と「ゼロトレランス」を考える)					
第 7 回：	近代日本の学校教育の歴史③ (戦後教育改革)	第 15 回：	まとめ (子どもの権利条約と学校教育)					
第 8 回：	近代日本の学校教育の歴史④ (教育内容の現代化)							
テキスト： 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。								
参 考 書： 1. 田代直人・佐々木司編著『やさしい教育原理 新版補訂版』有斐閣アルマ、2010 年 2. 文部科学省『中学校学習指導要領』								
評価方法・評価基準：								
期末考査(50%)、受講態度(20%)、授業への参加度(30%)の総合的評価とする。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート		○	○			○		50
授業態度		○	○	○	○	○		40
受講者の発表		○	○	○	○	○		10
演 習								
その他								
履修上の注意：								
教職科目である。教員になる強い意志を持ち参加すること。								

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員																
教育心理 (Educational Psychology)		大城 亘武																
授業の到達目標及びテーマ：教育の営みへの知識・理解を確実にする。																		
授業の概要																		
教育という営みについて、心理学的観点から探求し、精神的・身体的発達の様態について理解し、教育活動をより効果的にするための知識と技能を訓練する。特に「教授－学習」の側面からの学習の問題を取り扱い、生徒各々の発達と適応、動機づけ、学力、評価、パーソナリティ、知能、学習不適応への対応等の諸問題について理論的・実践的な検討を行う。このことをとおして、生徒の理解、教師としての資質や条件についての理解を、深める。以上のことを学ぶ背景的知識として、人間の心や行動を心理学的に捉えるための基礎的な知識の習得を目指す。 予習：リーディング課題を示す。 復習：理解確認のための課題を課す																		
授 業 計 画																		
<table><tr><td>第 1 回： 講義の概要説明、教育観</td><td>第 9 回： 記憶のメカニズム</td></tr><tr><td>第 2 回： 発達理論① 遺伝説</td><td>第 10 回： 知能概念</td></tr><tr><td>第 3 回： 発達理論② 環境説</td><td>第 11 回： 知能と学習と学習の障がい</td></tr><tr><td>第 4 回： 発達理論③ 輻輳説・相互作用説</td><td>第 12 回： パーソナリティと適応</td></tr><tr><td>第 5 回： 学習理論① 連合説</td><td>第 13 回： 教育評価① 評価の目的</td></tr><tr><td>第 6 回： 学習理論② 認知説</td><td>第 14 回： 教育評価② 学力測定とテスト法</td></tr><tr><td>第 7 回： 学習理論③ 「教授－学習」 説と適性処遇交互作用</td><td>第 15 回： 教育評価③ パーソナリティ</td></tr><tr><td>第 8 回： 動機づけのメカニズム</td><td>第 16 回： 期末考査</td></tr></table>			第 1 回： 講義の概要説明、教育観	第 9 回： 記憶のメカニズム	第 2 回： 発達理論① 遺伝説	第 10 回： 知能概念	第 3 回： 発達理論② 環境説	第 11 回： 知能と学習と学習の障がい	第 4 回： 発達理論③ 輻輳説・相互作用説	第 12 回： パーソナリティと適応	第 5 回： 学習理論① 連合説	第 13 回： 教育評価① 評価の目的	第 6 回： 学習理論② 認知説	第 14 回： 教育評価② 学力測定とテスト法	第 7 回： 学習理論③ 「教授－学習」 説と適性処遇交互作用	第 15 回： 教育評価③ パーソナリティ	第 8 回： 動機づけのメカニズム	第 16 回： 期末考査
第 1 回： 講義の概要説明、教育観	第 9 回： 記憶のメカニズム																	
第 2 回： 発達理論① 遺伝説	第 10 回： 知能概念																	
第 3 回： 発達理論② 環境説	第 11 回： 知能と学習と学習の障がい																	
第 4 回： 発達理論③ 輻輳説・相互作用説	第 12 回： パーソナリティと適応																	
第 5 回： 学習理論① 連合説	第 13 回： 教育評価① 評価の目的																	
第 6 回： 学習理論② 認知説	第 14 回： 教育評価② 学力測定とテスト法																	
第 7 回： 学習理論③ 「教授－学習」 説と適性処遇交互作用	第 15 回： 教育評価③ パーソナリティ																	
第 8 回： 動機づけのメカニズム	第 16 回： 期末考査																	
テキスト： 前原武子（編著） 2002『生徒支援の教育心理学』 北大路書房 ￥2,400+税																		
参 考 書： 特になし																		
評価方法・評価基準：																		
期末考査(50%)、「卵を立てる」に関するレポート(30%)、授業への参加度・受講態度(20%)の総合的評価																		
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)										
定期試験 (中間・期末試験)		○	○			○		60										
小テスト・ 授業内レポート			○	○				30										
授業態度		○		○				10										
受講者の発表																		
演 習																		
その他																		
履修上の注意：																		

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
教育の制度 (Educational Systems)		照屋 信治					
授業の到達目標及びテーマ 教育の在り方を社会的、制度的または経営的な視点から学び、教育を客観的にとらえる能力を養う。							
授業の概要 学校教育の制度、学校経営の基礎、学級経営の基礎、教育内容を決定する制度、教員組織、教育行政、教育財政、社会教育、等について学ぶ。具体的には、沖縄における教育に関わる問題・課題（八重山教科書問題・アメラジアン教育の権利・学校選択制・学区の拡大）や全国的な問題課題（在日コリアン教育の権利、大阪教育基本条例、教科書検定制度）を検討しつつ、学んでゆく。 予習：「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握した上で講義に臨むこと 復習：授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと							
授 業 計 画							
第 1 回： 教育の制度を学ぶ意義	第 8 回： アメラジアン教育の権利						
第 2 回： 八重山教科書問題	第 9 回： 高校授業料無償化と朝鮮学校						
第 3 回： 教育委員会の役割	第 10 回： 多文化共生教育の制度的保障						
第 4 回： 教科書検定制度	第 11 回： 子どもの権利条約						
第 5 回： 学習指導要領について① (2008 年の改正)	第 12 回： 教育基本法						
第 6 回： 学習指導要領について② (その歴史、法的拘束力)	第 13 回： 公立小中学校の学校選択制度						
第 7 回： 高校入試制度	第 14 回： 学区制を考える (沖縄県の公立高校再編計画)						
	第 15 回： まとめ						
テキスト： 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。							
参 考 書： 1 岡本徹・佐々木司(編著)『新しい時代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房 2009 2 文部科学省『中学校学習指導要領』							
評価方法・評価基準：授業への参加度、授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		50
授業態度	○	○	○	○	○		40
受講者の発表	○	○	○	○	○		10
演 習							
その他							
履修上の注意： 1 「教職の基礎理論」に関する科目である。 2 教師になる強い意志を持って履修すること。欠席せず皆出席すること。 止むを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
教育課程論 (Principles of Curriculum)		照屋 信治					
授業の到達目標及びテーマ							
(1) 教科書の内容を教えるだけでなく、自分自身で何を教えるべきか、どのように教えるべきかを考えることができるようになること。							
(2) 学習指導要領の意図と意義を理解し、創造的なカリキュラム編成を行う素地を身につけること。							
授業の概要							
教育課程（カリキュラム）とは、望ましい学習が展開されるように配慮してつくられる、学校の教育内容の組織のことである。教科・科目など指導領域を設け、教材を選択・配列することによって編成される。それは、国や学校によって規定される部分もあるが、個々の教員により担われているものである。将来教員になり、教育議論をしっかりと理解し、学校の教育課程編成に参加してゆく能力の基礎を身につけてもらいたい。教育課程の原理、改革の歴史などを学び、具体的なカリキュラム編成の訓練を行う。							
予習：事前に配布された資料に目を通すこと							
復習：講義で配布された資料を熟読し、授業中の発言を再吟味すること							
授 業 計 画							
第1回 教育課程編成の意義							
第2回 教育課程編成の原理							
第3回 近代・現代日本の教育課程の歩み							
第4回 2008 年学習指導要領改訂の経過と特徴							
第5回 中学校学習指導要領と教育課程編成の実際							
第6回 高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際							
第7回 国際学力調査の教育課程改革への影響							
第8回 教育課程と評価							
第9回 学級経営・HR 経営の年間指導計画							
第10回 生徒指導の年間指導計画							
第11回 道徳の年間指導計画							
第12回 進路指導の年間指導計画							
第13回 総合的な学習の時間の年間計画							
第14回 小学校外国語活動の年間指導計画							
第15回 まとめ（テスト）							
第16回 期末試験							
テキスト： 『中学校学習指導要領』文部科学省、2008年							
参 考 書： 『よくわかる教育課程』田中耕治、ミネルヴァ書房、2009年							
評価方法・評価基準：授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○						30
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		10
授業態度・ 授業への参加度			○	○			30
受講者の発表							
演 習			○	○			30
その他							
履修上の注意：							
1 「教育課程論」は、教職科目の必修科目であることに照らして、無遅刻無欠席で授業に臨んでいただきたい。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出すること。							
2 履修条件：1年次担当の「教職の意義」「教育原理」を履修済み、履修中であること。							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員					
生徒指導・進路指導 (Guidance)			新里 健					
授業の到達目標及びテーマ								
本講義では、生徒指導の基礎的な理論、実態、要因、指導の実際（事例の検討等）について学び、多様な個性をもつ生徒に対応できる能力を身につけることを目標とする。								
授業の概要								
近年、学校での不登校、いじめ、非行等の教育問題が多発し、これまで以上に教師による生徒指導の必要性が叫ばれている。また、少子化や核家族などの要因から、子どもの基本的生活習慣の乱れや社会性の発達の遅れ、自立への遅れなどが指摘され、家庭教育や学校教育が深刻な問題となってきた。このような子どもの行動を予防・改善していくためには、教師が子どもの心を理解し、子どもと向き合うことが重要である。								
本講義では、生徒指導の基礎的な理論や教育現場の指導の実際などについて紹介し、その対策を参加型授業で体験する。また、進路指導については、近年の中途退学を紹介しつつ、生徒に対する進路指導がどうあるべきか、また、受講者自身の進路についてもどうあるべきか体験を通して学ぶ。								
予習：授業で指示された事項を事前に調べ学習しておくこと。								
復習：授業の際に指示した箇所を再度振り返って読み、理解に努めること								
授 業 計 画								
第 1 回： 本講義の説明、紹介		第 9 回： 生徒指導の実際：対人関係能力を育てる ①－言語でのコミュニケーションの仕方						
第 2 回： 生徒指導の意義		第 10 回： 生徒指導の実際：対人関係能力を育てる ②－自尊感情を高める方法						
第 3 回： 生徒指導の方法		第 11 回： 生徒指導の実際：対人関係能力を育てる ③－自己主張の仕方 (アサーショントレーニング)						
第 4 回： 問題行動の理論と実際・対応① －生徒の不適応行動－不登校と引きこもり		第 12 回： 生徒指導の実際：対人関係能力を育てる ④－問題解決の仕方（ステップ＆ケース）						
第 5 回： 問題行動の理論と実際・対応② －いじめ		第 13 回： 進路指導の理論と指導 －進路選択と自分さがし						
第 6 回： 問題行動の理論と実際・対応③ －学校不適応（ADHD、アスペルガー、学習障害）		第 14 回： 進路指導の理論と指導－キャリア教育						
第 7 回： 問題行動の理論と実際・対応④ －基本的生活習慣と非行		第 15 回： 高等学校における中途退学・不本意進学 問題 まとめ						
第 8 回： 問題行動の理論と実際・対応⑤ －非行		第 16 回： 試験						
テキスト： 授業の際にプリントを配布する。								
参 考 書：								
岸田元美監修 河合伊六・佐藤修策編 『改訂 生徒指導 新しい教育改革をふまえて』 2001 北大路書房								
新里健・島袋有子 『やってみよう ソーシャル・スキル・トレーニング33 学級経営に生かすSST』 2008 グリーンキャット								
宮下一博・河野荘子編著 『生きる力を育む生徒指導』 2005 北樹出版								
平木典子 『アサーショントレーニング－さわやかに自己表現＞のために』 2005 日本・精神技術研究所								
マシュー・マッケイ、ピーター・D・ロジャース、ジュディス・マッケイ著 榎原洋一、小野次朗監修、新里健、足立佳美監訳、坂本輝世訳 『怒りのセルフコントロール－感情への気づきから効果的コミュニケーションスキルまで(When anger hurts-Quitting the storm within)』 2011 明石書店								
評価方法・評価基準： 評価は、授業内レポート、試験、授業への参加状況、授業への意欲・関心などを総合的にみて行う。授業内レポート(小テスト)の課題は授業の際に指示する。3 分の 1 以上を欠席した場合は、単位の取得は認められない。								
到達目標等 成績評価		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (期末試験)		○	○					70
小テスト・ 授業内レポート		○						20
授業態度				○	○			10
受講者の発表								評価に加えず
演 習								評価に加えず
履修上の注意：教育心理学を履修済みであることが好ましい。								

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員																																																
国際理解教育		玉城 直美																																																
授業の到達目標及びテーマ：国際理解が始まった意味と社会で果たす役割を学ぶ 知識理解：国際理解のもつテーマを学ぶ 関心意欲：学びのプロセスに積極的に参加し、現在のニュースへの関心を寄せられるようになる 思考判断：教育テーマについて深く掘り下げる 態度：フィールドおよび、グループ学習への積極的参加、最終的には教材作成が出来ることを重視する																																																		
授業の概要 「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」「政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われなければならないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。」この文はユネスコ憲章全文である。今年は、概ね5年に一度の世界のウチナンチュ大会であり、本大会および各国県人会（会員）との交流も予定しており、沖縄の地元教材の制作に臨む。 予習：世界を知る努力の為に自分は何が出来るのか、計画を立て、予習計画を作成すること 復習：授業の中で取り上げた課題を理解するために、ニュース等さらに自己探求を深め、課題、発表等に活かすこと																																																		
授 業 計 画 ※授業内容を変更する場合は、事前連絡予定 第1回 国際理解教育の始まりについて・講義 第2回 戦争と国際理解教育 第3回 地球の食卓、フードマイレージ 第4回 携帯の一生 ケータイを通して知る 私と世界のつながり 第5回 世界のウチナンチュを教材から捉える 第6回 世界のウチナンチュとの交流、交流にみる国際理解教育 第7回 たずねてみよう！カレーの世界 スパイスと食文化の多様性表 第8回 アジアのカレーを食す（予定）調理実習 第9回 アジアのカレーを食す（予定）調理実習 第10回 社会派映画に観る国際理解 第11回 自己肯定感を高めるワークショップ 第12回 世界のウチナンチュを題材に「沖縄移民」教材を作成 第13回 国際理解教育学生発表 その1 第14回 国際理解教育学生発表 その2 第15回 まとめ 振り返り																																																		
テキスト：適宜プリントを配布																																																		
参 考 書：講義においてそのつど提示する。																																																		
評価方法・評価基準：																																																		
<table><tr><th>到達目標等 成績評価</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>授業態度・ 授業への参加度</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他 フィールドワーク</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>30</td></tr></table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	授業内レポート	○	○					20	授業態度・ 授業への参加度	○		○	○			30	受講者の発表		○			○		20	演 習								その他 フィールドワーク	○		○	○			30
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																											
授業内レポート	○	○					20																																											
授業態度・ 授業への参加度	○		○	○			30																																											
受講者の発表		○			○		20																																											
演 習																																																		
その他 フィールドワーク	○		○	○			30																																											
履修上の注意：フィールドワークへの参加は授業外、校外活動となり、2コマ連続となります。 積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。また、本授業は下記の評価にもあるように、課題としてのレポート・プレゼン発表（最後の授業プラン作り）を重視しているため、国際的な知識を身に付けた学生の参加を重視する。																																																		

授業科目名		2 単位 (2-0)	担当教員					
学校カウンセリング (School Counsering)			浅野 恵美子					
授業の到達目標及びテーマ								
臨床心理学の基本を学び、変化する社会と学校状況における子どもたちの悩み・問題をみつめる。 自分らしく生きる心、・カウンセリングマインド、教師と生徒の関係、相談スキルなどを学ぶ。								
授業の概要								
授業では、学校カウンセリングの知識を得るだけではなく、授業集団の変化・発展にも注目し、グループワークや討論や遊び（アートやロールプレイング・心理劇）などを取り入れて行う。問題行動を個人の資質に還元するのではなく、関係的・状況的・集団的・社会的に理解できることが重要である。教師の資質としての人間関係スキル・セルフケア（自己知）・身体の知・感情の知とつながり、共に生きるセンスが育っていくように、心理劇法での実験を行い、討論し、共に探求したい。 予習：宿題のレポートに取り組む 復習：授業において振り返り、それぞれの学びを最終論文にまとめる								
授 業 計 画 ※授業計画は若干変更になることもあります								
第 1 回： 授業入門～関係学的アプローチでの学び方		第 9 回： 学校における人間関係―非行						
第 2 回： 社会と学校と生徒をめぐる諸問題		第 10 回： 学校における人間関係―不登校						
第 3 回： 心理劇と家族療法		第 11 回： 発達障害、精神障害など						
第 4 回： 論理療法、アドラー心理学		第 12 回： 親離れ、子離れ、引きこもり						
第 5 回： 交流分析・精神分析		第 13 回： 精神的・生活的・経済的自立						
第 6 回： 内観療法・遊戯療法・箱庭療法		第 14 回： 生徒と親と学校と教師の関係						
第 7 回： カウンセリング・来談者中心療法		第 15 回： まとめ・テスト・研究発表						
第 8 回： 生きる意味―生と死と魂・霊性								
テキスト： 浅野 恵美子著 「心の宇宙散策」 浅野にんげん研究所（2012年）								
参考書： 日本関係学会編 「関係＜臨床・教育＞―気づく・学ぶ・活かす―」 不昧堂出版								
評価方法・評価基準：								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
毎回の小テスト								
課題レポート		○	○	○				40
授業態度		○	○	○				10
受講者の発表		○	○	○				10
演 習		○	○	○		○		20
出 席								
その他								20
履修上の注意：				毎回テキストを使います。出席、参加、意見、考え、書く事が重要です。 主体的な参加を高く評価します。				

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
教育方法 (Educational Methodology)		大城 亘武					
授業の到達目標及びテーマ： 教育方法の歴史を概観し、グループでティーチング・プランを作成し、模擬授業を実演する。							
授業の概要 カリキュラムとして系統化・統合された教授材をいかにして より効果的な教授・学習を可能にするか、について得られている多くの知見について学ぶ。 プレゼンテーション・ソフトを利用した模擬授業を実施する。 予習：その都度リーディングリストを課す 復習：振り返りメモの提出を課す							
授 業 計 画							
第 1 回：	講義の目的と評価方法の説明、 講義の概要を説明 教職教養科目（教育原理、教育心理） についての振り返りテストと開設	第 9 回： 教育課程と教材の選択・ 配列・組織					
第 2 回：	「教授-学習」理論①	第 10 回： 情報通信技術と教育方法					
第 3 回：	「教授-学習」理論②	第 11 回： 教材研究と授業の技術					
第 4 回：	教育方法の展開① コメニウスの方法を中心に	第 12 回： 教材研究演習（模擬授業）①					
第 5 回：	教育方法の展開② ヘルバルトの方法を中心に	第 13 回： 教材研究演習（模擬授業）②					
第 6 回：	教育方法の展開③ 教育方法と学力	第 14 回： 教材研究演習（模擬授業）③					
第 7 回：	学習と個人差	第 15 回： 教材研究演習（模擬授業）④					
第 8 回：	教科内容の課題	第 16 回： 期末考査					
テキスト： 田中耕治、他 2012 『新しい時代の教育方法』有斐閣							
参 考 書： 特になし							
評価方法・評価基準： 下記表による。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○	○	○		○		50
小テスト・ 授業内レポート	○	○					10
授業態度							
受講者の発表					○		
演 習	○	○	○	○	○		40
その他							
履修上の注意： 「教育心理」、「教育原理」を履修していること、さらに「コンピューター基礎演習」を 履修していること。							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員																																																																	
道徳教育の研究 (Moral Education)			照屋 信治																																																																	
授業の到達目標及びテーマ 道徳教育の歴史と理論を学び、道徳教育の実践者としての基礎を養う。																																																																				
授業の概要 主に日本の学校教育との関わりで道徳教育の歴史と理論を振り返り、道徳に関わる教育問題を検討し、学校における道徳教育実践を検討する。それらを通じて、道徳教育に関する基礎的な素養の獲得を目指す。さらに教育（学）全般についての理解を深める。 授業方法に関しては、一方的な講義形式は行わない。各回のテーマに関して、講師が、授業前半で簡単な説明を行い、授業の後半では、当日提出レポート方式、グループディスカッション、ディベートなどを適宜導入し、学生の主体的な学びを促す。 予習：「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握したうえで講義に臨むこと 復習：授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと																																																																				
授 業 計 画																																																																				
第 1 回： 道徳教育はどうあるべきか		第 8 回： 道徳教育の歴史①（戦前の修身教育と教育勅語）																																																																		
第 2 回： 同和（人権）教育を学ぶ①		第 9 回： 道徳教育の歴史②（戦後の道徳の教科化をめぐる議論）																																																																		
第 3 回： 同和（人権）教育を学ぶ②		第 10 回： 学習指導要領と道徳教育―「愛国心」と道徳教育を考える																																																																		
第 4 回： 同和（人権）教育を学ぶ③		第 11 回： 「心のノート」の意義と問題点を考える																																																																		
第 5 回： 〈生・性・死〉の授業の意義を考える		第 12 回： 道徳教育と開発教育																																																																		
第 6 回： 道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業①		第 13 回： いじめ問題を考えいる																																																																		
第 7 回： 道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業②		第 14 回： 道徳教育とエンカウンター																																																																		
		第 15 回： ディベート（道徳の教科化）																																																																		
テキスト： 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。																																																																				
参 考 書： 1 中野目直明・小出一郎 編 『新しい道徳教育』（第2版）酒井書店・育英堂 2006 2 藤田昌士 著 『道徳教育～その歴史・現状・課題』 エイデル研究所 2004 3 柴田義松（編著） 『道徳育～理論と実践』学文社 1992 4 文部科学省 『中学校学習指導要領』																																																																				
評価方法・評価基準： 授業への参加度、授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。																																																																				
<table><tr><th>到達目標等</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合（%）</th></tr><tr><td>成績評価</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>試験 （中間・期末試験）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>40</td></tr><tr><td>授業態度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）	成績評価								試験 （中間・期末試験）								小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		40	授業態度	○	○	○	○	○		30	受講者の発表	○	○	○	○	○		30	演 習								その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）																																																													
成績評価																																																																				
試験 （中間・期末試験）																																																																				
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		40																																																													
授業態度	○	○	○	○	○		30																																																													
受講者の発表	○	○	○	○	○		30																																																													
演 習																																																																				
その他																																																																				
履修上の注意： 1 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。																																																																				

授業科目名		2単位 (2-0)	担当教員																																																																
特別活動の研究 (Extra-curricular Education)			照屋 信治																																																																
授業の到達目標及びテーマ																																																																			
特別活動の意義・目標・指導の理論等について学習し、特別活動の具体的な実践方法のいくつかを身につける。																																																																			
授業の概要																																																																			
特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力や資質」を培うことである。																																																																			
本講においては、特別活動の意義・目標・指導の理論等について学習し、ホームルーム活動（学級活動）・生徒会活動・学校行事等における実践的指導力の養成を図ることを目指す。特に、学校における基礎的・基本的な生活集団としてのホームルーム活動（学級活動）の望ましいあり方やその運営方法、実践演習等を行い考究する。																																																																			
予習：「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握したうえで講義に臨むこと																																																																			
復習：授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと																																																																			
授 業 計 画 ※授業計画変更予定。新しいシラバスは、クラスで配布します。																																																																			
第 1 回：オリエンテーション（講義概要、受講心得、特別活動の課題等）		第 8 回：ホームルーム活動（学級活動）の指導計画																																																																	
第 2 回：特別活動と教育課程		第 9 回：ホームルーム活動（学級活動）の展開																																																																	
第 3 回：特別活動の意義		第 10 回：ホームルーム活動（学級活動）の演習①																																																																	
第 4 回：特別活動の目標		第 11 回：ホームルーム活動（学級活動）の演習②																																																																	
第 5 回：ホームルーム活動（学級活動）の内容		第 12 回：ホームルーム活動（学級活動）の演習③																																																																	
第 6 回：ホームルーム活動（学級活動）と生徒会活動		第 13 回：ホームルーム活動（学級活動）の演習④																																																																	
第 7 回：ホームルーム活動（学級活動）と学校行事		第 14 回：ホームルーム活動（学級活動）の演習⑤																																																																	
		第 15 回：まとめ																																																																	
テキスト：講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。																																																																			
参 考 書：渡部邦雄 他編『実践的指導力をはぐくむ特別活動指導法』日本文教出版、2009 年、文部科学省『中学校学習指導要領』																																																																			
評価方法・評価基準：授業への参加度、課題、試験等により総合的に評価する。																																																																			
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合（％）</td></tr><tr><td>成績評価</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>試験 （中間・期末試験）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>授業態度</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>30</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>40</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>10</td></tr></table>				到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）	成績評価								試験 （中間・期末試験）								小テスト・ 授業内レポート	○	○					20	授業態度	○	○	○	○	○		30	受講者の発表	○	○	○	○	○		40	演 習								その他							10
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）																																																												
成績評価																																																																			
試験 （中間・期末試験）																																																																			
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20																																																												
授業態度	○	○	○	○	○		30																																																												
受講者の発表	○	○	○	○	○		40																																																												
演 習																																																																			
その他							10																																																												
履修上の注意：																																																																			
1 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。																																																																			

授業科目名		2単位 (0-2)	担当教員				
英語科教育法Ⅰ（=英語教育法） (English Language EducationⅠ)			大城 直人				
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：英語教育理論や教育の現状について説明できる。							
思考・判断：教育の問題を批判的に考察できる。							
関心・意欲/技能・表現：情報や現状を客観的に捉え、整理、発表できる。							
授業の概要							
教育とは何かという本質的な問題提議を通して、英語教育の意義と目的を認識し、英語教育理論を学習理論と指導理論の双方から概観する。英語教育の歴史的、理論的背景について体系的に理解した上で、指導要領や教授法の変遷について考察する。又、英語教育に関わる諸題を広くとりあげながら、現状理解を図り、日本の英語教育の方向性について議論を深める。							
予習：配付資料及び教科書の該当箇所を事前に読んでおく。							
復習：指定された課題に取り組み期日までに提出する							
授 業 計 画							
第1回：オリエンテーション・英語教育の目的		第9回：教室の使用言語					
第2回：日本の英語教育の歴史		第10回：授業の形態					
第3回：英語教師論		第11回：測定と評価					
第4回：言語習得と教授法		第12回：語彙の指導と評価					
第5回：第一言語習得と第二言語習得		第13回：文法の指導と評価①					
第6回：学習者論①		第14回：文法の指導と評価②					
第7回：学習者論②		第15回：まとめ					
第8回：英語教育課程							
テキスト： 「英語科教育の基礎と実践」(三修社)							
参 考 書： 課題図書、参考文献は授業において提示する。							
評価方法・評価基準： 1.発表、授業への参加姿勢 2.レポート・クイズ・定期テスト 上記、1, 2をもって総合的に評価する。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
Take-home Exam (3回)	○	○					70%
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20%
授業態度			○				10%
受講者の発表				○			評価に加えず
演 習	○				○		評価に加えず
その他							
履修上の注意：							
1 テキストとともに課題図書が指定される。							
2 予習を前提として講義を行う。							

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員				
英語科教育法Ⅱ (English Language Education Ⅱ)			大城 直人				
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：英語教育理論や日本の教育事情について説明できる。 思考・判断：中等教育における英語教育の問題を批判的に考察できる。 関心・意欲：技能・表現：情報や現状を客観的に捉え、議論できる。							
授業の概要							
中学校・高等学校英語教育の目的と意義を認識し、指導者に求められる学習理論と指導理論について学び、指導能力の養成を図る。教授法の歴史的変遷、個々の教授法の特徴、問題点等について討議をし、中学校や高校の教育現場の実情に照らしながら、各技能指導の方法を探る。また、指導の実践力を養成するため、グループ活動を通して、実際の授業を想定した具体的な課題に取り組み、指導技術の基礎基本を体験する。 予習：配布資料及び教科書の該当箇所を事前に読んでおく。 復習：指定された課題に取り組み、期日までに提出する							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーション・日本における英語教育		第 9 回：スピーキングの指導と評価					
第 2 回：教員養成・教育実習		第 10 回：ライティングの指導と評価					
第 3 回：教材研究と授業計画①		第 11 回：学習指導案の作成①					
第 4 回：教材研究と授業計画②		第 12 回：学習指導案の作成②					
第 5 回：リーディングの指導と評価①		第 13 回：理論と実践の融合					
第 6 回：リーディングの指導と評価②		第 14 回：4 技能の統合を目指した授業の実践					
第 7 回：リスニングの指導と評価①		第 15 回：まとめ					
第 8 回：リスニングの指導と評価②							
テキスト： 「英語科教育の基礎と実践」（三修社）							
参 考 書： 課題図書、参考文献―授業において提示する。							
評価方法・評価基準：							
個人・グループ発表、レポート、クイズ、定期テストをもって総合的に評価する。							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
成績評価 Take-home Exam (3 回))	○	○		○			5 0 %
小テスト・ 授業内レポート	○			○			3 0 %
授業態度			○				5 %
受講者の発表							5 %
演 習					○		1 0 %
その他							
履修上の注意：							
1 「英語教科教育法Ⅰ」の履修を前提とする。							
2 事前に受講資格審査を行う。							

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員				
英語科教育法演習Ⅰ(中学校・高校) (Methods and Practice in Eng. TeachingⅠ)			大城 直人				
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解・技能・表現：①理論を指導実践に生かすことができる。②日本人学習者の課題を理解し4技能の習得について指導できる。							
思考・判断：自他の授業を授業目標に沿って評価し、問題点を考察できる。							
関心・意欲/他：①多面的に教材研究を行い、②課外活動に積極的にかかわり、その成果を授業にフィードバックできる。							
授業の概要							
本講義のねらいは、英語教科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を基に、英語教育の方法と教材・授業組み立てについて研究し、実践的な指導能力を培うことにある。VTR視聴や授業観察、グループ研究や発表をとおして、英語習得に関わる個々のスキルの指導方法や授業の組み立て方・進め方、教材作成のあり方や留意点、指導案作成等について具体的に学ぶ。授業外の英語教育活動への参加も求められる。							
予習：演習課題に事前に取り組んでおく。							
復習：配布資料に目を通し、様々な実践例を理解する							
授 業 計 画							
第1回：オリエンテーション、 授業VTR視聴、授業評価		第9回：スピーキング指導の計画と実践					
第2回：英語授業の視点		第10回：ライティング指導の計画と実践					
第3回：授業の組立・指導案作成		第11回：模擬授業・授業観察①					
第4回：文法指導の計画と実践①		第12回：模擬授業・授業観察②					
第5回：文法指導の計画と実践②		第13回：模擬授業・授業観察③					
第6回：リーディング指導の計画と実践①		第14回：模擬授業・授業観察④					
第7回：リーディング指導の計画と実践②		第15回：総括					
第8回：リスニング指導の計画と実践							
テキスト：特に指定しない。必要な資料を各授業において配布する。							
参 考 書：授業において提示する。							
評価方法・評価基準：							
授業参加姿勢、グループ発表や模擬授業、レポート、クイズ、テストをもって、総合的に評価する。							
成績評価 (定期試験 (中間・期末試験) 小テスト・ 授業内レポート)	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
							なし
	○	○		○	○		30%
授業態度			○	○			10%
受講者の発表							10%
演 習	○	○			○		40%
その他						課外活動	10%
履修上の注意：							
1 「英語教科教育法Ⅱ」の履修を前提とする。							

授業科目名		2単位 (1－3)	担当教員
介護等体験 (Practice in Social Volunteer Work)			

授業の到達目標及びテーマ

本講義は社会福祉施設5日間・特別支援学校（旧養護学校）2日間体験に際し、講義と体験名が一致している。体験に際し、少しでも理解しやすく有意義なものとなるよう本科目設定がある。講義を通して、全体の仲間作りをはかっていただきたい。全員が一丸となって取組まないと、この体験は成功しない。例えば、特別支援学校へ行く際、開始時間前に到着する連携行動が要求される。仲間作りが必要となる。両体験が全員終了したのを見計い、「発表会」を開催、当該科目は終了となる。講義自体は前期で終了する。体験は前期で終了する場合もあるが、全員が終わる次期を待って発表会を行なう。2013年度は、12月期に「発表会」が開催できた。

授業の概要

介護等体験は、小・中学校教員免許希望者に必須の実習である。7日間の介護体験学習を行うにあたり、社会福祉施設や特殊学校の事前オリエンテーションの他に下記について学修理解を深める。福祉施設また特殊教育諸学校で何を学ぶことになるのか、各施設の概要、教師になるために、何故介護等体験が必要なのか、実習の心構えなどを教示する。講義設定をはかった理由は、円滑に実習が行えることが目的である。講義そのものも重要であるが、前述したように受講生の仲間作りを目指したい。まず前期開始、初期段階でつくってゆきたい。

予習：配布資料を元に講義を展開するため、その都度説明します。

復習：毎回配布の配布資料を読み返すこと。

授 業 計 画

第1回：	受講確認；当該年度「発表会」までの参加が義務づけられるため。	第8回：	社会福祉施設の概要を知る③「体験先までの地図を描く」意義含む
第2回：	社会福祉施設体験の申し込み説明(申し込み書類が到着していた場合第1回講義で実施)。最終人数の確認後、教科書2種類発注。	第9回：	3障害と高齢者福祉を学ぶ
第3回：	社会福祉施設の概要を知る①	第10回：	障害者雇用の重要性を学ぶ
第4回：	社会福祉施設の概要を知る②	第11回：	学校教育とノーマライゼーションの視点
第5回：	社会福祉施設を学ぶ・外来講師	第12回：	特殊教育諸学校を知る①
第6回：	特別支援学校へ全員で行く前に	第13回：	特殊教育諸学校を知る②
第7回：	特別支援学校訪問(全員参加；講義時間内を使用。今年度から。)	第14回：	介護等体験と医療・保健・福祉&高齢者と子ども
		第15回：	総括(試験に代わる課題；内容の説明＝一部、第14回講義から)
		第16回：	試験に代わる課題(試験に代わる課題レポート作成：指定期日までに提出)
			※外来講師・特別支援学校受入れ日程などから、順番変更あり。

テキスト：※2冊とも購入必須。文科省で定めた内容です。教科書を使用して講義をとるかたちで、進めません。テキスト2種類は先輩から譲り受けるものでもなく、また終了後そうすることは回避して下さい。自宅で保管して、体験を振り返ることが教職課程本科目履修の意義です。①社会福祉法人全国社会福祉協議会（発行）『新版・よくわかる社会福祉施設 - 教員免許志願者のためのガイドブック』2003 525円、②全国特殊学校長会（編著）『盲・聾・養護学校における介護等体験ガイドブック』フィリア ジアース教育新社(2003) 980円【価格は前年度】。

評価方法・評価基準：①社会福祉施設体験＝行先が決定後、事前訪問を行い体験に行く迄に施設までの地図提出(ネット打ち出し印刷のみ不可)。②「試験に代わる課題」提出と出席を併せて評価します。③体験先での内容は、評価の対象にはしません。ただし、2つの体験を終えること、そこは評価対象となります。④発表会＝体験報告会は正装で望んで下さい。発表会ではA4・1枚のレジメ作成、全員のものを集めて冊子を受講生で作ります。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)			○	○				60
小テスト・授業内レポート		○	○	○		○	○	参考程度
授業態度				○	○			10
受講者の発表				○	○			参考程度
演 習								
授業への参加度				○	○			20
その他								10

履修上の注意：毎回の出席は、絶対条件です。申し込みなど、諸費用がかかります。特別支援学校行きは、公共の交通機関利用＝本学スタート「タクシー相乗り運賃」が必要となります。なお、本科目は、授業と体験〔＝公欠手続をとって下さい〕＝福祉施設5日間・特殊教育学校2日間で、2単位を構成しています。何らかの事情で、社会福祉施設実習が連続した5日間が終わらない場合、延長となる場合は先方の指導者と相談して、延長して下さい。なお、成績は全員の体験終了が後期になること、発表会資料作成を待って成績を付けるため、後期で出ます。出欠重視。

授業科目名		2単位	担当教員					
教育総合研究		(2-0)	照屋 信治					
授業の到達目標及びテーマ： 教育実習直前の学生を対象に、これまで学んできた教職科目の知見を総合して、教育に関する見識を深める。								
授業の概要 ① これまで学んできた教職科目の知見を総合して、様々な教育問題を受講者中心に討議していただく。 ② また、教員採用に関する状況を説明し、受講者が採用試験対策を行えるようにする。 ③ さらに、教育実習において、道徳の授業あるいはHRでの授業を行うことになるので、その模擬授業を行い、教育実習に備える。 予習：「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握したうえで講義に臨むこと 復習：授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと								
授 業 計 画								
第 1 回： 講義の概要説明 教員採用に関して①		第 8 回： 模擬授業と批評会①（道徳の授業）						
第 2 回： 教員採用に関して②		第 9 回： 模擬授業と批評会②（道徳の授業）						
第 3 回： 教員採用に関して③		第 10 回： 模擬授業と批評会③（道徳の授業）						
第 4 回： 教育問題の討議①		第 11 回： 模擬授業と批評会④（道徳の授業）						
第 5 回： 教育問題の討議②		第 12 回： 模擬授業と批評会①（HR・特別活動）						
第 6 回： 教育問題の討議③		第 13 回： 模擬授業と批評会②（HR・特別活動）						
第 7 回： 教育問題の討議④		第 14 回： 模擬授業と批評会③（HR・特別活動）						
		第 15 回： まとめ						
テキスト：講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。								
参考文献： 講義中に適宜お知らせする。文部科学省『中学校学習指導要領』								
評価方法・評価基準：出席状況、授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。								
到達目標等 成績評価		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度		○	○	○	○	○		50
受講者の発表		○	○	○	○	○		50
演 習								
その他								
履修上の注意： 1 教員免許に係る科目を全て修得し、教育実習参加を前提とする。 2 教員採用試験を受検することを前提とする。								

授業科目名		1 単位 (0-2)	担当教員					
教育実習事前事後研究 (Pre, Post-Teaching Practicum Seminar)			照屋信治・大城直人					
授業の到達目標及びテーマ								
1. 教員の職務と学校現場の状況を理解する。2. 教育実習の目的を明確にし、実習目標をたてて実習に臨むことができる。3. これまで学んだ知識を統合し、実践に移すことができる。4. 学校現場の諸問題を考察し、積極的に議論に参加できる。5. 実習校と連絡を取り、実習への打ち合わせや授業計画等について責任を持って対応できる。								
授業の概要								
(事前研究) 教育実習の目的・意義について理解を深め、教育実習に対する心構えと実習教師としての基本的な知識や指導性を確実に身につける。また、教員の職務内容や教員の職務内容や教育現場に対する理解を図り実習への備えとする。授業は本講義担当者の講義、受講生同士のディスカッションによって構成される。実習に対する自己の目標を明確にし、実習への意欲を高めるものとした。								
(事後研究) 教育実習期間中の「中間報告」及び終了後の「事後報告」を通じて、学校種(中学校・高等学校)、学習環境(地域差、学習母集団)等の違いによる教育の多面性を共有し、多様な教育課題を見付けるとともに、教育実習、介護等体験や教職科目において学んだ全ての事柄をあらためて整理、統合、検討、評価する。また、個人発表やグループ活動、ディスカッション等の講義から、その教育課題、教育の本質について議論を深めていく。それらの活動は、教育現場の体験の成果をより明確に今後の教育活動に位置づけ、現場体験に基づいた「教育観・教師観」を培うものである。								
予習: テキストを熟読すること								
復習: テキスト及び配付したレジュメを再読すること								
授 業 計 画								
第 1 回	講義の概要説明、実習に向けて							
第 2 回	学校訪問について							
第 3 回	実習前に準備すべきこと							
第 4 回	講話: 高等学校の現場から							
第 5 回	講話: 中学校の現場から							
第 6 回	授業参観・教材研究							
第 7 回	講話: 若い教師に聞く							
第 8-10 回	教育実習中間報告会(全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う)							
第 11-13 回	教育実習反省会(全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。)							
第 14 回	教育実習レポートの作成							
第 15 回	教育実習成果報告会							
テキスト: 教育実習を考える会 編 『新編 教育実習の常識』(第 8 版)倉丘書林 2005								
評価方法・評価基準: 授業への参加度、発表・討議参加、提出物等、実習への取り組み姿勢をもって総合的に評価する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
小テスト・授業内レポート		○	○					20
授業態度				○	○			30
受講者の発表		○	○	○		○		50
演 習								なし
その他								欠席は厳しく減点する
履修上の注意:								
1 教師としての資質が問われる体験学習であり、教職科目の必修科目であることに照らして、出席状況等を充分加味する。全回出席するのが基本だが、やむを得ず欠席する時は確実に欠席届けを提出する。								
2 「事前・中間・事後指導」の履修を持って教育実習研究は完結する。よって前期から後期にまたがる期間行うことになる。								

授業科目名	4単位	担当教員																																																								
教育実習(中学) (Senior High School Teaching Practicum)		照屋信治・大城直人																																																								
授業の到達目標及びテーマ																																																										
中学校において教育実習を行う。実習中の指導・評価は、特に次の3点からなされる。 ①教科指導ができる。(教科や指導に関する知識・理解・技能, 教材研究と授業準備) ②生徒指導ができる。(生徒理解と実態把握, 学級経営, 課外活動への関心) ③意欲を持って実習に臨み, 態度に示すことができる。(勤怠状況, 実習への意欲, 学級事務等の実務能力等)																																																										
授業の概要																																																										
教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多方面に学び、教育の本質についての認識を深めることである。実習は、中学校において9月に実施され、実習期間は原則的に3週間(120時間)である。但し、二学期制の学校の場合、9月以前に実施されることがある。中学校教育実習「5単位」は、実習校において120時間の実習を行うとともに、大学において、科目「教育実習事前事後研究」(1単位)を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。 予習：全ての教職科目を復習し、授業等の準備をすすめること 復習：日々、教育実習の日記を記し、教育実習レポートを作成すること																																																										
実 習 内 容																																																										
○ 観察実習、参加実習、総合・応用実習の形態をとりながら、主に以下の内容について実習を行う。 ・ オリエンテーション ・ 学校組織・学校経営 ・ 学級経営 ・ 「英語」学習指導 ・ 道德教育・特別活動・生徒指導・進路指導 ・ その他																																																										
テキスト：																																																										
1. 実習校使用の英語教科書 2. 実習校使用教科書のマニュアル 3. その他(学校要覧、学校経営計画等)																																																										
参 考 書： 教育十種を考える会 編『新編 教育実習の常識』 蒼丘書林、2000 年																																																										
評価方法・評価基準：																																																										
実習校指導教諭の評価を下に、実習レポート、研究授業時の指導案や「教育実習研究」等の評価を含めて、総合的・客観的に評価する。																																																										
<table><tr><th>到達目標等 成績評価</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>定期試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	定期試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																			
定期試験 (中間・期末試験)																																																										
小テスト・ 授業内レポート																																																										
授業態度																																																										
受講者の発表																																																										
演 習																																																										
その他																																																										
履修上の注意：実習資格（※ 詳細については、教職ガイダンス資料参照のこと。）																																																										
1. 指定された「教職科目」を履修済みあること。 2. 教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。 3. その他、必要な要件を満たしていること。																																																										

授業科目名			担当教員																																																																	
教育実習（高校） (Senior High School Teaching Practicum)		2単位	照屋信治・大城直人																																																																	
授業の到達目標及びテーマ																																																																				
高等学校において教育実習を行う。実習中の指導・評価は、特に次の3点からなされる。																																																																				
①教科指導ができる。(教科や指導に関する知識・理解・技能，教材研究と授業準備)																																																																				
②生徒指導ができる。(生徒理解と実態把握，学級経営，課外活動への関心)																																																																				
③意欲を持って実習に臨み態度に示すことができる。(勤怠状況，実習への意欲，学級事務等の実務能力)																																																																				
授業の概要																																																																				
教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、																																																																				
教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多面的に学び、教育の本質に																																																																				
ついての認識を深めることにある。実習は、6月に高等学校において実施され、実習期間は																																																																				
原則的に2週間（80時間）である。																																																																				
高等学校教育実習「3単位」は、実習校において80時間の実習を行うとともに、大学におけ																																																																				
る実習のためのガイダンスやオリエンテーションに出席し、科目「教育実習研究・事前事後																																																																				
指導」(1単位)を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。																																																																				
予習：全ての教職科目を復習し、授業等の準備をすすめること																																																																				
復習：日々、教育実習の日記を記し、教育実習レポートを作成すること																																																																				
実 習 内 容																																																																				
○ 観察実習、参加実習、総合・応用実習の形態をとりながら、主に以下の内容について実習を行う。																																																																				
・ オリエンテーション																																																																				
・ 学校組織・学校経営																																																																				
・ 学級経営																																																																				
・ 「英語」学習指導																																																																				
・ 道德教育・特別活動・生徒指導・進路指導																																																																				
・ その他																																																																				
テキスト：																																																																				
1. 実習校使用の英語教科書																																																																				
2. 実習校使用教科書のマニュアル																																																																				
3. その他（学校要覧、学校経営計画等）																																																																				
参 考 書：教育実習を考える会 編『新編 教育実習の常識』蒼丘書林、2000 年																																																																				
評価方法・評価基準：																																																																				
実習校指導教諭の評価を下に、実習レポート、研究授業時の指導案や「教育実習研究」等の評価																																																																				
を含めて、総合的・客観的に評価する。																																																																				
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>成績評価</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>定期試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価								定期試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																													
成績評価																																																																				
定期試験 (中間・期末試験)																																																																				
小テスト・ 授業内レポート																																																																				
授業態度																																																																				
受講者の発表																																																																				
演 習																																																																				
その他																																																																				
履修上の注意：実習資格 （※ 詳細については、教職ガイダンス資料参照のこと）																																																																				
1. 指定された「教職科目」を履修済であること。																																																																				
2. 教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。																																																																				
3. その他、必要な要件をみたしていること。																																																																				

授業科目名		2単位 (0-2)	担当教員					
教職実践演習（中・高）			照屋信治・大城直人					
授業の到達目標及びテーマ								
教職の授業を通して得た学習知と教育実習、介護等体験、学習支援ボランティア等で得た指導力や実践力、そして経験知を統合し、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づける。								
授業の概要								
4年間で学んだことを有機的に統合し、教師としての使命感や責任感、そして教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質形成を目指す。また、多様な教育課題やその展望についてグループ討議やロールプレイを通して考察する中で、教師に求められる社会性や対人能力を培っていきたい。自己の取り組むべき課題を認識し、必要な知識や技能等を補いながら、教壇実践を円滑にスタートさせることができるよう、本学教員と外部教育関係者とで連携して演習を実施する。								
予習：各人の担当個所の準備を行い、各回の課題を提出すること								
復習：各回の授業の課題、感想文などをまとめて提出すること								
授 業 計 画								
	内 容	担 当						
第 1 回：	イントロダクション・教育実習を振り返る（講義、個人発表）	照屋・大城						
第 2 回：	学校現場か抱える教育課題（グループ討議）	照屋・大城						
第 3 回：	生徒理解・カウンセリング（講義、ロールプレイ）	照屋・大城						
第 4 回：	学級経営ー共に育つ場の創造（グループ活動）	照屋・大城						
第 5 回：	特別活動ー生徒の個性を伸ばし可能性を拓く（グループ活動・全体討議）	照屋・大城						
第 6 回：	学校教育とノーマライゼーション（事例研究、全体討議）	照屋・大城						
第 7 回：	教育政策ー教員養成・採用・研修（講義）	照屋・大城						
第 8 回：	教育実践構想ー理想の学校・学級づくり（グループ活動）	照屋・大城						
第 9 回：	英語の授業と地球をつなぐアクティビティー（グループ活動）	照屋・大城						
第 10 回：	国際理解教育のファシリテーターとしての英語教師の役割（講義）	照屋・大城						
第 11 回：	ティームティーチング成功の鍵（模擬授業・全体討議）	照屋・大城						
第 12 回：	リーディング教材と文学（グループ活動・講義）	照屋・大城						
第 13 回：	英語コミュニケーションと英文法（グループ活動・講義）	照屋・大城						
第 14 回：	英語教育とアイデンティティーーOKINAWA を教材化する（グループ活動・講義）	照屋・大城						
第 15 回：	まとめ、「理想の英語教師像とは」（全体討議・講義）	照屋・大城						
テキスト： 授業内容に応じて資料を配布		参 考 書： 適宜提供						
評価方法・評価基準：								
毎回の授業におけるレポート、発表、討議等への参加状況を総合的に判断し、評価する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
定期試験（中間・期末試験）								
小テスト・授業内レポート		○	○	○	○	○	○	20
授業態度		○	○	○	○	○	○	40
受講者の発表		○	○	○	○	○	○	40
演 習								
その他								

授業科目名 英語科教育法演習Ⅱ(中学校・高校) (Methods and Practice in Eng. Teaching Ⅱ)	2単位 (0-2)	担当教員 大城 直人
--	--------------	----------------------

授業の到達目標及びテーマ

知識・理解/技能・表現/思考・判断：①中・高における50分の授業案を作成し、実践できる。
 ② 授業のための教材を研究・作成することができる。
 ③ 自他の授業を客観的に分析し、課題を発見し、改善することができる。

関心・意欲：他者の授業に積極的にかわり、支援することができる。

授業の概要

受講生の模擬授業を柱として授業を展開し、学習者の実態に沿った授業展開のあり方について実践研究する。これまでの英語教科教育法で学んだことを踏まえ、実習校で使用している教科書を基に、各自、学習指導案を作成し、模擬授業を2回実践する。授業後は、授業反省・質疑応答・討議を行う。一連の活動を通して、授業を適切に構築・実践・評価する能力を培う。

予習：教材研究を行い、指導案を作成する。

復習：「振り返りシート」を作成し、改善点を再考する。

授 業 計 画

第1回： 授業計画・運営について	第9回： 模擬授業/授業検討会⑥
第2回： 学習指導案の分析と評価	第10回： 模擬授業/授業検討⑦
第3回： 授業観察（着眼点と分析の方法）	第11回： 模擬授業/授業検討会⑧
第4回： 模擬授業/授業検討会①	第12回： 模擬授業/授業検討会⑨
第5回： 模擬授業/授業検討会②	第13回： 模擬授業/授業検討会⑩
第6回： 模擬授業/授業検討会③	第14回： 模擬授業/授業検討会⑪
第7回： 模擬授業/授業検討会④	第15回： 模擬授業/授業検討会⑫
第8回： 模擬授業/授業検討会⑤	

テキスト： 実習校における教科書、その他授業において資料を配布する。

参 考 書： 授業において提示する

評価方法・評価基準： 教案、模擬授業内容、授業計画とその準備、授業参加姿勢、提出物をもって総合的に評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)								なし
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○	○		20%
授業態度			○		○			30%
受講者の発表								評価に加えず
演 習	○	○				○		50%
その他								

履修上の注意：

- 「英語教科教育法演習Ⅰ」の履修を前提とする。
- 模擬授業の前に必ず、教案を提出する。
- 授業後、VTRに録画された自分の授業を必ず視聴し、反省点をまとめる。